山形城三の丸跡

第 15・17・19 次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 231 集

2018

公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター

やまがたじょうさんのまるあと

山形城三の丸跡

第15・17・19次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第231集

平成30年

公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター

2 区三の丸堀跡北岸を望む（南から）

序

本書は、公益財団法人山形県埋蔵文化財センター（平成 24 年 4 月 1 日に財団法人から移行）が発掘調査を実施した、山形城三の丸跡第 15・17・19 次調査の調査成果をまとめたものです。

山形城三の丸跡は山形県山形市にあります。山形城は、南北朝時代の 1356 年に斯波兼頼によって築かれたとされる城です。子孫である最上義光は、山形藩 57 万石にふさわしい城に拡張工事をし、城下町を整備しました。このときに築かれたのが三の丸で、山形城は全国でも有数の面積を誇り大いに栄ました。しかし、その後最上家は改易され、度重なる城主の入れ替えにより山形藩は小規模化し、水野家 5 万石で明治維新を迎えます。

調査区があるあたりは、三の丸の大手口である七日町口のすぐ近くで、幕末まで藩士たちの屋敷が立ち並んでいた地域です。また、明治時代になると済生館病院が建設され、山形の医療の中心としての役割を果たしてきました。

このような中心市街地である当地域では、山形広域都市計画道路事業 3・2・5 号旅篭町八日町線が新たな主軸道路として建設が進められており、それに伴い本遺跡の発掘調査を実施しました。

調査では、江戸時代後期の遺物が主に出土しており、一部は最上氏の時代に遡るものも認められました。また、三の丸の堀跡を確認できたり、三の丸拡張以前の武家屋敷跡とみられる区画溝も確認するなど多大な成果を得ることができました。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先のつくり上げた歴史を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちに課せられた重要な責務と考えます。その意味で本書が文化財保護活動の普及啓発や、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりますが、当遺跡を調査するに際し御支援、御協力いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

平成 30 年 7 月

公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター

理事長　廣瀬　渉

凡　　例

1　本書は、山形広域都市計画道路事業 3･2･5 号旅篭町八日町線（山形市七日町地内）建設に係る「山形城三の丸跡」の発掘調査報告書である。

2　既刊の年報、速報会資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。

3　調査は山形県村山総合支庁建設部都市計画課の委託により、公益財団法人山形県埋蔵文化財センター（平成 24 年 4 月 1 日に財団法人から移行））が実施した。

4　本書の執筆は、齋藤健、板橋龍が担当し、齋藤稔、黒坂雅人、伊藤邦弘、須賀井新人が監修した。

5　遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第Ｘ系（世界測地系）により、高さは海抜高で表す。方位は座標北を表す。

6　本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

SK…土坑　SD…溝跡　SE…井戸跡　SP…ピット　SX…性格不明遺構
T…トレンチ　RP…登録土器　RQ…登録石器　RM…登録金属製品

7　遺構・遺物実測図の縮尺の用法は各図に示した。網点については、以下のとおり。

図示範囲 (遺構配置図)　地山 (遺構断面図)　炭化物 (遺構断面図)

石 (遺構平面図・断面図)　遺物 (遺構平面図・断面図)

8　基本層序および遺構覆土の色調記載については、2008 年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」によった。

調 査 要 項

遺跡名	山形城三の丸跡（やまがたじょうさんのまるあと）		
遺跡番号	201-009		
所在地	山形県山形市旅籠町（はたごまち）他		
調査委託者	山形県村山総合支庁建設部都市計画課		
調査受託者	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター		
受託期間	平成 26 年 4 月 1 日～平成 30 年 8 月 31 日		
現地調査	平成 26 年 6 月 2 日～ 12 月 5 日		
	平成 27 年 5 月 25 日～ 11 月 12 日		
	平成 28 年 6 月 13 日～ 9 月 1 日		
調査担当者	平成 26 年度	調査課長	斉藤敏行
		課長補佐	須賀井新人
		主任調査研究員	齋藤健（調査主任）
		調査研究員	東海林弘和
		調査員	板橋龍
	平成 27 年度	調査課長	斉藤敏行
		課長補佐	須賀井新人
		専門調査研究員	齋藤健（調査主任）
		調査員	板橋龍
		調査員	阿部明彦
	平成 28 年度	業務課長	伊藤邦弘
		調整主幹 (兼) 課長補佐	須賀井新人
		専門調査研究員	齋藤健（調査主任）
		調査員	色摩優吾
	平成 29 年度	業務課長	伊藤邦弘
		調整主幹 (兼) 課長補佐	須賀井新人
		専門調査研究員	齋藤健（調査主任）
		調査員	板橋龍
	平成 30 年度	業務課長	伊藤邦弘
		調整主幹 (兼) 課長補佐	須賀井新人
		専門調査研究員	齋藤健（調査主任）
調査指導	山形県教育庁文化財・生涯学習課		
調査協力	山形市教育委員会		
	山形県村山教育事務所		
業務委託	基準点測量業務	株式会社大洋測量設計社（平成 26・27・28 年度）	
	理化学分析業務	パリノ・サーヴェイ株式会社（平成 27・29 年度）	
		株式会社パレオ・ラボ（平成 28 年度）	

発掘作業員	安達ひとみ	五十嵐正芳	池田和男	大内智郎	大谷加代子	奥山和子
	奥山研二	柿崎次男	齋藤榮子	齋藤哲雄	鈴木明	竹田重夫
	高橋敏昭	長岡忠	半田長司	松田修	村形啓行	山口裕美子
	（五十音順）					
整理作業員	池野仁	伊藤加奈子	井上和誉	大場美香	鏡幹彦	川崎ちづる
	後藤幸子	齋藤勝利	玉木良子	橋本裕子	星川麗子	森谷和弘
	渡辺智美	（五十音順）				

目　次

Ⅰ　調査の経緯
　1　調査に至る経緯 …… 1
　2　調査の方法 …… 1
Ⅱ　立地と環境
　1　地理・歴史的環境 …… 3
　2　山形城周辺の発掘調査 …… 3
　3　調査区周辺の土地利用 …… 5
Ⅲ　調査の成果
　1　調査の概要 …… 9
　2　遺構と遺物 …… 9
Ⅳ　理化学分析
　1　山形城三の丸跡第 15 次調査出土
　　木製品の樹種同定報告 ……103
　2　山形城三の丸跡出土鉄滓の
　　自然科学分析（1）……106
　3　山形城三の丸跡出土鉄滓の
　　自然科学分析（2）……111
Ⅴ　調査のまとめ
　1　遺構のまとめ ……113
　2　遺物のまとめ ……115

報告書抄録 ……巻末

表

表 1　山形市主要遺跡一覧表 (1) …… 7
表 2　山形市主要遺跡一覧表 (2) …… 8
表 3　遺物観察表 (1) …… 81
表 4　遺物観察表 (2) …… 82
表 5　遺物観察表 (3) …… 83
表 6　遺物観察表 (4) …… 84
表 7　遺物観察表 (5) …… 85
表 8　遺物観察表 (6) …… 86
表 9　遺物観察表 (7) …… 87
表 10 遺物観察表 (8) …… 88
表 11 遺物観察表 (9) …… 89
表 12 遺物観察表 (10) …… 90
表 13 遺物観察表 (11) …… 91
表 14 遺物観察表 (12) …… 92
表 15 遺物観察表 (13) …… 93
表 16 遺物観察表 (14) …… 94
表 17 遺物観察表 (15) …… 95
表 18 遺物観察表 (16) …… 96
表 19 遺物観察表 (17) …… 97
表 20 遺物観察表 (18) …… 98
表 21 遺物観察表 (19) …… 99
表 22 遺物観察表 (20) …… 100
表 23 遺物観察表 (21) …… 101
表 24 遺物観察表 (22) …… 102
表 25 樹種同定結果 …… 103
表 26 分析出土滓一覧表 …… 107
表 27 蛍光 X 線分析による半定量値 …… 111
表 28 EDS 分析結果 …… 111

図　版

第 1 図　調査概要図 …… 1
第 2 図　山形城三の丸跡過年度調査範囲 …… 2
第 3 図　地形分類図 …… 4
第 4 図　遺跡位置図 …… 6
第 5 図　調査区概要図・割付図 …… 17
第 6 図　遺構配置図 1 …… 18
第 7 図　遺構配置図 2 …… 19
第 8 図　遺構配置図 3 …… 20
第 9 図　遺構配置図 4 …… 21
第 10 図　遺構配置図 5 …… 22
第 11 図　遺構配置図 6 …… 23
第 12 図　遺構配置図 7 …… 24
第 13 図　遺構配置図 8 …… 25
第 14 図　1 区基本層序（西壁）・5 区基本層序（西壁） …… 26
第 15 図　8 区中央ベルト基本層序・7 区中央東壁基本層序 …… 27
第 16 図　9 区 SK3・4・5・7・8・15・16・18・20 …… 28
第 17 図　9 区 SP17・21・26・SK25・6 区 SX5 …… 29
第 18 図　12 区 SK9・8 区 ST154 …… 30
第 19 図　8 区 ST184 …… 31
第 20 図　5 区 SE11・12・13・SK14・SD39 …… 32
第 21 図　2 区西壁・1 区 SX75・79・90・7 区 SK38 …… 33
第 22 図　7 区 ST71 …… 34
第 23 図　7 区 ST71・SK39・SX101 …… 35
第 24 図　7 区 ST107・SK93 …… 36
第 25 図　遺物実測図 (1) …… 37
第 26 図　遺物実測図 (2) …… 38
第 27 図　遺物実測図 (3) …… 39
第 28 図　遺物実測図 (4) …… 40
第 29 図　遺物実測図 (5) …… 41
第 30 図　遺物実測図 (6) …… 42
第 31 図　遺物実測図 (7) …… 43
第 32 図　遺物実測図 (8) …… 44
第 33 図　遺物実測図 (9) …… 45
第 34 図　遺物実測図 (10) …… 46
第 35 図　遺物実測図 (11) …… 47
第 36 図　遺物実測図 (12) …… 48
第 37 図　遺物実測図 (13) …… 49
第 38 図　遺物実測図 (14) …… 50
第 39 図　遺物実測図 (15) …… 51
第 40 図　遺物実測図 (16) …… 52
第 41 図　遺物実測図 (17) …… 53
第 42 図　遺物実測図 (18) …… 54
第 43 図　遺物実測図 (19) …… 55
第 44 図　遺物実測図 (20) …… 56
第 45 図　遺物実測図 (21) …… 57
第 46 図　遺物実測図 (22) …… 58
第 47 図　遺物実測図 (23) …… 59
第 48 図　遺物実測図 (24) …… 60
第 49 図　遺物実測図 (25) …… 61
第 50 図　遺物実測図 (26) …… 62
第 51 図　遺物実測図 (27) …… 63
第 52 図　遺物実測図 (28) …… 64
第 53 図　遺物実測図 (29) …… 65
第 54 図　遺物実測図 (30) …… 66
第 55 図　遺物実測図 (31) …… 67
第 56 図　遺物実測図 (32) …… 68
第 57 図　遺物実測図 (33) …… 69
第 58 図　遺物実測図 (34) …… 70
第 59 図　遺物実測図 (35) …… 71
第 60 図　遺物実測図 (36) …… 72
第 61 図　遺物実測図 (37) …… 73
第 62 図　遺物実測図 (38) …… 74
第 63 図　遺物実測図 (39) …… 75
第 64 図　遺物実測図 (40) …… 76
第 65 図　遺物実測図 (41) …… 77
第 66 図　遺物実測図 (42) …… 78
第 67 図　遺物実測図 (43) …… 79
第 68 図　遺物実測図 (44) …… 80
第 69 図　木材組織 …… 105
第 70 図　試料 No.1 の顕微鏡組織 …… 108
第 71 図　試料 No.2・3 の顕微鏡組織 …… 109
第 72 図　試料 No.4・5 の顕微鏡組織 …… 110
第 73 図　試料 1 の SEM 観察及び EDS 分析結果 …… 112

写真図版

巻頭写真　2 区三の丸堀跡北岸を望む（南から）

写真図版 1　9 区遺構検出状況 (北から)、9 区北側遺構検出状況 (南東から)

写真図版 2　9 区 SH2 墓壙検出状況 (南から)、9 区 SP17 柱穴断面 (西から)、9 区 SP17 柱穴完掘状況 (北から)

写真図版 3　6 区遺構検出状況 (南西から)、12 区遺構検出状況 (西から)

写真図版 4　12 区 SK9 土坑出土瓦製品 (北から)、12 区 SK12 土坑出土石鉢 (北から)、12 区 SK9 土坑完掘状況 (北から)

写真図版 5　8 区南遺構検出状況 (北東から)、8 区中央遺構検出状況 (東より)

写真図版 6　8 区北遺構検出状況 (西から)、8 区 SD163、SD129 道路状遺構完掘状況 (南東から)

写真図版 7　8 区 ST154 竪穴建物完掘状況 (東から)、8 区 ST184 竪穴建物完掘状況 (東から)、8 区 SD39 大溝石組検出状況 (北から)

写真図版 8　4 区、5 区遺構検出状況 (北から)、5 区遺構検出状況 (北西から)

写真図版 9　5 区 SD39 大溝完掘状況 (北から)、5 区 SD39 大溝完掘状況 (南から)

写真図版 10　5 区 SE11 井戸跡完掘状況 (南から)、5 区 SE12 井戸跡完掘状況 (北から)、5 区 SE13 井戸跡完掘状況 (北西から)、5 区 SK9 土坑完掘状況 (北から)、5 区 SK14 土坑完掘状況 (東から)、5 区 SK16 土坑遺物出土状況 (北から)、5 区西壁落込み遺物出土状況 (東から)、5 区西壁落込み刀子出土状況 (東から)

写真図版 11　3 区完掘状況 (南から)、2 区堀跡断面 (東から)、2 区堀跡出土 46-1 藍甕 (東から)

写真図版 12　2 区堀跡南岸完掘状況 (東から)、2 区堀跡南岸完掘状況 (北東より)

写真図版 13　11 区遺構検出状況 (南東から)、11 区三の丸堀跡北岸石組検出状況 (東から)、11 区三の丸堀跡北岸石組検出状況 (南から)

写真図版 14　11 区 SK7 防空壕完掘状況 (北から)、11 区南壁藍甕出土状況 (北から)、1 区南側完掘状況 (北西から)

写真図版 15　1 区 SK85 土坑獣骨出土状況 (西から)、7 区南側完掘状況 (東から)、7 区中央部完掘状況 (東から)

写真図版 16　7 区 SK38、39、33 土坑完掘状況 (南から)、7 区 ST107 竪穴建物跡完掘状況 (西から)、7 区 ST71 竪穴建物跡完掘状況 (南東から)

写真図版 17　7 区 ST71 竪穴建物跡南壁柱断面 (南東から)、10 区完掘状況 (南西から)、10 区 SK13 土坑完掘状況 (北から)

写真図版 18　遺物写真図版 (1)　6 区、9 区出土遺物
写真図版 19　遺物写真図版 (2)　9 区、12 区出土遺物
写真図版 20　遺物写真図版 (3)　12 区、8 区出土遺物
写真図版 21　遺物写真図版 (4)　8 区出土遺物
写真図版 22　遺物写真図版 (5)　8 区、4 区、5 区出土遺物
写真図版 23　遺物写真図版 (6)　5 区出土遺物
写真図版 24　遺物写真図版 (7)　5 区出土遺物
写真図版 25　遺物写真図版 (8)　5 区出土遺物
写真図版 26　遺物写真図版 (9)　5 区出土遺物
写真図版 27　遺物写真図版 (10)　5 区、8 区、4 区、2 区出土遺物
写真図版 28　遺物写真図版 (11)　2 区出土遺物
写真図版 29　遺物写真図版 (12)　2 区出土遺物
写真図版 30　遺物写真図版 (13)　2 区出土遺物
写真図版 31　遺物写真図版 (14)　2 区、11 区、10 区出土遺物
写真図版 32　遺物写真図版 (15)　11 区、10 区、1 区出土遺物
写真図版 33　遺物写真図版 (16)　1 区、7 区出土遺物
写真図版 34　遺物写真図版 (17)　7 区出土遺物
写真図版 35　遺物写真図版 (18)　7 区、1 区出土遺物
写真図版 36　遺物写真図版 (19)　7 区出土遺物
写真図版 37　遺物写真図版 (20)　7 区出土遺物
写真図版 38　遺物写真図版 (21)　7 区、9 区出土遺物
写真図版 39　遺物写真図版 (22)　7 区、10 区、12 区出土遺物
写真図版 40　遺物写真図版 (23)　12 区、10 区出土遺物
写真図版 41　遺物写真図版 (24)　10 区出土遺物

Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至る経緯

山形城跡は、現在、国指定史跡となっている本丸・二の丸と、その周辺を取り囲む三の丸を含め、東西 1,480 m、南北 1,881 mの範囲が遺跡として登録されている。江戸時代、三の丸の東外側を羽州街道が迂回し、街道沿いに本町、三日町、七日町などの商人町が配置されて大いに栄えた。明治以降も三の丸の東側が山形市の中心市街地として繁栄した。

今回の調査は、山形広域都市計画道路事業 3・2・5 号旅篭町八日町線（山形市七日町地内）建設事業 (以後、事業) として、平成 26 年度から 28 年度まで現地調査を実施した発掘調査である。

当地域での都市計画道路の建設構想は昭和 30 年代よりあり、市街地の主要幹線道路としては極めて狭小で片側通行を行ってきた本路線の拡幅は地元の永年の悲願でもあり、「栄町大通り」と通称され、地元住民も積極的に活性化に取り組んでいる。

調査に先立ち、平成 25 年に、山形県教育委員会（以後、県教委）によって試掘調査が行われ、近世の陶磁器の出土を得た。これを受け、村山総合支庁建設部都市計画課、県教委の間で協議が進められ、記録保存を目的とした調査を行うこととなり、建設部都市計画課を事業主として、県教委の指導の下、公益財団法人山形県埋蔵文化財センター（以後、埋蔵文化財センター）が調査の委託を受けた。

埋蔵文化財センターでは、受託した山形城三の丸跡発掘調査の調査次数を、年度ごと、調査原因となった事業別に順次振り分けており、今回の調査は平成 26 年度が 15 次、27 年度が 17 次、28 年度が 19 次調査となる。

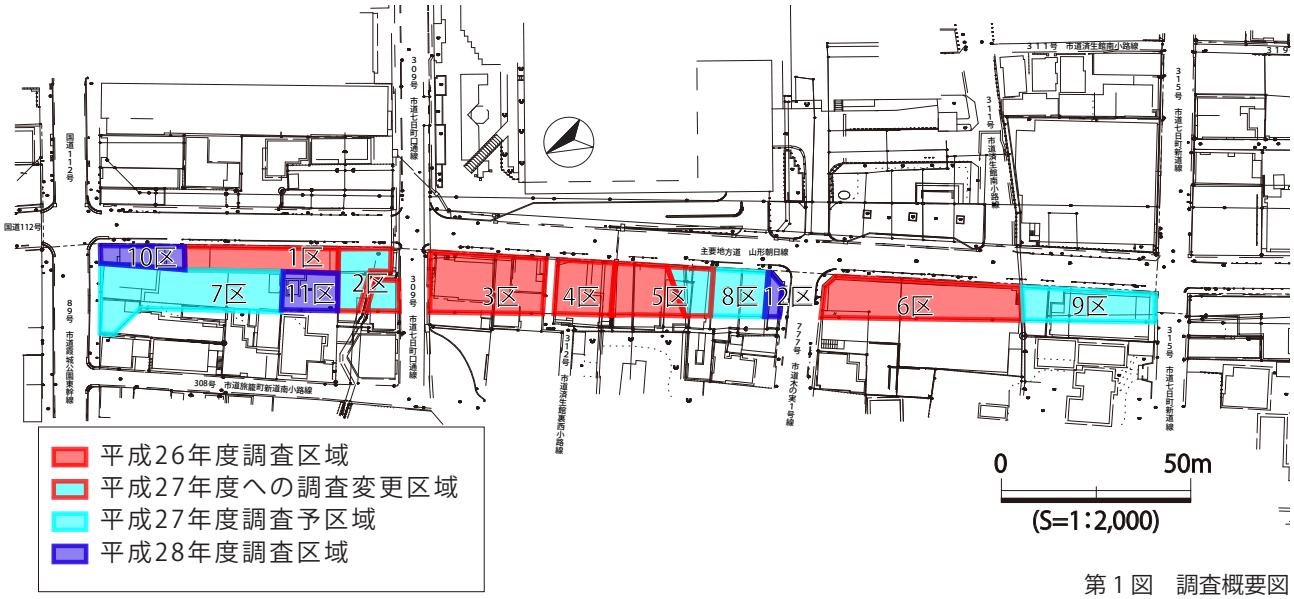
また、調査範囲については、本来ならば遺跡範囲に指定されている三の丸の堀の内側のみを行うところであるが、三の丸の堀の位置が確定していなかったために旧羽州街道である国道 112 号の旅籠町交差点より南を調査範囲とすることになった。

2　調査の方法

A　発掘調査

調査は事業の第一期工区事業範囲 3,204 ㎡を対象に実施した。調査区は地権者から事業主へ引き渡しが済んだ土地から調査を行った。

調査区は、東西方向に走る道路によって大きく三つのブロックに区分される。北ブロックは 1 区、2 区、7 区、10 区、11 区で、江戸時代末期には三の丸の堀と藩の牢獄があった。中ブロックは 3 区、4 区、5 区、8 区、12



第 1 図　調査概要図

区で、江戸時代末期には七日町口から二の丸に向かうメイン道路とそれに沿って家臣団の屋敷が立ち並んでいた地区で、現在も水野家家臣の末裔が数軒居を構えている。南ブロックは６区、９区で、当初は武家屋敷地であったが、幕府直轄領となってからは農地となっている。

調査区名の番号は、平成 26 年度には１～６区、27 年度には７～９区、28 年度は 10 ～ 12 区というようにその年度に調査する調査範囲で北から若い番号を振り、調査の順番とは関係ない。

調査は、地権者が建物などいわゆる上物を解体撤去し更地にした状況で事業者に土地を引き渡し、その後に埋蔵文化財センターが調査に入った。

６区は百貨店の立体駐車場建設解体時に深さ 2m 以上の激しい撹乱を受け遺構は殆ど検出できなかったが、平安時代以前の旧河道を確認できた。同じく３区、４区、10 区にも鉄筋コンクリート製の建物があり、基礎工事や撤去工事により遺構面が激しい撹乱を受けていて遺構をほとんど確認することはできなかった。また、住宅の出入り口を塞いでしまうことが明らかになったために、当初 26 年度に調査を完了する予定だった５区を、事業者の了解を得て 26 年度と 27 年度に二分割して実施した。２区についても、26 年度に完了する予定であったが、表土を除去すると三階建鉄筋コンクリート建物の基礎が残存していることが判明し、27 年度にあらためて基礎を破壊撤去して調査を行うことで事業者の了承を得て実施した。

年度ごとの調査も、市街地ということで調査区内で剥いた土を移動する必要があり、全面的に表土を除去する調査はできなかった。26 年度は６区を最初に調査し、ついで５区、４区。その次に３区、２区、１区を調査した。27 年度は、最初に９区を調査し、ついで８区と５区の繰越を調査し、最後に２区の再調査と７区を調査した。28 年度は、12 区、11 区、10 区の順に調査を行った。

各調査区での発掘調査は、重機で表土を除去し、2t トラックで仮置きする他の調査区に搬送し重機で成形した。その後作業員がジョレンを使って土を削って遺構を検出し、同時に委託業者が基準点と方眼杭を設置し、記録写真撮影後に遺構の掘り下げを行った。各遺構や出土遺物は、必要に応じて図面や写真などに記録した。調査が終わると、再び重機で仮置きしている表土を搬送して埋め戻して整地し、事業者に引き渡した。

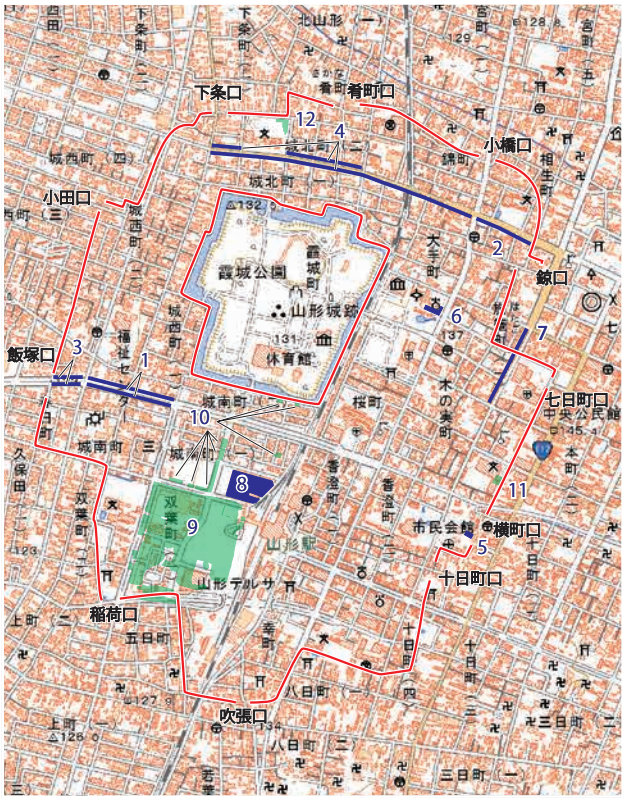
B　整理作業

調査終了後、出土遺物や記録類は埋蔵文化財センターに運んだ。

年度ごとに調査終了後に整理作業員を雇用して整理作業を実施し、出土遺物の洗浄注記を行った。注記は、遺跡名「三ノ丸」の後に調査次数である「15」、「17」、「19」を記し、それに続けて遺構名を記入した。

平成 28 年度から遺物の接合作業を実施し、29 年度から遺物実測作業に入り、30 年度に報告書を刊行した。

陶磁器類の実測は、外形線と断面のみ作製し、磁器の外面の文様や釉調は、はめ込み写真により表現した。縮尺は概ね 1/3 を原則で掲載したが、大型の甕は 1/6 で、古銭については 1/1 で掲載した。



…県埋蔵文化財センター調査区　…山形市教委調査区

1　三の丸第１～３次調査区
2　三の丸第４・６次調査区
3　三の丸第５・７・８次調査区
4　三の丸第９・11・13・14・16・18・20・21 次調査区
5　三の丸第 10 次調査区
6　三の丸第 12 次調査区
7　三の丸第 15・17・19 次調査区
8　城南一丁目遺跡
9　双葉町遺跡
10　城南町遺跡
11　山形一小敷地内遺跡
12　城北遺跡

第２図　山形城三の丸跡過年度調査範囲

Ⅱ　立地と環境

1　地理・歴史的環境

山形城が立地する山形市中心部は、蔵王山系を源に、山形市北部を西流し最上川へと注ぐ馬見ヶ崎川によって形成された扇状地に立地している。

延文元年 (1356 年) に羽州探題として入部した斯波兼頼によって山形城が築かれたとされる。その後、斯波一族は、最上氏を名乗りこの地を代々統治し、11 代義光の代に最盛期を迎える。57 万石の領地を有した義光の統治下で、三重の堀を備えた大規模な城郭構造が整備された。

その後、元和 8 年 (1622 年) に最上家が御家騒動で改易となり、譜代大名の鳥居忠政が入部する。最上領は、庄内酒井忠勝、新庄戸沢政盛、上山松平重忠と鳥居忠政と血縁関係にある譜代大名に分割され、連携して奥羽の外様大名を監視する役目が与えられた。忠政は、城郭の部分的な改修や、城北を流れる馬見ヶ崎川の流路を変更して後の「山形五堰」につながる水利工事を行うなど、城内外の改修を行っている。

鳥居忠政の子、忠恒に後継ぎがなく改易となると、以降の山形藩は藩主が短期間で次々と替わり石高が縮小する。特に、寛文 8 年 (1668 年) の奥平昌能入部以降、不祥事を起こしたり幕政で失脚した譜代大名の左遷の地となり、奥羽外様大名関しの要としての役割が無くなった。そして、天保の改革の失敗で左遷された水野家の時には 5 万石にまで縮小し、明治維新を迎えている。そのため、山形城の大規模な改修は、江戸初期からほとんど行われず、往時の城郭構造をそのまま存続させるが、石高が大きく縮小した状況では、広大な城や屋敷地を維持できずに次第に荒廃して行く。

江戸中期以降、日本海舟運の発達により、山形県内では上方向けへの紅花の生産が盛んとなり国内最大の生産地になった。山形市街にも紅花商人が軒を連ねて大いに栄えた。ところが、明治になると安価な中国産紅花の輸入や化学染料の普及によりたちまち紅花栽培は衰退した。

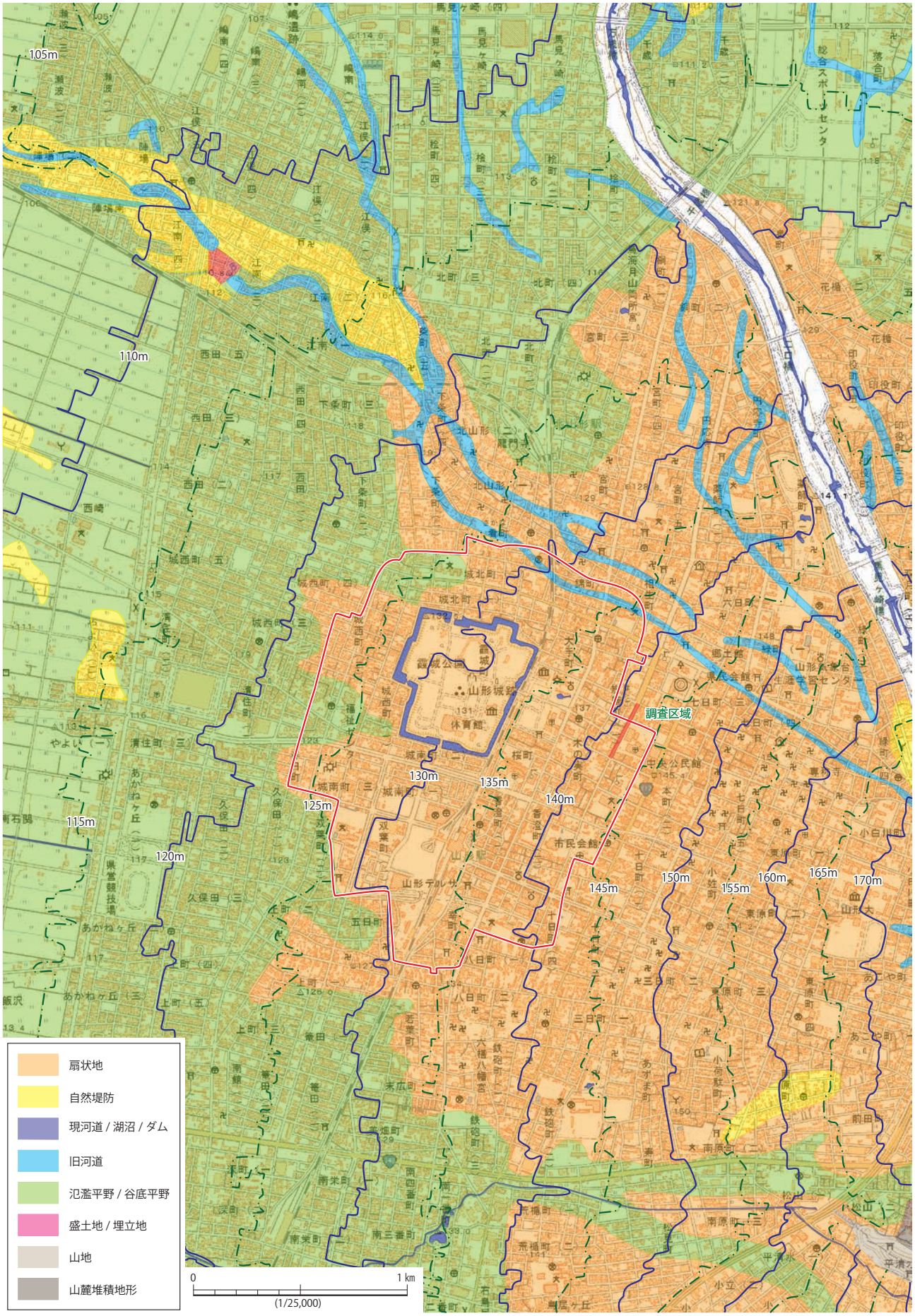
江戸後期、下総国佐倉藩領平清水地区に窯場が開かれる。弘化元年 (1844 年) には磁器生産にも成功し、山形近辺を市場として出荷された。しかし、明治 34 年 (1901 年) の奥羽本線山形駅開業に伴い、他地域から陶磁器が大量に流通するようになると一気に衰退した。現在は民芸品を中心に数軒の窯が操業を続けている。

明治に入り山形藩から山形県となり、山形城は廃城に、城内の土地建物はすべて破却され、三の丸の東側は、学校、病院などが建設され市街地化が進む。そのため、東側の堀と土塁は、明治期の比較的早い段階でほとんど整地されたと見られている。東側以外の三の丸は、大正、昭和に入ってから造成が進み、一部に残っていた堀や土塁跡も徐々に埋め立てられ市街地に組み込まれていった。明治 30 年 (1897 年) に陸軍歩兵三十二連隊が誘致され、本丸の堀は埋め立てられて二の丸ともども兵営となった。日露戦争終了後、二の丸の土塁に多くの桜が記念植樹され、今日の桜の名所となる元になった。

戦後、陸軍施設が撤去された旧二の丸と本丸跡地は、山形市に払い下げられた後、1948 年、霞城公園として市民に開放された。敷地内には、運動施設や博物館が建設され、都市公園としての整備が進む一方、三の丸跡は、山形市の中心地としての更なる都市化が進む。1984 年に山形城は、近世初期の面影を残す全国屈指の平城として国指定史跡となり、翌年、十日町地区に一部残存していた三の丸土塁も追加で指定された。現在は、史跡公園として、二の丸大手門や本丸大手門の石垣などの復元整備事業が行われている。

2　山形城周辺の発掘調査

これまで山形城跡は、市街地開発や、史跡整備のためなどの理由で複数回の発掘調査が実施されている。三の丸跡の調査は、三の丸南部で山形駅西口の土地区画整理関連の事業により合計で 94,000 ㎡を超える大規模な発掘調査が行われており、それ以外の場所では、市街地内の道路の拡幅や建物の増改築などに伴い小規模な調査を行っている。三の丸西側は、県道東原村木沢線の拡幅工


105m
110m
115m
120m
125m
130m
135m
140m
145m
150m
155m
160m
165m
170m
調査区域
扇状地
自然堤防
現河道 / 湖沼 / ダム
旧河道
氾濫平野 / 谷底平野
盛土地 / 埋立地
山地
山麓堆積地形
0
1 km
(1/25,000)

第 3 図　地形分類図

事に伴うもの、三の丸北側は、山形市立第七小学校の改築や、国道 112 号の拡幅工事などに伴う調査が行われている。今回の調査区を含む三の丸東側の調査事例は、第一小学校の改築、二の丸追手門外の法務局庁舎建築工事や三の丸本町口近くの村山保健所衛生研究所建設工事に伴うものがある (第 2 図)。二の丸と本丸は、史跡整備に伴い山形市教育委員会が年々調査を進めている。

これまでの調査によって山形城跡周辺には、近世以前の遺跡も広がっていたことが判明した。古くは、縄文時代中期から後期の遺物が双葉町遺跡など三の丸南側から出土した。また、4 世紀代古墳時代前期や奈良平安時代の集落が展開する。中世においても 12 ～ 14 世紀代の貿易陶磁が多数出土しており、双葉町遺跡からは、方形区画の溝に囲まれた居館跡を検出している。

発掘成果として遺構、遺物が充実するのは、最上義光の山形城の拡大期と重なる慶長元和年間以降のものである。これまでの発掘調査区は、城の南西側が多く、これらの地区は、山形城の縮小とともに、屋敷地から畑に変えられたまま近代を迎えたため、山形城初期の状態が良好に保存されている地区ともいえよう。今回の調査と同じ三の丸堀の調査事例として、山形一小敷地内、埋蔵文化財センターの三の丸跡第 6 次、第 10 次調査で三の丸東堀の調査を実施している。

3　調査区周辺の土地利用

近世以後は絵図など多くの文献資料が残されており、より詳細な情報を得ることができる。

当調査区周辺は、最上時代の慶長元和期の古形態を記録したと考えられている「秋元本」、「伊藤本」などを見ると、「関根口」(後の七日町口) 門からまっすぐ二の丸大手門に向かう「三日町」通り沿いに「町屋」が配置されている。最上時代の末期を記録した著名な「藤原守春本」を見ると、町屋は三の丸の外の現在の本町七日町通り沿いに移され、三の丸内は家臣の屋敷地となっている。当調査区も「大山筑前守」などの屋敷が立ち並び、前代と比べて町割りも大きく変化している。

最上家改易後、鳥居家、保科家、松平家など藩主が短期間に交代し、町割りは大きく変化しない。しかし、大給松平家が明和元年 (1764 年) に三河国西尾に転封になると山形は幕府直轄領となり、三の丸内の武家屋敷や藩の施設の殆どが破却されて更地となった。この時期、三の丸の多くの土地が農地化した。

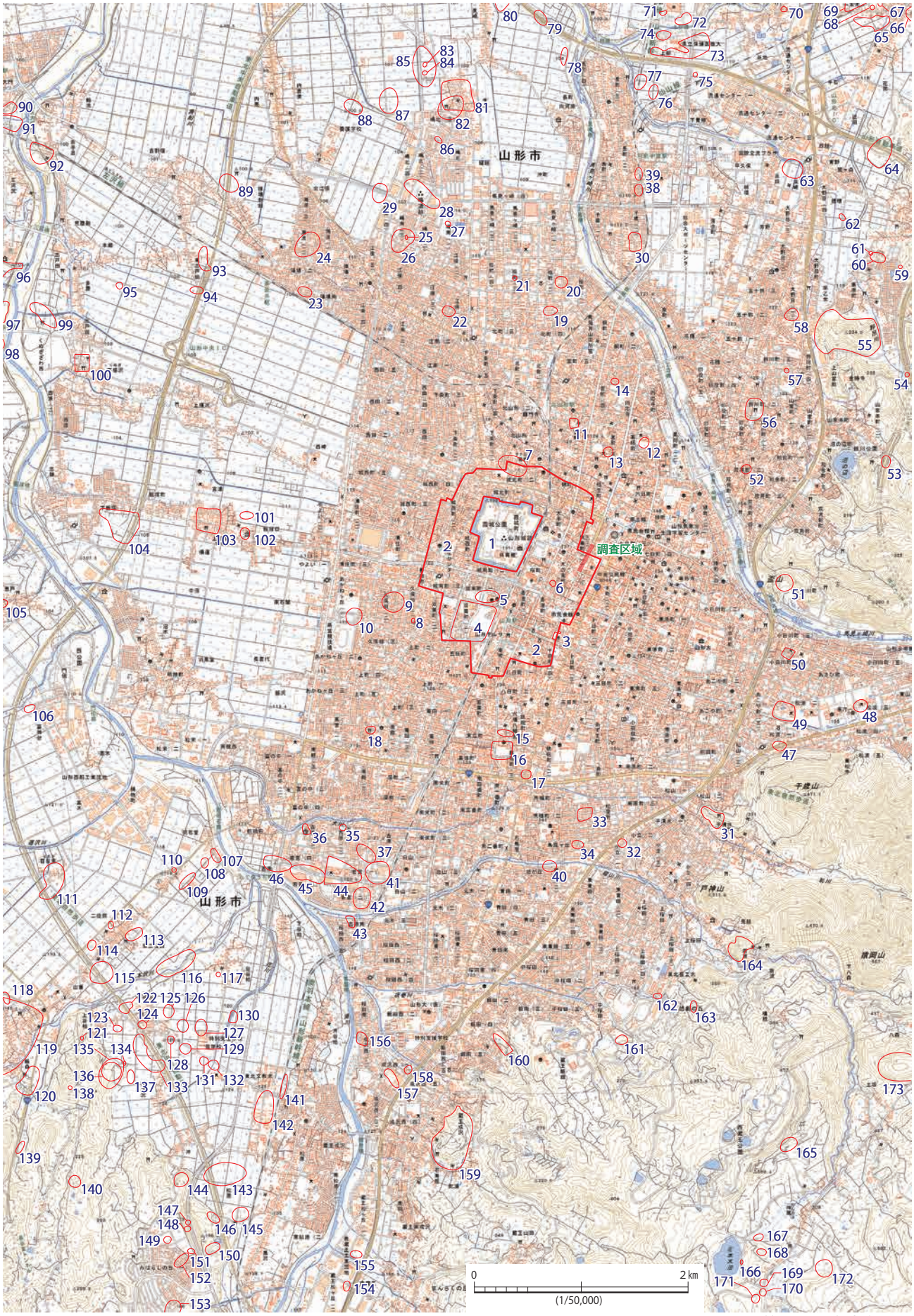
明和 4 年 (1767 年) に老中職を失脚した秋元家が入部する。新しく三の丸東側の門周辺に家臣の屋敷が配置された。弘化 2 年 (1845 年) に水野家が代わって入部するが町割りは変化しなかった。

明治維新で大きく土地利用が変化した。それまで三の丸内部に居住できたのは武士身分に限られたが、庶民も自由に居住できるようになった。

明治 2 年 (1872 年)、城内の土地建物が売りに出され、明治 8 年 (1875 年) に旅籠町の本陣跡にあった県公立病院 (現在の市立病院済生館) が七日町口大手跡に建設される。同年、旅籠町の羽州街道屈曲部の藩牢獄を受け継いだ監獄が二の丸大手門前筆頭家老水野三郎右衛門元宣の屋敷跡に移転した。明治 10 年 (1877 年) に描かれた絵図では、まだ堀や土塁は描かれているものの、その後、県令の三島通庸による都市計画の中で造成が進み、調査区周辺でも堀を横切って北の旅籠町に抜ける「旅籠町新道南小路線」が新しく開削されている。明治 12 年 (1879 年) の地図では、堀と土塁の記載がほとんど無くなって点線が描かれていることから、この間に三の丸の堀は土塁を突き崩して埋め立てられたものとみられる。

第 32 連隊が誘致された明治末には軍用として「霞城公園東幹線」(通称旅籠町新道) が羽州街道に接続し、旅籠町周辺は軍関連の商売をする店や旅館が軒を連ねて栄えた。大正に入ると調査区が面する山形朝日線が開削され羽州街道に繋がった。

明治 44 年 (1911 年) に発生した山形北部大火で旅籠町を含む 1,300 戸余りの建物が焼け落ちたが大正初年には新しい町並みが再建をはたした。



第４図　遺跡位置図

表１　山形市主要遺跡一覧表 (1)

No.	遺 跡 名	登録番号	種 別	時　代	立　地
1	山形城跡 (本丸・二の丸)	201-265	城館跡	中世 、近世	扇状地
2	山形城跡三の丸跡	201-003	城館跡	中世 、近世	扇状地
3	山形城跡三の丸跡	201-009	城館跡	中世 、近世	扇状地
4	双葉町遺跡	201-001	集落跡	縄文、古墳	扇状地
5	城南一丁目遺跡	201-292	集落跡	縄文、弥生、奈良・平安	扇状地
6	木の実町遺跡	201-289	集落跡	平安	扇状地
7	城北遺跡	201-230	集落跡	平安、中世	扇状地
8	五日町古墳	201-322	古　墳	奈良	自然堤防
9	長苗代条里遺跡	201-294	条　里	奈良	扇状地前縁部
10	五日町遺跡	201-314	集落跡	奈良	自然堤防
11	西根小但馬屋敷	201-220	城館跡	中世	扇状地
12	薬師町・五中グランド	201-222	集落跡	平安	扇状地
13	宮町・三小遺跡	201-223	集落跡	平安	扇状地
14	宮町円応寺遺跡	201-207	集落跡	古墳、奈良・平安	扇状地
15	鉄砲町一丁目遺跡	201-102	集落跡	奈良・平安	扇状地
16	山形西高敷地内	201-141	集落跡	縄文、弥生	扇状地
17	鉄砲町三丁目遺跡	201-162	集落跡	奈良・平安	扇状地
18	南館跡	201-100	城館跡		扇状地前縁部
19	川原田遺跡	201-175	集落跡	古墳	扇状地前縁部
20	桧葉ノ木遺跡	201-163	集落跡	古墳	扇状地前縁部
21	宮町古墳	201-160	古　墳	古墳	扇状地前縁部
22	江俣遺跡	201-178	集落跡	弥生	扇状地前縁部
23	馬上台遺跡	201-169	集落跡	平安	自然堤防
24	陣場遺跡	201-147	包蔵地	古墳	扇状地前縁部
25	梅野木塚跡	201-140	塚	中世、近世	扇状地前縁部
26	梅野木前２遺跡	201-144	散布地	古墳、奈良・平安	扇状地前縁部
27	田端稲荷塚	201-136	塚	中世、近世	扇状地前縁部
28	嶋遺跡	201-125	集落跡	古墳、奈良・平安	扇状地前縁部
29	梅野木前１遺跡	201-124	集落跡	古墳、奈良・平安	扇状地前縁部
30	落合館跡	201-145	城館跡	中世	自然堤防
31	平清水館跡	201-190	城館跡		山地
32	永大ハウス裏遺跡	201-210	包蔵地	縄文	扇状地前縁部
33	荒楯跡	201-187	城館跡		扇状地前縁部
34	松見町遺跡	201-211	集落跡	縄文	扇状地前縁部
35	吉原こくぞうさま古墳	201-196	古　墳	古墳	自然堤防
36	吉原Ⅵ遺跡	201-206	官衙跡	奈良・平安	自然堤防
37	吉原Ⅴ遺跡	201-215	集落跡	縄文	扇状地前縁部
38	長町遺跡	201-119	集落跡	弥生	扇状地前縁部
39	長町北河原遺跡	201-113	包蔵地	弥生	扇状地前縁部
40	青田遺跡	201-231	集落跡	古墳、奈良	自然堤防
41	吉原Ⅱ遺跡	201-240	官衙跡	奈良・平安	扇状地前縁部
42	吉原Ⅳ遺跡	201-262	官衙跡	奈良・平安	扇状地前縁部
43	吉原Ⅶ遺跡	201-270	集落跡	奈良・平安	扇状地前縁部
44	吉原Ⅲ遺跡	201-237	官衙跡	奈良・平安	扇状地前縁部
45	吉原Ⅰ遺跡	201-243	官衙跡	奈良・平安	扇状地前縁部
46	若宮館跡	201-228	城館跡		谷底平野
47	松山遺跡	201-139	集落跡	縄文	扇状地
48	熊の前遺跡	201-082	集落跡	縄文、奈良	扇状地
49	三浦屋敷跡	201-094	城館跡		扇状地
50	金谷館跡	201-013	城館跡		扇状地
51	小白川向山遺跡	201-275	集落跡	平安	山地
52	飯田遺跡	201-234	集落跡	縄文	扇状地
53	にひゃく寺遺跡	201-227	集落跡	縄文、弥生	山地
54	高原上の原古墳	201-205	古　墳	古墳	扇状地
55	山家城跡	201-186	城館跡		山地
56	内城跡	201-217	城館跡	平安	扇状地
57	上山家遺跡	201-204	墳　跡	奈良	扇状地
58	大野目遺跡	201-183	集落跡	平安	谷底平野
59	小山墳墓	201-157	古　墳	古墳	山地
60	高原遺跡	201-155	集落跡	弥生、平安	扇状地
61	高原古墳	201-151	古　墳	古墳	扇状地
62	砂田遺跡	201-130	集落跡	弥生	谷底平野
63	浜田館跡	201-112	城館跡		扇状地前縁部
64	お花山古墳群	201-096	古　墳	弥生、古墳	山地
65	寺西遺跡	201-025	集落跡	奈良・平安	扇状地
66	風間館跡	201-023	城館跡	中世	山地
67	間所免古墳	201-005	古　墳	古墳	扇状地
68	風間Ｂ古墳	201-007	古　墳	古墳	扇状地
69	北向遺跡	201-323	集落跡	奈良・平安	扇状地
70	青柳楯跡	201-011	城館跡	中世	自然堤防
71	北柳２遺跡	201-019	包蔵地	縄文、弥生	扇状地前縁部
72	北柳１遺跡	201-024	集落跡	縄文～古墳	扇状地前縁部
73	下柳Ａ遺跡	201-032	集落跡	弥生、古墳	扇状地前縁部
74	下柳Ｃ遺跡	201-026	集落跡	奈良・平安	扇状地前縁部
75	下柳Ｂ墳墓	201-042	墳墓	古墳、中世	扇状地前縁部
76	白山堂前古墳	201-045	古　墳	古墳	扇状地前縁部
77	西ノ神遺跡	201-044	包蔵地	弥生	扇状地前縁部
78	境田Ａ遺跡	201-033	集落跡	奈良・平安	扇状地前縁部
79	境田Ｄ遺跡	201-022	集落跡	縄文、弥生、平安	扇状地前縁部
80	境田Ｃ遺跡	201-326	集落跡	平安	扇状地前縁部
81	今塚楯跡	201-047	城館跡		自然堤防
82	今塚遺跡	201-062	集落跡	古墳、平安	自然堤防
83	長表熊野塚	201-035	塚	中世、近世	自然堤防
84	長表大日塚	201-039	塚	中世、近世	自然堤防
85	長表遺跡	201-037	散布地	奈良・平安	自然堤防
86	河原田遺跡	201-077	集落跡	弥生、平安	扇状地前縁部
87	八ツ口遺跡	201-049	散布地	奈良・平安	扇状地前縁部
88	行才１遺跡	201-057	散布地	奈良・平安	扇状地前縁部
89	熊ノ木遺跡	201-117	集落跡	古墳	自然堤防
90	柳清水遺跡	301-021	集落跡	奈良・平安	自然堤防
91	庚段遺跡	301-022	集落跡	奈良・平安	自然堤防
92	去手呂古墳群	201-087	古　墳	古墳	自然堤防

表２　山形市主要遺跡一覧表 (2)

No.	遺 跡 名	登録番号	種 別	時　代	立　地
93	志戸田縄遺跡	201-154	包蔵地	古墳	扇状地前縁部
94	塚田遺跡	201-168	集落跡	弥生～奈良・平安	扇状地前縁部
95	志戸田遺跡	201-164	包蔵地	縄文	扇状地前縁部
96	大塚遺跡	301-061	集落跡	古墳	自然堤防
97	梅在家遺跡	201-173	集落跡	平安	自然堤防
98	下反田２遺跡	201-194	集落跡	古墳	自然堤防
99	椹沢楯ノ内跡	201-182	城館跡	中世	自然堤防
100	椹沢楯跡	201-198	城館跡	中世	自然堤防
101	飯塚遺跡	201-241	集落跡	古墳	扇状地前縁部
102	飯塚２遺跡	201-267	集落跡	古墳	自然堤防
103	飯塚館跡	201-246	城館跡	中世	自然堤防
104	中道南遺跡	201-252		縄文、近世	自然堤防
105	局屋敷跡	201-302	城館跡		段丘
106	樋渡遺跡	201-093	集落跡	縄文、平安	段丘
107	鏡ヶ渕遺跡	201-218	集落跡	奈良・平安	段丘
108	落合遺跡	201-225	集落跡	古墳、奈良・平安	段丘
109	前明石遺跡	201-255	集落跡	平安	扇状地
110	上り亀下り亀古墳	201-233	古　墳	古墳	扇状地
111	百目鬼遺跡	201-254	集落跡	平安	段丘
112	寺裏遺跡	201-273	集落跡	古墳～平安	扇状地
113	二位田遺跡	201-276	集落跡	縄文～奈良・平安	扇状地
114	川落遺跡	201-278	集落跡	古墳	扇状地
115	萩原遺跡	201-281	集落跡	古墳～平安	扇状地
116	本沢川遺跡	201-280	集落跡	縄文	自然堤防
117	念力寺南遺跡	201-282	集落跡	縄文	段丘
118	長谷堂城堀跡	201-284	城館跡	中世、近世	扇状地
119	長谷堂城跡	201-301	城館跡		丘陵地
120	飯ノ森遺跡	201-036	散布地	縄文	後背低湿地
121	薬師様古墳	201-298	古　墳	古墳	山地
122	喜平田遺跡	201-285	集落跡	縄文	自然堤防
123	上谷柏遺跡	201-297	集落跡	平安	扇状地
124	谷柏Ｊ遺跡	201-293	集落跡	縄文、平安	自然堤防
125	前田遺跡	201-290	集落跡	縄文	扇状地
126	沢田遺跡	201-295	集落跡	弥生～平安	扇状地
127	谷柏遺跡	201-296	集落跡	古墳～平安	段丘
128	石田前Ｙ遺跡	201-304	散布地	弥生	扇状地
129	石田前遺跡	201-319	集落跡	古墳	段丘
130	山形元屋敷遺跡	201-291	集落跡	古墳、平安	扇状地前縁部
131	毘沙門遺跡	201-328	集落跡	古墳	扇状地前縁部
132	花川遺跡	201-008	集落跡	弥生、古墳	扇状地前縁部
133	石田遺跡	201-327	包蔵地	奈良・平安	扇状地

No.	遺 跡 名	登録番号	種 別	時　代	立　地
134	高崎山遺跡	201-006	祭祀跡	平安	丘陵地
135	谷柏館跡	201-021	城館跡		丘陵地
136	谷柏古墳群	201-020	古　墳	古墳	丘陵地
137	高崎遺跡	201-028	集落跡	奈良	段丘
138	古峯山経塚	201-040	経　塚	平安	山地
139	風路野遺跡	201-088	散布地	縄文	谷底平野
140	熊野堂窯跡	201-103	窯　跡	平安	火山山麓地
141	片谷地遺跡	201-038	集落跡	平安	自然堤防
142	横手区遺跡	201-064	集落跡	縄文、古墳、中世	自然堤防
143	六壇遺跡	201-090	集落跡	中世	扇状地前縁部
144	天神山遺跡	201-091	祭祀跡	古墳	火山山麓地
145	松原遺跡	201-106	包蔵地	平安	扇状地前縁部
146	オサヤズ窯跡	201-107	包蔵地	縄文、奈良・平安	火山山麓地
147	秋葉山経塚	201-109	経　塚	中世	火山山麓地
148	秋葉山遺跡	201-114	集落跡	奈良	火山山麓地
149	八ヶ森遺跡	201-120	散布地	縄文	火山山麓地
150	二ツ石遺跡	201-121	散布地	旧石器	火山山麓地
151	八ヶ森南遺跡	201-122	集落跡	縄文	火山山麓地
152	オミロク火葬墓群	201-127	墳　墓	古墳、中世	火山山麓地
153	石原坂Ａ遺跡	201-142	散布地	縄文、平安	火山山麓地
154	西の宮遺跡	201-133	集落跡	平安	扇状地
155	戸苅田遺跡	201-126	集落跡	縄文	段丘
156	成沢西遺跡	201-299	集落跡	平安	扇状地前縁部
157	泉出城跡	201-030	城館跡	中世	扇状地前縁部
158	鳴沢川遺跡	201-015	集落跡	縄文	扇状地前縁部
159	成沢城跡	201-072	城館跡		山地
160	飯田館跡	201-307	城館跡		扇状地
161	中桜田遺跡	201-305	集落跡	縄文	谷底平野
162	木戸遺跡	201-283	包蔵地	縄文	扇状地
163	石コロ遺跡	201-288	散布地		扇状地
164	岩波館跡	201-279	城館跡		山地
165	萩の庫遺跡	201-073	集落跡	縄文	山地
166	三本木窯跡	201-129	窯　跡	奈良・平安	山地
167	神尾Ｂ遺跡	201-115	散布地	平安	谷底平野
168	神尾Ａ遺跡	201-123	散布地	縄文	山地
169	神尾Ｄ遺跡	201-134	散布地	平安	山地
170	神尾Ｃ遺跡	201-132	散布地	平安	山地
171	神尾Ｅ遺跡	201-138	散布地	縄文	山地
172	神尾遺跡	201-131	集落跡	縄文	扇状地
173	楯山楯跡	201-014	城館跡		山地

Ⅲ　調査の成果

1　調査の概要

平成26年度から28年度までに15次・17次・19次の3回の調査を実施した。

遺調査区の2区は三の丸堀跡であり、堀跡の北側の1・7・10・11区は城外で三の丸構築後に羽州街道沿いの町場として整備された。3区から南は近世に藩の有力家臣の武家屋敷が立ち並んでいた区域である。3・4・6区は鉄筋コンクリート建物が建てられていたため基礎により深く破壊を受けて遺構は残存せず近現代の撹乱や盛土に遺物が混入している状況である。

遺物については、明治以降も市街地であった地域ということもあり、近現代の遺物が最も多く出土している。ついで近世の遺物が出土しているが、18世紀後半以降のものが殆どで、ついで17世紀代のものとなっており、山形藩の藩主が頻繁に交代した時期の遺物は少ない。

2　遺構と遺物

以下、遺構と遺物について述べるが、調査区は、東西方向に走る道路で大きく3つのブロックに別けた。それぞれのブロックで性格も異なるので、ブロックごとに分けて説明する。

なお、以下の文章で「30-10」などと書いてある場合、「第30図のNo.10の遺物」を指し示している。

A　北調査ブロック

三の丸外堀跡の2区と羽州街道沿いの町場である1・7・10・11区である。当地には、17世紀末の松平忠弘の時代以降、絵図によって藩の牢獄が置かれていたことが確認できる。従って、近世の遺構はほとんど牢獄に関連するものであると考えられる。

現在の地形でも、羽州街道がある北側が高く、緩やかに南側が低くなっている。全般的に北側の遺構密度が低く南側が濃くなる傾向があるが、北側は整地のために削平を受けている可能性もある。

10区・1区は、7区・11区の地表面より最大50cmほど低く、人為的に整地されたと思われる。10・1区と7・11区には近世から明確な土地の境界が存在していたと思われる。

10区(第6・65～68図))

タクシー会社の建物基礎コンクリートが多数出土し、ほとんど削平を受けていた。遺構らしい遺構は確認できず近現代の遺物が目立つ。唯一、壁板を杭で抑えたSK13土坑がある。65-1～66-6の遺物が出土している。まとまって18世紀後半以降の近世末期の遺物が出土したものの、近代以降の火鉢なども出土し、「大正十四年一月廿　ヒタチ」と墨書されたコンクリートサンプルや日本では戦後に広まったペール缶が出土しており、それ以降のものであろう。

以下、遺構外から出土した遺物について解説する。

66-7は17世紀後半の可能性がある肥前産碗である。底部に「大明」と書かれ、見込には草紋が外面には菊唐草紋が施されている。

66-8は鉢または大ぶりの碗である。18世紀後半から19世紀前半の肥前産と思われる。

66-9は内外に網目紋が施され、見込に菊花紋、高台に渦福紋が描かれている18世紀後半の肥前産碗である。

66-10・11・68-16のいわゆる広東碗も出土した。

67-4は18世紀代の肥前産と推測される大型の鉢である。蛇の目高台で見込に三引両の家紋状の模様が描かれている。

67-5は18世紀後半の肥前産の皿で、見込部分が釉剥ぎされ、二重斜め格子紋が描かれている。今回の調査では同じデザインの皿が多数出土した。

67-11は近代の瀬戸美濃製の磁器皿で、型紙刷りで文様がつけられている。

68-1・2は18世紀代とみられる肥前産磁器。大きさ、模様とも同じである。内と裏に打出小槌に似た窯印と思われる紋様が描かれている。

68-3は岩絵具の小皿。底部に屋号と「放光堂」と刻印されている。放光堂は、江戸時代中期から現在まで京都市で営業している日本画用岩絵具専門店である。近代

のものと思われる。

68-4 は近現代の酒坏である。見込に剥離してはいるが「小池旅館」と書かれている。

68-14 は瓦器の火鉢と思われる。調査区東側をトレンチ掘りしたときに出土した。底部に大きな穿孔があり、全体に煤が付着している。

68-15 は丸瓦であるが、直径が 6cm ほどと通常の瓦と比べると著しく幅が狭く、用途が特殊なのであろう。

1 区 (第 6・7・14・21・50 ～ 54 図)

10 区とほぼ同じ地表高で 7 区より低い。この区は検出されたものはほとんどが近代以降の掘り込みであるが、18 世紀後半から 19 世紀前半の肥前の波佐見産磁器なども出土している。

1 区の北東側では遺構は希薄で SK86 土坑の他は検出されていない。SK86 は規模 1.5m の楕円形の土坑である。遺物は 50-12 ～ 51-9 まで出土している。50-12 ～ 51-3 までは磁器である。50-12 ～ 17 までは概ね 18 世紀後半から 19 世紀までの近世末期の肥前産のものであるが、50-19・51-1 のような明らかに近代の磁器も混じっている。51-9 は、明治時代初期に流行した雷文縁中国紋の火鉢である。このことから、SK86 は明治時代のものであると思われる。

調査区中央部では方形の土坑や溝状遺構などが検出されている。SX75・SX79・SK84 土坑は、ほぼ同様の規模で、長軸 1.3 ～ 1 .5m、短軸 1 ～ 1.1m である。底面には凹凸が見られる。SX75 からは遺物が出土していないが、SX79 では大量の炭化物が被熱した礫と一緒に検出され、52-1・2 の 18 世紀後半から 19 世紀にかけての肥前産磁器が出土しているので、近世末期の以降と思われる。SK84 は 53-4・5 の近世末期の平清水と思われる遺物が出土していることから、近世最末期から近代と見られる。

このほかには溝状遺構 SD58・69・68・80・82 がある。SD58・69 は幅が 50 ㎝とやや細い。北西～南東に走る溝跡である。SD80・82 は幅 80 ～ 90cm で、SD68 は規模の大きい溝状遺構である。ほとんどが断面 U 字状を呈するが SD82 溝跡は障子掘り状を呈している。この溝はやや規模に大小があるが、ほとんどが南東から北西方向に平行に検出される。出土遺物は、SD68 溝跡からは 54-1 の 18 世紀後半の肥前産の碗、SD82 溝跡からは 54-4 の 19 世紀の平清水と思われる壺が出土している。そのため、18 世紀後半から 19 世紀にかけての時期の遺構と思われる。

SX85 土坑からは 52-5 ～ 8 の遺物と牛と思われる骨が比較的多く出土している。52-5 は見込に宝珠、外面に吉祥紋が描かれた 18 世紀後半から 19 世紀前半にかけての肥前産の磁器茶碗である。底部に朱書きで「二か長」と記されており、おそらく使用者が書き込んだと思われる。52-8 は産地不明の酒盃で、見込に「庄内屋」と注文主の旅館名と思われる書き込みと、高台内に窯印の紋様が書き込まれている。近代の廃棄土坑である。

西壁際の不定形の土坑 SK72 からは、52-9 ～ 53-3 の遺物が出土している。52-9 は 19 世紀の肥前産磁器鉢と思われる。52-10 は重ね鉢であるが、型紙刷りで近代の遺物と思われる。52-12 は酒盃で、当地にあった小池旅館の銘と剥離して金彩の痕跡しか確認できないが「祝□業」の文字が入っている。52-13 も酒盃で、見込部分に金彩で「祝捷」と書かれている。内面に赤褐色の付着物が付いている。53-1 は 54-5 と同形と思われる甕である。大きく歪んで底部が密着しないので不安定で実用に耐えられないものである。平清水産と思われる。53-2 は秉燭で、鉄釉が施され底部に穿孔がある。出土遺物は近世末期のものもあるが、近代以降のものも混じっており、比較的新しいものと思われる。

以下、遺構外から出土した主な遺物について記す。

54-2 は磁器の蓋。上部に「はたこ町」と朱書きされている。

54-6 はかわらけである。底部は回転糸切した後になで調整されている。

54-7 は瓦質の焙烙である。

7 区 (第 6・7・15・21 ～ 24・54 ～ 64 図)

7 区は東に 10 区と 1 区、南に 11 区と隣接している。1 区から 11 区までの中でも遺構密度の高い地区である。特に南側では円形の大小の土坑ピットの密度が高く、北側では方形や長方形の大型遺構が目立つ。

南端では SD43 溝跡が円形に巡り、それに囲まれた中には大型の土坑 SX33・37・38・39 などが所在する。

SX33 土坑は西壁に掛かり一部未検出だが、径 1.5m ほどで、60-10 ～ 61-4 が出土したが、近代のものとみられる。61-1 ～ 3 は窯道具の焼台である。

SX38 土坑は径 2.5m × 2.3m と大型で、断面は船底型で検出面からの深さも 70cm と深い。覆土には径 5 ～ 20cm の大小の礫を多量に混入している。54-10 ～ 55-4 までの遺物が出土した。54-10 は瀬戸美濃産の大窯期の灰釉小皿である。55-2 は割れて欠損しているが、丁寧に脚部も作り出された石鉢である。被熱して内外に煤が付着している。

SX39 土坑は径約 2 m、最深部で深さ 0.8m を測る。断面は船底型で覆土には礫を多量に混入する。55-5 ～ 7 が出土した。55-5 は瀬戸美濃産大窯期の灰釉小皿で、窯での癒着が内面にある。

SX38・39 土坑は近世初期に遡る可能性もある。

SD43 溝跡は幅 1 ～ 0.7m ほどで断面 U 字状を呈するしっかりと掘り込まれた溝である。遺物の出土はないが、SX38・39・SD43 はセットになり同時期だと考えられる。

この円形溝で囲まれた範囲は直径約 10m と見られるが、大半は調査区外である。この他にも SD43 溝跡には遺物を伴わない時期不明の土坑 SK51・57・58 が重複しているが、溝を切っているため後出の遺構と見られる。

ST71 は 3 m 四方の正方形の竪穴建物で壁は垂直、底面は平坦である。棟持柱・壁柱穴を有し床面には焼土や炭化物が検出されているが燃焼施設がなく、年代を決定できる遺物も出土していない。柱穴の中で EP254・255・256・260 は深い掘り込みで柱痕が見られる。61-8 ～ 11 は、調査区壁面を拡張して ST71 全体を掘り出した時に遺構検出面より上の層から出土したもので、ST71 の年代とは無関係の近現代の遺物である。61-11 は瓦質の用途不明品で、不定形をし片面に平らな突起が付いている。

調査区中央付近でも大型土坑 SK93・95・SX98 が見られる。SK93 は 3.4m × 3 m の大型円形土坑である。壁は 50cm ほど垂直に掘りこまれる。底面は平坦部分もあるが、凹凸も見られる。58-17 ～ 59-9 の遺物が出土している。58-17・18 は肥前産の磁器で、18 世紀後半から 19 世紀後半までのものと思われる。59-1 は志野の碗の破片で、59-2 ～ 5 は大堀相馬産と思われる。遺構の年代も近世末期であろう。

SK61 土坑からは 63-6・7 が出土している。63-6 は高台内に屋号がプリントされている近現代のもので、63-7 は玄武岩製の石材である。

SK95 土坑は 2.3m 四方の隅丸方形を呈する。59-10 ～ 60-5 が出土している。59-10 ～ 18 は磁器で肥前産とみられ、概ね 19 世紀の近世最末期のものと思われる。59-19・25・60-1 は大堀相馬産のものと思われる。他は産地不明である。59-20 は小型の羽釜状の器であるが、上部に切れ込みが入っている。60-2 は層塔状の土製品で下部が欠損している。釉が一部剥離しているが、青や赤での彩色が一部残っている。

SK97 は径 3 m の円形を呈する深い掘り込みである。遺物の出土はなく年代の決め手はない。

SX101 は隅丸長方形の土坑で規模は 2.1m × 1.3m。壁は垂直に掘りこまれ、深さは 50cm 程である。内部より大小の礫が多く検出されている。55-8 ～ 56-3 までの遺物が出土している。55-8 ～ 11 までは肥前産の磁器で、18 世紀後半から 19 世紀のものである。55-8 は焼きが甘い波佐見の碗であるが、口縁部が割れた後に紅皿に転用している。56-1 は火鉢の底部の脚部である。。

北側では、長軸 3m 幅 1.2 ～ 1.7m のほぼ正方形の土坑など大型の遺構が検出されている。

ST107 土坑は正方形の土坑で、断面は船底型を呈する。規模は約 2.5 m四方と見られる。内部には 1.5m × 0.8m の楕円形の土坑が見られる。57-4 ～ 58-16 の遺物が出土している。57-4 ～ 13 までが磁器で、18 世紀後半から 19 世紀前半の波佐見産である。57-20・21 は肥前産陶器、57-17 ～ 19 は大堀相馬産であると思われる。57-24 は産地不明の無施釉陶器の蓋あるが、内外面に煤が大量に付着しており、おそらく灯明皿か火が付いた灯明を消すための蓋に転用したのであろう。58-7 ～ 9 は秉燭である。上部に飴色の鉄釉がかけてある。底部は回転糸切であるが、軸に挿して整形したと思われる。産地は不明。58-13 は用途不明の土製品で、無施釉でヘラで削って整形し三角形などの刻印が押してある。剥離した高台の可能性もあるが、それにしては直線的ではない。58-14・15 は共に黒褐色の無施釉瓦である。58-14 は軒平瓦で、山形市教委の瓦分類で「FD1」に該当する。58-15 は丸瓦である。58-16 は砥石である。中砥と思われ、かなり使い込まれている。文字絵画線刻の砥石が出土している。片面には男性器と女性器を描いた線刻が刻まれ、左隣に漢字かな交じりで二行ほど文字が刻まれているが解読できなかった。また、男性器にも「大□」と

二文字刻まれているがこれも判読できなかった。遺構の年代は、19 世紀の近世最末期であると考えられる。

ほかにも 2.5m 四方の正方形土坑 SK100 がある。出土遺物は少なく　60-6・7 が出土している。60-6 は大堀相馬産と思われる土瓶で、60-7 は秉燭である。鉄釉が全体にかけられ、底は回転糸切で脚部が短い。ST107 とほぼ同年代と推測できる。

やや小型で 1 m四方の土坑 SK110 からは、56-17 ～ 57-3 までの遺物が出土している。56-17 ～ 21 までは肥前産と思われる磁器で、18 世紀後半から 19 世紀前半までの時期である。57-1 は大堀相馬産と考えられる土瓶の蓋で 60-6 の土瓶本体と同一個体と見られる。

ST107・SK100・110 はほぼ同時期の遺物が出土していることから同時期の近世最末期のものと考えられる。

SD112 は 1.9m × 0.4m の長楕円形の溝状遺構で、年代特定につながるような遺物の出土はなかったが、覆土に礫が多く含まれていた。

SK113 は 0.7 m × 0.8 mほどの円形の土坑である。図化には至らなかったが、SK100 土坑出土の土瓶 60-6 と同系統別個体の破片が出土しているので、同じ年代であると思われる。

以下、遺構外から出土した主な遺物について記す。

64-1 は、18 世紀後半から 19 世紀前半の肥前産の皿である。口縁部が玉縁状になっている。内面には雪輪草紋が、見込にも不明の紋様が描かれている。

64-2 は 18 世紀後半と思われる肥前産の重ね鉢である。外面には背景を滲ませて鶴のような鳥を描いている。割れたものを膠で修復接合されている。

64-4 は 18 世紀後半の肥前産の蓋で、ツマミ部分は欠損している。外面にみじん唐草文様が施されている。

64-5･6 は落込みから揃って出土した赤楽茶碗である。釉の劣化が激しく脆い。下面に「楽」の窯印が押されているが、楽家当主に該当する印はない。近代以降の作か。

64-8 は年代産地とも不明の焙烙である。内外面に煤が付着している。近現代のものか。

64-9 は大堀相馬産と考えられる水指である。灰釉が施され、上部は蓋が付属しない後ろ半分が開放された形のものである。

11 区 (第 7・48 ～ 50 図)

7 区より標高が高かったが、目立った遺構は無かった。唯一、戦時中に作られた家庭用防空壕跡 SK7 が検出された。L 字状の平面形をしており、深さは遺構検出面から 1.3m ほど。戦後もしばらく倉庫と使用していたという。埋土の様子から一度に埋め戻されている。近代以降の遺物が数点（49-13 ～ 16) 出土した。49-15 は、日露戦争後に発売された東京神楽坂の尾澤薬局製の万能皮膚病薬「全治水」の瓶である。49-16 は一銭銅貨である。「龍一銭」と言われるもので、明治 6 年 (1873 年) から明治 21 年 (1888 年) まで発行されたものである。

堀跡である 2 区との境界には、直径 50cm ほどの石を少なくとも 2 段に積んだ石組みが検出された。石組は西側にも続いており、状況より三の丸外堀の縁に設けられた石組で、近代以降も土地の境界として残されたと見られる。厳密には 2 区ではあるが、11 区調査時に掘り下げた堀部分を SD14 としたが、そこからは明治以降の遺物（49-3 ～ 12) が出土している。49-8 は磁器の水差しと思われる頭部に穴が開いた人形。色が剥げている。49-11 は近代に使われた調理器具「蒸しかまど」の破片で、「ムシカマド」と刻印されている。49-12 はアメリカ製の歯科セメント用瓶。19 世紀末頃と思われる。

以下、遺構外から出土した主な遺物について記す。

50-2 は磁器製の布袋の形をした水差しと思われる。極彩色が施され、底部に楕円で囲んだ「萬古」と刻印されている。

50-3 は天目茶碗の破片である。胎土には砂が多く含まれる。時期は不明。

50-4 は唐津の皿。

50-6 は長さ 2.8cm ほどの小型の無施釉の水鳥の土製品である。細かく丁寧に施文されている。時期産地とも不明。

50-9 はかわらけ。底部は回転糸切でなで調整されている。

50-10 は焼き塩壺と思われる素焼き手捏ねの小型壺片である。

2 区 (第 7・21・43 ～ 48 図)

鉄筋コンクリートの基礎が残っていたこと、近代の「御殿堰」があることなどから 2 年度に渡って調査を実施した。2 区の中央に御殿堰が流れているが、地元の言い伝えでは堀跡のほぼ中央に御殿堰を通したということであったが、その内容が正しいことを確認した。

三の丸の堀跡は、２区の土地全ての幅はほぼ 15m、深さは２ｍほどの素掘りで、地山の礫層に達している。

出土遺物は 18 世紀後半以降のものが目立ち、秋元家が山形転封後に荒れ果てた山形城を大規模修築したとの記録にほぼ合致し、その時に堀の浚渫も行われたと思われる。

43-12 ～ 44-10 は磁器である。年代は秋元家入部以降の 18 世紀後半以降の肥前産磁器が多数を占めた。44-5 は大型の鉢で外面は青磁釉が施され、内面には染付で紋様を施されている。44-6 は重ね鉢でみじん唐草紋、44-7 は蓋で唐草雪輪紋である。つまみは欠落している。44-6 と 7 が同一個体のものかは不明。

44-11 ～ 45-24 は陶器である。年代は、一部 17 世紀後半に遡る可能性がある 45-12・13 の肥前系陶器以外は 44-17 ～ 20 のような大堀相馬産の碗皿類が多数を占める。45-8 は鉄釉が施された油徳利である。45-10 ～ 24 はすり鉢で、概ね在地産のものと考えられる。口縁部にバラエティーが見られたので多数掲載した。

明治初年に堀は土塁を突き崩して埋め立てれられたと見られ、レンガを組んだ建物基礎も出土した。

46-1・2 は近代の藍染用大瓶である。昭和 40 年代末まで当地で染色店が操業し御殿堰の水を染色に使用していたという。6 基ほど存在したが、完形品として取り上げることができた 46-1 と最大径を持つ 46-2 だけを図化した。産地は不明であるが近代のものである。

木製品は、48-3 ～ 8 が出土した。48-3 は将棋の王将駒で、堀底から出土した。48-4 は割れた板材で、二箇所穿孔され、屋号らしき記号が墨書されている。48-5 は全面漆塗りされている木材で、家具の一部なのだろうか。48-6 は漆塗りの櫛である。48-7・8 は箸である。

47-8 ～ 16 は瓦である。ほとんど破片しか出土していない。47-12・13・15 のみ赤瓦であとは黒瓦である。47-8 ～ 11 の軒平瓦は、山形市教委の瓦分類での「FG1」型式に該当すると思われる。

B　中央調査ブロック

三の丸郭内で江戸時代初期の以外では一貫して武家地であり、三の丸大手門である七日町口から二の丸大手門に向かう主要道路である「七日町口通り」が東西方向に走っており、幕末まで家臣団の屋敷が立ち並んでいた。

３区 (第 8・43 図)

２区と市道七日町口通線を挟んで北西に位置する。この現行道路は三の丸の土塁跡で３区が近世の七日町口通りであったと見られる。現在、調査区の西側で市道七日町口通線はクランク状に屈曲しているが、これは明治の道路付替えにより発生し、近世は直線の道路であった。

３区は鉄筋コンクリートの建物が建てられて攪乱を受け、遺構は確認されていない。土色変化を確認したものの、旧河道によるものであった。遺物は少量出土したが、近現代の盛り土に混入していたものである。

43-9・10 は 5 勺 (90ml) の牛乳瓶である。43-11 は、サイズや形から三十式実包である。三十式小銃用の銃弾として日露戦争期に使用されたもので、旋条痕がある。

４区 (第 9・43 図)

４区は５区の北に隣接した調査区である。歯科医院跡の鉄筋コンクリート建物基礎などに深く攪乱を受けており遺構は検出されなかったことから遺物はほとんど出土していない。43-6 は昭和 8 年開業の「矢吹病院給食部」の食器である。型押しの量産品で、外側口縁部に緑色のラインが入った同系の食器も多数出土し、43-7 の皿も図化した。

５区 (第 9・10・14・20・36 ～ 43 図)

５区は近世を通じて武家屋敷が存在した地区で水野時代も「長屋」と呼ばれた藩士の住居が七日町口通沿いに並んでおり現在でも西側への並びで子孫が居住している。近代以降に盛り土整地され、木造家屋が建っていたため遺構の残存状況が良好であるが、調査区の北側は削平により遺構の残存状況が良くない。

近現代、近世後期、近世初期の３つの時期がある。

SK9・SX21 は不定形の土坑で大型の礫と共に、SK9 からは 42-1 の薬瓶が、SX21 からは 42-4 近代以降の薄手の磁器酒盃が出土している。41-4 は火鉢である 64-13 と同系統のもので、近世の愛知県産のものである。

SD41 は 2m ほどの L 字状の浅い溝で建物の雨落ち溝の可能性が高い。遺物は伴わなかったが近代と思われる。

SE11・12・13 は井戸跡である。SE11 は桶を埋めたもので 37-2 の志野端反皿と 37-3 の下駄が出土しているが、志野端反皿はこの遺構の年代を示すとは思えない。下駄は欠損しているが、長さは 20cm ほど、幅は 10cm ほどであったとみられ、女性用とみられる。使い込みに

より歯が摩耗してほとんど残っていない。SE12 は石組の井戸で、40-15 ～ 18 が出土している。40-15 は平清水産と思われる徳利で、19 世紀後半から 20 世紀初期のものと思われる。SE13 は桶を埋め込んだ SE11 と同形で、縁に石が円形に並べてあった。時期も SE11 と同時期と思われる。桶部材 41-1・2 を図化した。

SK14 は、長軸 1.7m、短軸 1.5m の長方形を呈する石組みの土坑である。検出面からの掘り込みは 35cm 程と浅い。40-5・6 が出土し、40-5 は 18 世紀後半から 19 世紀前半の肥前産磁器である。SK16 は平面形が楕円形の大型土坑。長軸 3.3m 幅 1m を測る。40-7 ～ 11 の 18 世紀後半から 19 世紀前半にかけての遺物が出土した。

SD17 は調査区西壁面際に検出された不定形の細長い落込みである (第 14 図　5 区基本層序)。長さ 17m ほど、幅は確認できただけで 2 mほど、遺構検出面からの深さが 0.4 mほどであるが、調査区外に広がっていた。最下層より 37-15・17 ～ 19 の 17 世紀の肥前産陶器皿、38-20 の小刀が出土した。出土遺物の上層には炭化物が大量に堆積した層があり、元和 3 年に発生した山形城下を焼き尽くした火災によるものである可能性がある。また、遺構検出面から 40-4 の碁石も出土している。38-1 も肥前系と思われる陶器の甕である。38-7 ～ 15 はかわらけの皿である。そのほとんどは遺構検出面や壁面拡張時に出土した近世のものであるが、38-11 は下層から出土した底部がやや大きく器高も浅い比較的古い時期のものと思われる。38-16 ～ 18 は近世の焼塩壺。外面に格子紋が捺されている。

SD39 は調査区の長軸方向に長さ 20 m以上の大型の溝跡である。上端の幅は北側で 2m、南側で 4m を測る。下端は約 1 m ほどで断面は逆台形である。南端壁には経 0.3 ～ 1m ほどの石で組まれた護岸の石組があり、溝跡は東側に伸びると思われるが、防火水槽の跡により削平されている。壁面は砂お塗布し丁寧に整形されているが、構築後に極めて短期間埋め戻されたと思われる。南端から 35-19 五輪塔の空風鈴が出土しるものの、36-5 ～ 10 の他に目立った出土遺物はほとんど無くそれも検出面からの出土であるので、遺構の正確な年代は不明だが、17 世紀以前と考えられる。同様の区画溝は、山形市教委の双葉町遺跡や城南町遺跡など三の丸の南地区での発掘調査で確認されている。

SK19 土坑は SD39 大溝上面にあった落込みで、39-9 ～ 40-3 が出土している。39-9・10 は表層から出土した 18 世紀後半の波佐見産であるが、39-11 は瀬戸美濃産、39-12 ～ 14 は唐津産の皿で 17 世紀にさかのぼれ、SD39 の時期を示すと思われる。また 40-2 はふいごの羽口の破片である。8 区を中心に多く出土した鉱滓と関連すると思われる。

SP32 ピットからは 39-6 の瀬戸美濃産大窯期の皿が出土した。

以下、遺構外から出土した主な遺物について記す。

42-6 は 17 世紀代の唐津産の皿である。底部は回転糸切で、見込に砂目痕が残っている。無文様である。

42-9 は用途不明の陶製品である。五徳の脚部である可能性が高い。時期産地は不明。

42-10 は船の形をした陶製品。彩色施釉が施されている。一部欠損していて、前後方向はわからない。近代以降の玩具と思われる。

42-11・12 はかわらけの皿。底部は回転糸切で灯明皿として使用したとみられ煤が付着している。

42-13 は土製の用途不明品。器厚は 10cm を超える。外見は鍋状の形をしているが、底部には直径 20cm を超える穴が穿たれている。内面には段差がついていて、なで調整がされている。全体が被熱し、特に内面の被熱による劣化が激しい。製作年代、産地も不明である。

42-16 は蓋状の土製品。側面に指での押圧痕がある。焼塩壺の蓋と推測している。今回の調査で、同様の遺物が数点出土している。

42-17 は石臼の下部である。直径 44cm、高さ 19cm ほどで、7 区 SK59 出土の 63-1 の石臼とセットの同一個体であるかの可能性が高い。近世のものと思われる。

8 区 (第 10・15・18・19・29 ～ 36 図)

8 区は全体の中央部に位置する。全調査区の中では最も遺構密度の高い地区であるが、住宅の前でガス管、上下水道管が走る部分は調査できなかった。

北側地区では規模が 0.7 ～ 1 m で隅丸方形の時期不明の土坑ピットが多数検出されている。これらに切られる形で調査区を横切る方角に走る SD240 溝跡がある。長さは 6 m以上、幅は 1.5m 以上、深さは 1 mと深い。年代を判別できる遺物は出土しなかったが、大量の鉱滓が

出土した。理化学分析をすると鍛冶滓であるとの結果が出た。近世、近代にこの地区に鍛冶工房が存在した記録はなく、三の丸構築以前のものであるとみられる。遺構外からも５区を中心に鉱滓が多く出土しており、ある程度の期間に渡って鍛冶作業を行っていたのであろう。

中央地区では70㎝前後の土坑が多数検出されている。SX220は径1.5mの円形土坑である。SD209・210は重複した溝跡で、SD210から31-4～7・11が出土した。31-5～7の肥前産磁器から19世前半頃と思われる。31-5は外側と見込に柱状の文様が施文されている。31-6は大ぶりの鉢で、外面に青海波が施文されている。

南側では重複した遺構が多数検出されている。

SX132は直径3mを超える円形の掘り込みで31-8～10が出土している。31-9は平清水の鉢であるので19世紀後半から20世紀初頭にかけての時期とみられる。SK142土坑からは、30-10～31-2が出土している。30-10～12の磁器は19世紀の肥前産である。30-10は外面に幾何学状の星型紋が施され、見込に宝紋がある。19世紀後半と思われる肥前産である。紅皿として使用され、紅が付着している。30-13は産地不明の土瓶状容器のものと思われる蓋。30-14は瓦器の皿で下部に高坏状の脚部が付くと思われる。内面に煤が付着しており、おそらく灯明皿に転用したのであろう。SK143・SX168・169は近現代の掘り込みと思われる。SX168からは32-12～33-13が出土している。

長方形の浅い土坑SK149も19世紀頃の土坑である。SX134は円形の浅い掘り込みで、29-9～30-1が出土している。29-9は龍泉窯産の青磁碗、29-14は志野の碗の破片で、近世初期まで遡ると思われる。

SD129・163は平行に走る溝跡である。幅40㎝深さ20㎝を測る。断面はU字状を呈する。道路状遺構の可能性が考えられ、年代を決定できる遺物の出土はないが、重複関係や覆土の状況から17世紀初頭かそれ以前の所産と見られる。

また、SX154とST184竪穴建物跡が検出された。SX154は正方形で７区のST71とほぼ同規模である。ST184は東西6m、南北2.7mを測る。壁面はほぼ垂直に掘り込まれ床面は平坦である。床面には炭化物の集中区域が中央部と東側に２か所見つかっている。壁柱穴も多数見つかり、床面でも柱穴が１基検出されている。南西にはSX181と重複し壊されている。SX154から34-17の瓦が出土しているが、他に年代の決め手になる遺物の出土はなく時期は不明。

この他規模１～２ｍの方形や隅丸方形の土坑ピットが多数検出されている。この地区も遺構検出面に礫が多数混入していた。

SX153落込みからは34-14の骨製と思われる箸が出土している。獣骨というより象牙と思われる。象牙の箸といえば「象箸玉杯」のことわざの語源にもなった非常な贅沢品である。共伴遺物が無く、正確な年代は不明だが、一般的に小藩の家臣が所有できるようなものではないので、近代以降のものと思われる。

以下、遺構外から出土した主な遺物について記す。

35-1・2は近現代の磁器碗である。外面には強くろくろナデされた凹凸が付き、内外に葡萄唐草紋が黒褐色で手書きで描かれている。

35- 4は酒盃で、内面に鶴の文様が描かれ、屋号と「富山市廣貫堂」と記されている。廣貫堂は明治９年創業で現在も続く製薬会社である。

35-6・7は酒盃で、外面に波と桜と雀が印刷されている。底部に、35-6には「大日本華山製」、35-7には「大日華山」と書かれているが、型紙による印刷と思われる。華山窯は寛政８年(1796年)創業の肥前有田の窯で現在も操業している。近代のものである。

35-8は磁器の酒盃で、見込にほとんど剥離しているものの金彩で鳳凰の絵柄と「□十三□名刺年賀交換会」と記されている。山形では毎年１月に商工会議所によって名刺年賀交換会が開かれており、おそらく昭和13年に記念品として配られたものであろう。

35-10は青磁の花瓶。龍泉窯のものと思われる。

35-14は土師器の蓋。焼塩壺の蓋と思われる。

35-15・16はかわらけ。手捏ねで口縁部を横なでしている。

35-17は軒丸瓦。施釉されているがやや小型なので近代以降のものと思われる。

36-1は凹石。直径15cmほどの自然石で、中央部に人為的な凹みがつけられている。

36-2は骨製のヘラ。紐を通す穴が開いている。

36-3･4は天保通寶。36-4は表面に錆が付着している。

12区(第10・18・26～29図)

８区に隣接するために、その続きとして検出された遺構が多い。

12 区 SX5 は土地の区画をまたいだ８区 SX181 と同一の落込みで、浅く掘り方もはっきりしなかったことから倒木痕の可能性がある。27-9 ～ 11 が出土している。27-9 は底部に「源六製」と書かれており、明治中期に佐賀県嬉野に富永源六が開いた源六焼きである。

SX1 は近現代の掘り込みである。近所の住民の証言によると数十年前まで使用していた井戸跡ということであったが、軟弱で締まりがなくビニールなどを含む覆土で、掘り下げを進めていると、底部まで確認しないうちに壁面が崩落しはじめ、歩道まで崩落する危険性があったので、確認を断念して埋め戻した。

SX9 は幅 2.5m ほど、長さは 5 m以上の掘り込みで、26-9 ～ 12・28-17・18 の 18 世紀後半から 19 世紀の肥前産磁器が出土している。26-12 は皿である。内側に山水紋が施されている。26-13･14 陶器が出土している。13 は瀬戸美濃系の碗で、見込に胎土目痕がある。高台は磨きをかけている。26-14 は同年代の京信楽系の碗である。また、27-1 ～ 8・28-19 のまとまった数量のかわらけが出土した。いずれも燈明皿として使用したもので、煤が付着したり口縁部を打ち欠いている。年代は同伴陶磁器と同じと考えられる。

SK12 土坑からは 28-1 ～ 16 の近世の遺物がまとまって出土している。28-1 ～ 4 の磁器は肥前産で 18 世紀後半から 19 世紀頃のものである。28-5 ～ 8 は 17 世紀後半頃の唐津産と考えられる。内面には鉄釉で施文が施されている。28-15 は石鉢で、割れた状態で出土している。

遺構外からの出土であるが、29-3 は表面に線刻が施されている。29-4 は漢字状の浮き彫りが施されているが、判読できなかった。

以下、遺構外から出土した主な遺物について記す。

29-5 は天保通寶である。

C　南調査ブロック

この地域は江戸後期以降は耕作地化し、近代になると宅地化した地域である。

６区 (第 11・12・17・25 図)

６区は９区が南に隣接する。地元百貨店の立体駐車場があったことから、遺構は殆ど削平されていた。そのために、出土遺物も 25-1 ～ 4 と少なく平安時代を中心とした遺物がわずかに出土している。

SX7 は周囲を礫が配置されていたことから、井戸跡の最底部である可能性もある。

25-3 は砥石である。キメが細かく仕上砥だと思われる。近世のものと思われる。

９区 (第 13・16・17・25・26 図)

９区は建物の基礎で深く攪乱を受けている。規模 0.7 ～ 1 m 程の土坑がまとまって検出された。

SK3・20 は重複した土坑である。SK3 は規模が 1.6m × 1.9m を測る深さ 20cm ほどで、18 世紀後半から 19 世紀の陶磁器 (25-5 ～ 7) が出土するやや大型の土坑である。瓦 (25-8・9) も概ね同時期と思われる。咸平元宝と思われる銭 25-10 も出土した。

SK20 はそれを切る 60cm ほどの垂直に掘りこまれた土坑である。近代の所産と考えられる陶器鉢 26-1 が出土している。

他に現在の土地区画と完全に一致する近代以降と考えられる区画溝 SD10 や時期不明の火葬骨を埋葬した SH2 木棺墓が検出された。

以下、遺構外から出土した主な遺物について記す。

25-17 は 18 世紀後半の肥前産の碗。外面には山水文が施されている。

25-18・19 は同一個体と思われる。17 世紀頃の漳州窯の染付皿の破片である。

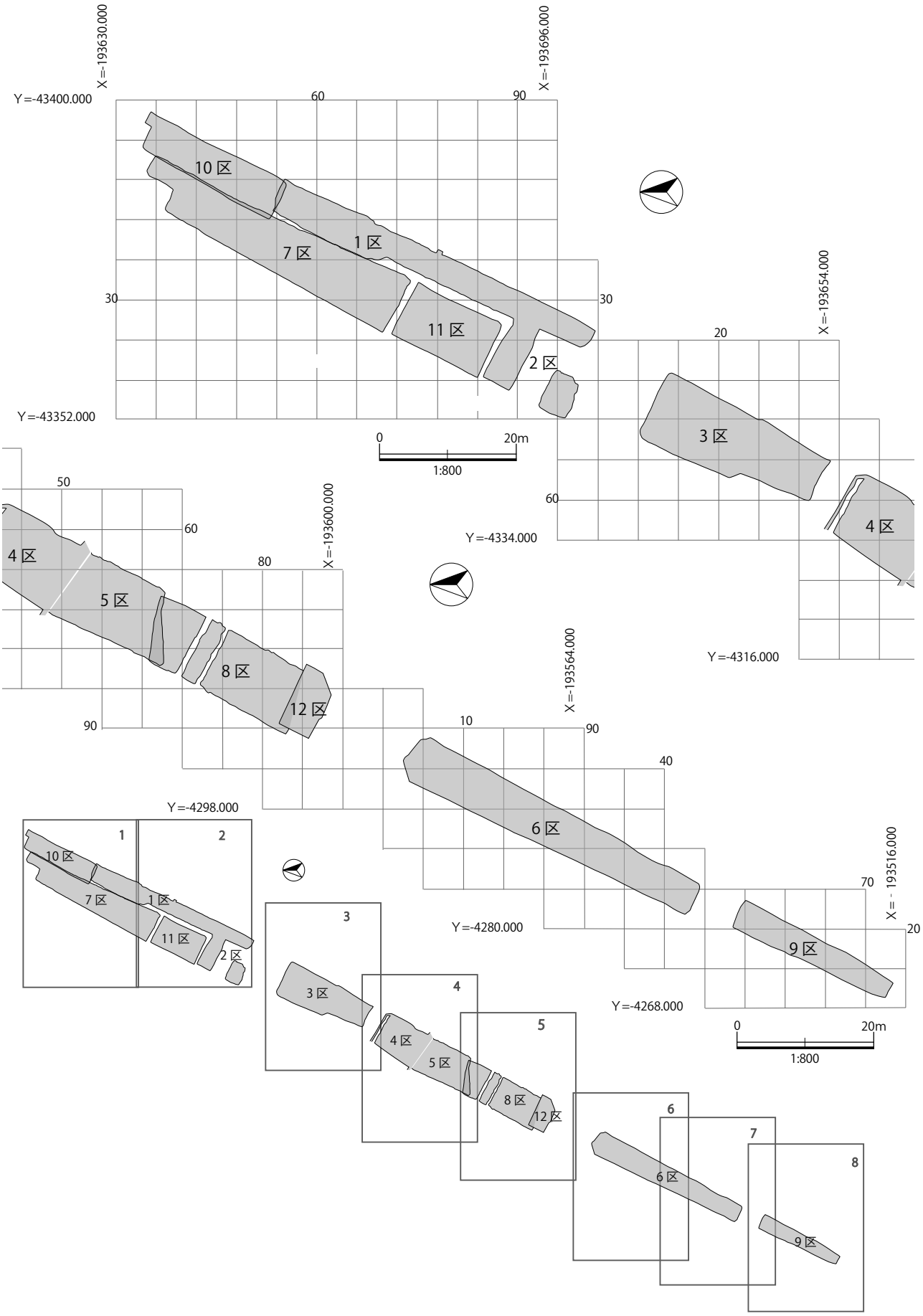
25-21 は瀬戸美濃産の天目碗である。灰白色の施釉がされているいわゆる白天目で、近世のものだと思われる。

26-2・3 は焼塩壺の破片である。

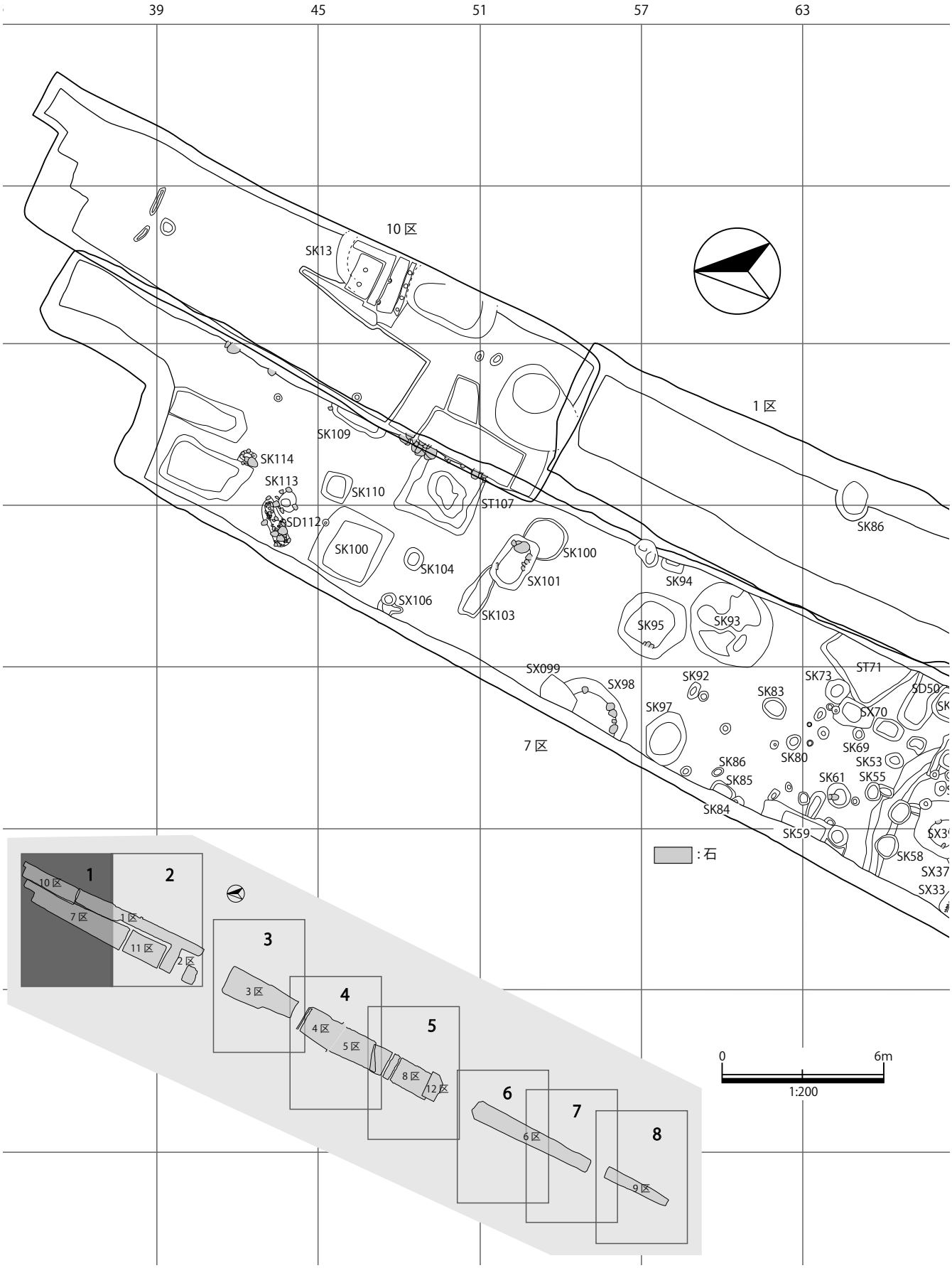
26-4 は甕である。飴色の鉄釉が施されている。形や大きさが 53-1・54-5 の甕と極めて類似しており、おそらく同じ産地で同じ時期に作られたものであろう。産地、時期とも不明ではあるが、近世末期から近代初頭にかけての在地産の甕であると思われる。

26-5 は土製品の人形で、馬の脚の部分と思われる表現がなされている。無施釉で製作年代は不明である。

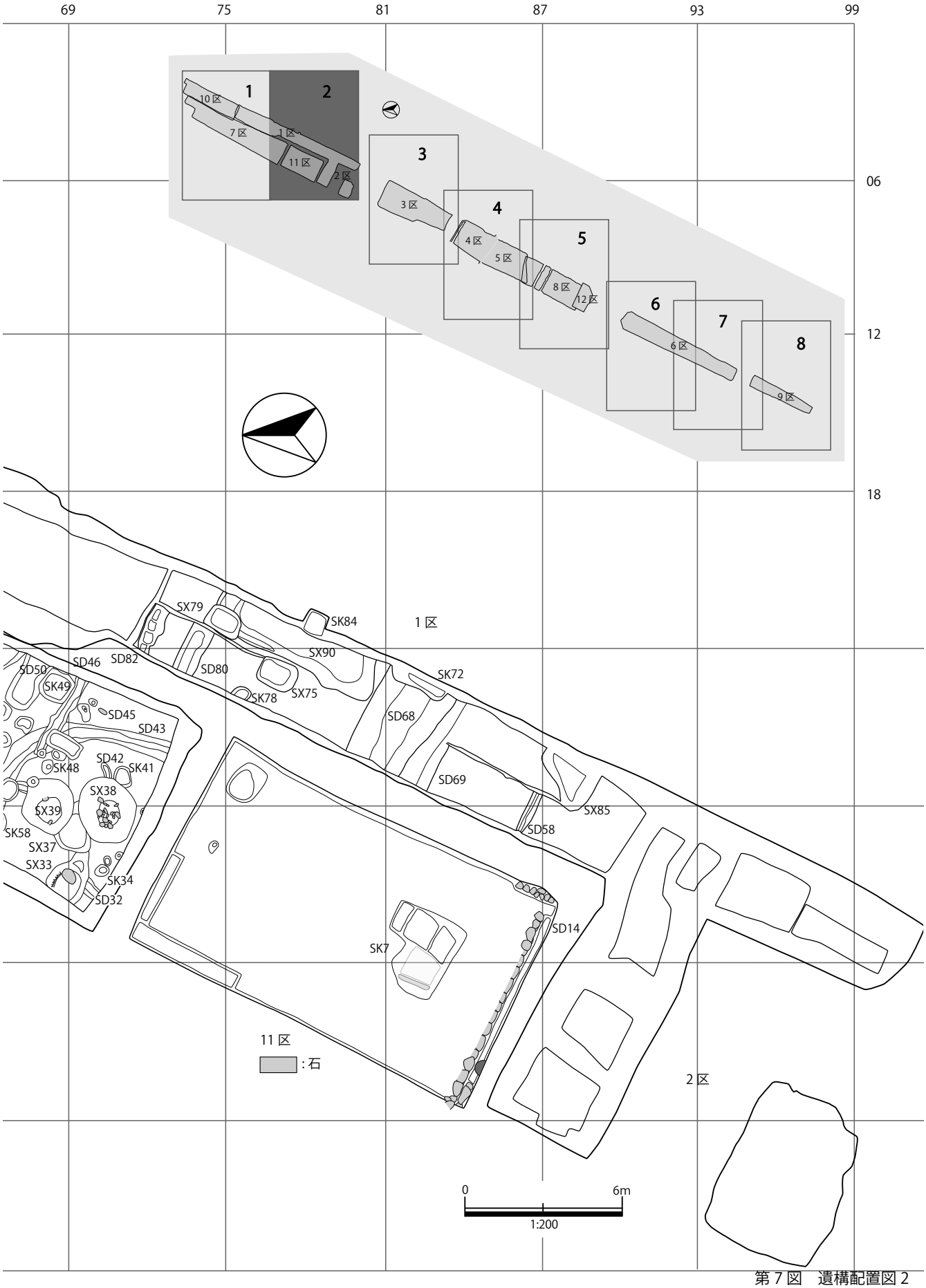
26-7 は軒平瓦。施釉されている。上面には釘穴がある。



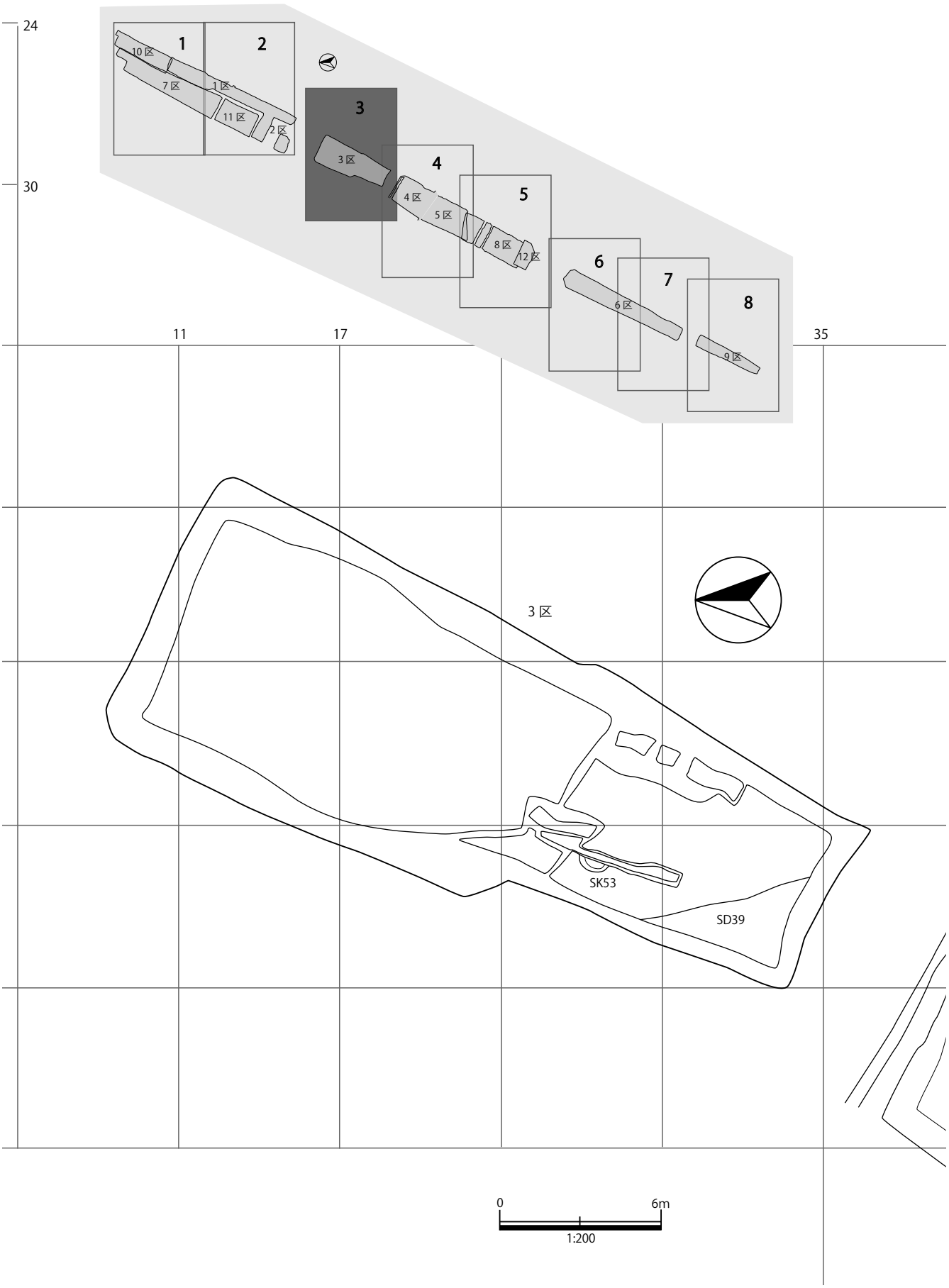
第 5 図　調査区概要図・割付図


39
45
51
57
63
10 区
SK13
1 区
SK109
SK114
SK113
SK110
ST107
SD112
SK100
SK104
SK100
SX101
SK103
SX106
SK94
SK95
SK93
SK86
SX099
SK98
SK92
SK97
SK83
SK73
ST71
SD50
SX70
SK69
SK80
SK53
SK55
SK61
SK86
SK85
SK84
SK59
SK58
SX37
SX33
7 区
：石
1
2
3
4
5
6
7
8
10 区
7 区
1 区
11 区
2 区
3 区
4 区
5 区
8 区
12 区
6 区
9 区
0
6m
1:200

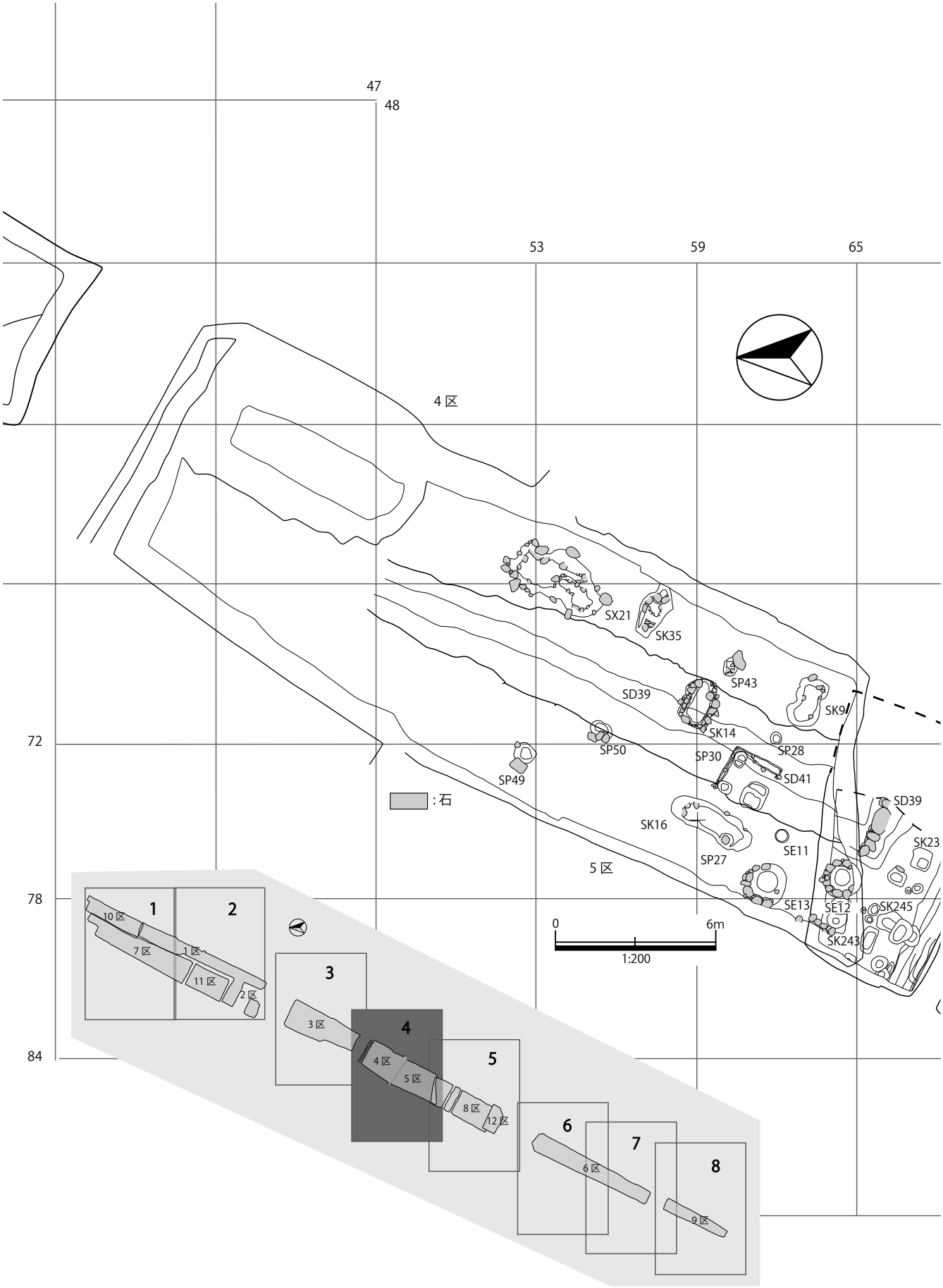
第 6 図　遺構配置図 1


69
75
81
87
93
99
06
12
18
1
2
3
4
5
6
7
8
10 区
7 区
1 区
11 区
2 区
3 区
4 区
5 区
8 区
12 区
6 区
9 区
SX79
SK84
1 区
SX90
SD46
SD82
SD50
SK49
SD80
SK72
SK78
SX75
SD45
SD43
SD68
SD42
SK48
SK41
SD69
SX38
SX39
SX85
SD58
SK58
SX37
SX33
SK34
SD32
SD14
SK7
11 区
: 石
2 区
0
6m
1:200

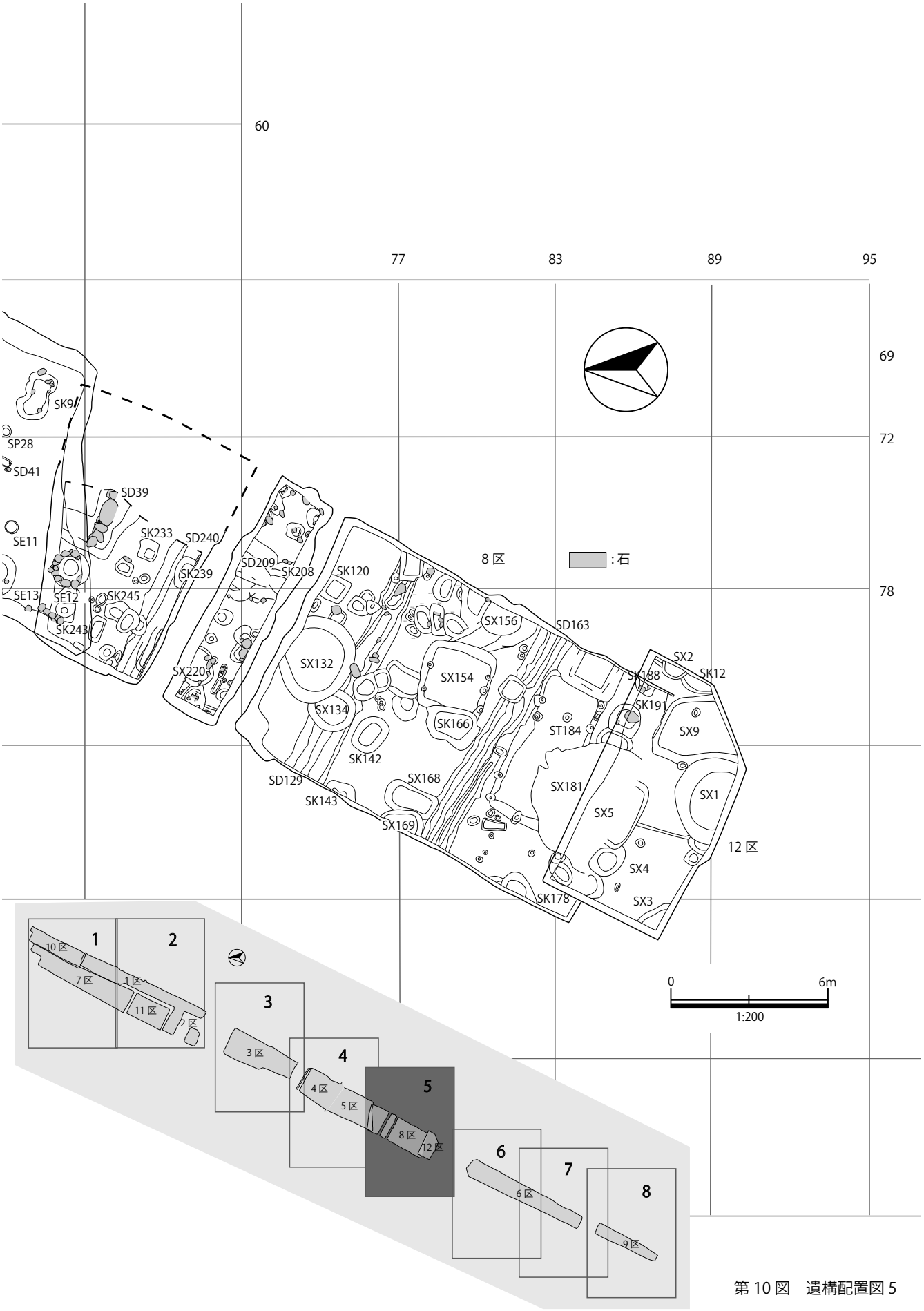
第 7 図　遺構配置図 2


24
30
11
17
35
1
2
3
4
5
6
7
8
10 区
7 区
1 区
11 区
2 区
3 区
4 区
5 区
8 区
12 区
6 区
9 区
3 区
SK53
SD39
0
6m
1:200

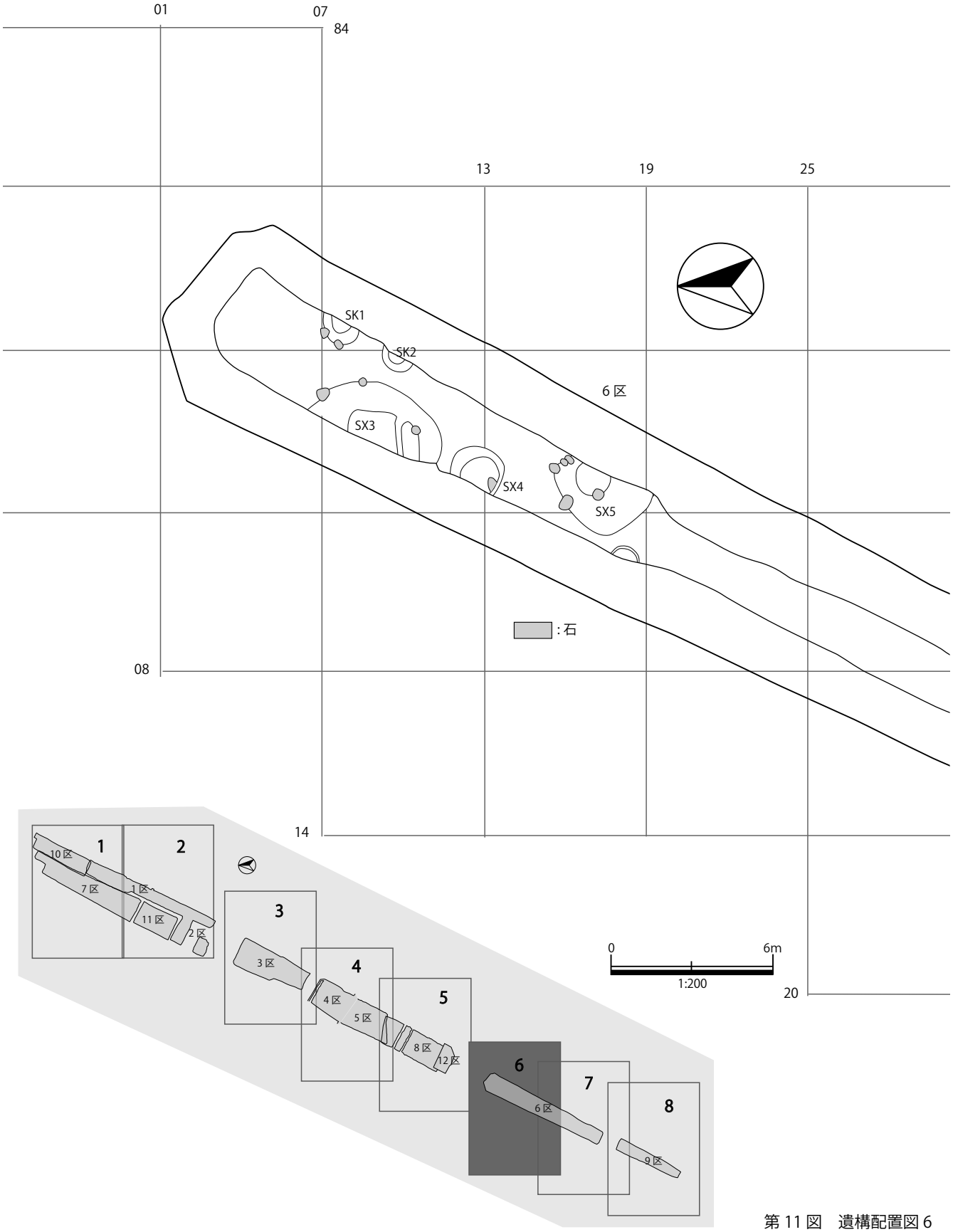
第 8 図　遺構配置図 3


47
48
53
59
65
72
78
84
4 区
5 区
SX21
SK35
SP43
SD39
SK9
SK14
SP50
SP28
SP30
SD41
SP49
: 石
SD39
SK16
SE11
SK23
SP27
SE13
SE12
SK245
SK243
0
6m
1:200
1
2
3
4
5
6
7
8
10 区
7 区
1 区
11 区
2 区
3 区
4 区
5 区
8 区
12 区
6 区
9 区

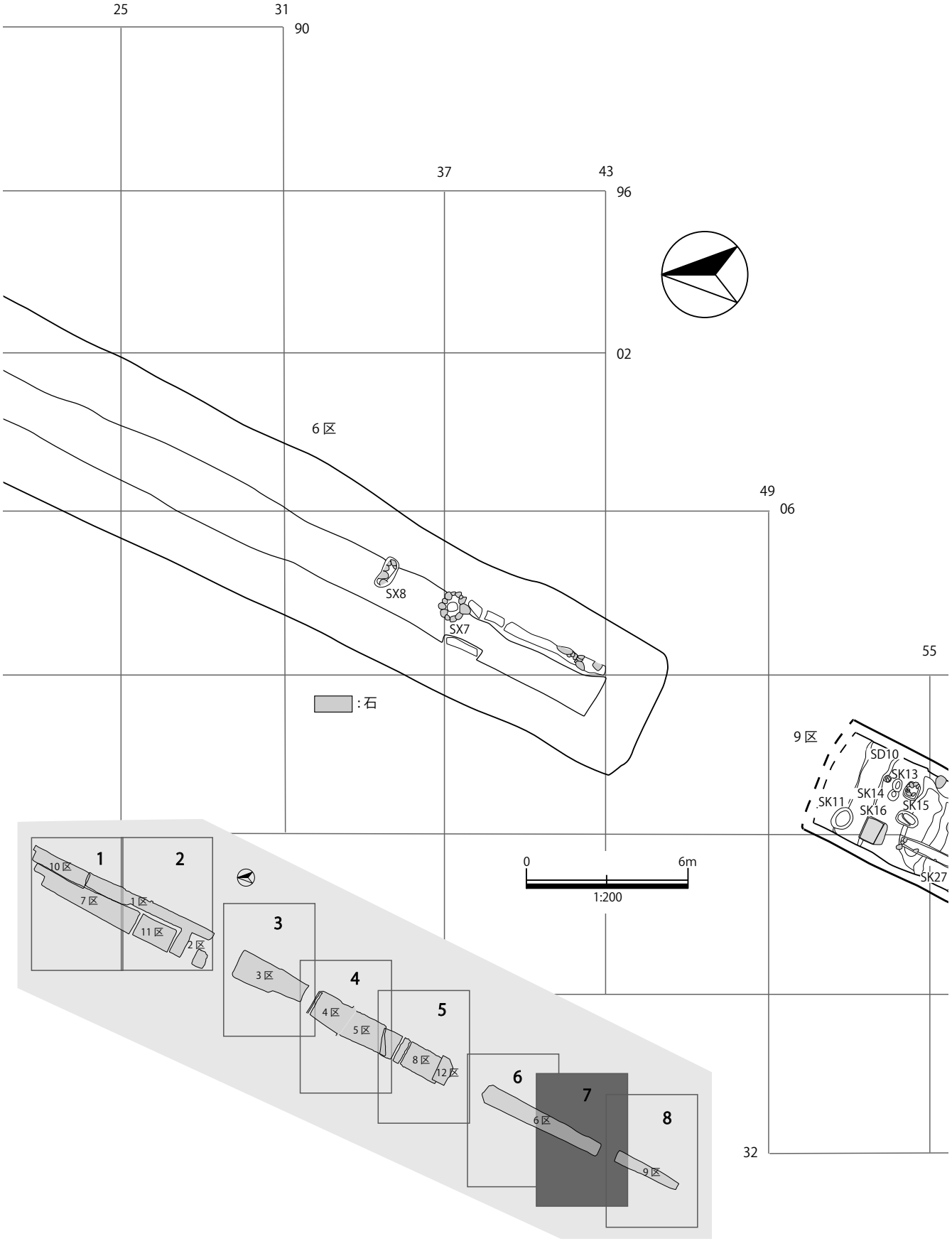
第 9 図　遺構配置図 4


60
77
83
89
95
69
72
78
SK9
SP28
SD41
SD39
SE11
SK233
SD240
SK239
SD209
SK208
SK120
8 区
:石
SE13
SE12
SK245
SK243
SX220
SX156
SD163
SX132
SX154
SX2
SK12
SK188
SK191
SX134
SK166
ST184
SX9
SK142
SD129
SX168
SX181
SX1
SK143
SX5
SX169
12 区
SX4
SK178
SX3
0
6m
1:200
1
2
10 区
7 区
1 区
11 区
2 区
3
3 区
4
4 区
5 区
5
8 区
12 区
6
6 区
7
8
9 区

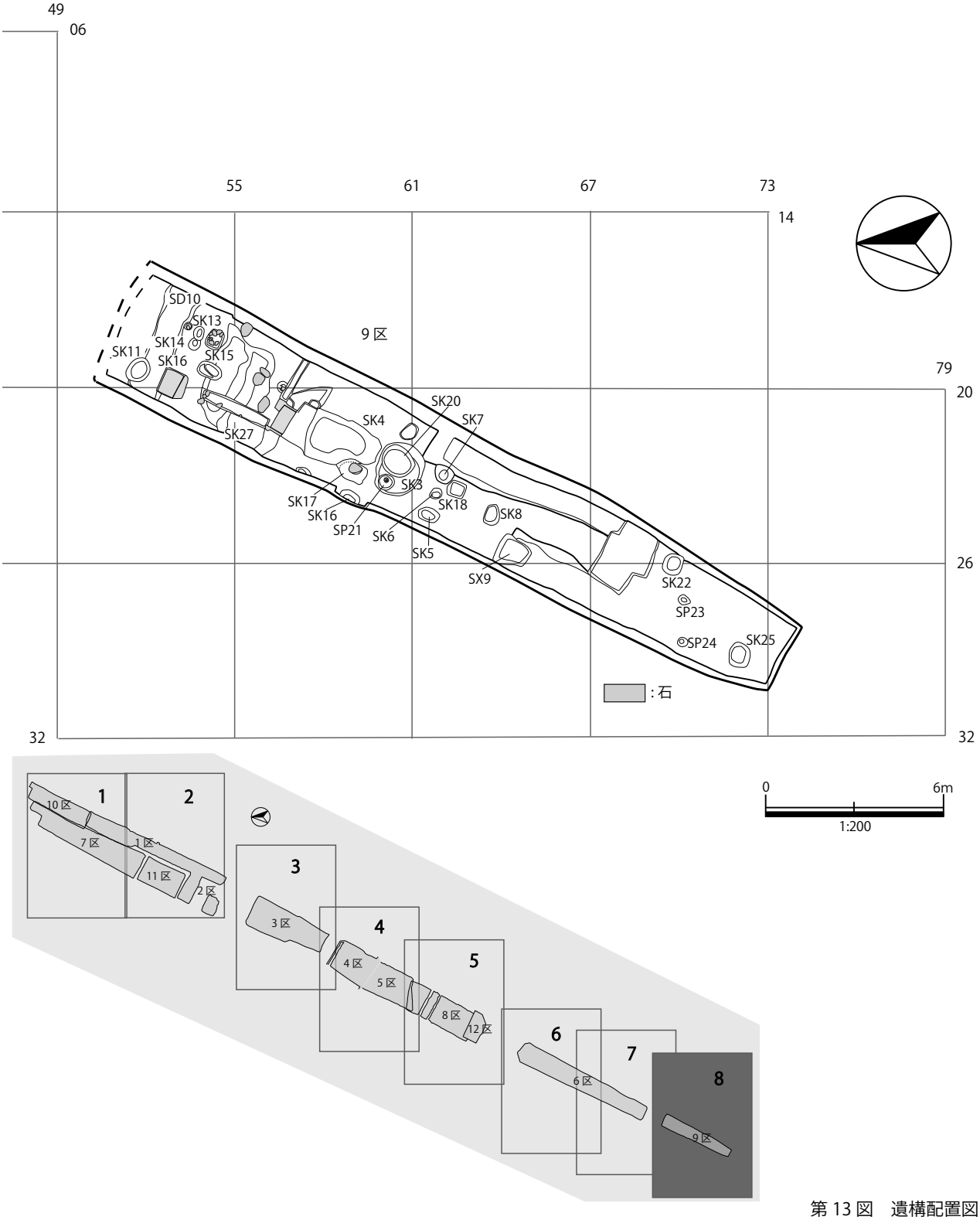
第 10 図　遺構配置図 5


01
07
84
13
19
25
SK1
SK2
6 区
SX3
SX4
SX5
: 石
08
14
20
0
6m
1:200
1
2
10 区
7 区
1 区
11 区
2 区
3
3 区
4
4 区
5 区
5
8 区
12 区
6
6 区
7
8
9 区

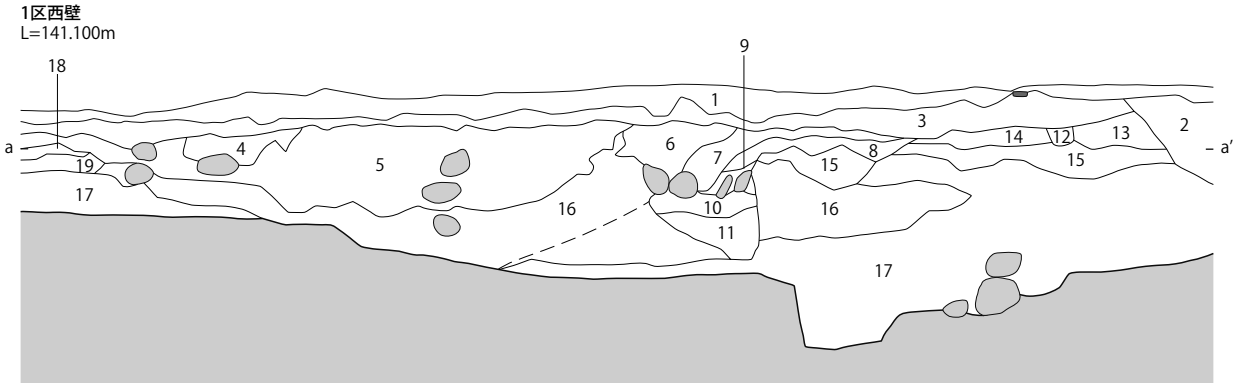
第 11 図　遺構配置図 6


25
31
90
37
43
96
02
6 区
49
06
SX8
SX7
55
: 石
9 区
SD10
SK13
SK14
SK16
SK11
SK15
SK27
0
6m
1:200
32
1
2
10 区
7 区
1 区
11 区
2 区
3
3 区
4
4 区
5 区
5
8 区
12 区
6
6 区
7
8
9 区

第 12 図　遺構配置図 7

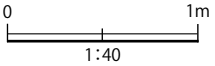

49
06
55
61
67
73
14
79
20
26
32
32
SD10
SK13
SK14
SK15
SK11
SK16
9 区
SK27
SK4
SK20
SK7
SK3
SK17
SK16
SP21
SK6
SK5
SK18
SK8
SX9
SK22
SP23
SP24
SK25
: 石
0
6m
1:200
1
2
3
4
5
6
7
8
10 区
7 区
1 区
11 区
2 区
3 区
4 区
5 区
8 区
12 区
6 区
9 区

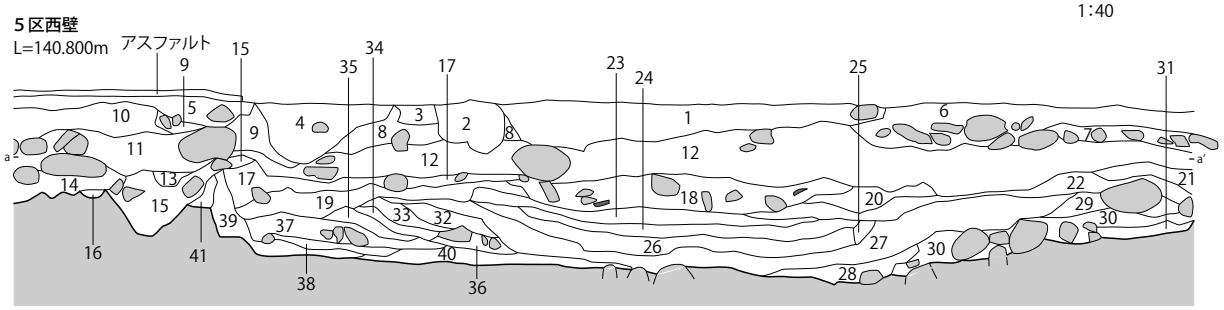
第 13 図　遺構配置図 8



1 区西壁

1. 5YR3/3　暗赤褐色シルト質粗砂　町づくり委員会の花壇。盛土。
2. 10YR3/3　暗褐色シルト質粗砂　しまっている。鉄筋コンクリート片を含む。ビニールを含む。ごみ穴。
3. 10YR3/2　黒褐色シルト質砂　しまっている。ビニールを含む。表土。
4. 10YR3/3　暗褐色シルト質粗砂　非常にしまっている。コンクリート片を含む。ごみ穴。
5. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト質粗砂　シルト分は非常に少ない。間に 16 層砂を間層として含む。コンクリート片を含む。
6. 10YR3/3　暗褐色砂質シルト　非常にしまっている。炭化物を含む。径 2cm ～ 3cm 程の礫を多く含む。
7. 10YR3/3　暗褐色砂質シルト　非常にしまっている。6 層より礫を多く含む。下層の砂を斑状に 10% 含む。
8. 10YR3/2　黒褐色砂質シルト　非常にしまっている。炭化物をわずかに含む。旧表土層。一部崩れて埋まる。
9. 10YR3/3　暗褐色砂　しまっているがもろい。大きな礫を含む。
10. 10YR3/2　黒褐色砂質シルト　しまっている。径 2cm ～ 3cm 程の礫を含む。焼土を微量に含む。
11. 2.5Y4/3　オリーブ褐色砂　しまり無し。シルト分をわずかに含む。
12. 7.5YR3/1　黒褐色シルト　しまっている。コンクリート片を含む。
13. 10YR4/1　褐灰色シルト　しまっている。焼土片を含む。
14. 10YR3/2　黒褐色砂質シルト　しまっている。旧表土。近世か。
15. 2.5Y4/3　オリーブ褐色細砂　しまっている。14 層と地山の漸移層。
16. 2.5Y6/4　にぶい黄色粗砂　ややしまっているがもろい。中間に礫層があり二度堆積。
17. 2.5Y4/3　オリーブ褐色細砂　しまっている。地山層。
18. 10YR4/6　褐色砂質シルト　非常にしまっている。盛土。
19. 10YR3/2　黒褐色シルト質砂　非常にしまっている。炭化物、近代陶器片を含む。

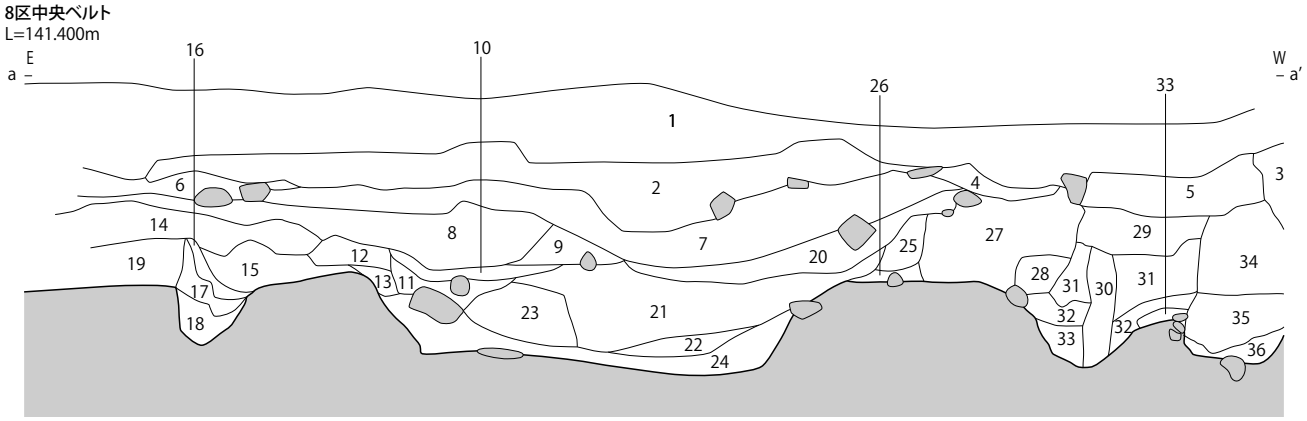




5 区西壁

1. 7.5YR3/1　黒褐色砂質シルト　非常にしまっている。径 1 ～ 10cm 程の礫を含む。陶磁器モルタル片を含む。
2. 10YR2/2　黒褐色シルト質粗砂　炭化物、被熱レンガ、径 5cm 程の礫を含む。
3. N1.5/0　黒色炭化物　砂をわずかに含む。
4. 10YR3/1　黒褐色砂質シルト　しまっている。炭化物を多く含む。径 1 ～ 3cm 程の礫を含む。
5. 10YR2/3　黒褐色砂質シルト　非常によくしまっている。上部は砕石。
6. 10YR2/3　黒褐色シルト　よくしまっている。炭化物を含む。黄褐色土ブロックを 3% 含む。
7. 10YR2/3　黒褐色砂質シルト　もろい。径 10 ～ 20cm 程の礫層に 6 層土が混入。
8. 2.5Y4/4　オリーブ褐色砂　非常にしまっている。径 2 ～ 3cm 程の礫を含む。
9. 7.5YR2/1　黒色シルト　粘性あり。よくしまっている。炭化物を含む。ビニール、毛糸等を含む。下に黄褐色土ブロックを含む。
10. 10YR3/2　黒褐色砂質シルト　粘性あり。炭化物を含む。
11. 10YR2/1　黒色砂質シルト　炭化物を含む。しまりあり。径 5 ～ 10cm 程の礫を含む。
12. 10YR3/1　黒褐色砂質シルト　しまっている。炭化物を含む。径 3 ～ 5cm 程の礫を少量含む。
13. 10YR3/1　黒褐色粗砂質シルト　しまりに欠ける。もろい。径 1~3cm 程の礫を多く含む。
14. 10YR3/2　黒褐色砂　しまりに欠ける。もろい。炭化物を含む。径 3 ～ 5cm 程の礫を含む。
15. 10YR3/3　暗褐色シルト質砂　ややしまっている。炭化物を含む。SD089
16. 7.5Y3/2　オリーブ黒色砂　しまりに欠ける。もろい。
17. 2.5Y3/2　黒褐色砂質シルト　よくしまっている。炭化物を含む。下層境に酸化物付着。旧地表土。
18. 7.5YR3/1　黒褐色シルト　よくしまっている。炭化物を含む。焼土ブロックを少量含む。瓦片を含む。
19. 10YR3/3　暗褐色砂質シルト　よくしまっている。炭化物を含む。北側には、炭化物が層状に堆積。
20. 10YR3/1　黒褐色砂質シルト　しまっている。炭化物を少量含む。
21. 2.5Y3/1　黒褐色砂質シルト　炭化物を少量含む。
22. 2.5Y3/2　黒褐色砂質シルト　ややしまっている。炭化物を含む。
23. 10YR4/2　灰黄褐色細砂　しまりあり。炭化物、焼土を含む。
24. 2.5Y3/2　黒褐色細砂　しまりあり。23 層土に多量の炭化物と焼土を含む。堆積土。
25. 10YR3/1　黒褐色砂質シルト　しまりに欠ける。炭化物を多量含む。
26. 5YR1.7/2　黒色シルト　炭化物と焼土ブロックを多量に含む。
27. 10YR3/2　黒褐色砂質シルト　径 1cm 程の炭化物を含む。瓦を含む。
28. 7.5YR3/2　黒褐色砂質シルト　炭化物を少量含む。
29. 10YR2/2　黒褐色シルト　ややしまっている。炭化物を含む。
30. 10YR4/2　灰黄褐色砂　しまっている。炭化物を少量含む。径 10 ～ 30cm 程の礫を多量に含む。
31. 10YR4/2　灰黄褐色砂　30 層土と地山が斑状に混じる。
32. 5Y5/3　灰オリーブ色砂　もろい。炭化物を微量に含む。
33. 10YR4/2　灰黄褐色シルト質砂　もろい。炭化物を層状に含む。
34. 5Y5/3　灰オリーブ色砂　しまりに欠ける。炭化物を少量含む。
35. 2.5Y5/2　暗灰黄色シルト質砂　しまりに欠ける。斑状に黒色砂質シルトと炭化物を 20% 含む。堆積土。
36. 10YR3/3　暗褐色砂質シルト　しまりに欠ける。粘性なし。炭化物を含む。堆積土。
37. 10YR3/2　黒褐色砂質シルト　ややしまっている。炭化物を含む。堆積土。
38. 10YR3/2　黒褐色シルト質砂　しまりに欠ける。炭化物と黒褐色シルトを斑状に含む。
39. 2.5Y3/3　暗オリーブ褐色シルト質砂　しまっている。炭化物を少量含む。
40. 10YR4/2　灰黄褐色砂　しまりに欠ける。炭化物を含む。堆積土。

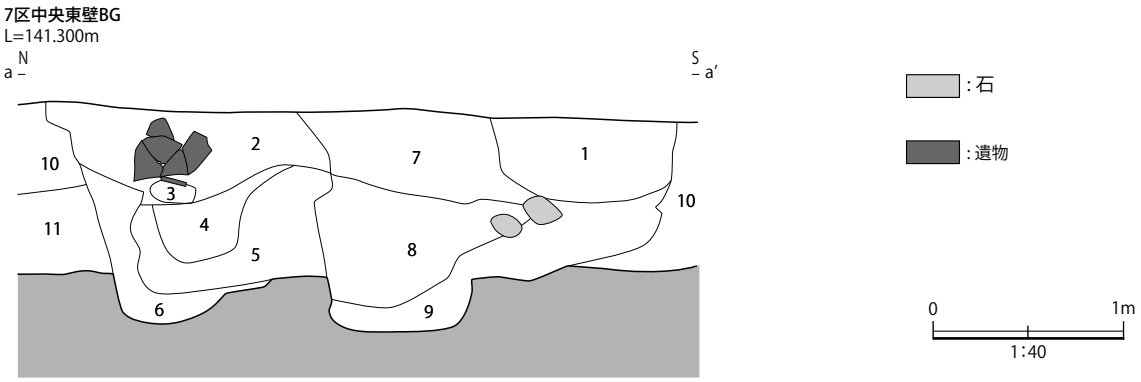
第 14 図　1 区基本層序（西壁）・5 区基本層序（西壁）



8 区中央ベルト

1. 10YR4/3　砂質シルト　現在の整地層。礫・現代物を多く含む。
2. 10YR4/2　砂質シルト　近代の盛土。炭化物と礫を多く含む。近代磁器片を含む。
3. 10YR4/2　微砂質シルト　近代の土坑。やや粘性がある。径 30 ～ 60cm 程の礫を含む。
4. 10YR3/2　シルト　非常にしまっている。炭化物を多く含む。
5. 10YR3/3　シルト　非常にしまっている。炭化物と焼土を含む。
6. 10YR4/4　砂質シルト　非常にしまっている。炭化物と焼土を含む。
7. 10YR3/2　砂質シルト　非常にしまっている。炭化物を含む。黄褐色粘性シルトブロックを 3%含む。瓦片を含む。
8. 10YR3/2　シルト　非常にしまっている。炭化物、礫を少量含む。
9. 10YR4/1　砂質シルト　非常にしまっている。炭化物と焼土片をわずかに含む。径 5 ～ 10cm 程の礫を多く含む。
10. 10YR4/2　微砂質シルト　非常にしまっている。黄褐色地山砂を斑状に 40%含む。
11. 10YR4/3　シルト　非常にしまっている。径 5cm 程の礫を多く含む。18c 後半の磁器片を含む。
12. 10YR5/2　シルト　非常にしまっている。炭化物を微量に含む。
13. 10YR4/2　シルト　非常にしまっている。炭化物をわずかに含む。黄褐色地山砂を斑状に含む。
14. 10YR3/3　微砂質シルト　非常にしまっている。炭化物をわずかに含む。黄褐色地山砂を斑状に 5%含む。近世の盛土。
15. 10YR4/2　シルト　非常にしまっているが、やや脆い。炭化物と焼土片を多く含む。黄褐色地山砂を斑状に 8%含む。
16. 2.5Y5/4　シルト質砂　非常にしまっている。炭化物をごく微量に含む。地山砂に 17 層土を斑状に 5%含む。
17. 10YR4/2　シルト　非常にしまっている。炭化物を含む。
18. 10YR4/3　シルト　しまっている。炭化物を含む。径 5 ～ 15cm 程の礫を多量に含む。
19. 10YR4/2　シルト　しまっている。炭化物を少量含む。近世の地表面。
20. 10YR3/2　微砂質シルト　しまっている。炭化物を多く含む。
21. 10YR4/2　砂質シルト　しまっている。炭化物を含む。径 3cm 程の礫を多く含む。
22. 10YR3/2　微砂質シルト　非常にしまっている。炭化物を多く含む。20 層に近い土質。
23. 10YR3/3　砂質シルト　しまっている。粗砂、径 5cm 程の礫を含む。
24. 10YR3/4　粗砂　径 10cm 程の礫を多量に含む。23 層と地山の漸移層。
25. 2.5Y4/2　砂　炭化物を含む。地山砂を斑状に 15%含む。
26. 2.5Y6/6　砂　地山。
27. 10YR4/3　砂質シルト　非常にしまっている。炭化物をわずかに含む。
28. 2.5Y5/6　砂　非常にしまっている。崩落した地山ブロック塊。
29. 10YR3/2　砂質シルト　炭化物を含む。径 10cm 程の礫を含む。土師質土器片を含む。
30. 10YR3/3　砂質シルト　炭化物を含む。地山砂小ブロックを 1%含む。柱引き抜き痕か。29 層に近い土質。
31. 10YR3/3　砂質シルト　炭化物、焼土を微量含む。地山砂ブロックを 10%含む。
32. 10YR4/4　砂　シルト分をわずかに含む。地山砂ブロックを 5%含む。
33. 10YR4/3　砂質シルト　炭化物をわずかに含む。径 3cm 程の礫を多く含む。
34. 10YR4/4　微砂質シルト　しまっている。炭化物、鉄滓、鞴羽口片を含む。径 3 ～ 5cm 程の礫を含む。
35. 2.5Y4/2　砂質シルト　炭化物、焼土を含む。地山砂を斑状に 1%含む。
36. 10YR4/3　砂質シルト　炭化物をわずかに含む。径 5cm 程の礫を含む。

0　1m
1:40

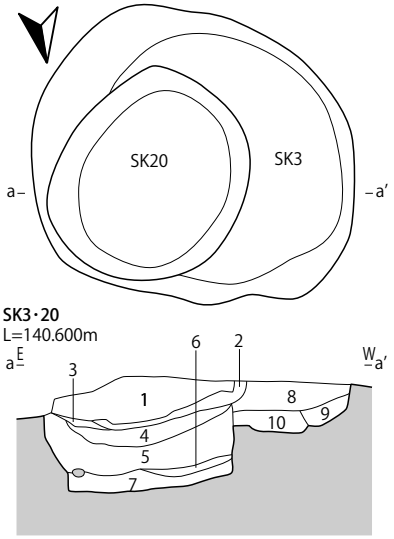


7 区中央東壁

1. 2.5Y3/1　砂質シルト　しまっている。ガラス、釘を含む。現代の廃棄坑。
2. 10YR3/1　砂質シルト　しまっている。炭化物、磁器を含む。
3. 2.5Y4/6　粘性シルト　粘性有り。ややしまっている。黄白色有機物を含む。
4. 10YR3/2　砂質シルト　しまっている。炭化物を含む。黄褐色粘性シルトを層状に含む。
5. 10YR3/2　砂質シルト　しまっている。炭化物を多く含む。径 3 ～ 15cm 程の礫を多く含む。甕を据えるための礫か。
6. 10YR2/1　砂質シルト　砂分をわずかに含む。炭化物を少量含む。黄褐色地山砂を斑状に 10%程含む。埋土。
7. 10YR3/2　砂質シルト　しまっている。炭化物を多く含む。径 3 ～ 10cm 程の礫を多く含む。焼土ブロックを 1%ほど含む。
8. 5Y3/2　砂質シルト　粘性有り。炭化物をわずかに含む。径 3 ～ 5cm 程の礫を極わずかに含む。
9. 2.5Y3/2　砂質シルト　しまっている。炭化物を含む。層南側に径 3 ～ 10cm 程の礫を含む。

第 15 図　8 区中央ベルト基本層序・7 区中央東壁基本層序

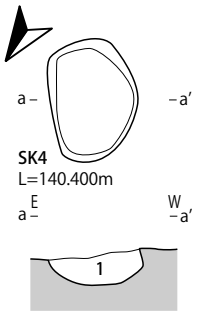
SK3・20



SK3・20

1. 10YR3/3　暗褐色砂質シルト　しまっている。炭化物、焼土を少量含む。径 3~6cm ほどの礫を少量含む。
2. 7.5YR3/4　暗褐色粘性シルト　しまっており、粘性がある。白 (紫) 色粘土がブロック状に層上面に堆積する。炭化物、焼土をわずかに含む。
3. 10YR3/4　暗褐色シルト　しまっている。炭化物、焼土をわずかに含む。
4. 10YR2/3　黒褐色シルト　しまっている。炭化物、粘土を少量含む。
5. 10YR3/3　暗褐色粘性シルト　しまっており、粘性がある。炭化物、粘土を少量含む。
6. 10YR2/2　黒褐色シルト　しまっている。炭化物を多く含む。焼土をわずかに含む。
7. 10YR3/3　暗褐色シルト　非常にしまっている。炭化物を多く含む。径 1~3cm 程の小礫をわずかに含む。
8. 10YR3/3　暗褐色シルト　しまっている。炭化物をわずかに含む。褐色土をブロック状に 10% ほど含む。
9. 10YR3/4　暗褐色シルト　しまっている。炭化物をわずかに含む。8 層土が混じる。
10. 10YR3/4　暗褐色粘性シルト　しまっており、粘性がある。炭化物をわずかに含む。黒褐色土をブロック状に 5% ほど含む。

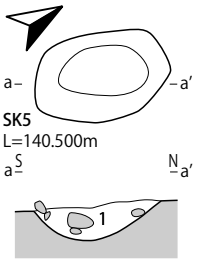
SK4



SK4

1. 10YR3/3　砂質シルト
非常にしまっている。焼土、炭化粒を少量含む。
10YR4/4 褐色シルトをまだら状に 15%ほど含む。

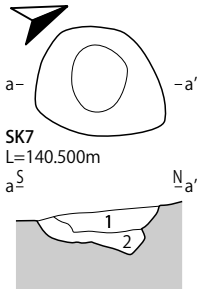
SK5



SK5

1. 10YR4/2　砂質シルト
非常にしまっている。炭化粒を微量含む。径 2 ～ 10cm 程の小礫を多く含む。

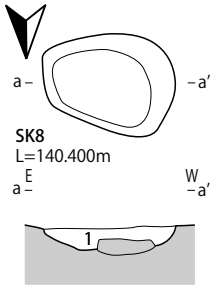
SK7



SK7

1. 10YR4/3　砂質シルト
非常にしまっている。焼土、炭化粒を多く含む。
2. 10YR3/2　砂質シルト
非常にしまっている。炭化粒を微量含む。

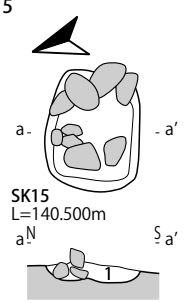
SK8



SK8

1. 10YR3/2　砂質シルト
非常にしまっている。炭化物をわずかに含む。

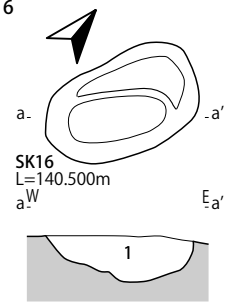
SK15



SK15

1. 2.5Y4/2　砂質シルト
しまっている。焼土、炭化物を斑状に 15%ほど含む。径 10 ～ 30cm ほどの礫を含む。

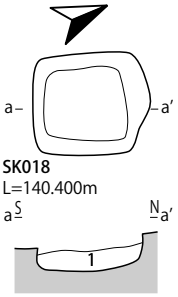
SK16



SK016

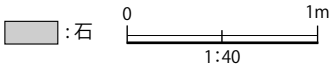
1. 10YR3/3　砂質シルト
しまっている。焼土、炭化物を少量含む。径 1 ～ 3cm ほどの小礫を含む。

SK18

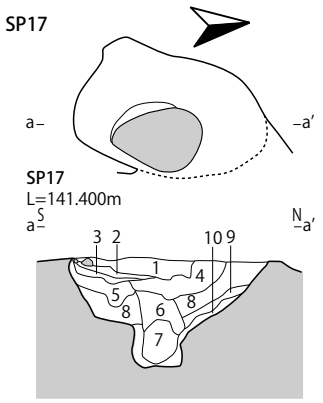


SK18

1. 10YR3/3　砂質シルト
非常にしまっている。炭化粒を少量含む。

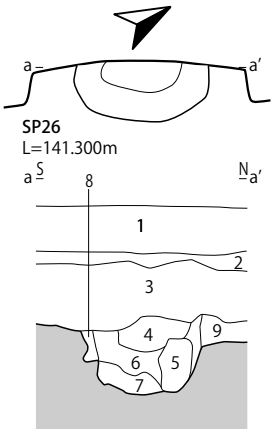


第 16 図　9 区 SK3・4・5・7・8・15・16・18・20



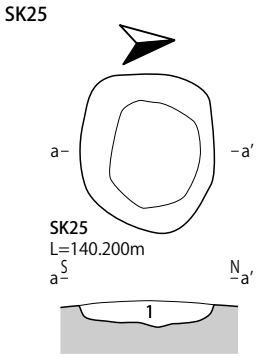
SP17

1. 10YR2/2	黒褐色砂質シルト	しまっている。炭化物を少量含む。2~5cm ほどの礫を少量含む。土器片を含む。
2. 10YR2/2	黒褐色砂質シルト	もろい。炭化物をわずかに含む。砂利を多く含む。地山砂をブロック状に 10% ほど含む。
3. 10YR3/2	黒褐色砂質シルト	しまっている。炭化物を少量含む。
4. 10YR4/3	にぶい黄褐色砂質シルト	しまっている。炭化物を含む。赤褐色瓦片を含む。
5. 2.5Y4/3	オリーブ褐色細砂	しまっている。径 1~2cm ほどの礫を少量含む。
6. 2.5Y4/2	暗灰黄色シルト	しまっている。炭化物、焼土を微量に含む。地山砂を斑状に 3% ほど含む。7 層埋土。
7. 2.5Y4/2	暗灰黄色シルト	非常にしまっている。炭化物を少量、焼土片を微量に含む。地山砂をブロック状に 10% ほど含む。
8. 10YR3/3	暗褐色シルト	非常にしまっている。地山砂を斑状に 1% ほど含む。
9. 2.5Y4/4	オリーブ褐色シルト	しまっているが、もろい。炭化物を微量に含む。
10. 10YR3/4	暗褐色砂質シルト	非常にしまっている。掘削直後の埋土。



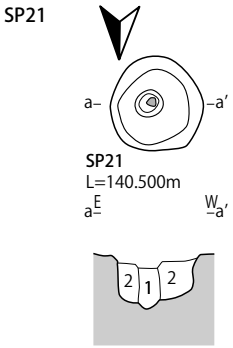
SP26

1. 10YR2/2	砂質シルト	非常にしまっている。焼土、炭化物を含む。現代の整地層。
2. 10YR3/2	砂質シルト	非常にしまっている。炭化物を多く含む。径 3 ～ 5cm ほどの礫を含む。近世～近代の整地層。
3. 7.5YR3/2	砂質シルト	ややしまりに欠ける。炭化物を少量含む。柱痕を掘り、埋めた層。
4. 2.5Y3/2	砂質シルト	しまりに欠ける。炭化物を含む。柱痕を掘り返した後の崩落土。
5. 10YR3/2	砂質シルト	ややしまりに欠ける。柱痕。
6. 2.5Y3/2	砂質シルト	しまっている。炭化物を微量に含む。柱堀り方。
7. 10YR3/2	シルト質砂	固くしまっている。地山ブロックを斑状に 10%ほど含む。
8. 10YR3/2	粘質シルト	固くしまっている。炭化物を微量に含む。
9. 2.5Y3/3	砂質シルト	しまっている。径 3cm ほどの礫をわずかに含む。



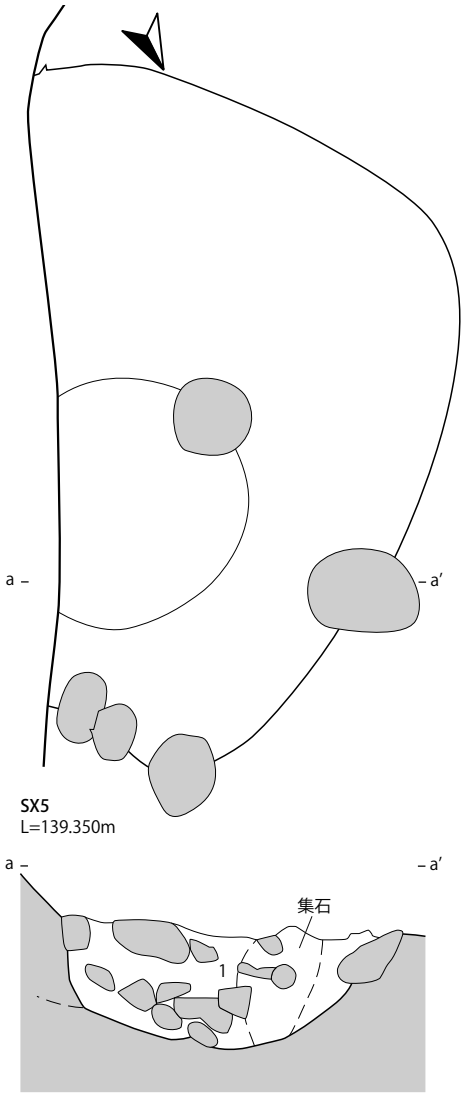
SK25

1. 10YR4/2　砂質シルト
しまっている。焼土、炭化粒をわずかに含む。径 1 ～ 3cm ほどの礫を少量含む。



SP21

1. 10YR3/3　暗褐色シルト
しまっている。炭化物をわずかに含む。柱痕。
2. 10YR3/4　暗褐色シルト
しまっている。炭化物をわずかに含む。掘り方埋土。



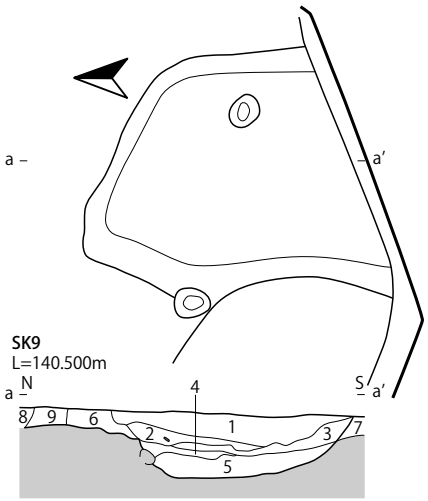
SX5

1.　10YR3/3　暗褐色砂利混じりシルト
粘性弱、しまり強い。大型の円礫に混じって角礫が点在する。径 10cm ～ 20cm程の礫を多く含む。集石部分は、玉砂利、円礫(小)が多くつまっている。

0　1m
1:40

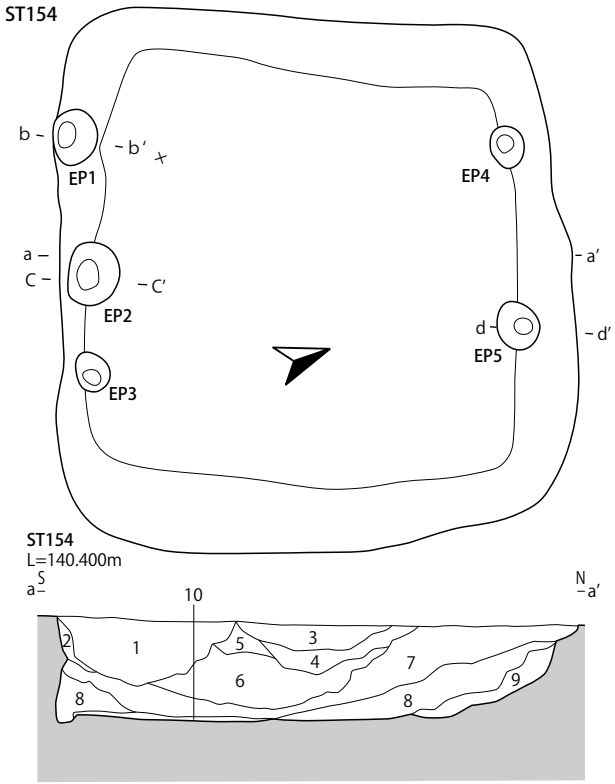
:石

第 17 図　9 区 SP17・21・26・SK25・6 区 SX 5



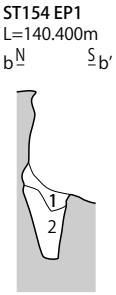
SK9

1. 10YR3/2	黒褐色砂質シルト	しまっている。径約 10 ㎝の礫を多量に含む。焼土と炭化物を含む。
2. 7.5YR3/2	黒褐色砂質シルト	しまっている。炭化物を多く含む。鉄滓が混じる。
3. 10YR4/3	鈍い黄褐色砂質シルト	しまっている。炭化粒を含む。焼土片が混じる。
4. 2.5Y4/2	暗灰黄色砂質シルト	しまっている。炭化粒を含む。5 層土をブロック状に 10% 含む。
5. 2.5Y4/2	暗灰黄色砂質シルト	しまっている。炭化粒、礫を微量含む。
6. 2.5Y3/3	暗オリーブ褐色砂質シルト	しまっている。炭化粒、焼土を微量含む。
7. 10YR3/3	暗褐色砂質シルト	しまっている。炭化物、焼土を微量含む。
8. 10YR4/2	灰黄褐色砂質シルト	ややしまっている。グライ化。下層との境に酸化鉄が付着する。炭化物をわずかに含む。
9. 10YR3/2	黒褐色微砂質シルト	しまっている。炭化物、焼土をわずかに含む。



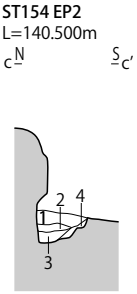
ST154

1. 10YR3/4　砂質シルト　径 3 ～ 5mm 程の小礫をわずかに含む。
2. 10YR3/4　砂質シルト　8 層土に斑状の地山砂が 1%ほど混じる。
3. 10YR3/3　砂質シルト　炭化物を含む。小礫をわずかに含む。
4. 2.5Y4/2　砂質シルト　地山砂をブロック状に 15%ほど含む。
5. 10YR3/3　砂質シルト　地山砂をブロック状に 10%程含む。
6. 10YR3/3　砂質シルト　炭化物を含む。
7. 10YR3/2　砂質シルト　炭化物をわずかに , 地山砂を極微量斑状に含む。
8. 10YR4/2　砂質シルト　炭化物を微量に含む。小礫を微量に含む。
9. 10YR3/3　砂質シルト　地山砂をブロック状に 30%程含む。壁土の崩落土。
10. 10YR3/2　砂質シルト　地山砂をブロック状に 30%程含む。床土面。



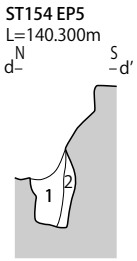
ST154 EP1

1. 10YR4/2　シルト質砂
　炭化物を微量に含む。
2. 10YR4/3　シルト質砂
　径 2 ～ 5cm 程の小礫を含む。



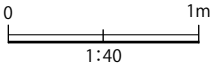
ST154 EP2

1. 10YR3/3　シルト質砂
　地山砂を 10%ほど斑状に含む。
2. 2.5Y4/4　砂
　地山崩落土。
3. 10YR3/2　砂
　黒色シルトを 30%ほど斑状に含む。
4. 2.5Y4/4　砂
　地山砂黒褐色シルトを 10%ほど斑状に含む。

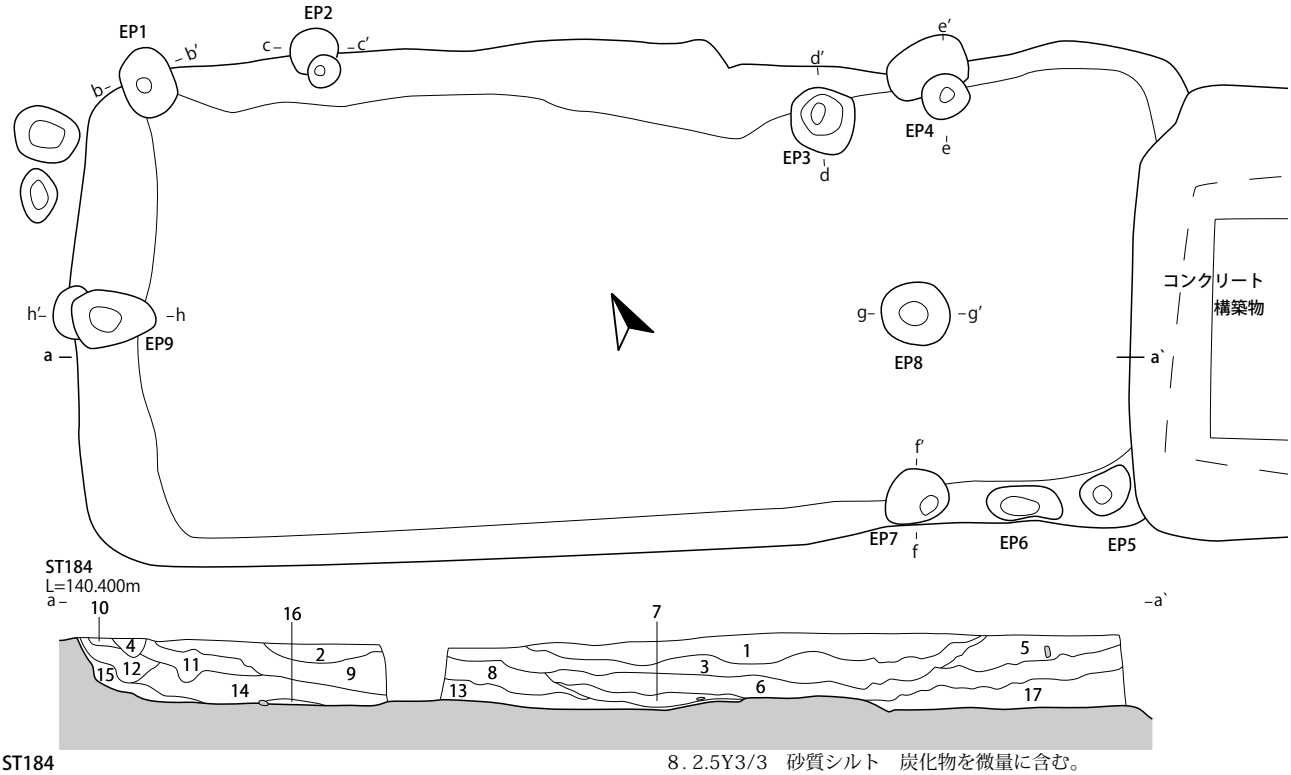


ST154 EP5

1. 10YR3/2　砂質シルト
　炭化物を含む。柱痕。
2. 5Y4/4　粗砂
　径 2 ～ 5cm 程の小礫を含む。

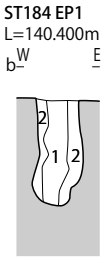


第 18 図　12 区 SK9・8 区 ST154



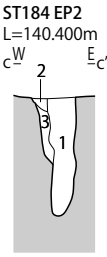
ST184

1. 10YR3/2　砂質シルト　炭化物を微量に含む。
2. 10YR3/3　砂質シルト　炭化物を微量に含む。径 3cm 程の小礫を微量に含む。地山砂ブロックを 1%ほど含む。
3. 10YR3/2　砂質シルト　炭化物を少量含む。地山砂ブロックを 5%ほど含む。
4. 2.5Y3/3　砂質シルト　しまっている。炭化物を少量含む。土坑。
5. 10YR3/2　砂質シルト　炭化物を微量に含む。径 3cm 程の小礫を微量に含む。地山砂ブロックを 5%ほど含む。土師器片を含む。
6. 10YR4/1　砂質シルト　炭化物を微量に含む。地山砂を斑状に 3%ほど含む。
7. 10YR3/2　砂質シルト　炭化物を微量に含む。地山砂を斑状に 10%ほど含む。
8. 2.5Y3/3　砂質シルト　炭化物を微量に含む。
9. 2.5Y3/3　砂質シルト　炭化物を微量に含む。地山砂を斑状にわずかに含む。
10. 7.5YR3/2　砂質シルト　地山砂を斑状に 10%ほど含む。
11. 10YR4/2　砂質シルト　地山砂を斑状に 10%ほど含む。
12. 2.5Y3/2　シルト質砂　床土。
13. 10YR3/2　シルト質砂　地山砂を斑状に 1%ほど含む。径 3cm 程の小礫をわずかに含む。
14. 2.5Y4/3　砂　炭化物を少量含む。
15. 10YR3/2　シルト質砂　炭化物をわずかに含む。径 3cm 程の小礫をわずかに含む。
16. 10YR4/3　シルト質砂　炭化物をわずかに含む。壁。
17. 10YR4/2　砂　炭化物を含む。SD163 の堆積層。



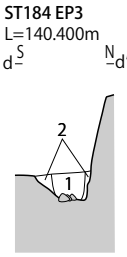
ST184 EP1

1. 10YR3/3　シルト質砂
炭化物をわずかに含む。柱痕。
2. 10YR4/4　シルト質砂
炭化物を微量に含む。



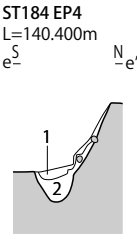
ST184 EP2

1. 10YR3/2　シルト質砂
炭化物をわずかに含む。柱痕。
2. 10YR3/1　シルト質砂
シルト分を含む。
3. 2.5Y4/6　砂
地山砂に炭化物を微量に含む。



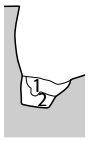
ST184 EP3

1. 2.5Y4/4　砂
炭化物を微量に含む。柱痕。
2. 10YR4/2　砂
上層土を斑状に 5%ほど含む。



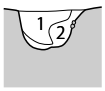
ST184 EP4

1. 10YR3/3　砂質シルト
炭化物をわずかに含む。
2. 10YR3/2　砂質シルト
1 層土を斑状に含む。



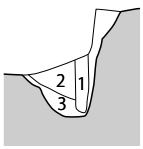
ST184 EP7

1. 10YR3/2　砂質シルト
炭化物をわずかに含む。
2. 1.5Y4/2　砂質シルト
しまっている。



ST184 EP8

1. 7.5YR3/3　シルト質砂
柱抜き取り痕。
2. 10Y4/2　シルト質砂
炭化物を含む。小礫をわずかに含む。

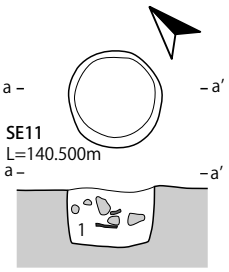


ST184 EP9

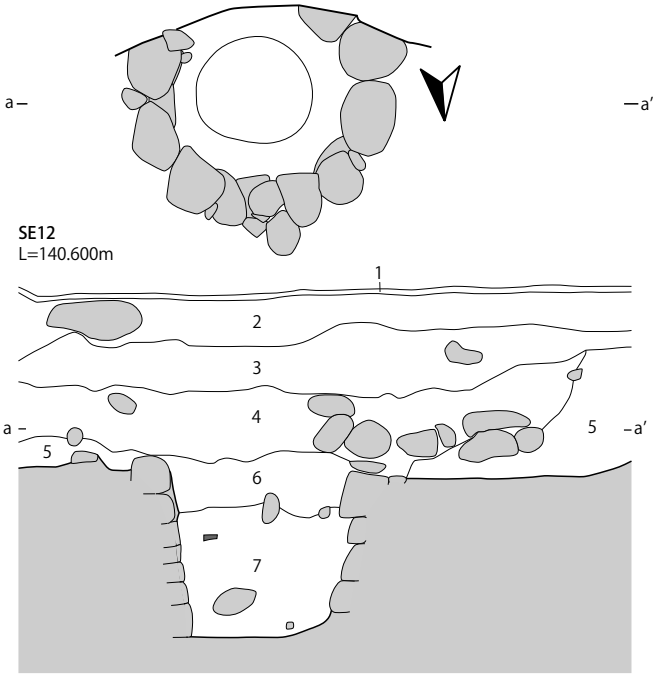
1. 色　土質　柱痕。
2. 色　土質　崩落土。
3. 色　土質　掘り方。

0　1m
1:40

第 19 図　8 区 ST184



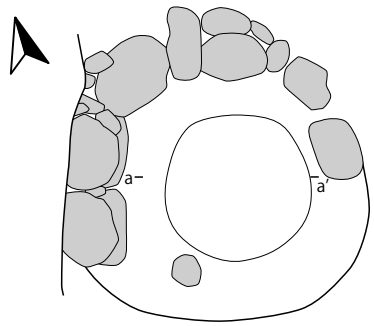
SE11
1.　10YR4/1　褐灰色シルト　ややしまっている。粘性無し。
　　ガラス、陶磁器、木片を含む。

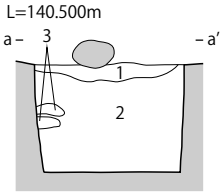


SE12

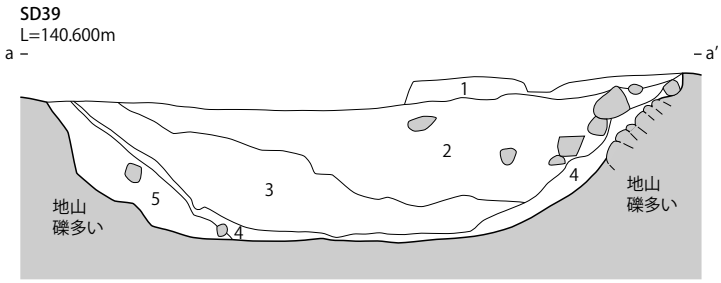
1.	7.5Y3/2　オリーブ黒色	アスファルト
2.	2.5YR3/4　暗赤褐色礫	砂を含む。1 層造成時に敷設。被熱。しまっている。
3.	7.5YR3/3　暗褐色砂質シルト	炭化粒を含む。径 1cm ～ 10cm 程の礫を含む。陶磁器、瓦片を含む。整地層。ややしまっている。
4.	2.5Y4/2　暗灰黄色砂質シルト	しまりに欠ける。径 1cm ～ 20cm 程の礫を含む。埋土。
5.	2.5Y3/2　黒褐色シルト質砂	しまっている。炭化粒を少量含む。径 5cm ～ 20cm 程の礫を含む。整地層。これを掘り込んで SE012 は造成。
6.	2.5Y4/2　暗灰黄色シルト質砂	しまりに欠ける。径 2cm ～ 15cm 程の礫を多く含む。埋土。
7.	5Y3/2　オリーブ黒色粘土	ややしまっている。径 10cm 程の礫を少量含む。瓦を少量含む。埋土。

SE13





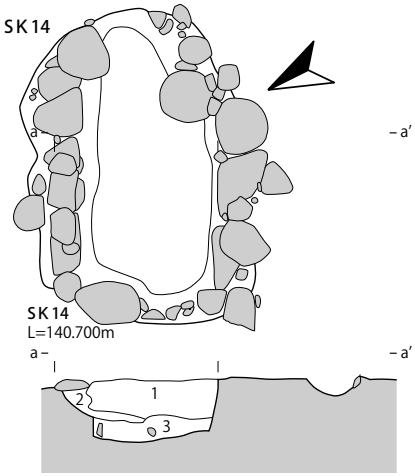
SE13
1.　2.5Y4/1　黄灰色砂質シルト
　　炭化物、木材片を含む。しまりあり。
2.　2.5Y3/1　黒褐色粘土
　　粘性あり。炭化物を微量に含む。
　　桶底に砂が薄くしいてある。
3.　7.5Y4/1　黄灰色砂
　　しまりあり。



SD39

1.	2.5Y3/3　暗オリーブ褐色シルト質砂	非常にしまっている。黒褐色土や灰褐色土ブロックを少量含む。
2.	10YR4/2　灰黄褐色砂質シルト	ややしまっている。粘性なし。炭化粒を少量含む。径 2cm ～ 5cm 程の礫を含む。灰褐色土ブロックを少量含む。
3.	7.5YR3/2　黒褐色シルト質砂	ややしまっている。粘性なし。黒褐色土、灰褐色土を大きく斑状に含む。
4.	10YR4/6　褐色砂	しまりに欠ける。混じりなし。
5.	2.5Y4/3　オリーブ褐色シルト質砂	ややしまっている。炭化粒を微量に含む。

1 ～ 3 は、同時期に埋められたもの。4・5 は、掘削後にのり面を整形したものか。



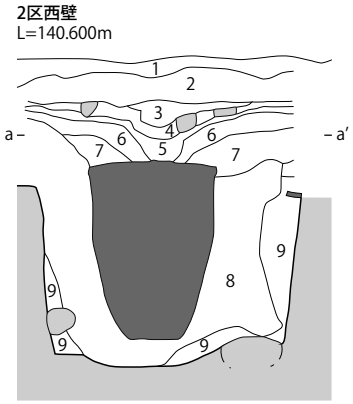
SK14

1.	10YR4/1　褐灰色シルト	しまっている。炭化物を少量含む。瓦、漆器を含む。
2.	2.5Y5/2　暗灰黄色粗砂	しまっている。径 1cm ～ 3cm 程の小礫を多く含む。
3.	2.5Y4/3　オリーブ褐色粗砂	しまっている。径 3cm ～ 5cm 程の小礫を少量含む。

：遺物　：石

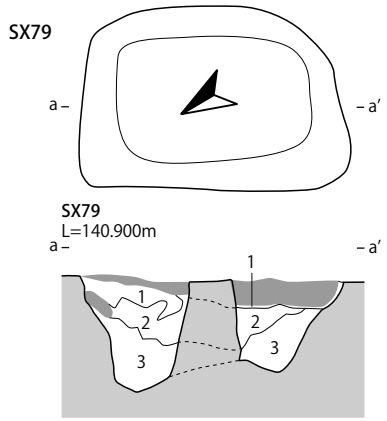
0　1m
1:40

第 20 図　5 区 SE11・12・13・SK14・SD39



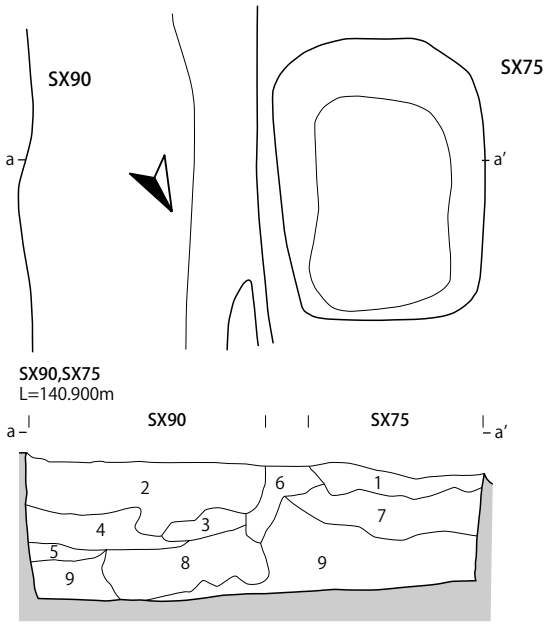
2 区西壁

1．	5YR4/4	にぶい赤褐色砂質シルト	重機に踏まれてややしまっている。花壇土。
2．	10YR5/3	にぶい黄褐色砂質シルト	しまっている。近年の表土。プラスチック、陶磁器を含む。砕石を 10% 含む。
3．	10YR3/1	黒褐色砂質シルト	しまっている。径 2cm ～ 5cm 程の小礫を多く含む。炭化物を多く含む。
4．	10YR6/6	明黄褐色砂質粘土	粘性あり。しまっている。炭化物を含む。レンガがところどころ埋め込まれている。旧床面。
5．	N1.5	黒色シルト	しまりに欠ける。もろい。炭化物を多く含む。
6．	10YR3/2	黒褐色砂質シルト	しまっている。径 2cm ～ 5cm 程の小礫を含む。炭化物を含む。
7．	10YR1.7/1	黒色シルト	ややしまっているがもろい。多量の炭化物を含む。亜炭片を含む。
8．	10YR3/2	黒褐色シルト	しまっている。炭化物を多く含む。レンガ片を含む。径 5cm 程の礫をわずかに含む。甕の埋土。
9．	10YR3/3	暗褐色シルト	しまっている。炭化物を含む。下に径 10cm ～ 20cm 程の礫を含む。
10．	10YR2/2	黒褐色微砂質シルト	粘性あり。しまっている。炭化物、ガラス片を含む。
11．	10YR5/4	にぶい黄褐色砂	しまっている。もろい。径 2cm ～ 10cm 程の礫を含む。甕片、印判含む。



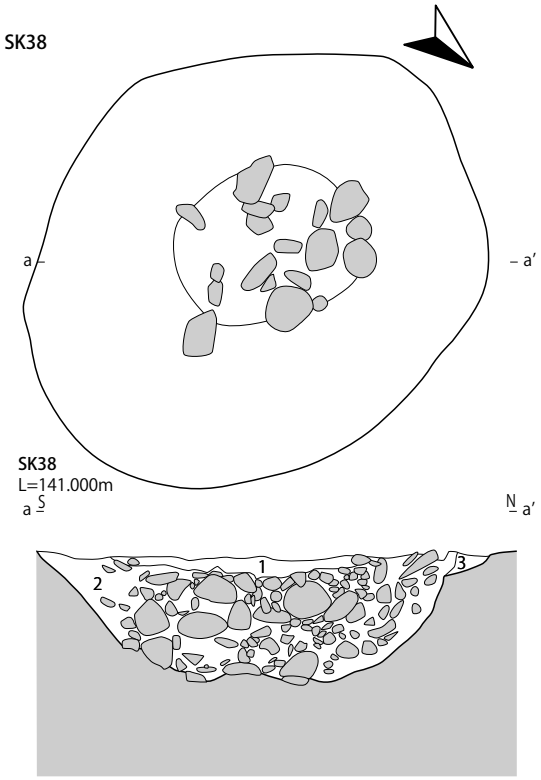
SX79

1.	5YR3/2	暗赤褐色シルト	しまりにやや欠けもろい。炭化物を多く含む。被熱。焼石を含む。
2.	7.5YR3/4	暗褐色粗砂質シルト	しまりにやや欠けてもろい。一部被熱。炭化物を少量含む。
3.	10YR4/2	灰黄褐色シルト	しまっている。炭化物を少量含む。



SX90,SX75

1.	7.5YR3/1	黒褐色シルト質砂	しまっている。径 5cm ～ 10cm 程の礫を含み、炭化物を含む。近代以降か。
2.	10YR4/2	灰黄褐色シルト質細砂	しまっている。もろい。シルト分が少ない。ブロック状に少量の地山土を含む。
3.	10YR3/2	黒褐色シルト質細砂	しまっている。もろい。シルト分が少ない。2 とほぼ同じ。2 層より多く地山を斑状に 20% 含む。
4.	10YR3/2	黒褐色シルト質細砂	しまっている。もろい。シルト分が少ない。2.3 とほぼ同じ。2 層より多くブロック状の地山を 25% 含む。
5.	10YR3/3	暗褐色シルト質砂	ややしまっているがもろい。ほぼ均質。
6.	7.5YR3/1	黒褐色シルト質砂	しまっている。7 層土の崩落土。
7.	10YR3/2	黒褐色砂	しまっている。もろい。シルト分をわずかに含む。地山。江戸時代の地表土。
8.	10YR3/2	黒褐色シルト質砂	7.9 層を斑状に 20% 含む。
9.	2.5Y4/4	オリーブ褐色砂	しまっているがもろい地山。

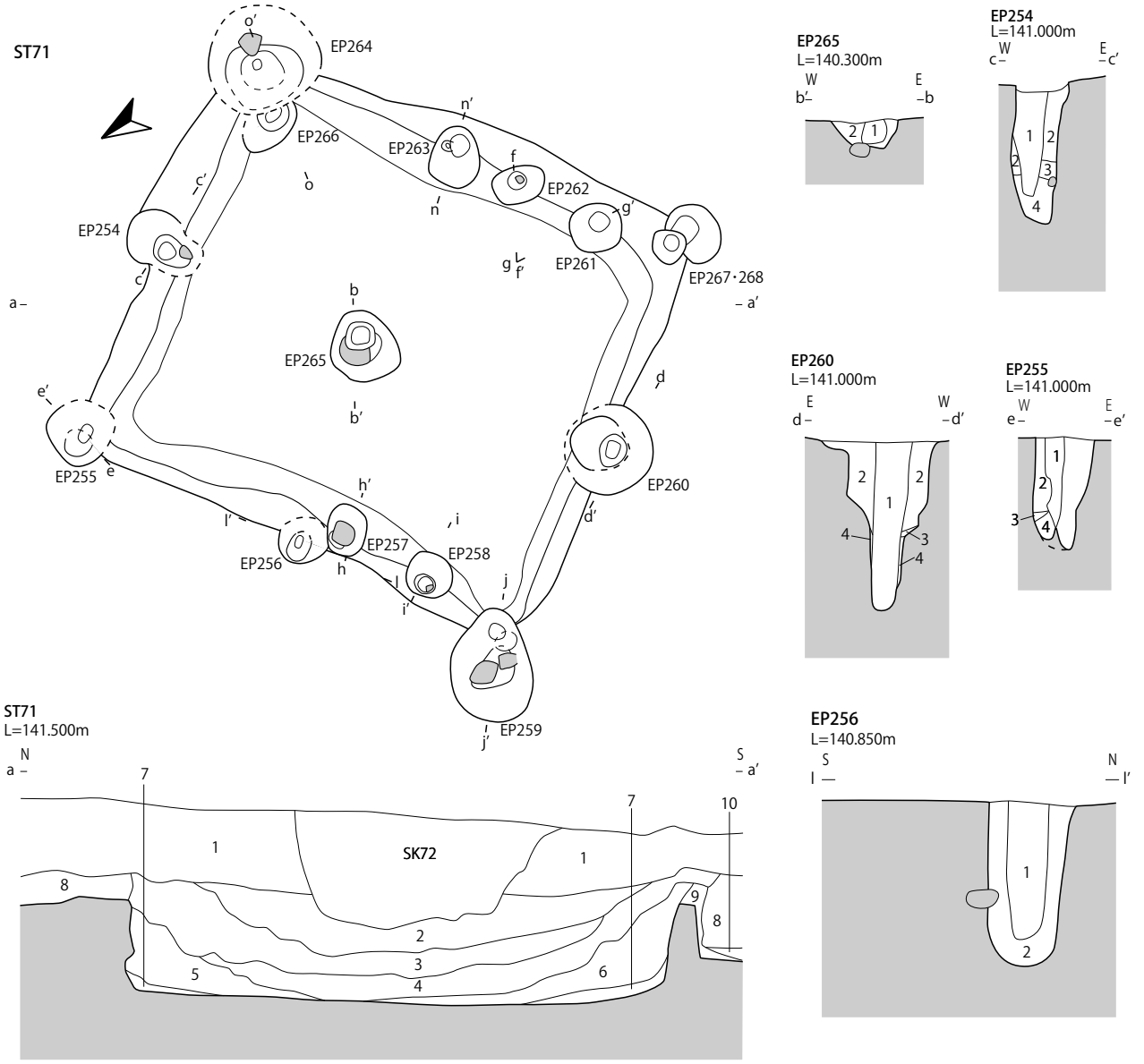


SK38

1.	10YR3/2	シルト	しまっている。水を含むと脆い。炭化物を含む。径 1 ～ 5cm 程の小礫をわずかに含む。
2.	7.5YR3/1	シルト	ややしまっているが、脆い。炭化物を少量含む。径 5 ～ 20cm 程の礫を大量に含む。
3.	7.5YR3/2	砂質シルト	非常にしまっている。地山を 10％含む。崩落土。

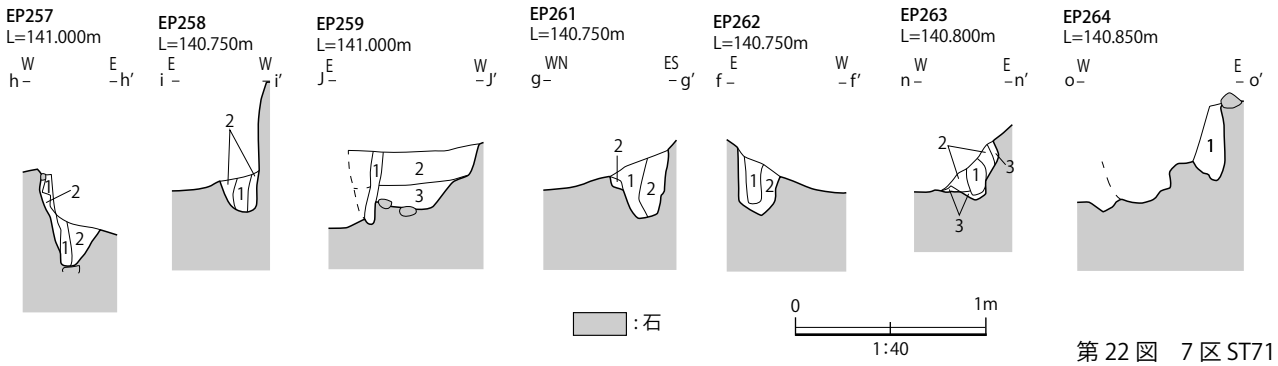
0　1m
1:40
: 遺物　: 石

第 21 図　2 区西壁・ 1 区 SX75・79・90・7 区 SK38



ST071

1. 10YR3/1 黒褐色シルト　しまっている。炭化物をわずかに含む。2、3 層との境に酸化物が付着する。
2. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　しまっている。炭化物をわずかに含む。黄褐色地山砂をブロック状に 10%ほど含む。
3. 10YR3/2 黒褐色シルト　しまっている。炭化物を少量含む。
4. 10YR3/2 黒褐色シルト　3 層よりしまりがない。6 層土をブロック状に含む。
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　ややしまっている。炭化物をわずかに含む。
6. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト　もろい。炭化物を少量含む。7 層土と黄褐色砂質シルト地山をブロック状に 5%ほど含む。
7. 10YR2/1 黒色シルト　しまっている。床土。地山を斑状に 5%ほど含む。炭化物、焼土を多く含む。
8. 10YR3/2 黒褐色シルト　しまっている。炭化物を含む。陶磁器を含む。近世以降の盛土。
9. 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質シルト　しまっている。地山。
10. 10YR3/2 黒褐色シルト　しまっている。地山。



第 22 図　7 区 ST71

EP265
1. 10YR3/2　黒褐色砂　もろい。2 層土を斑状に 10%ほど含む。柱痕。
2. 10YR3/1　黒褐色シルト質砂　もろい。黄褐色地山砂をブロック状に 15%ほど含む。掘り方。

EP254
1. 10YR3/2　黒褐色シルト質砂　もろい。炭化物を微量に含む。黄褐色地山砂をブロック状に 3%ほど含む。柱痕。
2. 10YR3/2　黒褐色シルト質砂　もろい。炭化物を微量に含む。黄褐色地山砂をブロック状に 1%ほど含む。掘り方。
3. 2.5Y5/6　黄褐色砂　もろい。黄褐色地山ブロック層。崩落土。
4. 10YR3/3　暗褐色シルト質砂　もろい。炭化物をわずかに含む。黄褐色地山砂をブロック状に 40%ほど含む。

EP255
1. 10YR2/2　黒褐色シルト質砂　しまりにやや欠ける。炭化物を微量に含む。柱痕。
2. 10YR3/2　黒褐色シルト質砂　もろい。炭化物を微量に含む。黄褐色地山砂をブロック状に 1%ほど含む。
3. 10YR3/1　黒褐色砂質シルト　もろい。崩落土。
4. 2.5YR4/3　オリーブ褐色砂　3 層土を斑状に 20%ほど含む。掘り方。EP255

EP256
1. 10YR3/3　暗褐色シルト質砂　炭化物を含む。黄褐色地山を斑状に 10%ほど含む。
2. 10YR3/2　黒褐色シルト質砂　炭化物を微量に含む。黄褐色地山をブロック状に 60%ほど含む。

EP257
1. 10YR3/3　暗褐色シルト質砂　もろい。炭化物を微量に含む。柱痕。
2. 10YR3/2　黒褐色シルト質砂　もろい。炭化物を微量に含む。黄褐色地山砂をブロック状に 60%ほど含む。掘り方。

EP258
1. 10YR3/2　黒褐色砂質シルト　しまりに欠ける。径 1~3cm ほどの小礫を少量含む。黄褐色地山砂を斑状に 5%ほど含む。柱痕。
2.　掘り方と地山の区別できず。

EP259
1. 10YR4/2　灰黄褐色シルト質砂　もろい。径 2 ～ 5cm ほどの小礫を微量に含む。黄褐色地山砂を斑状に 15%ほど含む。
2. 10YR3/3　暗褐色シルト質砂　もろい。径 2 ～ 5cm ほどの小礫を微量に含む。黄褐色地山砂を斑状に 5%ほど含む。
3.　地山と掘り方の区別つかず。

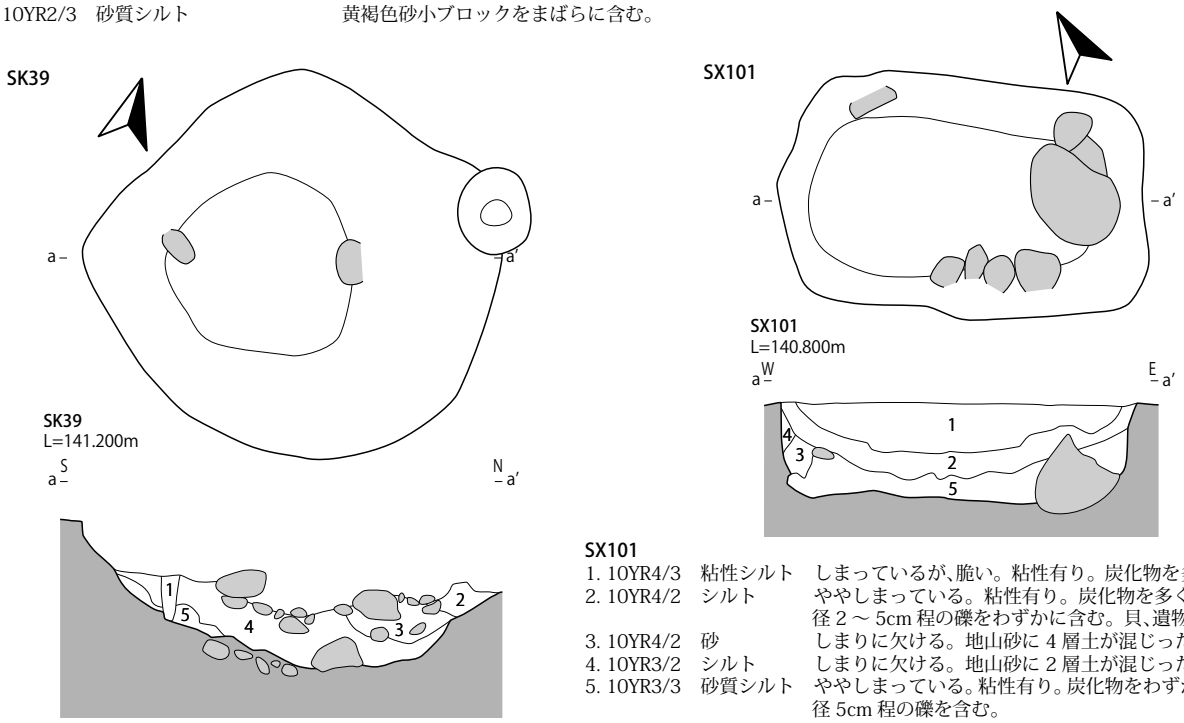
EP260
1. 2.5Y3/3　暗オリーブ褐色シルト質砂　炭化物を微量に含む。黄褐色地山砂を斑状に 30%ほど含む。柱痕。
2. 10YR3/3　暗褐色砂質シルト　しまっている。炭化物を微量に含む。
3. 2.5Y5/4　黄褐色砂　もろい。黄褐色地山ブロック層。
4. 2.5YR4/2　灰オリーブ色シルト質砂　もろい。黄褐色地山砂を斑状に 50%ほど含む。

EP261
1. 10YR2/2　黒褐色シルト質砂　しまりに欠ける。もろい。暗褐色地山砂をブロック状に 20%ほど含む。柱痕。
2. 10YR5/6　黄褐色砂　もろい。黄褐色地山に暗褐色土をブロック状に 5%ほど含む。掘り方。

EP262
1. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト質砂　しまりに欠ける。柱痕。径 3cm ほどの礫を含む。
2. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト質砂　しまりに欠ける。黄褐色地山砂に暗褐色土を斑状に 40%ほど含む。

EP263
1. 10YR3/1　黒褐色砂質シルト　もろい。柱痕。崩落土。黄褐色地山砂を斑状に 10%ほど含む。
2. 10YR3/2　黒褐色砂質シルト　もろい。掘り方。黄褐色地山砂を斑状に 25%ほど含む。
3. 10YR3/2　黒褐色砂質シルト　床土。黄褐色地山砂を斑状に 25% ほど含む。

EP264
1. 10YR2/3　砂質シルト　黄褐色砂小ブロックをまばらに含む。

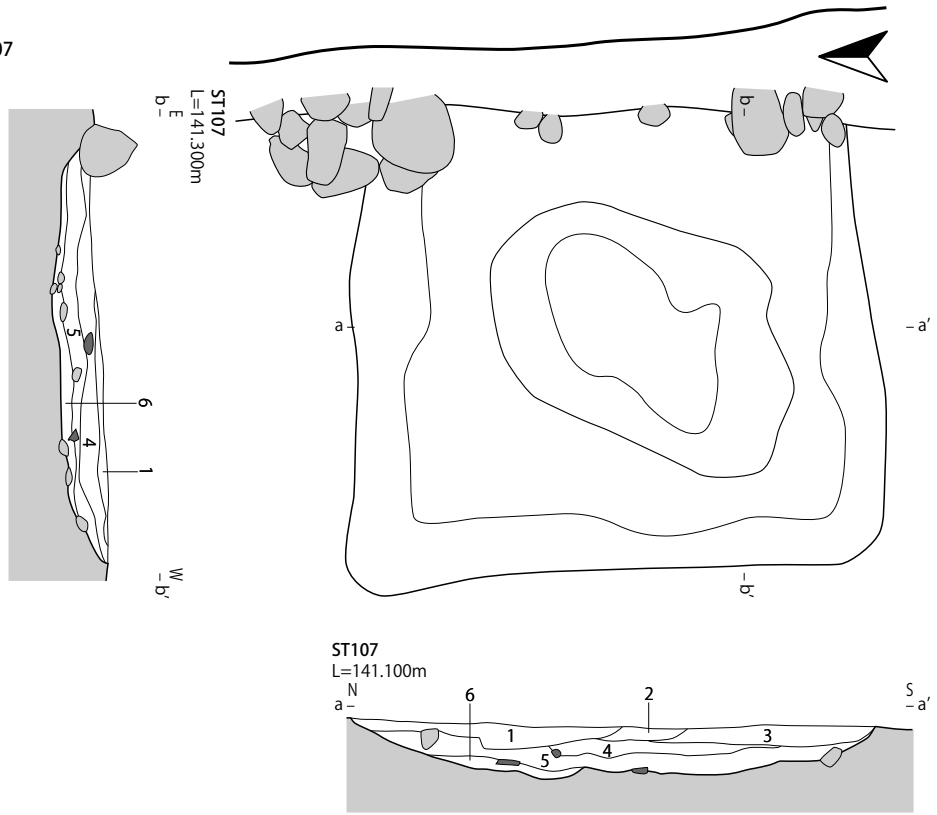


SX101
1. 10YR4/3　粘性シルト　しまっているが、脆い。粘性有り。炭化物を多く含む。
2. 10YR4/2　シルト　ややしまっている。粘性有り。炭化物を多く含む。径 2 ～ 5cm 程の礫をわずかに含む。貝、遺物を含む。
3. 10YR4/2　砂　しまりに欠ける。地山砂に 4 層土が混じった崩落土。
4. 10YR3/2　シルト　しまりに欠ける。地山砂に 2 層土が混じった崩落土。
5. 10YR3/3　砂質シルト　ややしまっている。粘性有り。炭化物をわずかに含む。径 5cm 程の礫を含む。

SK39
1. 10YR2/2　シルト質砂　しまっている。杭痕。
2. 10YR3/2　砂質シルト　しまっている。炭化物を少量含む。礫をほとんど含まない。埋土。
3. 10YR3/3　シルト質砂　しまっている。炭化物を少量含む。径 5 ～ 20cm 程の礫を含む。地山ブロックを 3%含む。埋土。
4. 7.5YR3/2　シルト　しまっている。炭化物をわずかに含む。礫を多く含む。地山ブロックを微量に含む。埋土。
5. 10YR3/2　シルト　しまっている。地山ブロックを 40%含む。埋土。掘削時の崩落土。

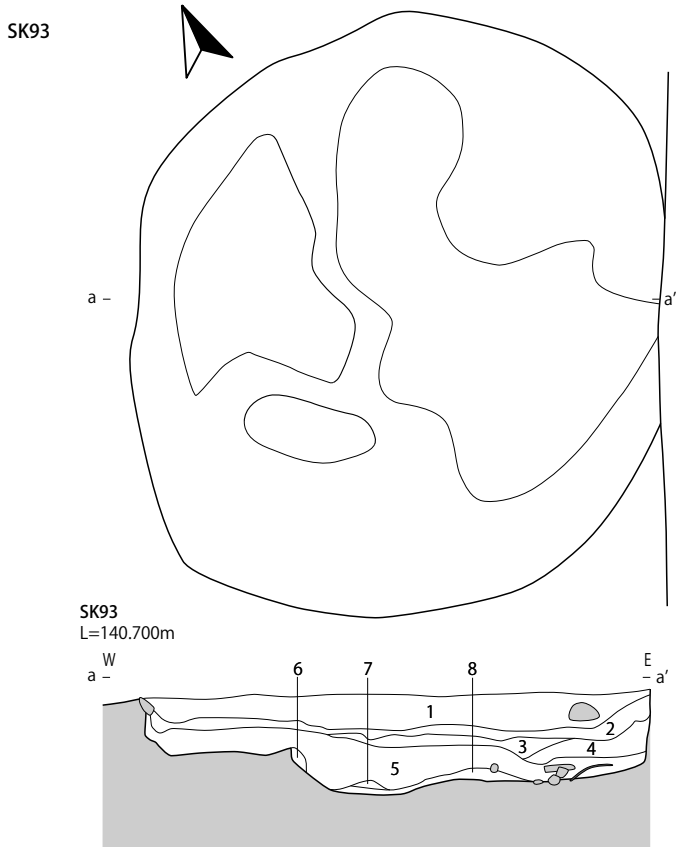
:石
0　1m
1:40

第 23 図　7 区 ST71・SK39・SX101



ST107

1. 10YR3/2	シルト	しまっているが、脆い。炭化物を多く含む。
2. 10YR5/4	粗砂	脆い。
3. 10YR3/2	シルト	しまっている。炭化物を多く含む。1 層と同一。
4. 2.5Y4/3	砂質シルト	炭化物を少量含む。径 1 ～ 3cm 程の礫を含む。
5. 10YR3/2	砂質シルト	しまっている。炭化物を少量含む。径 3 ～ 5cm 程の礫を大量に含む。陶磁器を多く含む。
6. 10YR3/1	シルト	やや粘性がある。炭化物を含む。ST107 張り床。遺物無し。



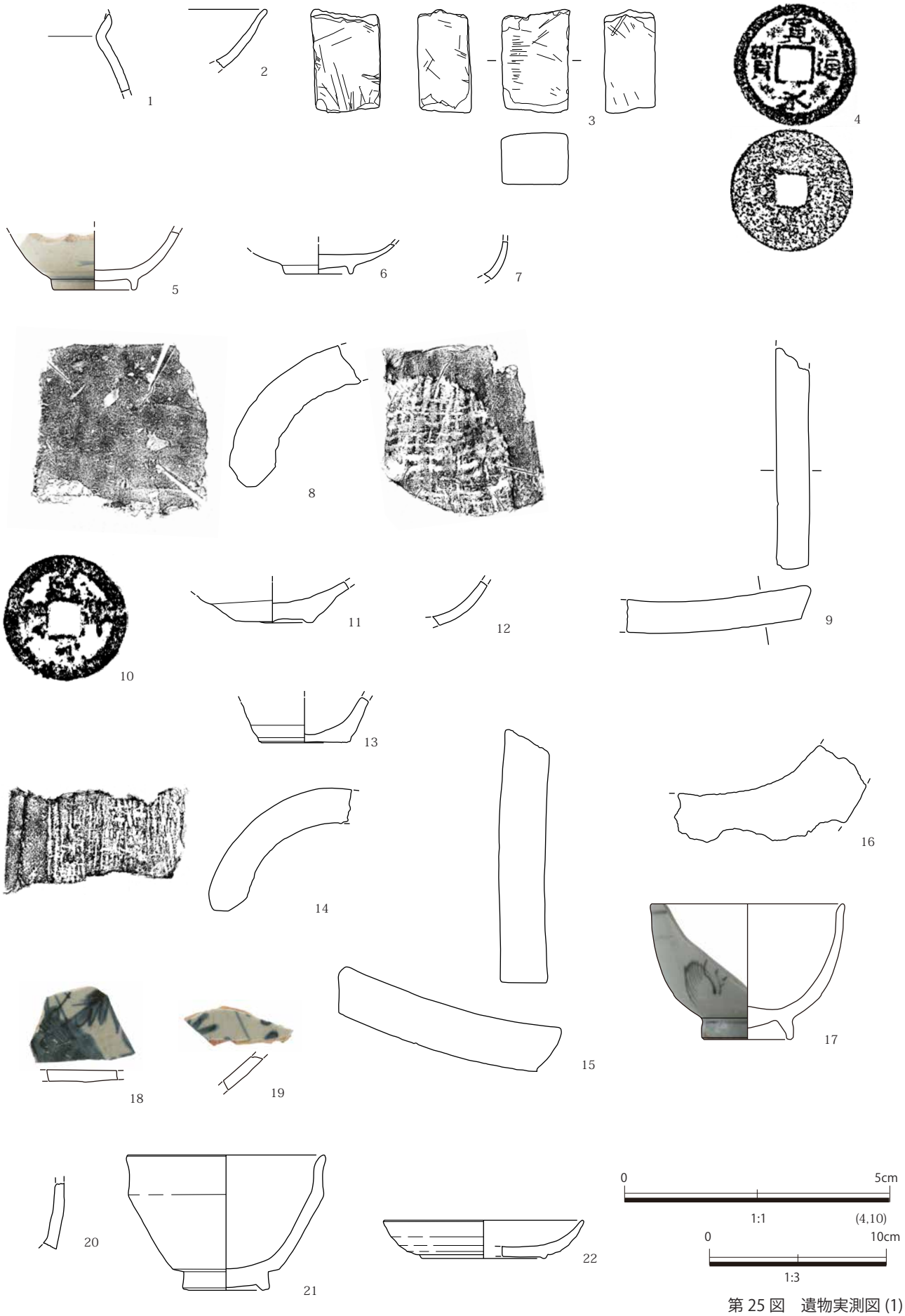
SK93

1. 10YR3/2	砂質シルト	しまっている。きめ細かい。径 3 ～ 5cm 程の礫を含む。ラミナ有り。流水による堆積層。
2. 10YR2/2	砂質シルト	径 1 ～ 3cm ほどの小礫をわずかに含む。ラミナ有り。流水による堆積層。炭化物を含む。
3. 10YR2/2	砂質シルト	径 1 ～ 3cm ほどの小礫をわずかに含む。ラミナ有り。流水による堆積層。炭化物をわずかに含む。
4. 10YR3/3	砂質シルト	しまりに欠ける。地山崩落土。
5. 10YR2/2	シルト	ややしまっている。炭化物を少量含む。径 1 ～ 5cm ほどの小礫を含む。埋土。
6. 2.5Y5/4	砂	地山崩落土。
7. 2.5Y5/4	砂	地山崩落土。
8. 2.5Y5/4	砂	5 層土を斑状に含む。地山崩落土。

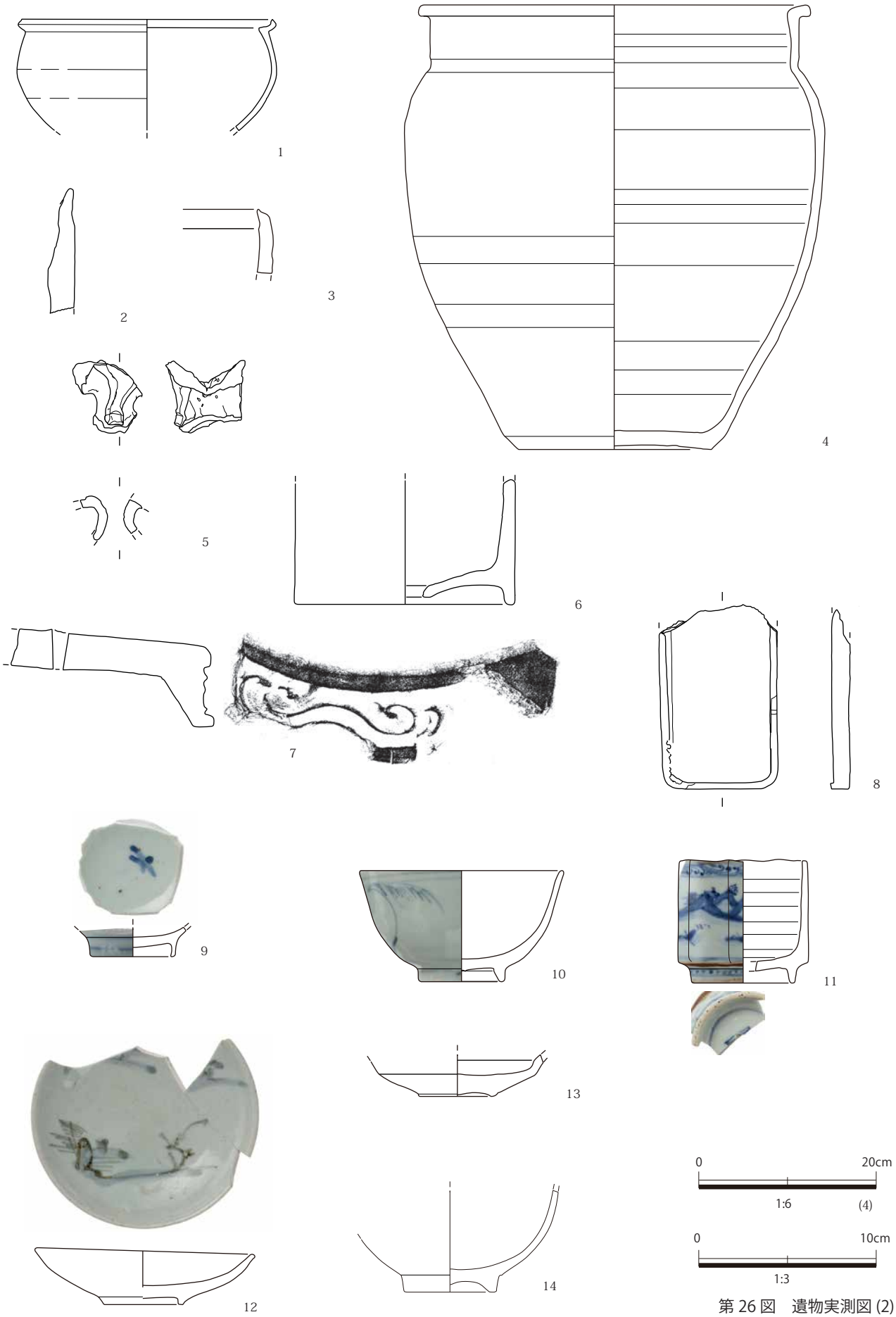
0　1m
1:40

: 遺物　: 石

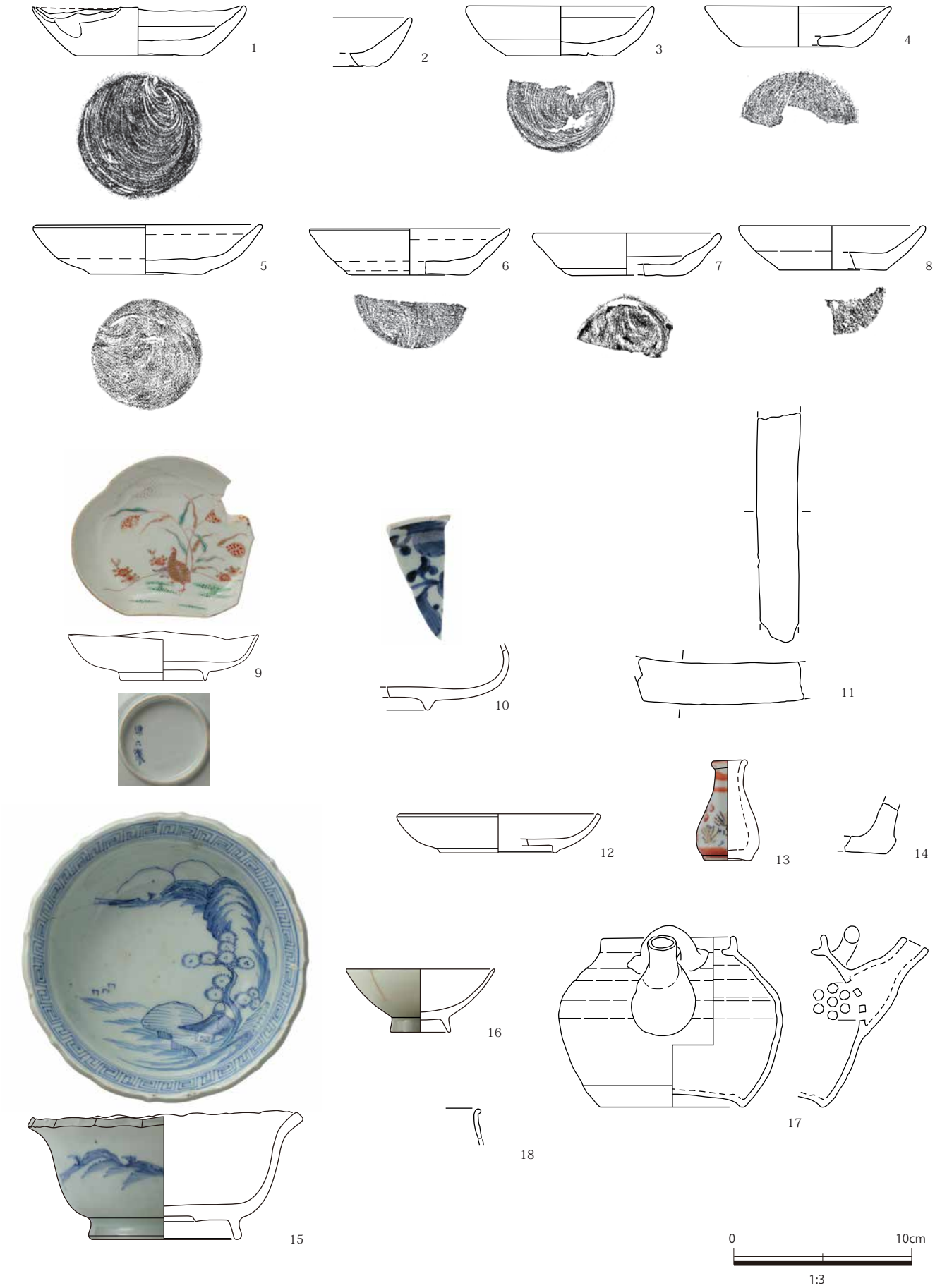
第 24 図　7 区 ST107・SK93


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
0
5cm
1:1
(4,10)
0
10cm
1:3

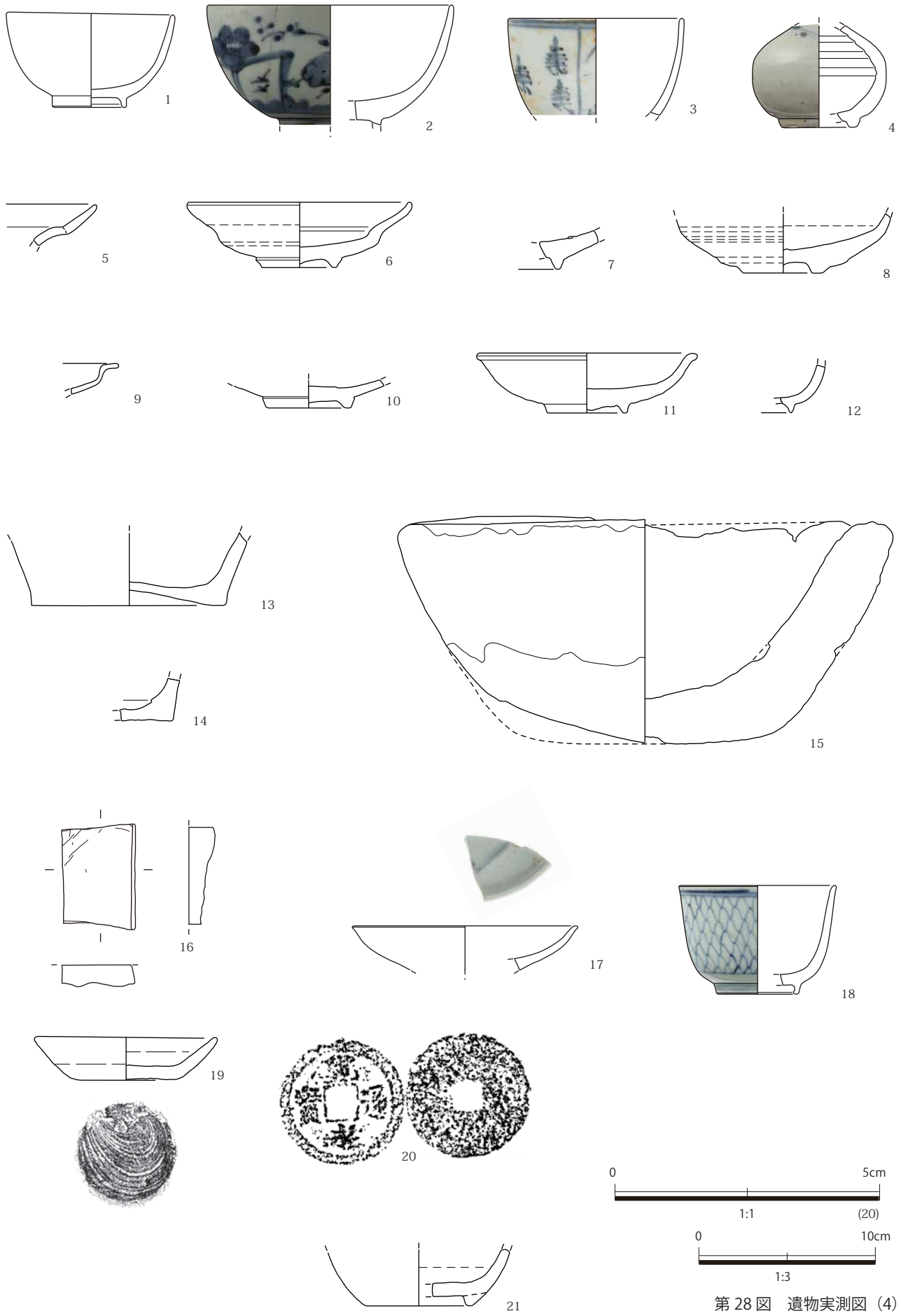
第 25 図　遺物実測図 (1)



第 26 図　遺物実測図 (2)

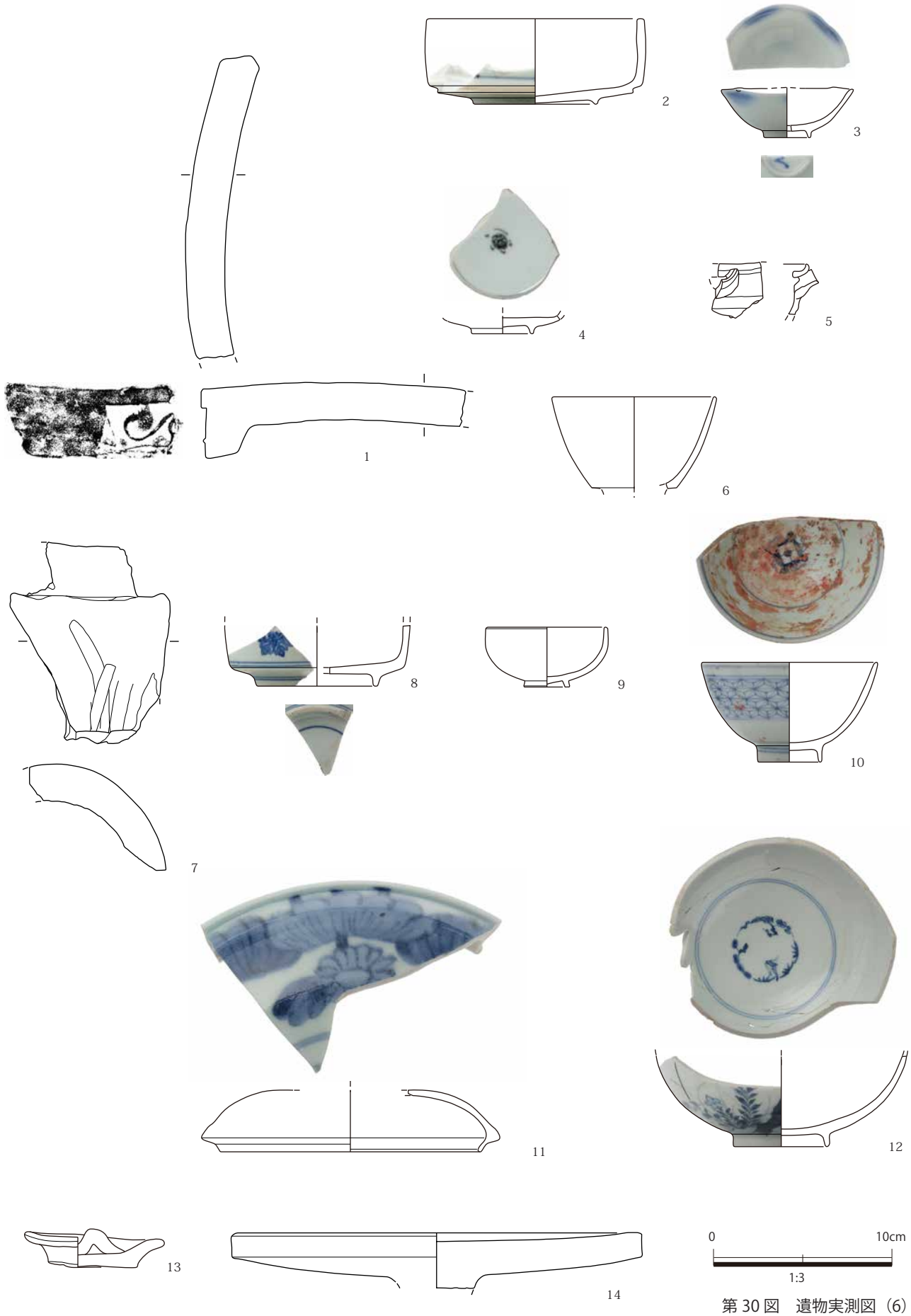


第 27 図　遺物実測図（3）

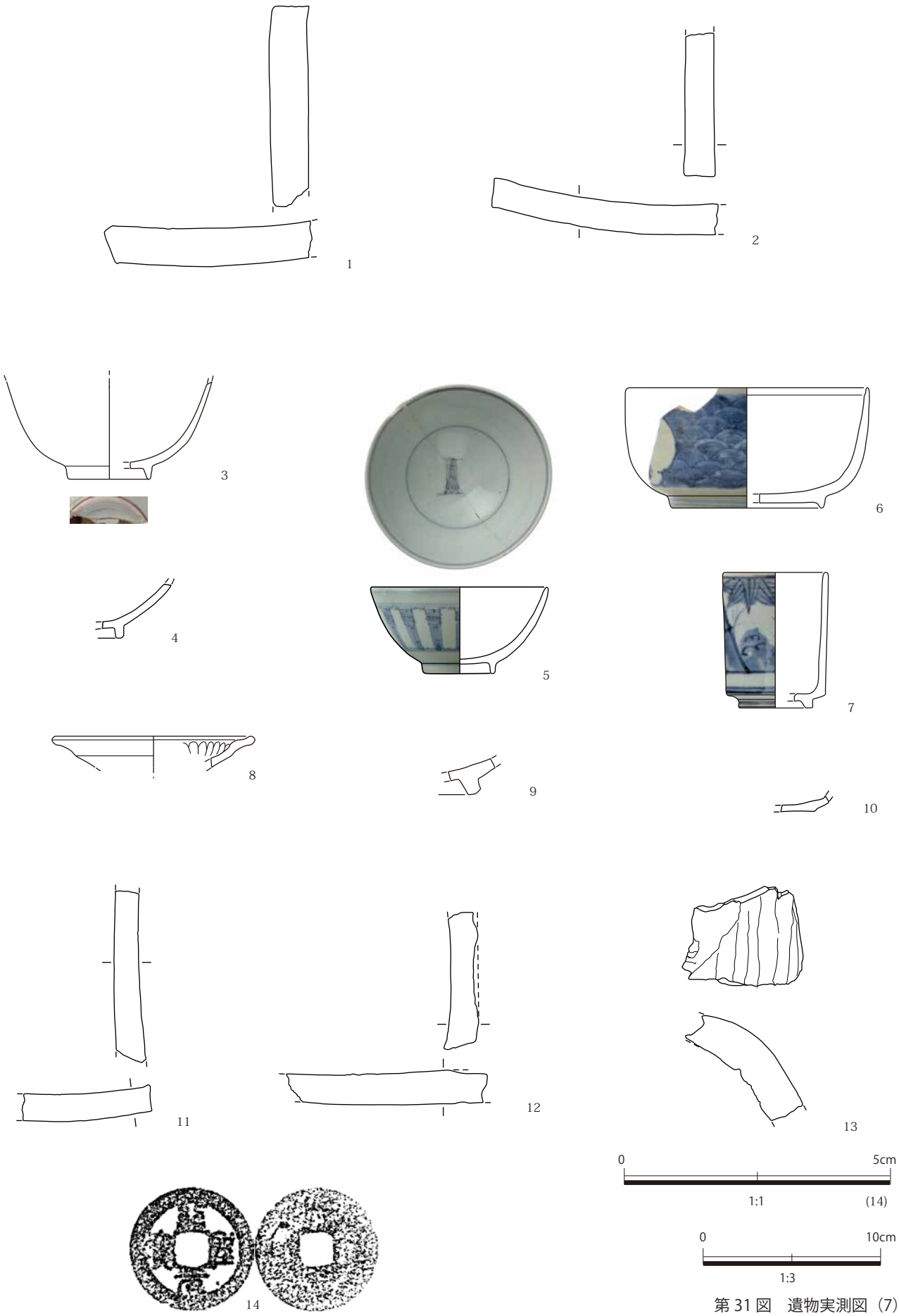


第 28 図　遺物実測図（4）

第 29 図　遺物実測図（5）

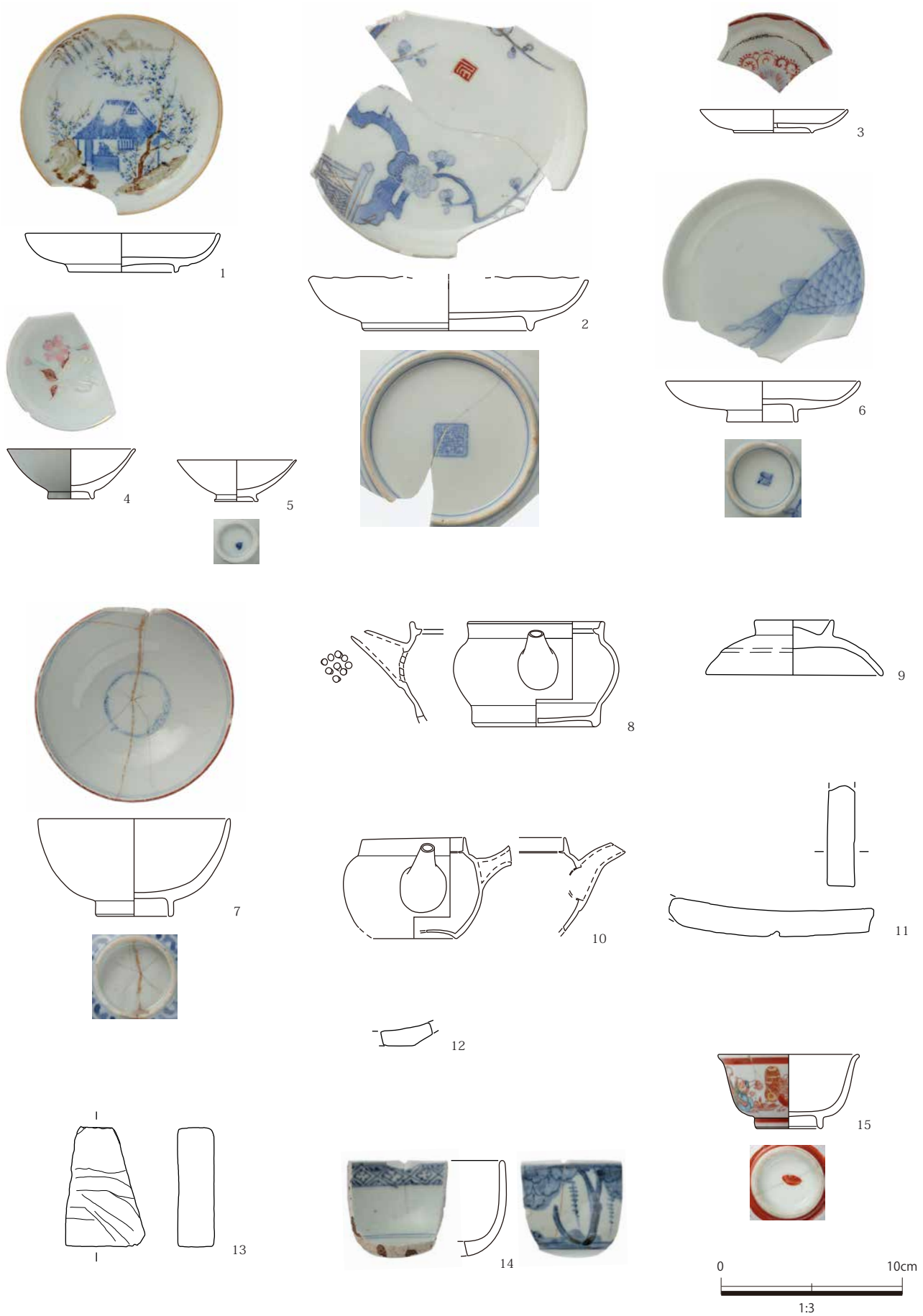


第 30 図　遺物実測図（6）

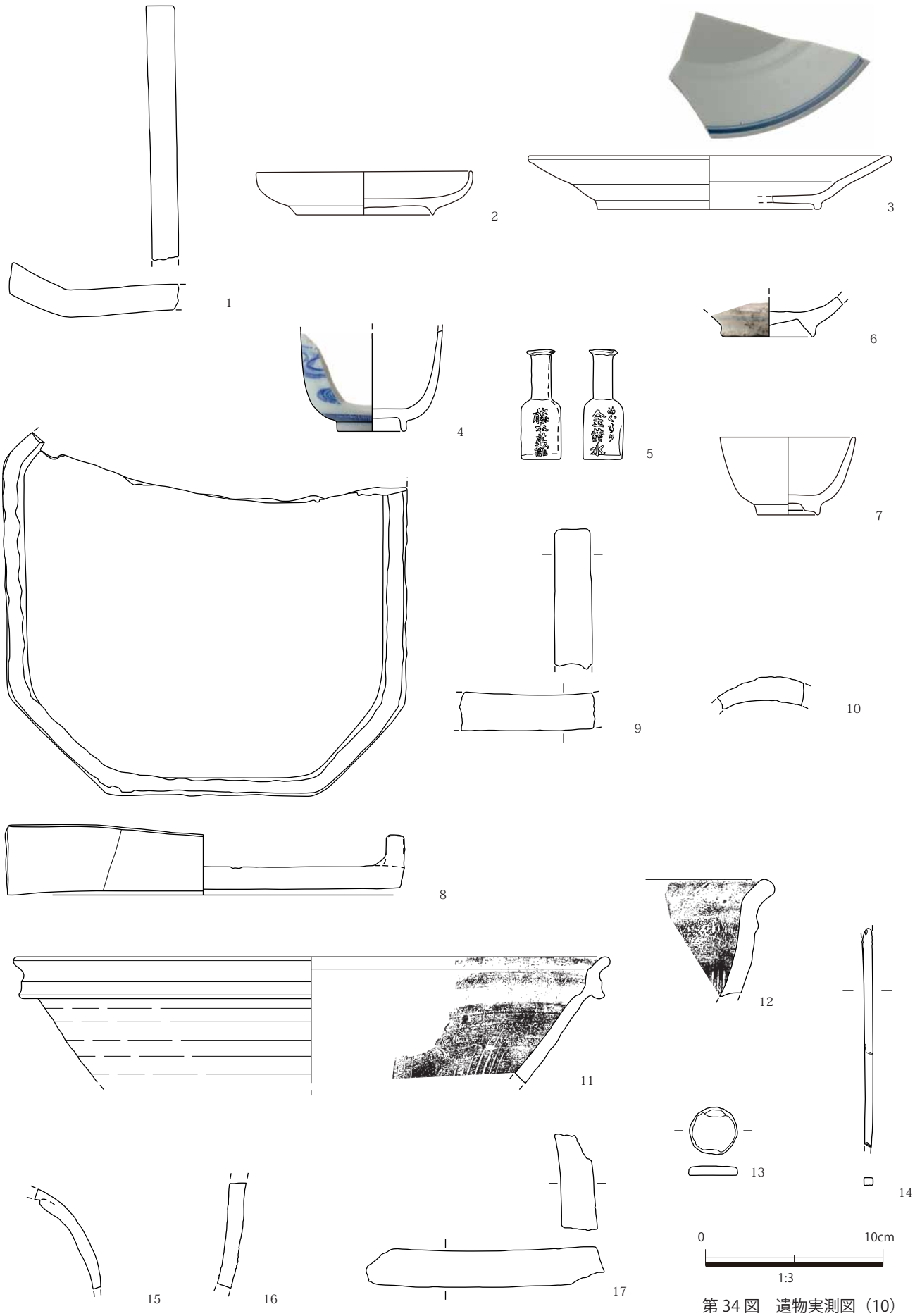


第 31 図　遺物実測図（7）

第 32 図　遺物実測図（8）

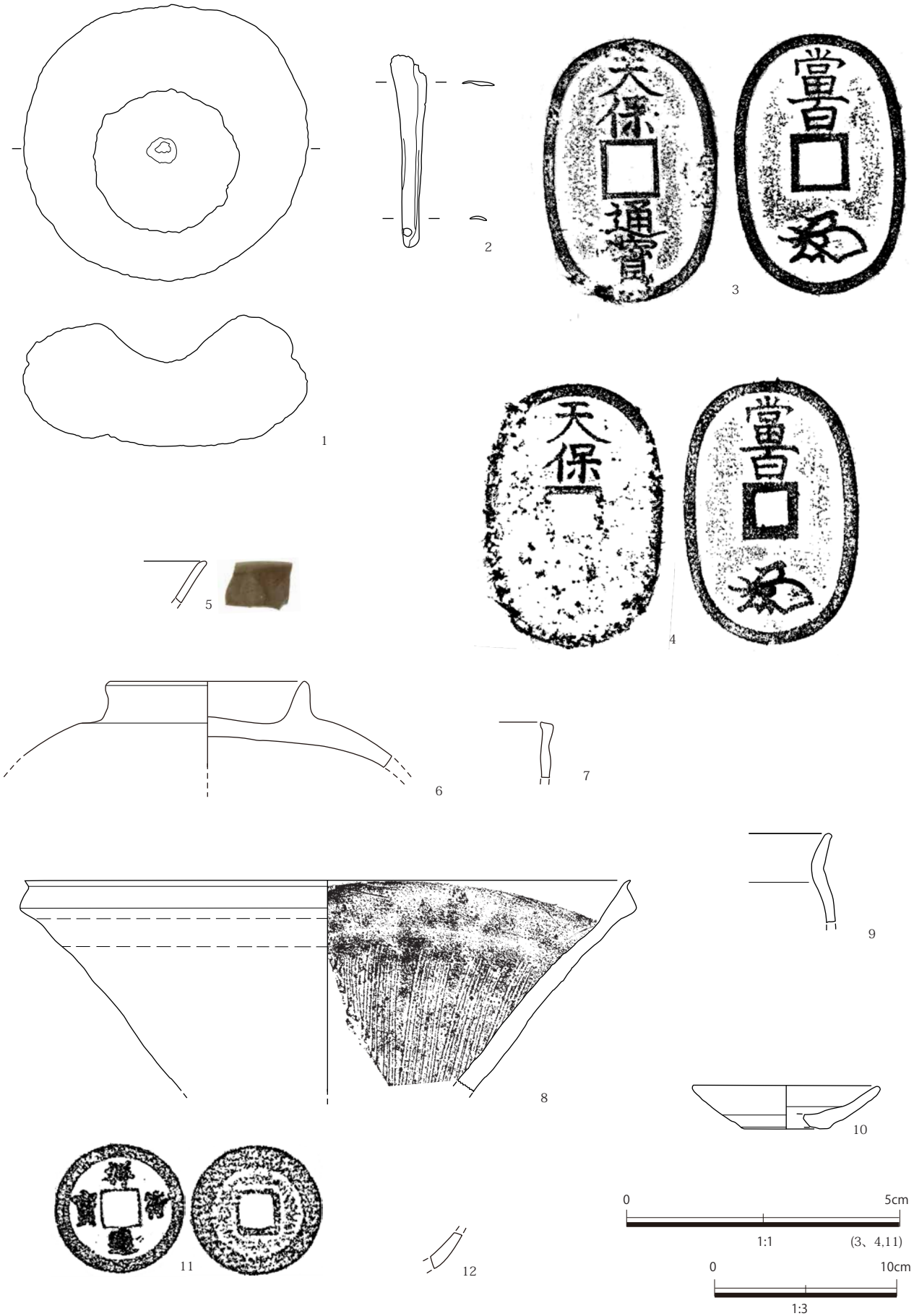


第 33 図　遺物実測図（9）

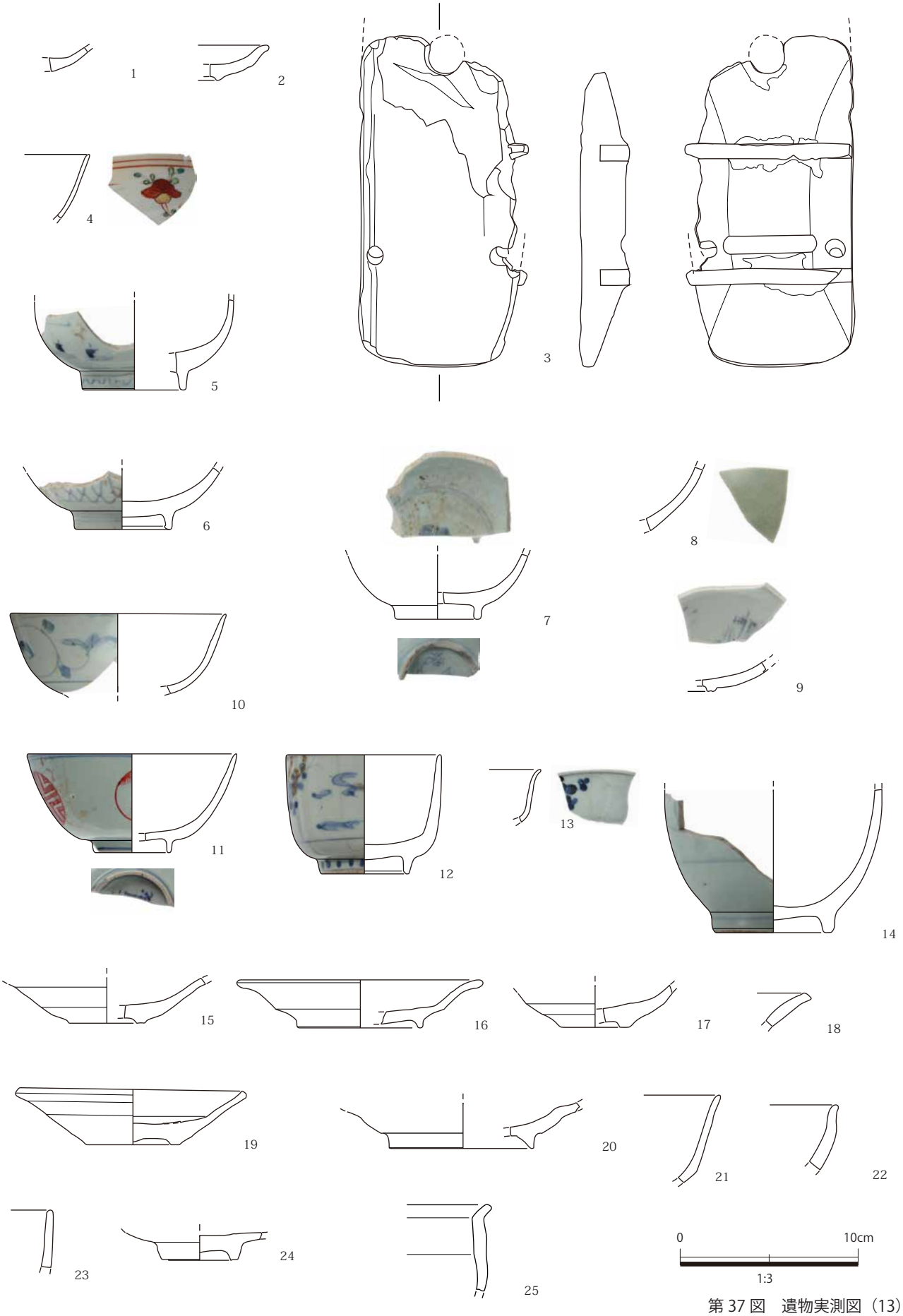


第 34 図　遺物実測図（10）

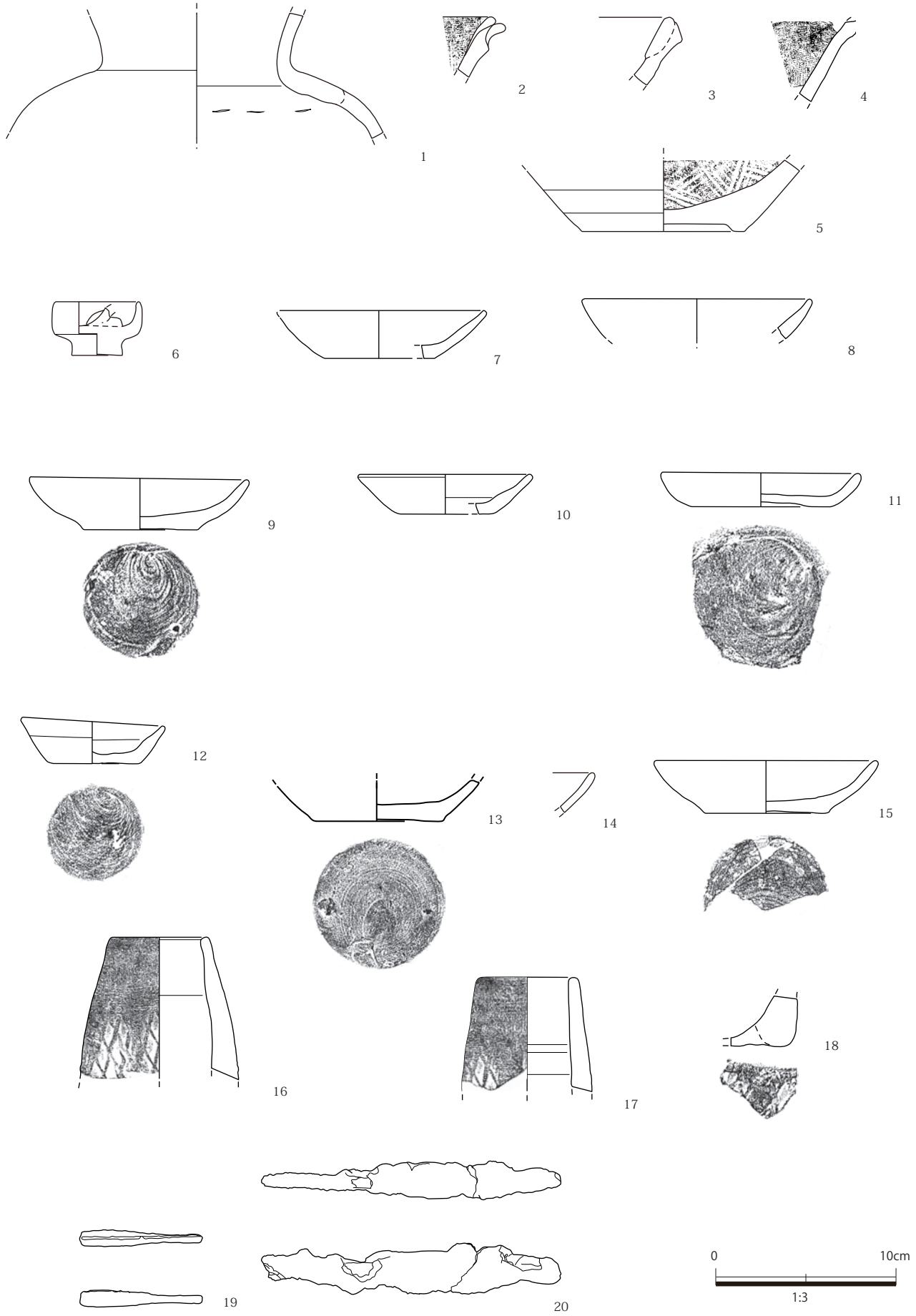
第 35 図　遺物実測図（11）



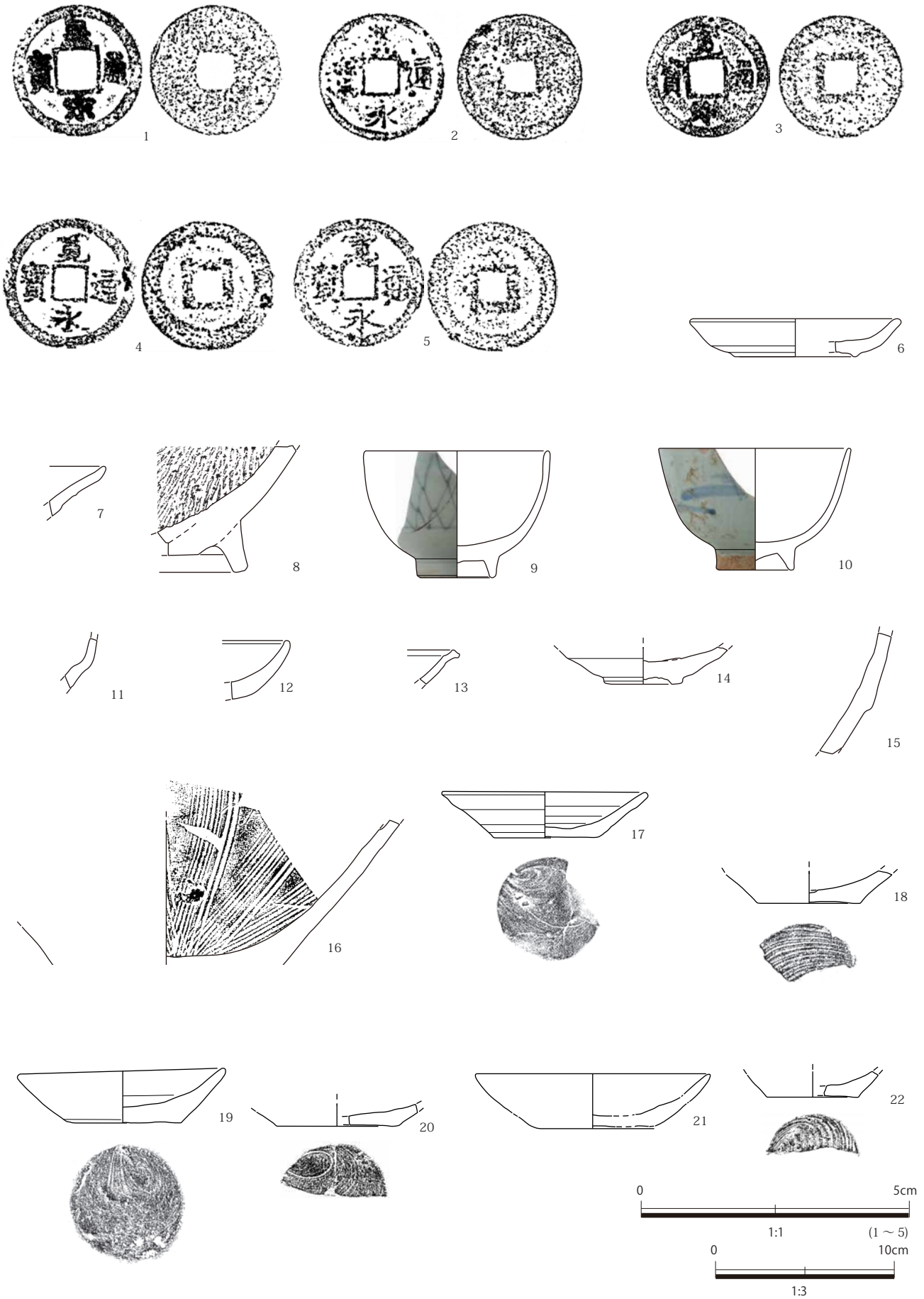
第 36 図　遺物実測図（12）



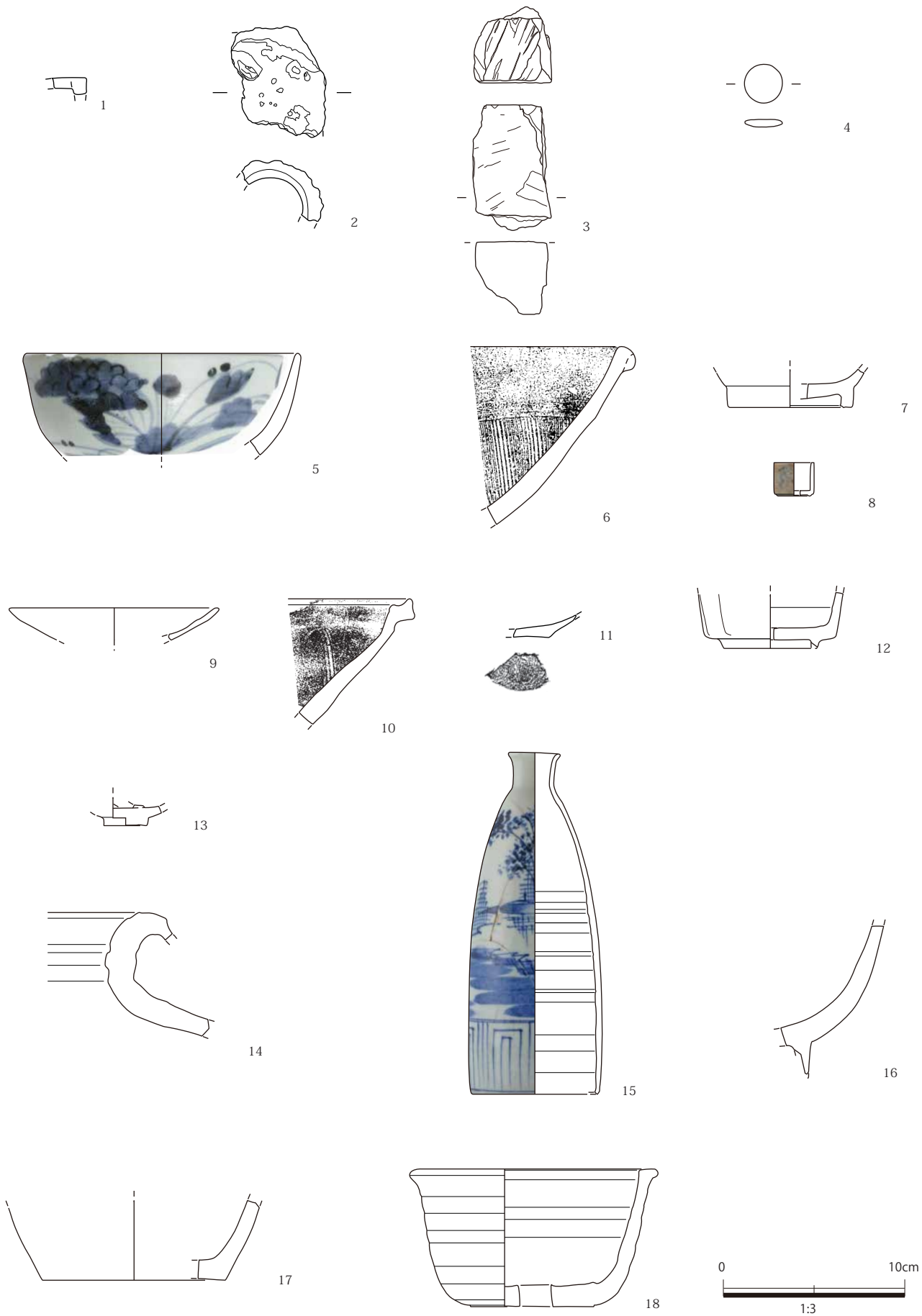
第 37 図　遺物実測図（13）



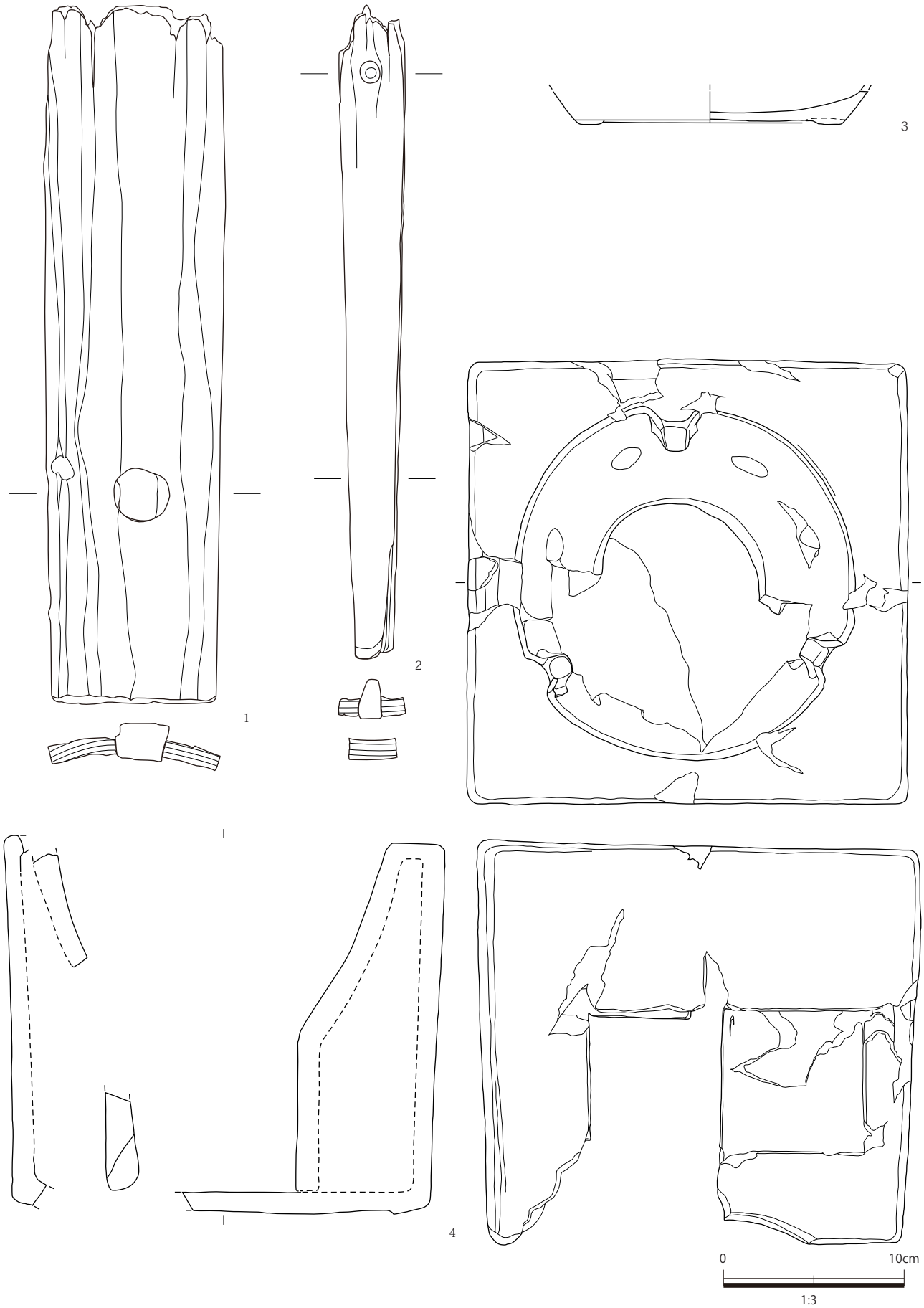
第 38 図　遺物実測図（14）



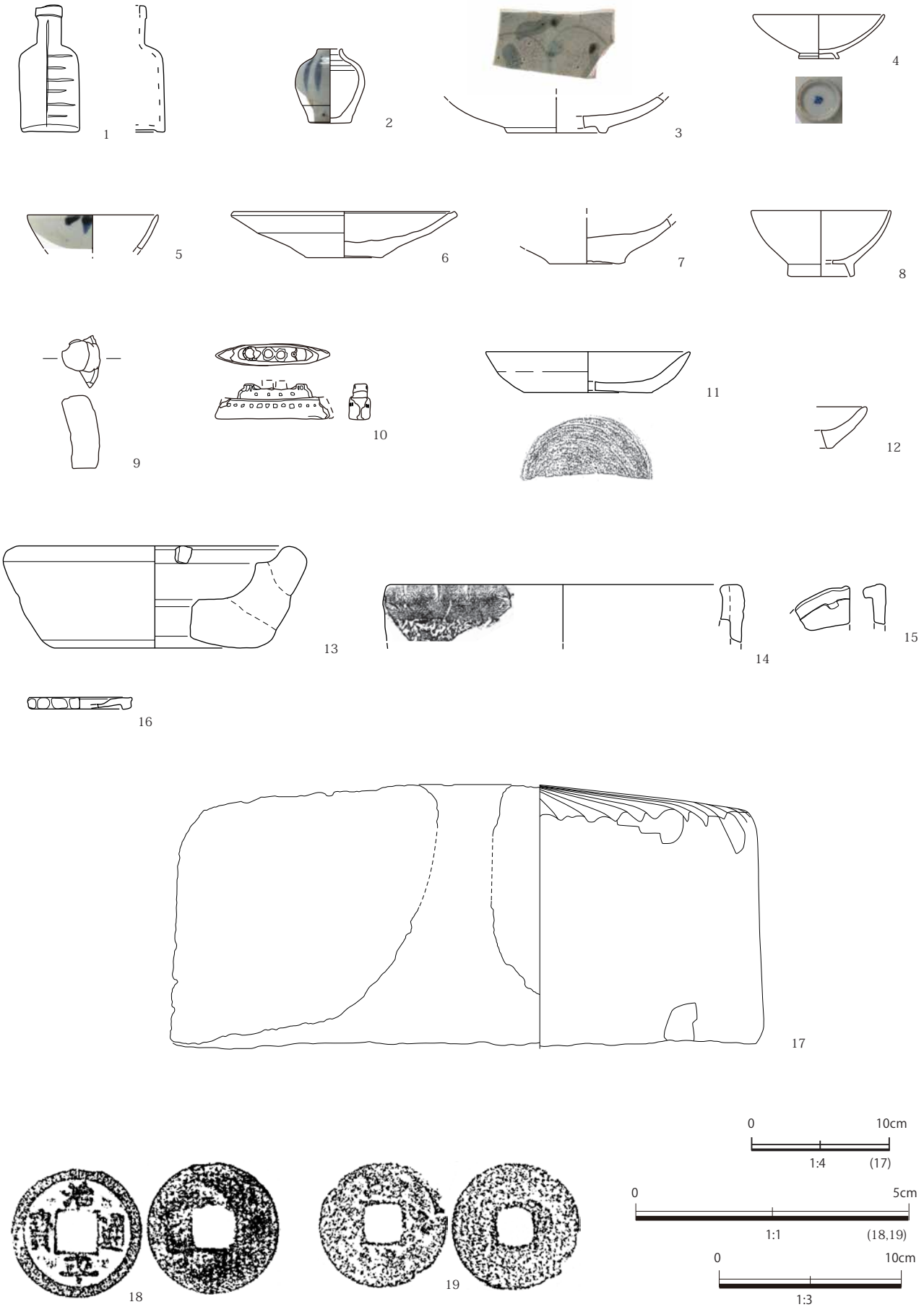
第 39 図　遺物実測図（15）



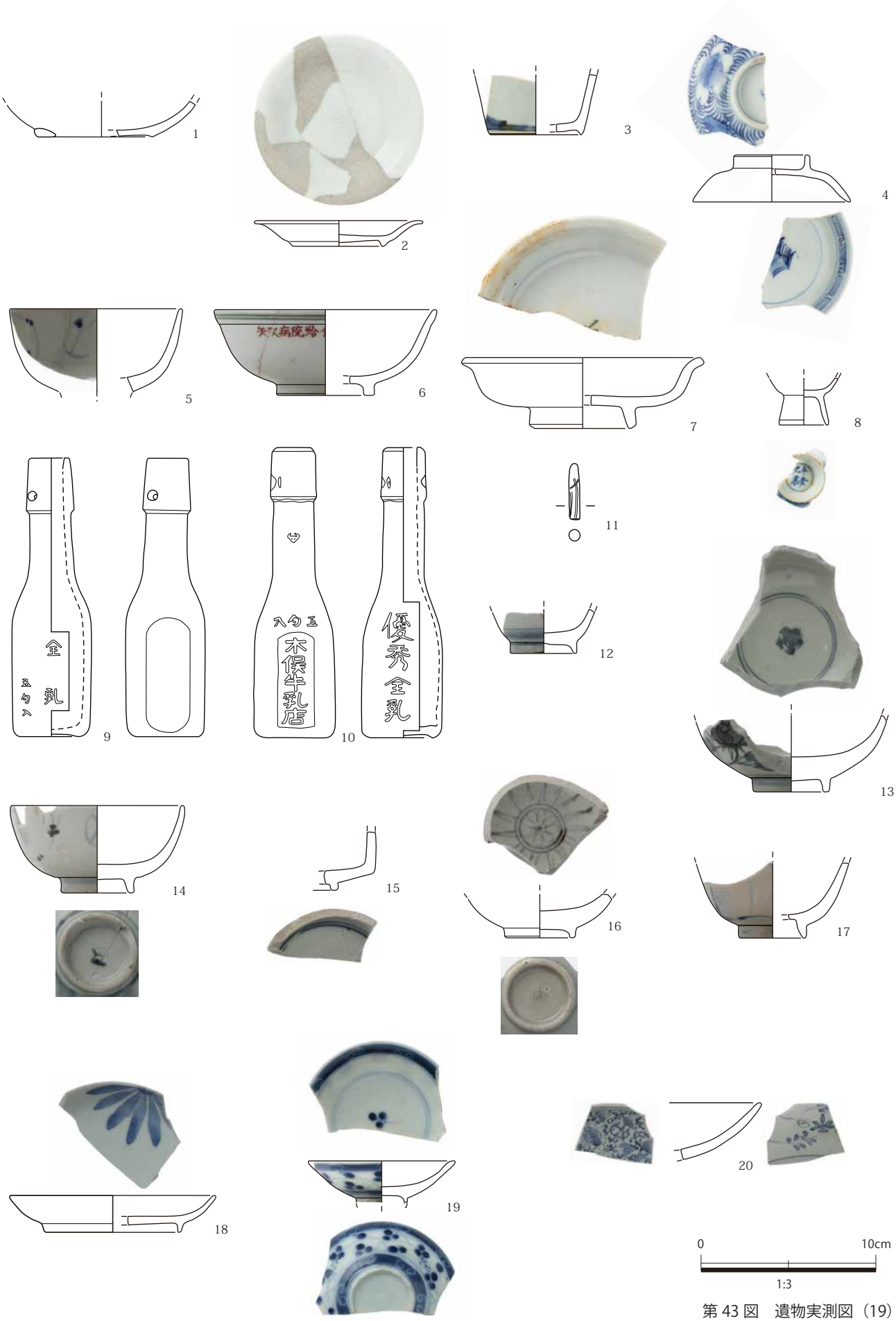
第 40 図　遺物実測図（16）



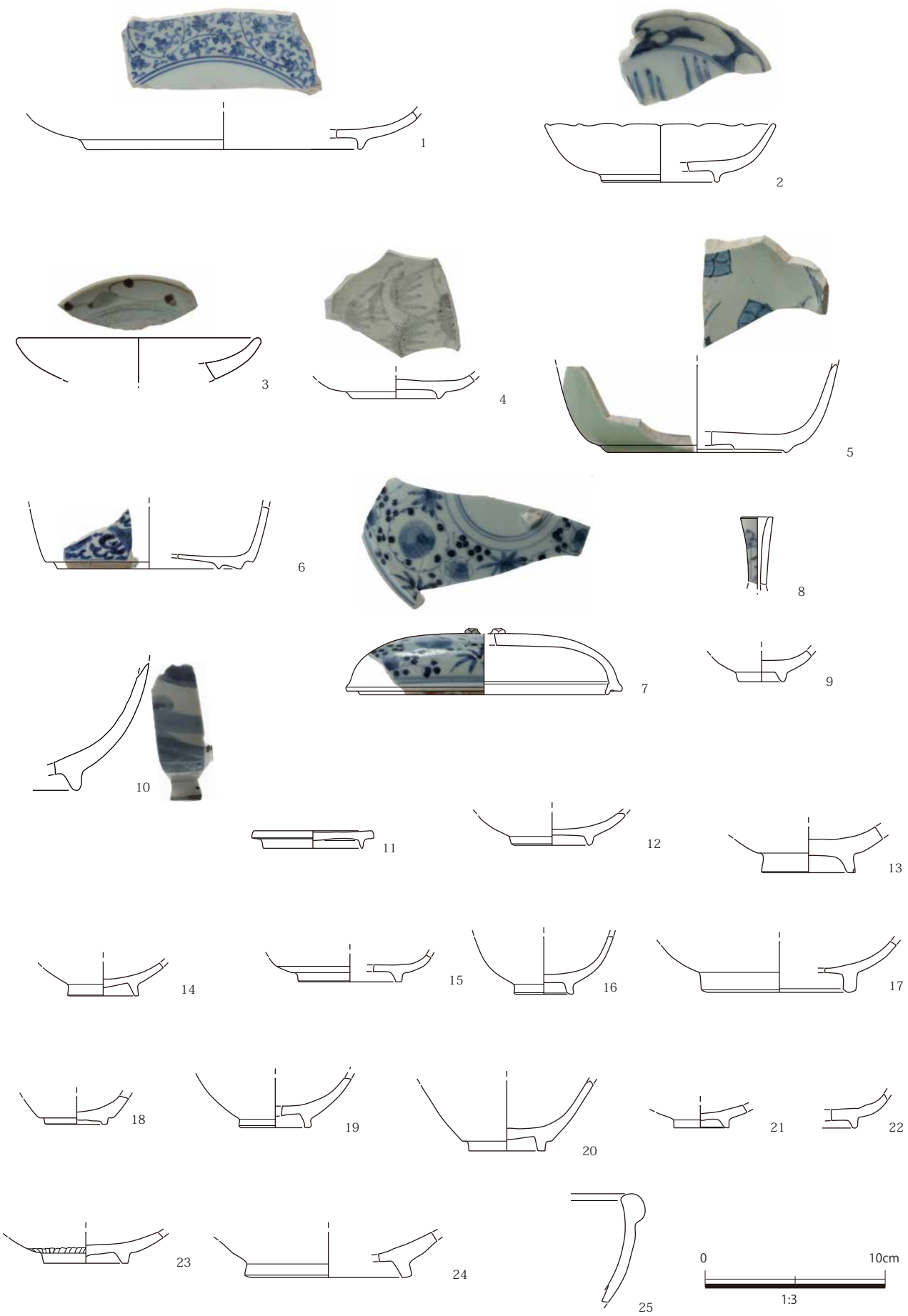
第 41 図　遺物実測図（17）



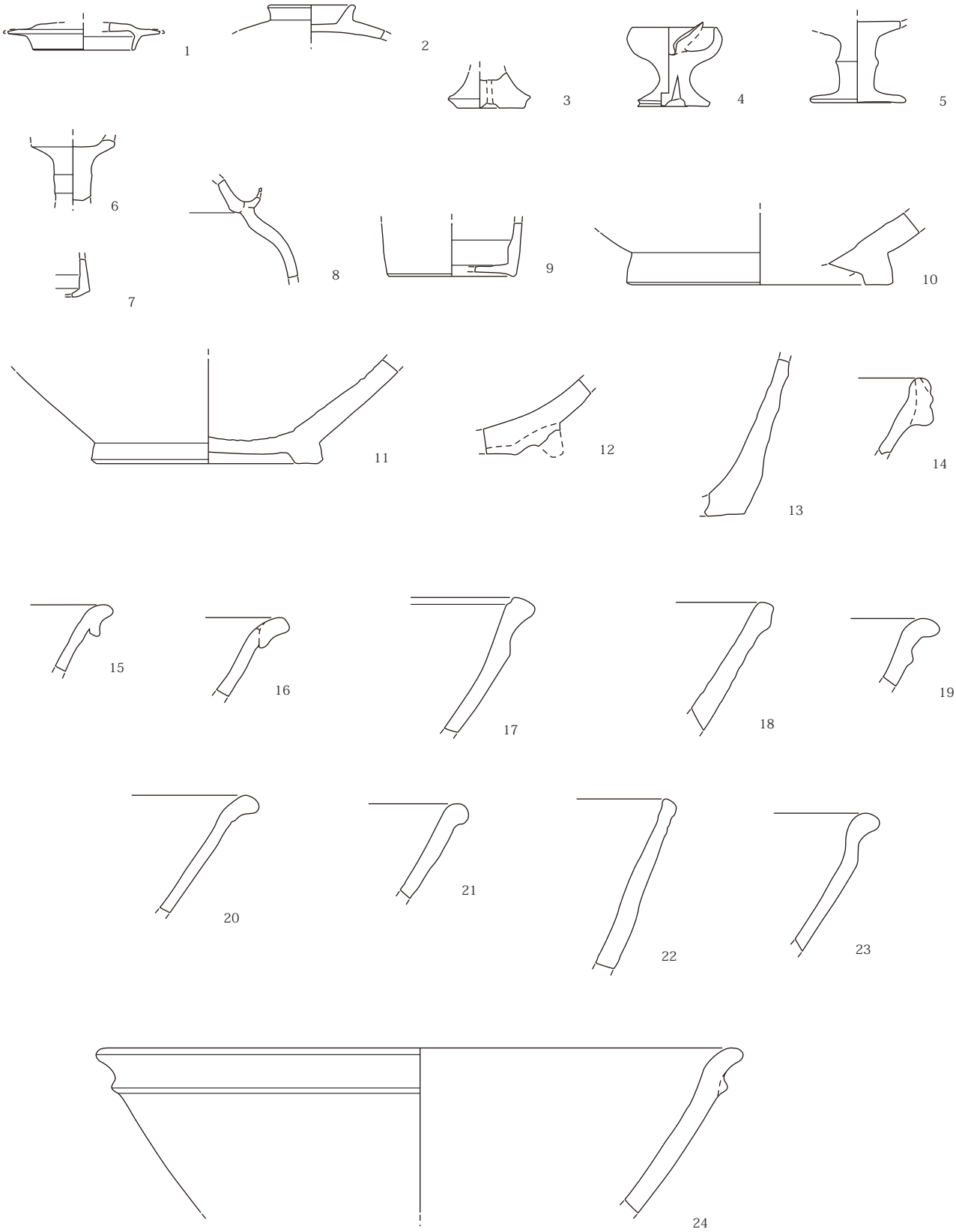
第 42 図　遺物実測図（18）



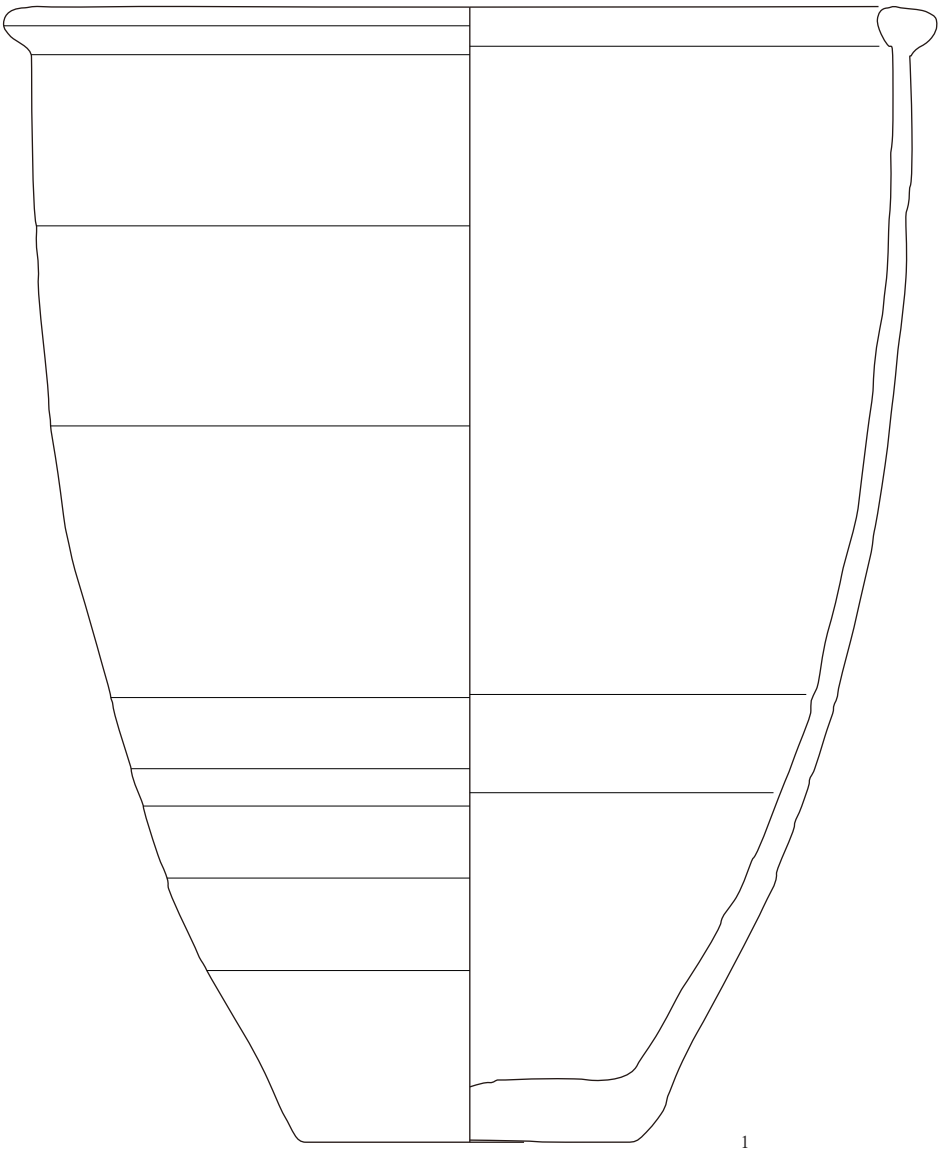
第 43 図　遺物実測図（19）

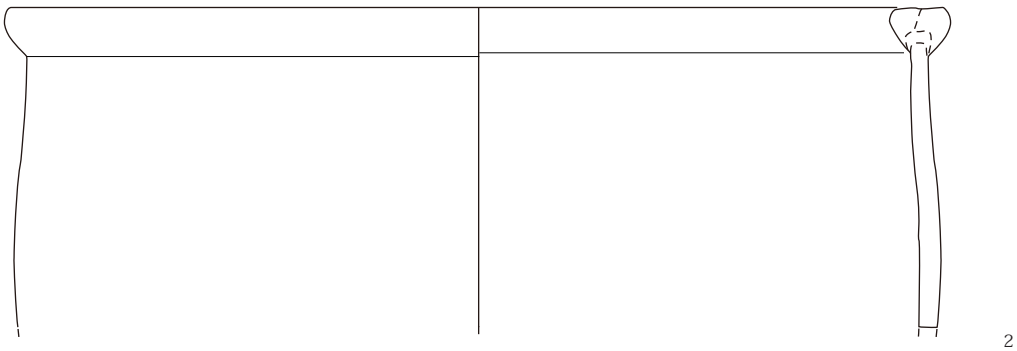


第 44 図　遺物実測図（20）



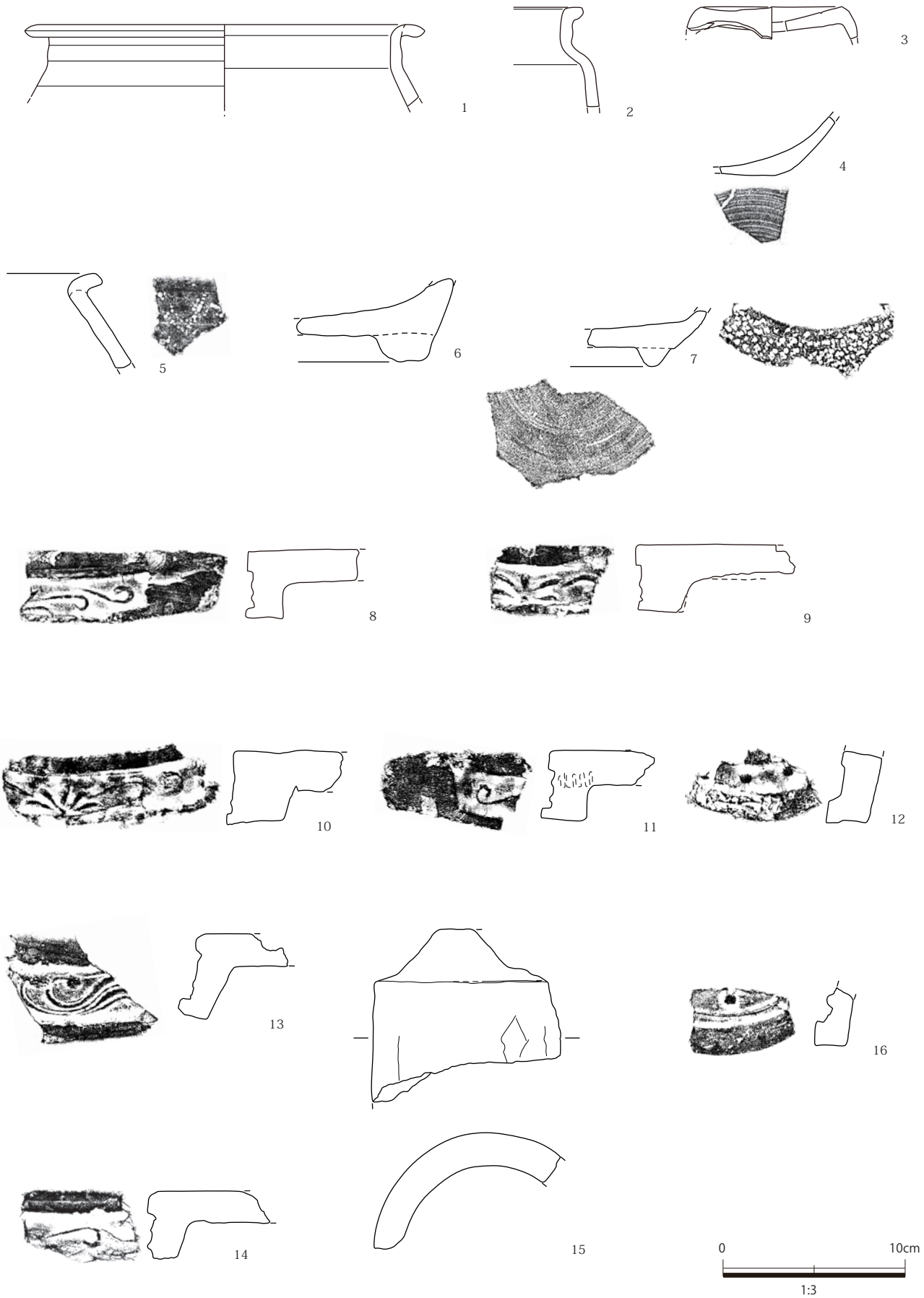
第 45 図　遺物実測図（21）



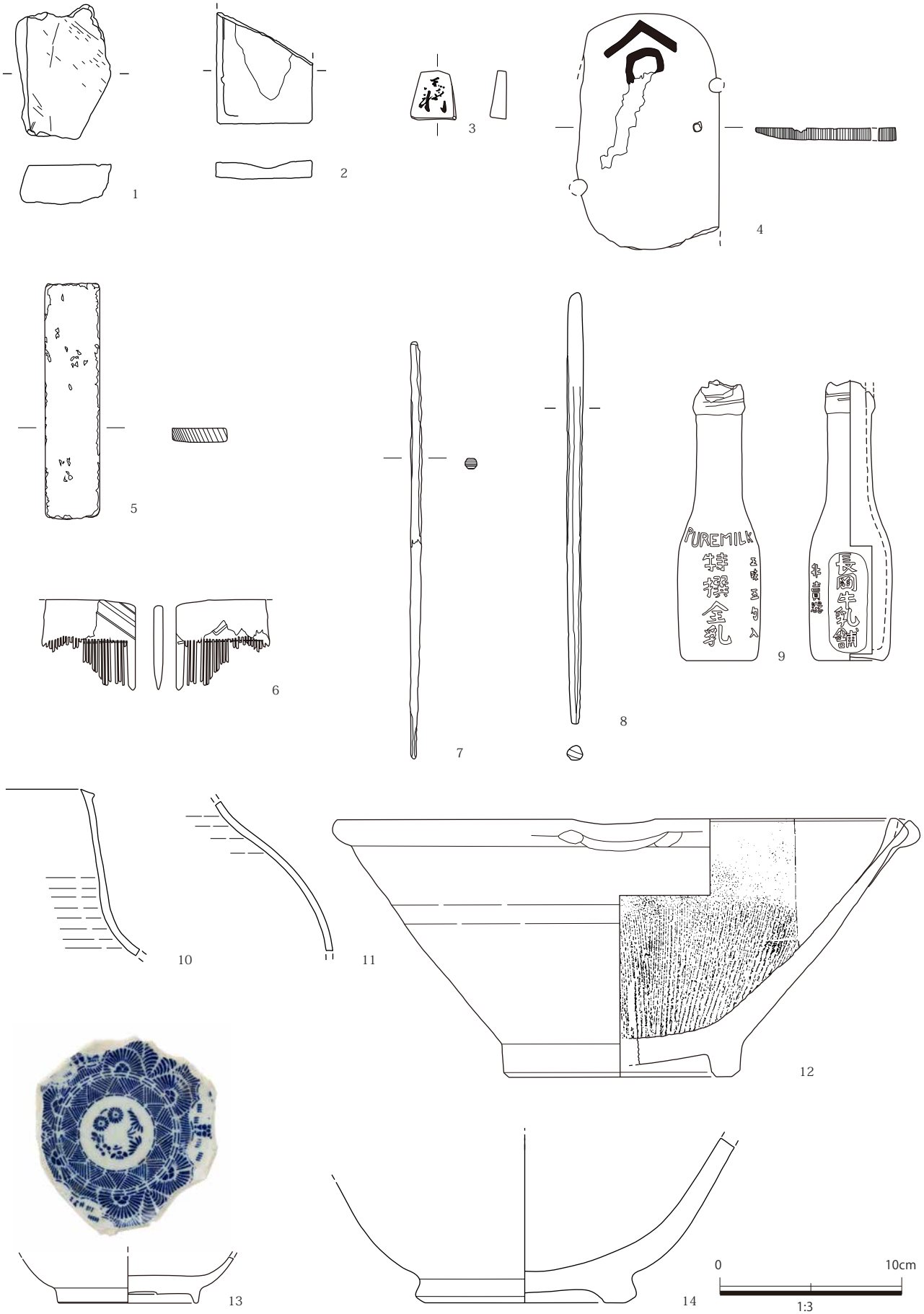


0　20cm
1:6

第 46 図　遺物実測図（22）

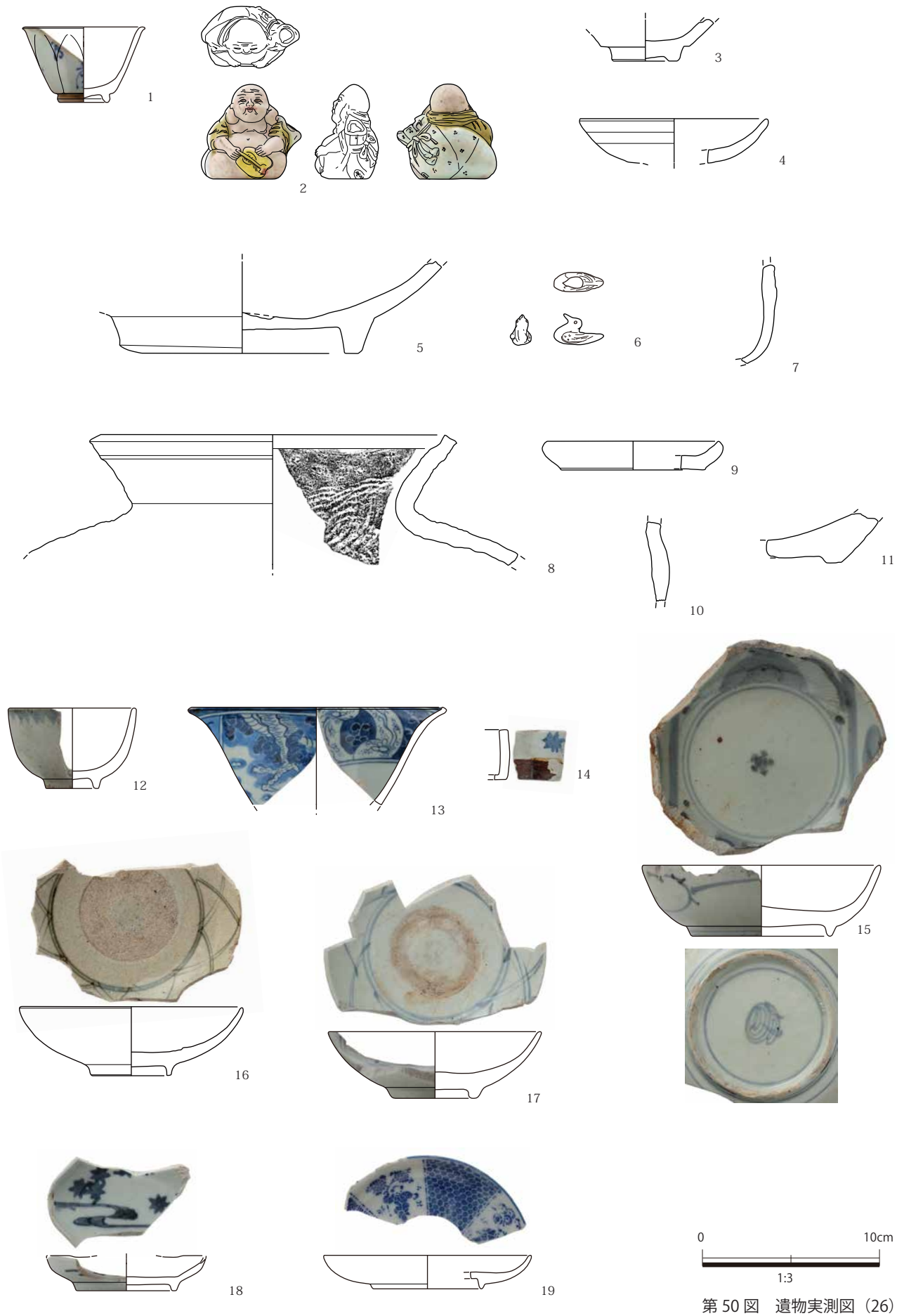


第 47 図　遺物実測図（23）

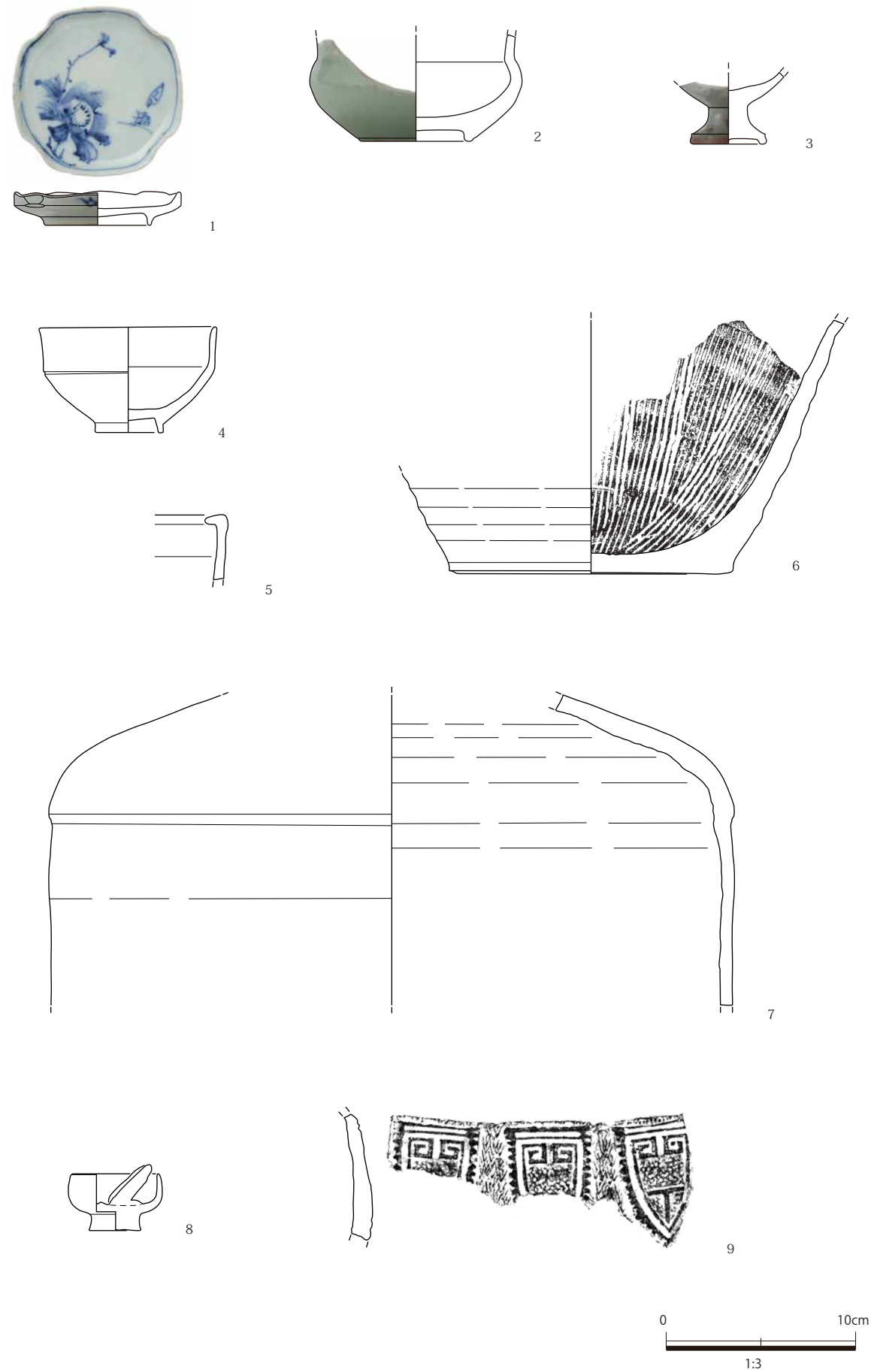


第 48 図　遺物実測図（24）

第 49 図　遺物実測図（25）

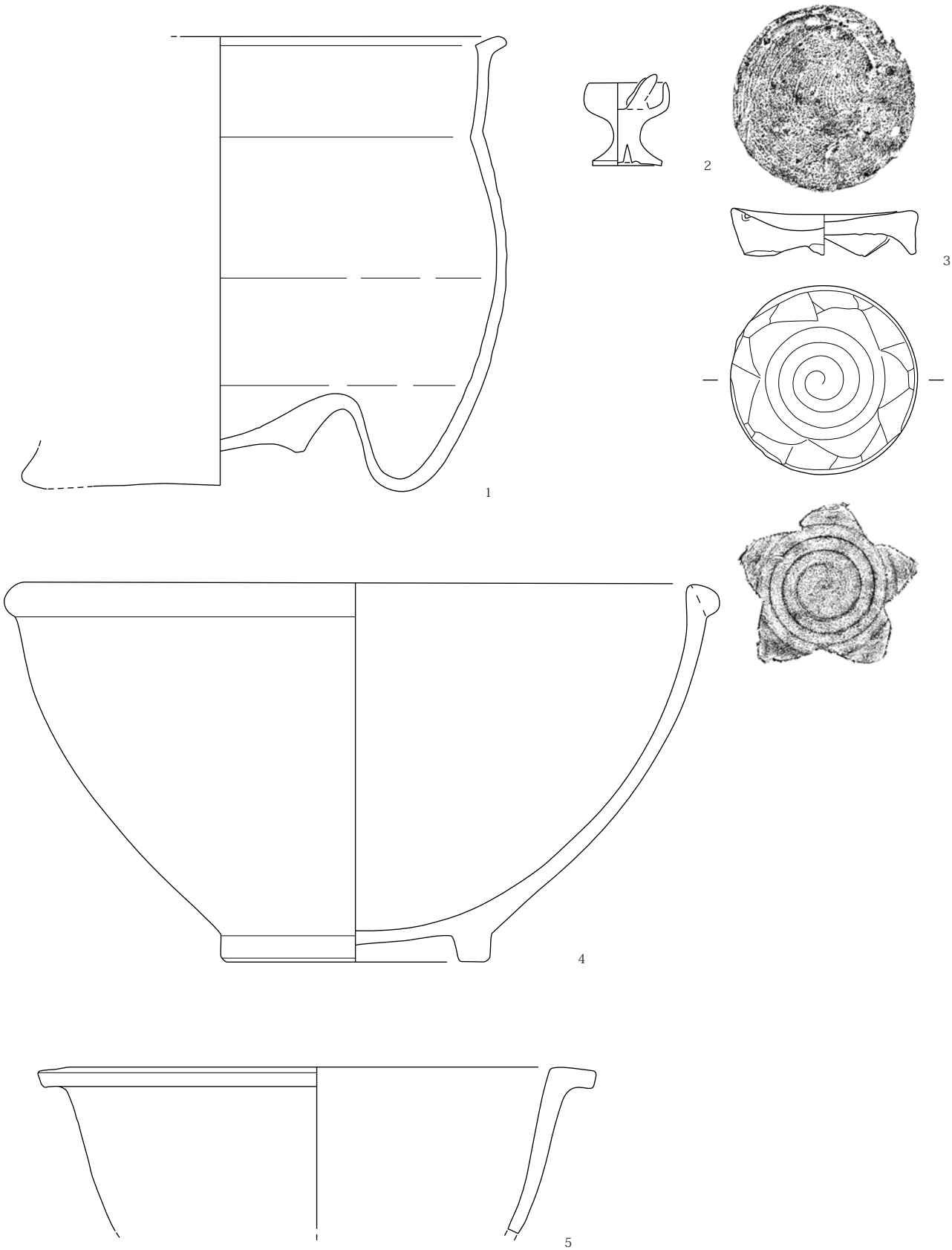


第 50 図　遺物実測図（26）

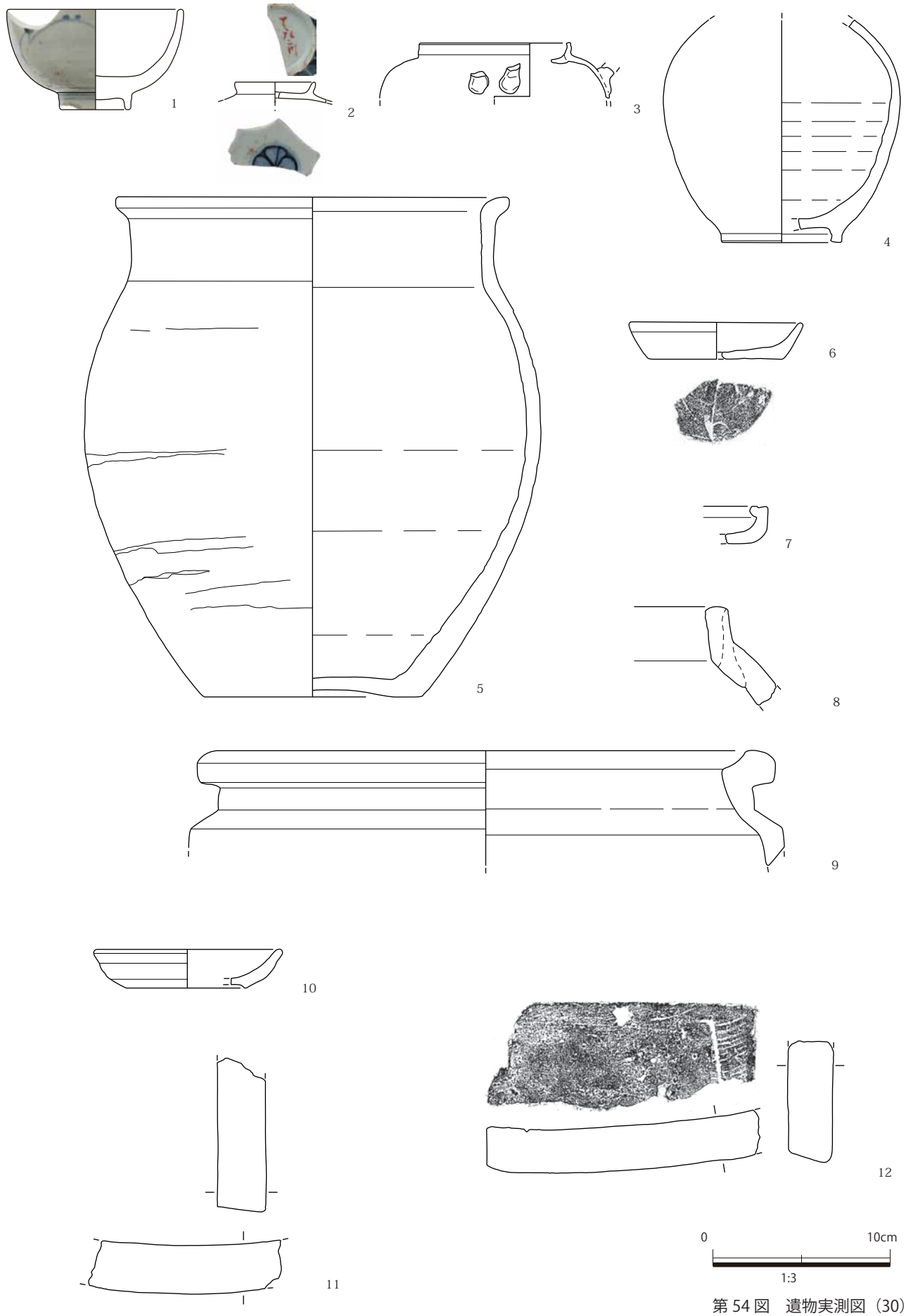


第 51 図　遺物実測図（27）

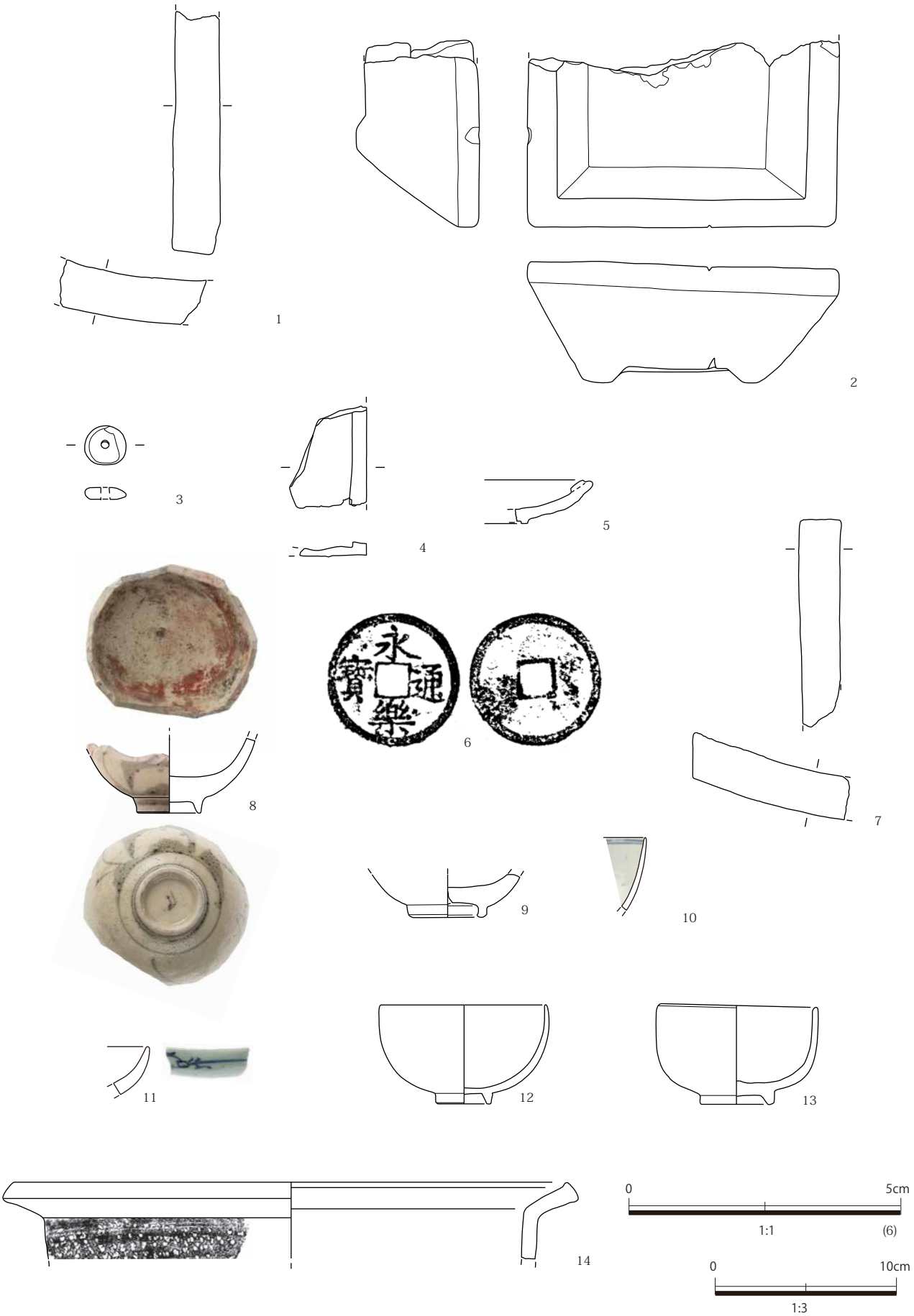
第 52 図　遺物実測図（28）



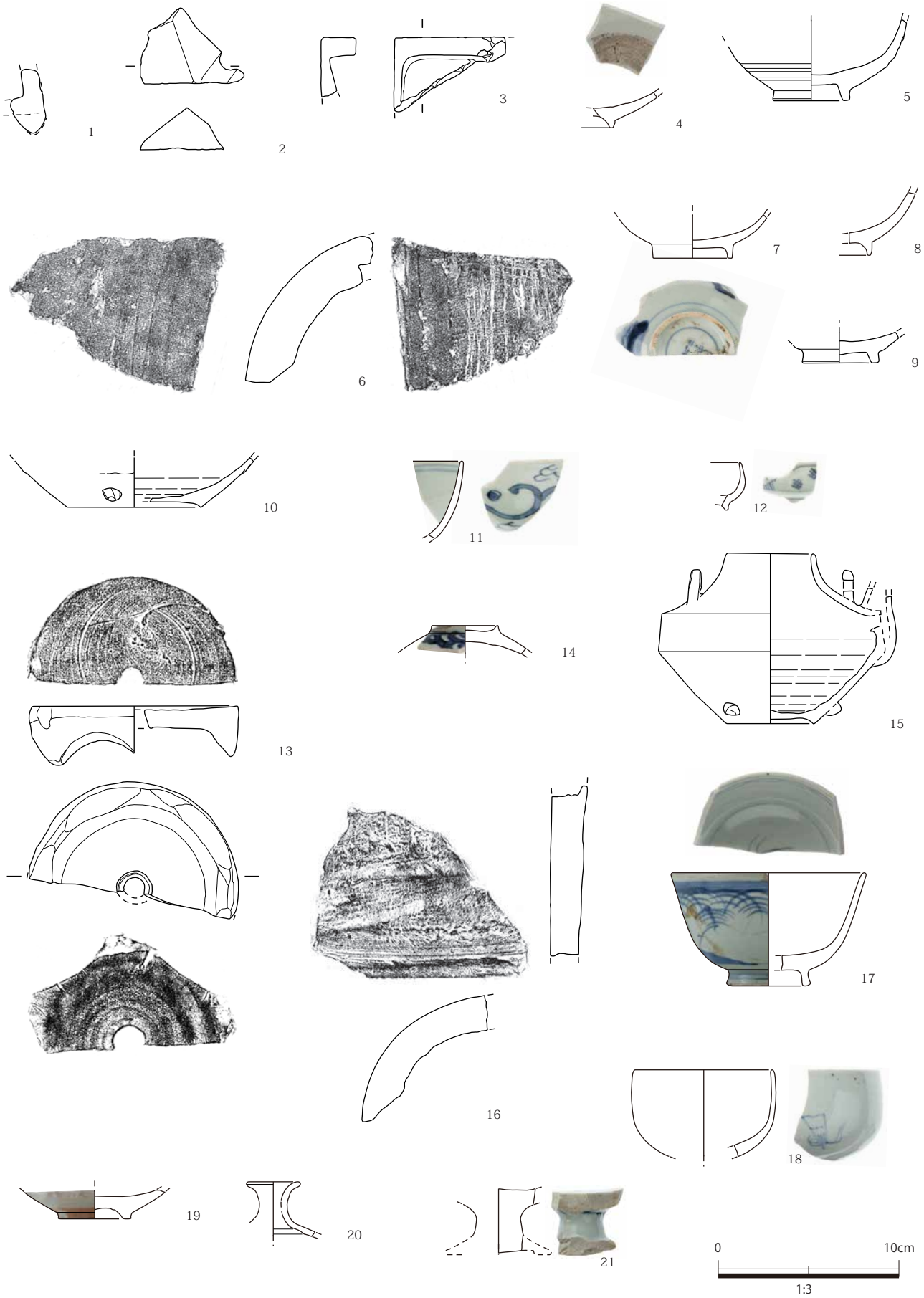
第 53 図　遺物実測図（29）



第 54 図　遺物実測図（30）

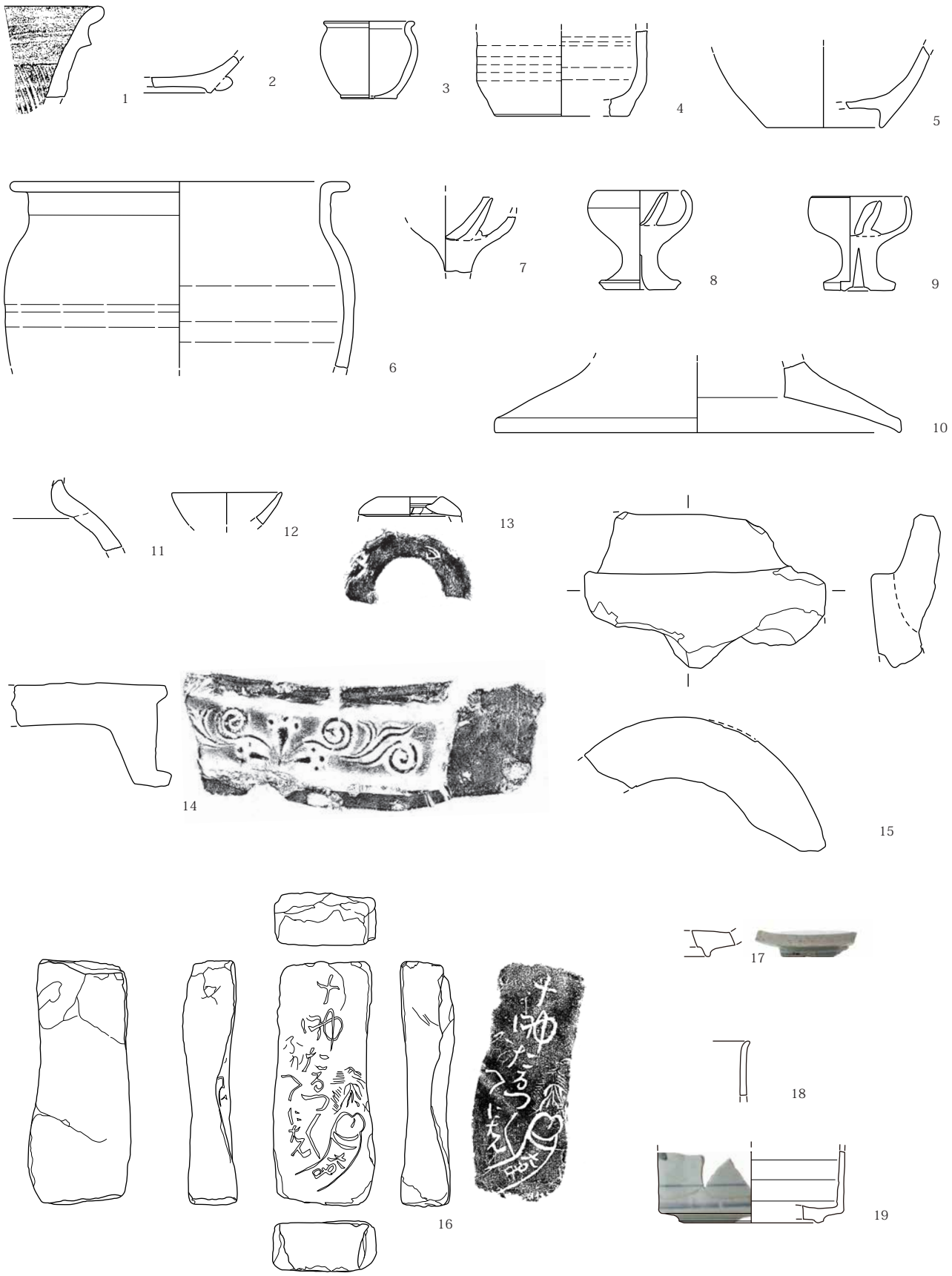


第 55 図　遺物実測図（31）

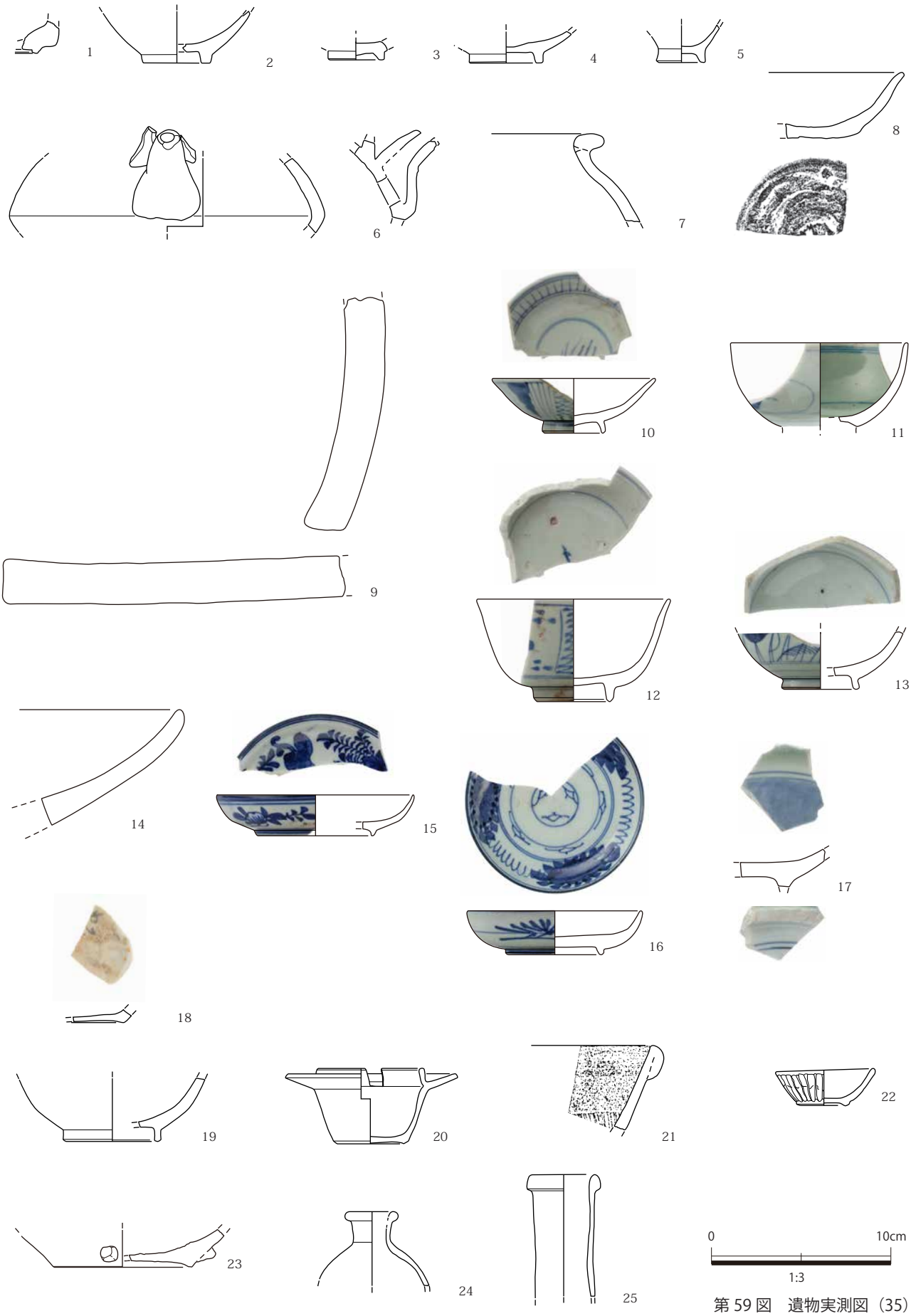


第 56 図　遺物実測図（32）

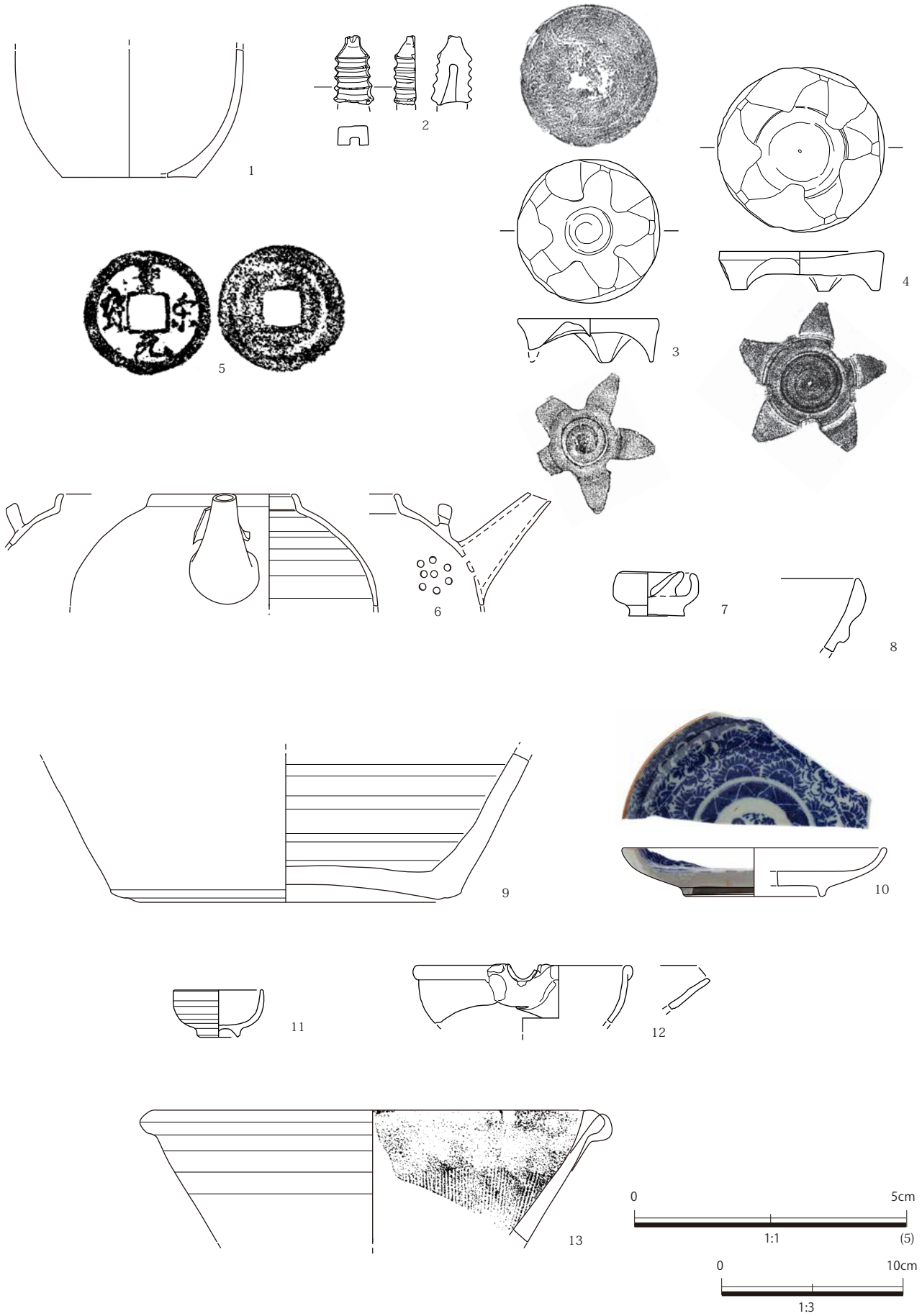
第 57 図　遺物実測図（33）



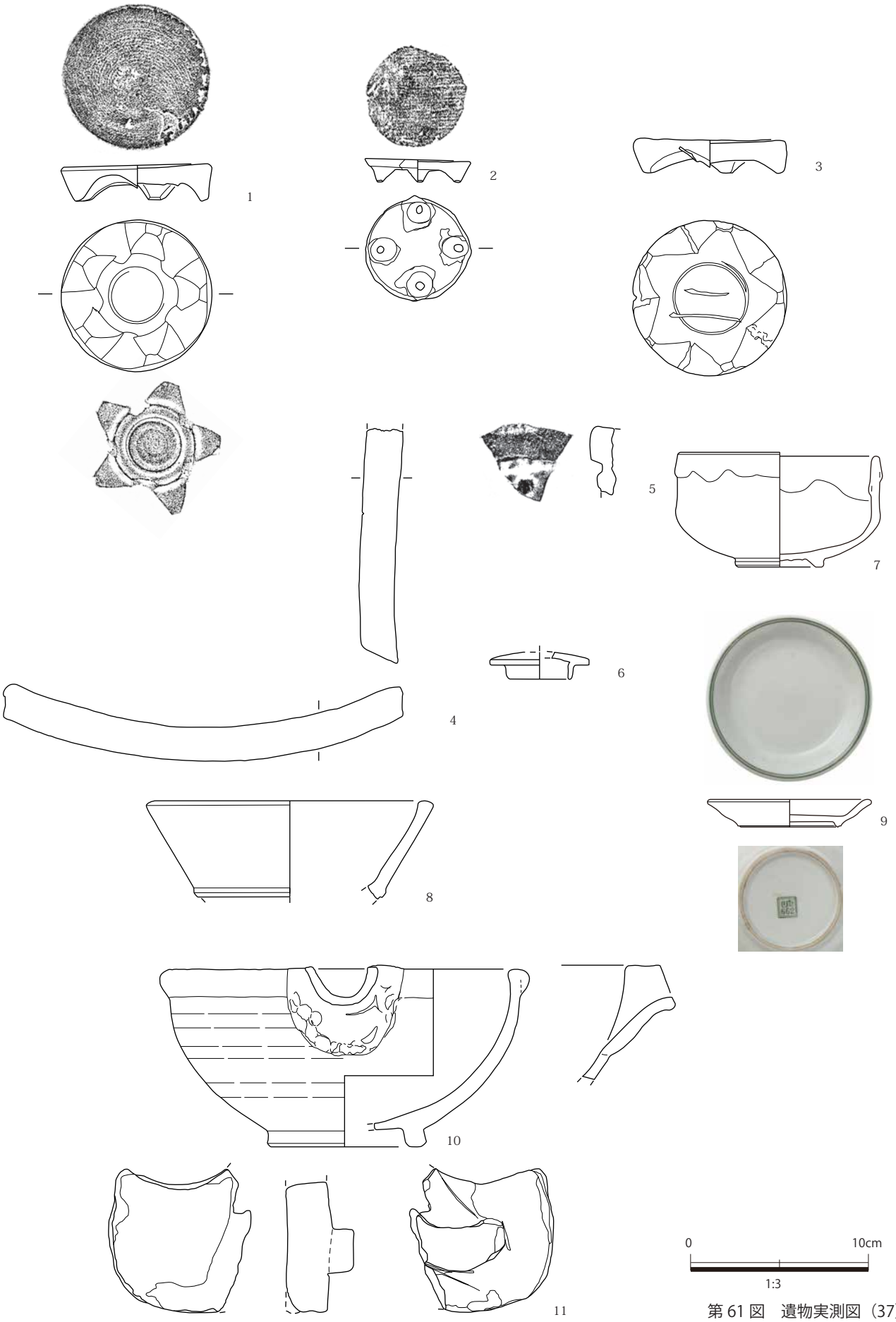
第 58 図　遺物実測図（34）



第 59 図　遺物実測図（35）

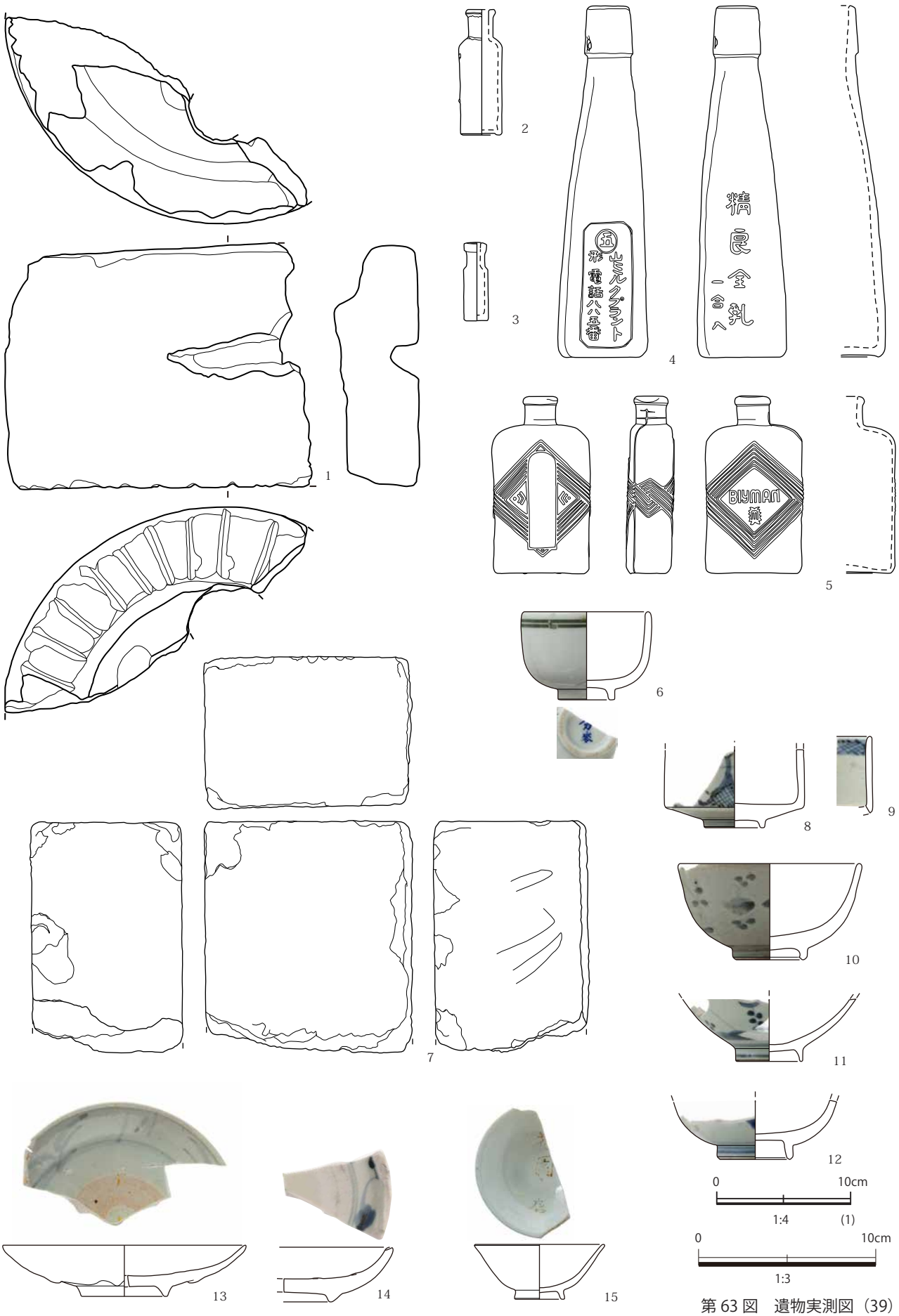


第 60 図　遺物実測図（36）

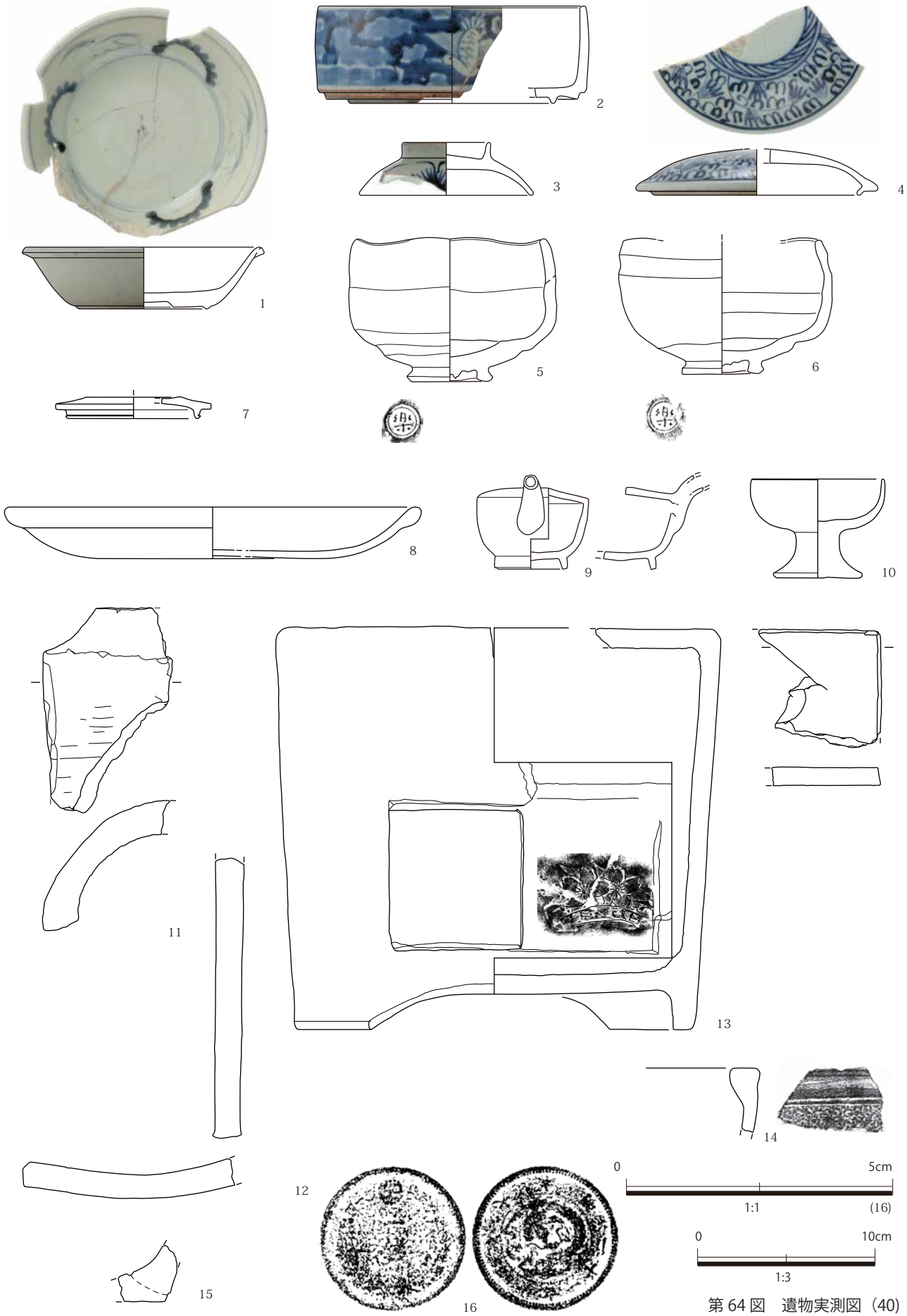


第 61 図　遺物実測図（37）

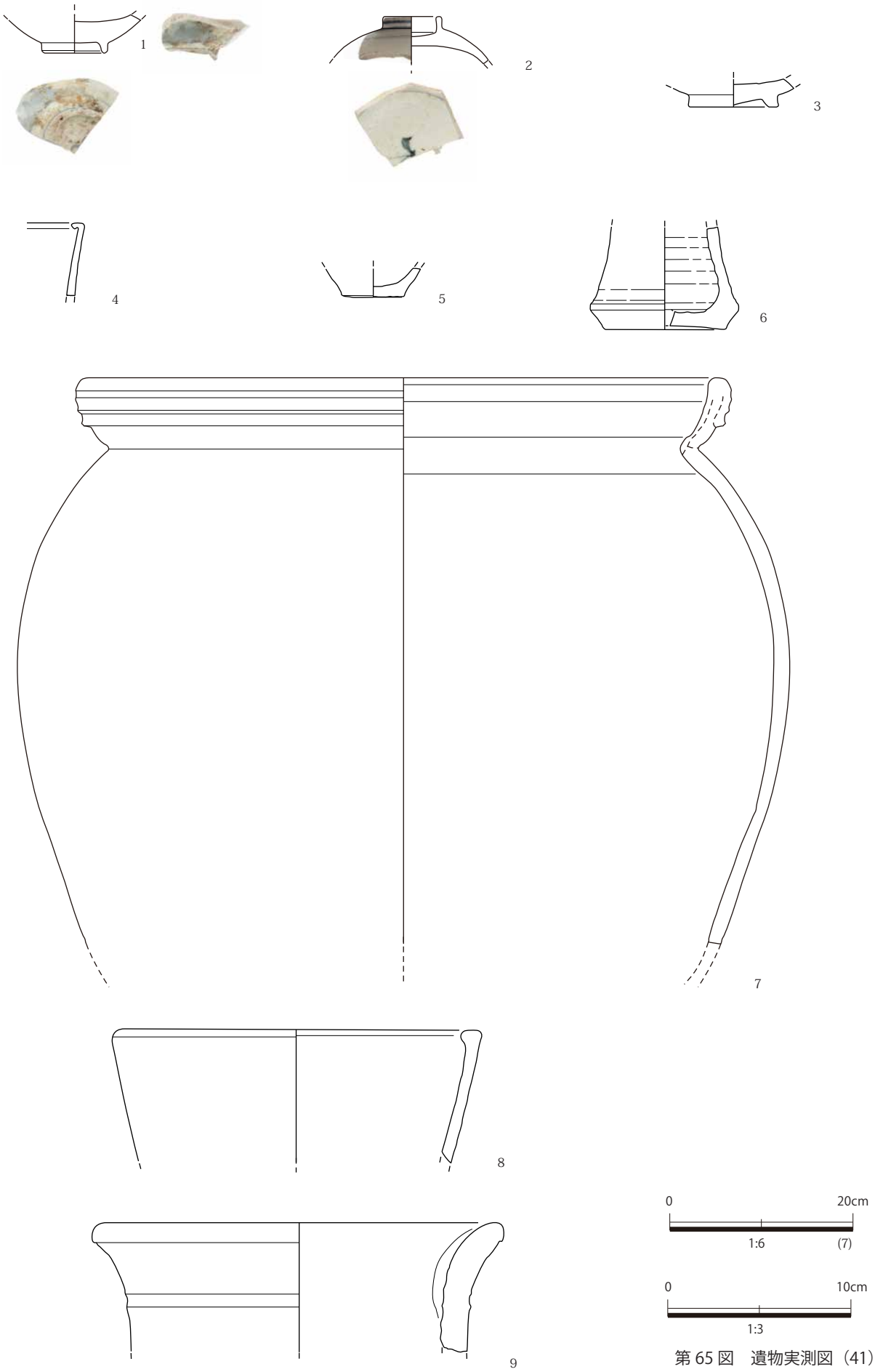
第 62 図　遺物実測図（38）



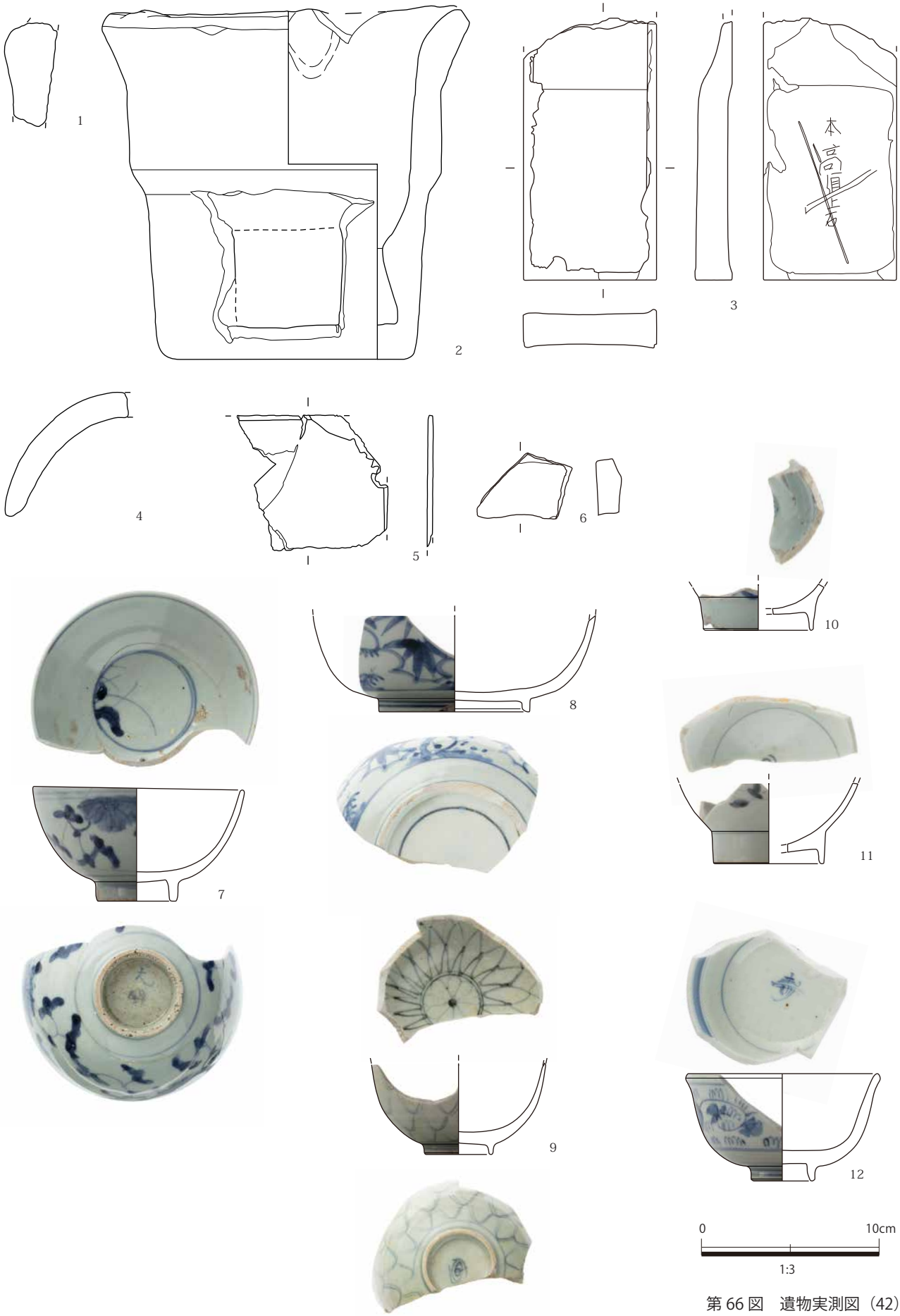
第 63 図　遺物実測図（39）



第 64 図　遺物実測図（40）

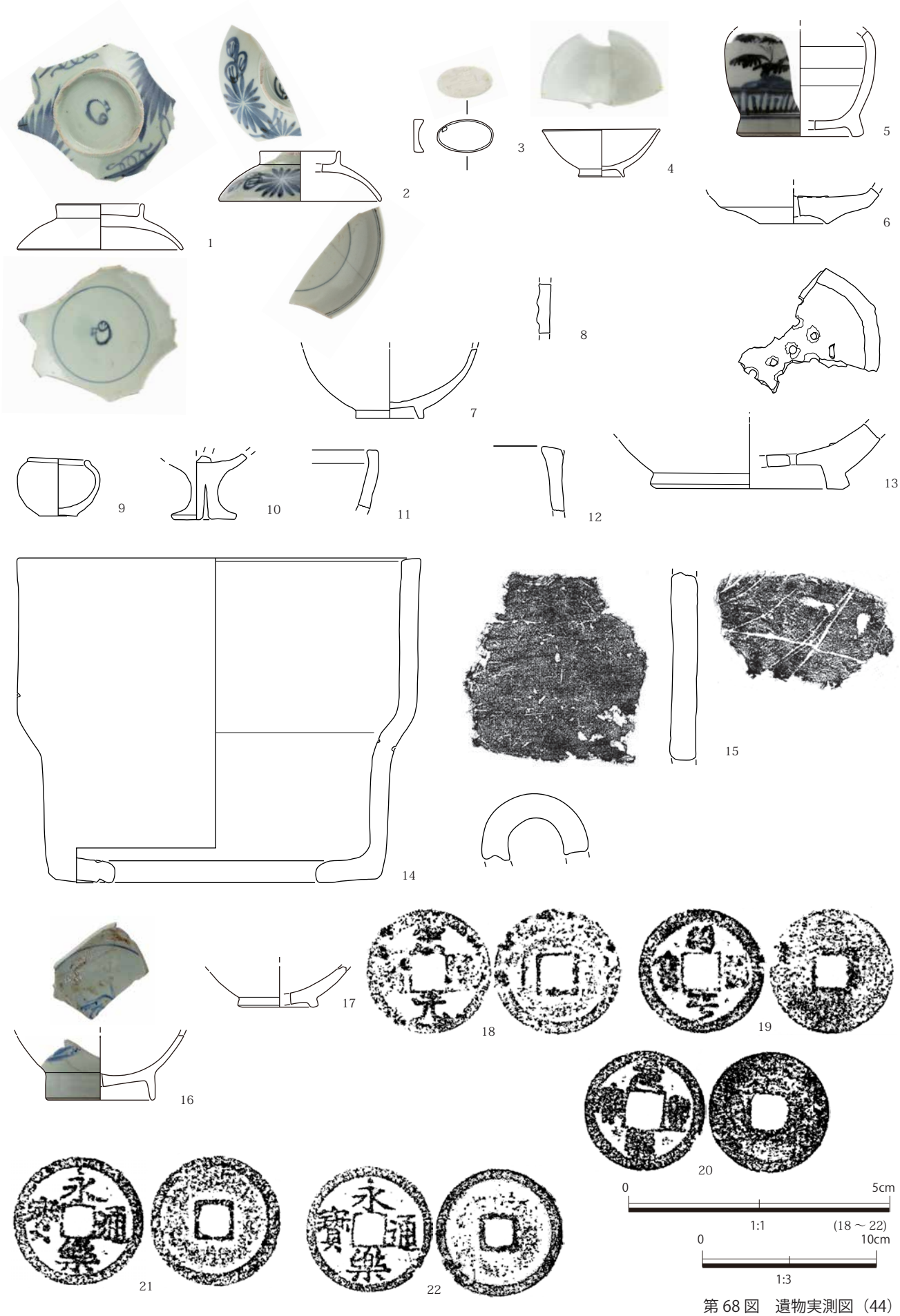


第 65 図　遺物実測図（41）



第 66 図　遺物実測図（42）

第 67 図　遺物実測図（43）



第 68 図　遺物実測図（44）

表 3　遺物観察表 (1)

図	No.	種別	器種	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
25	1	土師器	甕	6 区	X= ー 193838.386 Y= ー 43513.452 H ＝ 138.983					(44.0)					黄褐色	
25	2	須恵器	坏	6 区	SX6					(32.0)	ロクロ	ロクロ				
25	3	石製品	砥石	6 区	北部西壁			55.4	37.0	30.0						仕上砥
25	4	古銭		6 区	SK4											新寛永通寶
25	5	磁器	碗	9 区	SK3			(95.0)	(46.0)	(34.0)			染付	灰白色	褐灰白色	外面 : 山水紋　18C 後半
25	6	磁器	皿	9 区	SK3			(79.0)	36.0	(17.0)	ロクロ	ロクロ		白色	白色	被熱　内面 : 草紋　削り出し高台
25	7	陶器	碗	9 区	SK3					(22.0)	ロクロ	ロクロ	鉄釉		暗灰	瀬戸美濃
25	8	瓦	軒丸瓦	9 区	SK3			(96.4)	(95.6)	24.0	ヘラナデ	あて布痕		黒褐色	灰色	
25	9	瓦	平瓦	9 区	SK3			(124.8)	(104.9)	19.5			無施釉	黒褐色	灰色	
25	10	古銭		9 区	SK3											銭銘不鮮明　咸平元宝か
25	11	陶器	皿	9 区	SK27			(86.0)	44.0	(23.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	褐色	赤褐色	見込に砂目痕　削り出し高台　肥前　17C
25	12	陶器	鉢	9 区	SK27					(2.4)	ロクロ	ロクロ	鉄釉		灰色	外面 : 墨塗り　瀬戸美濃
25	13	土師器	甕	9 区	SK27			(70.0)	(50.0)	(26.0)						内面に付着物　外面被熱　胎土に雲母を含む
25	14	瓦	丸瓦	9 区	SK27	F6			(80.5)	22.0	ナデ	あて布痕	無施釉	灰褐色	灰色	
25	15	瓦	平瓦	9 区	SK27			(143.0)	(126.5)	26.0						裏面に紋様有
25	16	石製品	石鉢	9 区	SX15			105.8	82.4	43.0						激しく被熱
25	17	磁器	碗	9 区	北			(108.0)	48.0	77.0			染付	灰白色	灰白色	外面 : 山水紋　18C 後半
25	18	磁器	皿	9 区	北					6.5			染付	乳白色	乳白色	内面 : 草花紋？　25-19 と同一個体か　漳州窯　17C ？
25	19	磁器	皿	9 区	中央					(19.0)			染付	乳白色	青白色	内面 : 草花紋？　25-18 と同一個体か　漳州窯　17C ？
25	20	陶器	茶碗	9 区	XO					(36.5)	ロクロ	ロクロ	長石釉		黄褐色	志野
25	21	陶器	碗	9 区				(111.0)	42.0	77.0	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄灰	黄灰	天目碗　瀬戸美濃　削り出し高台
25	22	陶器	皿	9 区	SD10			(115.0)	(72.0)	22.0	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄灰白	黄灰白	瀬戸美濃　削り出し高台
26	1	陶器	鉢	9 区	SK20			(141.0)	(104.0)	(62.7)			内灰釉	褐色	黄褐色	外面 : 無施釉　外面に押圧紋　近代
26	2	土師器	焼塩壷	9 区						(69.0)	ロクロ	ロクロ				外面紋様
26	3	土師器	焼塩壷	9 区						(36.0)						
26	4	陶器	甕	9 区	中央基礎部分			(430.0)	213.0	502.0						
26	5	土製品	土人形	9 区	中央			(38.0)	(44.0)	(41.0)			無彩釉	赤褐色	赤褐色	牛馬の脚か
26	6	瓦器	植木鉢	9 区	北西			(124.0)	122.0	(70.0)	ロクロナデ	ロクロナデ		黒色	黄褐色	中央に穿孔有
26	7	瓦	軒平瓦	9 区	南			(115.0)			ナデ	ナデ	鉄釉	暗赤褐色	赤褐色	上面に釘穴有
26	8	石製品	硯	9 区			RQ1	100.1	66.7	10.0						
26	9	磁器	碗	12 区	SX9				47.0	(16.5)						見込 : 蝶紋　19C
26	10	磁器	碗	12 区	SX9			(113.0)	(47.0)	64.0			染付	灰白色	灰白色	外面 : 雪輪紋　18C 後半
26	11	磁器	碗	12 区	SX9			(70.0)	(56.0)	69.0			染付	白色	白色	外面 : 山水紋　19C
26	12	磁器	皿	12、8 区	SX9、SK189			123.0	41.0	29.0			染付	灰白	白色	外面 : 山水紋　高台癒着痕有　18C 後半
26	13	陶器	碗	12 区	SX9		RP4	(97.0)	(41.0)	(23.0)	ロクロ	ロクロ	長石釉	赤褐色	赤褐色	削り出し高台　高台露胎部磨耗　瀬戸美濃系　見込に胎土目痕磨耗

表 4　遺物観察表 (2)

図	No.	種別	器種	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
26	14	陶器	碗	12 区	SX9			(111.0)	50.0	57.0	ロクロ	ロクロ	透明釉	黄白色	黄白色	京信楽系　削り出し高台　高台内も含めて全体に施釉　18C
27	1	土師器	皿	12 区	SX9		RP5	121.0	69.0	28.0	ロクロ	ロクロ	無施釉	赤褐色	赤褐色	かわらけ　回転糸切　煤付着　口縁部一部打ち欠き　一部被熱　灯明皿
27	2	土師器	皿	12 区	SX9					27.0	ロクロ ナデ	ロクロ ナデ				かわらけ　内部被熱　回転糸切
27	3	土師器	皿	12 区	SX9			(105.0)	(61.0)	28.0	口縁 ロクロ ナデ	口縁 ロクロ ナデ				かわらけ　回転糸切　胎土に雲母片含む
27	4	土師器	皿	12 区	SX9			(109.0)	(64.0)	23.0						胎土に砂を多く含む　磨耗が激しい
27	5	土師器	皿	12 区	SX9			126.0	62.0	28.0	ロクロ	ロクロ				かわらけ　回転糸切　一部口縁欠け　口縁部に煤
27	6	土師器	皿	12 区	SX9			(114.0)	(65.0)	26.5		口縁部 ヨコ ナデ				かわらけ　回転糸切　口縁部一部欠け　内面被熱
27	7	土師器	皿	12 区	SX9			(104.0)	(63.0)	(24.0)		口縁部 ロクロ ナデ				かわらけ　回転糸切　被熱　内外煤付着
27	8	土師器	皿	12 区	SX9			(103.0)	(60.0)	25.0	ロクロ ナデ	ロクロ ナデ				かわらけ　回転糸切→ナデ　胎土に雲母片
27	9	磁器	皿	12 区	SX5			(144.0)	64.0	35.0						外面 : 唐辛子紋　内面 : うずら紋　底部 :「源六製」　明治
27	10	磁器	鉢	12 区	SX5					(34.0)			染付	白色	白色	内面 : 花紋　外面 : 唐草紋　18C
27	11	瓦	平瓦	9 区	SX5			(129.0)	(94.0)	23.0			無施釉	黒褐色	灰	
27	12	磁器	皿	12 区	SX1			(114.0)	(63.0)	22.0			赤絵金彩	白色	白色	内面 : 唐草
27	13	磁器	花瓶	12 区	SX1			18.0	26.0	57.0			色絵	白色	白色	外面 : 草花紋　近代
27	14	瓦器	火鉢	12 区	SX1					(28.5)	ロクロ ナデ	ナデ		外黒色 内灰白色	黒色	
27	15	磁器	鉢	12 区	SX2			148.5	81.5	73.0			染付	白色	白色	内面 : 雷紋、山水楼閣紋　外面 : 雪輪紋、山水紋　蛇目高台　型紙刷　近代
27	16	磁器	盃	12 区	SX2			84.0	32.0	36.0			色絵	白色	白色	内面 : 花紋　金彩ほとんど剥離　近代
27	17	陶器	土瓶	12 区	SX2			78.0	82.0	102.0	ロクロ	ロクロ	白化粧土・緑釉・鉄釉			大堀相馬系　削り出し高台　穴 5 ヶ　外面 : 梅花紋　19C
27	18	陶器	不明	12 区	SX3					(16.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉		赤褐	肥前系
28	1	磁器	碗	12 区	SK12		RP7	94.0	41.0	54.0			染付	青灰白	灰白	外面 : 印判椿紋　高台 : 大明年製くずし　18C 前
28	2	磁器	碗	12 区	SK12			(136.0)	(57.0)	(68.0)			染付	灰白色	灰白	外面 : 梅花紋　18C 後半
28	3	磁器	碗	12 区	SK12			(98.0)	(72.0)	(54.0)			染付	白色	白色	外面 : 寿字紋、山水紋　18C ～ 19C
28	4	磁器	花瓶	12 区	SK12			(30.0)	(42.0)	(57.5)			染付	灰白色	灰白色	外面 : 唐草
28	5	陶器	向付	12 区	SK12	23 層				(23.0)	ロクロ	ロクロ				鉄釉で施文　28-7 と同一系　唐津　17C

表 5　遺物観察表 (3)

図	No.	種別	器種	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
28	6	陶器	皿	12 区	SK12	23 層		(124.0)	(41.0)	37.0	ロクロ	ロクロ	灰釉	灰褐色	黄灰褐色	目痕有　削り出し高台　高台磨き痕　外面に鉄釉で紋様　唐津 17C
28	7	陶器	皿	12 区	SK12	23 層				(22.0)	ロクロ	ロクロ	透明釉	赤褐色	赤褐色	鉄釉で紋様　28-5 と同一系　唐津
28	8	陶器	皿	12 区	SK12	23 層		(121.0)	(43.0)	(34.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	赤褐色	褐色	削り出し高台　目痕 2 つ
28	9	陶器	皿	12 区	SK12	23 層				(18.0)	ロクロ	ロクロ	透明釉		黄褐色	京焼系
28	10	陶器	皿	12 区	SK12			(85.0)	47.0	(16.0)	ロクロ	ロクロ	銅緑釉	黄灰色	黄灰色	見込 : 蛇の目釉剥ぎ　削り出し高台　高台磨き痕　65-3 と同系　肥前　18C
28	11	陶器	皿	12 区	SK12			(123.0)	(45.0)	34.0	ロクロ	ロクロ	灰釉	赤褐色	褐色	削り出し高台　高台内目痕
28	12	陶器	碗	12 区	SK12	23 層				(27.5)	ロクロ	ロクロ	透明釉(茶系)		黄褐色	外面 : 紋様　京焼系
28	13	陶器	甕	12 区	SK12			(132.5)	(109.0)	(41.0)		ロクロ	無施釉	赤灰褐色	灰褐色	
28	14	陶器	甕	12 区	SK12					(24.0)	ロクロ	ロクロ	長石釉	黄灰褐色	灰色	
28	15	石製品	石鉢	12 区	SK12		RQ6	281.0	(144.0)	129.0						
28	16	石製品	砥石	12 区	SK12			60.0	41.0	15.0						仕上砥
28	17	磁器	皿	12 区	SK9			(126.0)	(61.0)	(25.0)			染付	白色	白色	内面 : 不明紋　18C
28	18	磁器	碗	12 区	SK9			(87.0)	(44.0)	62.5			染付	白色	白色	外面 : 一重網目紋　19C
28	19	土師器	皿	12 区	SK9			101.0	56.0	25.0	ロクロ	ロクロ				かわらけ　回転糸切　内面に煤付着　口縁部一部割れ
28	20	古銭		12 区	SK9		RM3									銭銘不明
28	21	土師器	壷	12 区					(61.0)		ナデ	ロクロナデ		暗褐色	黄褐色	底部ロクロナデ　中～近世
29	1	瓦	丸瓦	12 区				(138.0)	(64.5)	19.0				赤褐色	赤褐色	壁面
29	2	瓦	軒平瓦	12 区	T			(43.0)		21.5			鉄釉	赤褐色	青褐色	
29	3	瓦	平瓦	12 区	T			173.0	139.0	27.0				黒灰色	黄灰褐色	裏面ヘラナデ　表面線刻 2 本有
29	4	瓦	不明	12 区	表土			(95.0)	(62.0)	22.0						文字状の浮き彫り有り
29	5	古銭		12 区	壁											天保通寶
29	6	磁器	碗	8 区	SX165					4.0			青磁	緑灰色	暗灰色	中世か
29	7	磁器	鉢	8 区	SX165					(43.0)			青磁	青緑色	灰白色	内面 : 蓮弁紋　龍泉窯
29	8	磁器	花瓶	8 区	SX165					(37.0)			白磁	白色	白色	中世か
29	9	磁器	碗	8 区	SX134					17.0			青磁	暗緑色	暗灰	内面 : 線刻紋　龍泉窯
29	10	陶器	碗	8 区	SX134					(22.0)			天目釉		灰褐	天目茶碗　瀬戸美濃
29	11	陶器	擂鉢	8 区	SX134			(190.0)	(116.0)	(47.0)	ロクロ	ロクロ	無施釉	赤褐色	赤黄褐色	内面使用によりほぼ磨耗
29	12	磁器	鉢	8 区	SX134					(41.3)			青磁		灰	口縁部外に沈線
29	13	陶器	碗	8 区	SX134			(66.0)	(38.0)	(23.0)	ロクロ	ロクロ	天目釉	灰	灰	天目茶碗　瀬戸美濃　削り出し高台
29	14	陶器	不明	8 区	SX134					(11.0)		ロクロ	長石釉	赤褐色	黄褐色	水差しか火入れ　志野
30	1	瓦	軒平瓦	8 区	SX134			(148.0)	(170.0)	22.0				灰褐色	赤灰褐色	指紋付
30	2	磁器	鉢	8 区	SK149			(120.0)	68.0	48.0				白色	白色	段重鉢　18C 後半
30	3	磁器	酒盃	8 区	SK149			(73.0)	26.0	27.2			染付	白色	白色	内外面 : ぼかし紋　口縁部を歪ませてある
30	4	磁器	筒形碗	8 区	SX181			(66.0)	34.0	(10.0)			染付	白色	白色	見込 : こんにゃく印判　18C 末
30	5	陶器	片口鉢	8 区	SX181					(31.0)	タタキ		外灰釉・内なまこ釉	暗褐色	暗褐色	
30	6	陶器	碗	8 区	SX181			(92.0)	(48.0)	(52.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	乳白色	乳白色	外面 : 若松紋　京・信楽系　18C 中

表 6　遺物観察表 (4)

図	No.	種別	器種	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
30	7	瓦	丸瓦	8 区	SX181			(109.0)	(76.5)	21.0	ヘラナデ		無施釉	灰褐色	灰	
30	8	磁器	鉢	8 区	SX120			(103.0)	66.0	(34.0)			染付	白色	白色	外面 : 印判紋　断面に付着物 (修復痕)
30	9	陶器	碗	8 区	SX120			(66.0)	24.5	34.0	ロクロ	ロクロ	灰釉 (淡緑)	白褐色	白色	外面 : 笹紋　大堀相馬　削り出し高台　高台部無施釉
30	10	磁器	碗	8 区	SK142			98.0	34.0	56.0			染付		白色	外面 : 星形紋　内面に紅付着　見込 : 宝紋　19C 後半
30	11	磁器	蓋	8 区	SK142			(145.0)	(168.0)	34.5			染付	白色	白色	外面 : 菊紋　19 世紀
30	12	磁器	碗	8 区	SK142			(140.0)	52.0	51.0			染付	白色	白色	外面 : 花草紋 (秋草か)　見込 : 松竹梅　19C 前半
30	13	陶器	蓋	8 区	SK142			75.0	40.0	20.5	ロクロ		灰釉		赤褐色	全体被熱
30	14	瓦器	皿	8 区	SK142			224.0	230.0	(31.5)	ロクロナデ	ロクロナデ		暗褐色	青褐色	内面煤付着
31	1	瓦	平瓦	8 区	SK142			(113.0)	(117.0)	(21.5)				灰褐色	灰褐色	
31	2	瓦	平瓦	8 区	SK142			(81.0)	(127.5)	16.0				暗赤褐色	赤褐色	
31	3	磁器	碗	8 区	SX126			(116.0)	(46.0)	(55.0)			色絵	白色	白色	外面 : 籠目　赤絵金彩　幕末
31	4	陶器	碗	8 区	SD210					(30.5)	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄白	黄白	削り出し高台　高台内外無施釉
31	5	磁器	碗	8 区	SD210			98.0	38.0	49.0			染付	白色	白色	見込外面 : 柱紋様
31	6	磁器	鉢	8 区	SD210			(135.0)	84.0	68.0			染付	白色	白色	外面 : 青海波　内面の口縁部に釉剝ぎ　蓋有　19C
31	7	磁器	茶碗	8 区	SD210			(60.0)	(42.0)	76.5			染付	白色	白色	外面 : 竹紋　江戸後期
31	8	陶器	皿	8 区	SX132			(110.0)	(67.0)	(18.0)	ロクロ	型押し	鉄釉	暗褐色	黄褐色	
31	9	陶器	鉢	8 区	SX132					(20.0)	ロクロ	ロクロ	乳白釉		赤褐	削り出し高台　平清水　外面 : 植物紋　19C 後半～
31	10	土師器	皿	8 区	SX132					(9.0)	ロクロ	ロクロ				回転糸切
31	11	瓦	平瓦	8 区	SD210			(91.5)	(73.0)	14.5			鉄釉	暗褐色	赤褐色	
31	12	瓦	平瓦	8 区	SX126			(113.0)	(78.0)	9.0				黒灰褐色	灰喝	
31	13	瓦	丸瓦	8 区	SX132			(51.4)	(72.6)	21.0	ヘラナデ	あて布痕	無施釉	黒褐色	灰白	
31	14	古銭		8 区	SX132											紹聖元寶
32	1	金属	煙管吸口	8 区	SK192			90.0		10.0						
32	2	瓦	平瓦	8 区	SK192			(83.0)	(115.7)	16.5			鉄釉	暗赤褐色	赤灰褐色	
32	3	磁器	碗	8 区	SX178			76.0	34.0	43.5			色絵	白色	白色	内外に型染、外面 : 紅葉　見込 :「六？人」　近代
32	4	磁器	小碗	8 区	SX178			80.0	40.5	43.9			染付	白色	白色	印判　外面:家紋、瓦紋、鏡紋　底部 : 蛇目高台　近代
32	5	陶器	急須	8 区	SX178			(98.0)	(172.0)	(78.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄灰	黄灰	大堀相馬系　外面 : 山水紋　19C
32	6	瓦器	火入	8 区	SX178					(41.0)	ナデ	ロクロナデ	無施釉	黒色	黒褐色	
32	7	磁器	碗	8 区	SX169			78.0	32.0	45.0			染付	白色	白色	型紙摺り　外面 : 芭蕉葉紋様　32-8 と組　近代
32	8	磁器	碗	8 区	SX169			79.0	31.0	46.5			染付	白色	白色	型紙摺り　外面 : 芭蕉葉紋様　32-7 と組　近代

表 7　遺物観察表 (5)

図	No.	種別	器種	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
32	9	磁器	碗	8 区	SX169			74.0	36.5	42.0			色絵	白色	白色	赤絵　外面 : 龍　金彩　型紙　近代
32	10	磁器	皿	8 区	SX169			154.0	94.0	32.5			色絵	白色	白色	外面:唐草　内面:鳳凰、唐草、獏、宝　幕末～明治初期
32	11	磁器	皿	8 区	SX156			106.5	58.5	23.5			色絵	白色	白色	型紙　内面 : 山木家屋紋　口縁 : 茶　33-1 と組　近代
32	12	磁器	皿	8 区	SX168					23.0			染付	白色	白色	江戸後期
32	13	磁器	皿	8 区	SX168			(150.0)	(94.0)	48.0			染付	白色	白色	色絵　内面 : 草木紋、格子紋　外面 : 唐草紋　底部 : 蛇目高台
32	14	磁器	皿	8 区	SX168			113.0	57.5	27.0			染付	白色	白色	内面 : 花鳥紋　一部赤彩　裏面 : 不明文字　幕末
32	15	磁器	皿	8 区	SX168			122.0	72.0	26.0			色絵			錦手　内面 : 牡丹、花鳥紋　外面 : 蝙蝠紋　近代
33	1	磁器	皿	8 区	SX168			106.0	58.0	21.0			色絵	白色	白色	型紙　内面 : 山木家屋　口縁 : 茶　32-11 と組　近代
33	2	磁器	皿	8 区	SX168			153.0	91.5	30.0			染付	白色	白色	内面 : 網代垣紋、梅紋、金彩　窯印「肥前有田城岩」 明治末
33	3	磁器	皿	8 区	SX168			(80.0)	(44.0)	13.0			赤絵	白色	白色	内面 : 金彩唐草　口縁 : 金彩　近代
33	4	磁器	酒盃	8 区	SX168			70.0	26.0	27.5			色絵	白色	白色	外面 : 金彩剥離　内面 : 桜、雪輪紋内に「寿」　口縁 : 金彩
33	5	磁器	酒盃	8 区	SX168			64.0	22.0	23.5			色絵			内面 :「子ッスルミルクルスミルクで」 近現代
33	6	磁器	皿	8 区	SX168			107.0	38.0	23.0			染付	白色	白色	内外面 : 鯉　底部 : 辰
33	7	磁器	碗	8 区	SX168			105.0	40.0	54.0			色絵	白色	白色	錦手　にかわ修復有　外面 : 東屋山水紋、草花紋　内面 : 格子紋、松竹梅　近代　35-5 が同一蓋
33	8	磁器	鉢	8 区	SX168			(160.0)	(92.0)	56.5			染付	白色	白色	外面 : 唐草　内面 : 草、花、土筆　19C
33	9	磁器	蓋	8 区	SX168			96.0	42.0	30.5			染付	白色	白色	内面に使用傷　外面 : 梅花紋　近代
33	10	陶器	急須	8 区	SK168、SX169			56.0	(46.0)	56.0			焼締	暗褐色	黒褐色	底部布目　現代
33	11	瓦		8 区	SX168			(55.0)	(113.0)	14.0			無施釉	赤褐色	黒褐色	
33	12	土師器	皿	8 区	SX168					(13.0)	ロクロナデ	ロクロナデ				かわらけ　回転糸切
33	13	石製品	砥石	8 区	SX168			67.0	44.0	20.0						
33	14	磁器	碗	8 区	SK208	F				(52.0)			染付	白色	白色	外面 : 藤紋　内面 : ひし紋
33	15	磁器	茶碗	8 区	SK208			77.0	33.0	41.0			色絵	白色	白色	色絵　外面 : 七福神紋　型紙「夛東舎」 見込 : 金字で「九月」？　近代
34	1	瓦	平瓦	8 区	SK208	F		(143.5)	(95.5)	16.5			無施釉	黄褐色	黒褐色	黒瓦焼成不良
34	2	磁器	皿	8 区	SK143			(122.0)	78.0	24.0			色絵	白色	白色	内面 : 鳥獣、唐草、牡丹　近代
34	3	磁器	皿	8 区	SK143			(208.0)	(126.0)	29.0			染付	白色	白色	洋風皿　昭和
34	4	磁器	茶碗	8 区	SK143			(80.0)	36.0	(56.0)			染付	白色	白色	型紙　外面 : 雲紋　昭和

表 8　遺物観察表 (6)

図	No.	種別	器種	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
34	5	ガラス製品	薬瓶	8 区	SK143			15.5	23.0	62.0						
34	6	磁器	碗	8 区	SK179			(74.5)	49.5	22.5			染付	白色	白色	外面 :: 草花紋　高台ロクロ痕有　高台内墨塗り　17C か
34	7	磁器	茶碗	8 区	SK179			(76.0)	31.5	43.5			染付	白色	白色	型紙　外面 : 草花唐草紋　蛇目高台　窯印有　現代
34	8	陶器	盤	8 区	SK137			223.5	220.5	39.5			海鼠釉	赤褐色	赤褐色	裏面 : 刻書「え八□」在地？
34	9	瓦	平瓦	8 区	SK137			(79.4)	(76.9)	23.5						
34	10	瓦	平瓦	8 区	SK136			(43.0)	(50.4)	16.0			無施釉	黒	黄灰色	目釘穴有
34	11	陶器	擂鉢	8 区	SK135			(332.0)	(241.0)	(71.0)	ロクロ	ロクロ	口縁部鉄泥釉	赤褐色	赤褐色	表土出土　内面磨耗
34	12	陶器	擂鉢	8 区	SX220					(66.0)	ロクロ	ロクロ	鉄泥釉		暗赤褐色	
34	13	石	円盤状石製品	8 区	SX134				26.7	5.2						
34	14	骨製品	箸	8 区	SX153			(123.0)	(5.0)	(4.0)						象牙か
34	15	須恵器	壷	8 区	SD163					(56.0)	ロクロ ナデ	ロクロ ナデ				
34	16	須恵器	壷	8 区	ST182					70.0						
34	17	瓦	平瓦	8 区	SX154			(129.8)	(57.0)	21.0				黒灰色	灰褐色	
35	1	磁器	碗	8 区				80.1	37.5	46.0	ロクロ			白色	白色	黒色　内外面 : 葡萄紋手描き　歪み大　口縁 : 黒色　35-2 と組　近現代
35	2	磁器	碗	8 区				80.1	36.5	47.0	ロクロ			白色	白色	黒色　内外面 : 葡萄紋手描き　口縁 : 黒色　35-1 と組　近現代
35	3	磁器	碗	8 区				77.5	39.0	64.0			染付	白色	白色	外面 : 雲紋、葡萄　内面 : 雲紋、麒麟　見込 : 辰　現代
35	4	磁器	碗	8 区				82.0	27.0	32.3			色絵	白色	白色	内面 : 鶴紋、金縁　「富山市廣貫堂」
35	5	磁器	蓋	8 区	南			(93.0)	(37.0)	25.0			色絵	白色	白色	外面 : 草花紋、東屋山水紋　内面 : 格子紋、松竹梅　33-7 同一蓋　近代
35	6	磁器	酒盃	8 区				73.0	36.0	46.0			染付	白色	白色	外面 : 浪、雀、桜　印刷　高台 :「大日本華山製」　華山窯　近代
35	7	磁器	酒盃	8 区				76.0	34.0	45.0			染付	白色	白色	外面 : 浪、雀、桜　印刷　高台 :「大日華山」　近代
35	8	磁器	酒盃	8 区	南西表土			68.0	25.0	27.0			色絵	白色	白色	内面 : 鳳凰紋、「□十三□名刺年賀交換会」
35	9	磁器	皿	8 区				107.0	51.5	23.5			染付	灰白	やや茶	印判　内面 : 微塵唐草、団扇紋　目跡 4 ヶ所　近代
35	10	磁器	花瓶	8 区	中央部			(56.0)	73.0	48.0			青磁	青緑	白色	龍泉窯
35	11	陶器	碗	8 区	SD209					(29.0)			天目釉		灰	天目　近代か？
35	12	陶器	碗	8 区	西 T			(93.0)	44.0	(47.0)	ロクロ・下半ロクロ削り	ロクロ	内外灰釉	赤褐色	黄褐色	17C　削り出し高台
35	13	陶器	甕	8 区	SK237					(34.0)	ナデ	ナデ	鉄泥釉	灰色	灰色	砂粒を多く含む
35	14	土師器	蓋	8 区	中央部					8.5					赤褐色	砂多い　焼塩壷の蓋か？
35	15	土師器	皿	8 区	倒木痕・南壁 T					(21.0)	ヨコナデ	ヨコナデ			赤褐色	かわらけ　手捏ね

表 9　遺物観察表 (7)

図	No.	種別	器種	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
35	16	土師器	皿	8 区				(90.0)	(38.0)	(17.0)	ヨコナデ				赤褐	かわらけ　手捏ね
35	17	瓦	軒丸瓦	8 区	北			(23.0)	(82.0)	(68.5)			鉄釉	暗褐色	赤褐色	
35	18	瓦	平瓦	8 区	SK253			(66.5)	(90.0)	16.0			無施釉	黒褐色	赤褐色	黒色　燃焼不良
35	19	石製品	五輪塔	8 区	SD39			202.0	138.0							空風輪
36	1	石製品	凹み石	8 区				156.0	150.0	76.0						
36	2	骨製品	ヘラ	8 区	西 T			(106.0)	(20.0)	2.5						柄部分に穿孔
36	3	古銭		8 区	中央東 T											天保通寶 (長郭)
36	4	古銭		8 区	東 T											天保通寶 (広郭)
36	5	磁器	碗	5 区	SD39					(23.0)			青磁	茶緑色	灰白色	外面 : 蓮弁　13C 前半
36	6	磁器	蓋	4、5 区	SD39	遺構検出面		(68.0)	(37.0)	(17.0)			染付	白色	白色	外面 : 笹紋　内面 : 松竹梅　19C
36	7	陶器	水指	5 区	SD39					(31.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	灰褐	灰褐	瀬戸美濃
36	8	陶器	擂鉢	5 区	SD39、SK19		RP19、13、4	(332.0)	(161.0)	(115.0)	ロクロ	ロクロ	無施釉	黄褐色	灰色	長石を多く含む
36	9	土師器	甕	5 区	SD39					(46.0)						
36	10	土師器	皿	5 区	SD39		RP21	(101.0)	(47.0)	23.0	ロクロナデ	ロクロナデ				静止糸切　口縁部一部割　割口に火等付着。
36	11	古銭		4、5 区	SX22(SD39)		RM11									祥符通寶
36	12	磁器	碗	5 区	SP25					(21.0)			青磁		灰色	龍泉窯
37	1	陶器	皿	5 区	SP25					(14.0)			灰釉	赤灰褐	灰褐	唐津
37	2	陶器	皿	5 区	SE11					(20.0)	ロクロ	ロクロ	長石釉	白褐色	褐色	志野端反皿　17C
37	3	木製品	下駄	5 区	SE11			(186.0)	(95.0)	(27.5)						二枚歯　歯が激しく摩耗　底部横方向に棒状のものを押圧
37	4	磁器	碗	5 区	SD17					(36.0)			色絵	白色	白色	西壁　錦手　外面 : 草花紋
37	5	磁器	碗	5 区	SD17			(111.0)	55.0	(51.0)						西壁　外面 : 雪輪草花舟紋　18C 前半
37	6	磁器	碗	5 区	SD17			(105.0)	53.5	(35.0)			染付	白色	白色	西壁　外面 : 網目紋　18C 前半
37	7	磁器	碗	5 区	SD17	F23		(101.0)	(48.0)	(36.5)			染付	白色	白色	西壁　内面 : こんにゃく印判　外面 : 雪輪草花紋？　18C 後半
37	8	磁器	碗	5 区	SD17	F31			(35.3)				青磁	白色	白色	西壁掘り込み　龍泉窯？
37	9	磁器	皿	5 区	SD17				(43.0)	(16.0)			染付	灰白色	灰白色	西壁　外面 : 網干紋　18C 前半
37	10	磁器	碗	5 区	SD17			(119.0)	(60.0)	(45.0)			染付	白色	白色	外面 : 唐草紋　18C 前半
37	11	磁器	碗	5 区	SD17			(117.0)	(42.0)	56.0			染付	白色	白色	内面 : 唐草　外面 : 松梅紋　19C 前半
37	12	磁器	碗	5 区	SD17			86.0	49.0	67.0			染付	灰白色	白色	外面 : 松竹梅紋　高台縁に釉剝ぎ　深小丸碗　19C 前半
37	13	磁器	酒盃	5 区	SD17			(64.0)					染付	白色	白色	
37	14	磁器	花瓶	5 区	SD17			(123.0)	64.0	(80.5)			染付	白色	白色	19C 前半
37	15	陶器	皿	5 区	SD17			(111.0)	(44.0)	(26.0)	ロクロ	ロクロ	灰褐	褐色	褐色	削り出し高台　見込に砂目　唐津　17C 前半
37	16	陶器	皿	5 区	SD17			(133.0)	(68.0)	(27.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄褐	黄褐色	瀬戸美濃　18C　削り出し高台
37	17	陶器	皿	5 区	SD17			(90.0)	(36.0)	(23.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	赤褐色	灰褐	17C　削り出し高台
37	18	陶器	皿	5 区	SD17	F28				(19.0)			灰釉	暗灰褐	灰褐	西壁　唐津　17C 前半
37	19	陶器	皿	5 区	SD17	F27		125.5	52.0	32.0	ロクロ	ロクロ	透明釉	褐色	褐色	西壁拡張区　唐津　砂目　削り出し高台　17C 前半 (1620 ～ 1640)

表 10　遺物観察表 (8)

図	No.	種別	器種	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
37	20	陶器	皿	5 区	SD17			(126.0)	(79.0)	(26.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	褐色	褐色	西壁　外面被熱　輪禿皿　瀬戸美濃　18C 前半
37	20	土師器	皿	5 区	SD17	F22		78.0	48.0	25.0	ロクロナデ	ロクロナデ				西壁　口縁部一部欠　かわらけ小　回転糸切
37	21	陶器	碗	5 区	SD17	F28				(49.0)			灰釉	褐色	灰褐	西壁　下部屈曲より下削り　削り出し高台　肥前　17C
37	22	陶器	碗	5 区	SD17	F28				(37.0)	ロクロ	ロクロ	鉄釉		灰白	西壁　瀬戸美濃
37	23	陶器	碗	5 区	SD17					(33.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉 (黄褐)		黄褐色	瀬戸美濃
37	24	陶器	碗	5 区	SD17			(77.0)	(35.0)	(20.5)				灰白色	灰白色	内面砂目積　焼成良
37	25	土師器	甕	5 区	SD17					(48.5)	ハケメ	ハケメ				
38	1	陶器	甕	5 区	SD17			(119.0)	(218.0)	(71.0)			無施釉	赤褐色	赤褐色	肥前系　胎土に長石を含む　17C
38	2	陶器	擂鉢	5 区	SD17					(33.0)			鉄泥釉	赤灰褐	灰褐	
38	3	陶器	擂鉢	5 区	SD17					(38.0)			自然釉	褐色	褐色	胎土に長石混入
38	4	陶器	擂鉢	5 区	SD17					(46.0)	ロクロ	ロクロ	鉄釉		灰褐色	
38	5	陶器	擂鉢	5 区	SD17	F1～12		(15.0)	(89.0)	(39.0)	ケズリ		無施釉	赤褐色	赤黄褐	西壁　外面ロクロによるケズリ調整　削り出し高台　被熱
38	6	陶器	秉燭	5 区	SD17	F1		47.0	28.0	30.0	ロクロ	ロクロ	鉄釉	暗赤褐色		西壁　回転糸切
38	7	土師器	皿	5 区	SD17			(113.0)	(61.5)	26.5	ロクロナデ	ロクロナデ回転糸切				西壁　かわらけ　回転糸切　内部被熱
38	9	土師器	皿	5 区	SD17			119.0	63.0	29.0	ロクロナデ	ロクロナデ				西壁掘り込み　かわらけ　回転糸切　口縁部に煤付着
38	10	土師器	皿	5 区	SD17			(94.0)	(50.0)	22.5	ロクロ	ロクロ				西壁　かわらけ　回転糸切　西壁掘り込み
38	11	土師器	皿	5 区	SD17	F26		(108.0)	(77.0)	19.0	ロクロナデ	ロクロナデ				西壁　かわらけ　回転糸切　雲母を少量含む　口縁部に煤付着
38	13	土師器	皿	5 区	SD17			(117.0)	71.0	(22.0)	ロクロナデ	ロクロナデ				西壁掘り込み　かわらけ　回転糸切
38	14	土師器	皿	5 区	SD17	F9				(22.0)		ロクロ	無施釉	赤褐色	赤褐色	西壁　かわらけ
38	15	土師器	皿	5 区	SD17			(120.0)	(67.0)	29.2	ロクロナデ	ロクロナデ				西壁　かわらけ　回転糸切
38	16	土師器	焼塩壺	5 区	SD17			(52.0)	(89.0)	(79.0)	ロクロ	ロクロ	無施租	赤黄褐色	赤褐色	西壁掘り込み　外面に網目紋　38-17、18 と同一個体
38	17	土師器	焼塩壺	5 区	SD17			(52.0)	(71.0)	(63.0)	ロクロナデ押圧紋	ロクロナデ				西壁掘り込み 38-16、18 と同一個体
38	18	土師器	焼塩壺	5 区	SD17					(28.0)	ロクロナデ	ロクロナデ				西壁掘り込み　38-16、17 と同一個体　底部ナデ
38	19	金属	煙管吸口	5 区	SD17			68.0	9.0	9.0						
38	20	金属	小柄	5 区	SD17	F28		(157.0)	(6.0)	(9.0)						西壁拡張
38	25	土師器	皿	5 区	SD17			(126.0)	(107.0)	(22.0)		ロクロナデ				内面被熱　かわらけ
39	1	古銭		5 区	SD17	F28										西壁拡張　皇宋通寶
39	2	古銭		5 区	SD17	F1										西壁　新寛永通寶
39	3	古銭		5 区	SD17	F9										西壁　新寛永通寶
39	4	古銭		5 区	SD17											古寛永通寶
39	5	古銭		5 区	SD17											古寛永通寶 (2 枚目)
39	6	陶器	皿	5 区	SP32			(114.0)	(67.0)	12.0			灰釉	灰褐	褐色	瀬戸美濃　17C 前半
39	7	陶器	皿	5 区	SP36					27.5			灰釉	赤褐色	灰褐色	唐津 17 ～ 18C
39	8	陶器	擂鉢	5 区	SP36					(71.0)	ロクロ		鉄釉		赤褐色	在地

表 11　遺物観察表 (9)

図	No.	種別	器種	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
39	9	磁器	碗	5 区	SK19			(102.0)	41.0	71.0			染付	灰白色	白色	外面 : 網目紋　18C 後半
39	10	磁器	碗	5 区	SK19			(107.0)	(43.0)	68.0			染付	白色	白色	外面 : 山水紋か　高台施釉　18C 後半
39	11	陶器	碗	5 区	SK19					28.0			長石釉		灰白	瀬戸美濃　志野
39	12	陶器	皿	5 区	SK19					(34.0)			灰釉	赤褐色	灰褐色	唐津　17C
39	13	陶器	皿	5 区	SK19					(29.0)			灰釉	赤褐	灰褐	唐津
39	14	陶器	皿	5 区	SK19			(94.0)	(42.0)	(21.0)	ロクロ	ロクロ	透明釉	赤褐	灰褐	唐津　砂目　削り出し高台　17C 前半 1620 ～ 1640
39	15	陶器	甕	5 区	SK19					(67.0)		ロクロ	灰釉	赤褐色	灰	胎土に粗砂多い
39	16	陶器	擂鉢	5 区	SK19			(211.0)	103.0	(93.0)	ロクロ	ロクロ	鉄泥釉	赤褐色	暗灰褐色	内側に重ね焼の砂目有
39	17	土師器	坏	5 区	SK19			(111.0)	(58.0)	(26.0)	ロクロナデ	ロクロナデ				回転糸切　内部に煤付着　平安
39	18	土師器	皿	5 区	SK19			(92.0)	(57.0)	(18.0)	ロクロナデ	ロクロナデ				かわらけ　回転糸切
39	19	土師器	皿	5 区	SK19		RP5	119.0	61.0	31.0	ロクロナデ	ロクロナデ				かわらけ　回転糸切　口縁部一部割れ。割れ口に煤付着
39	20	土師器	皿	5 区	SK19			(89.0)	(67.0)	(12.0)	ロクロナデ	ロクロナデ				かわらけ　回転糸切
39	21	土師器	皿	5 区	SK19		RP6	(130.0)	(65.0)	30.5		ロクロナデ				かわらけ　激しく摩耗
39	22	土師器	皿	5 区	SK19			(73.0)	(51.0)	(14.5)	ロクロナデ	ロクロナデ				かわらけ　回転糸切　内部に付着物
40	1	土師器	焼塩壺蓋	5 区	SK19					(9.0)	ナデ	ナデ				側面指で押圧
40	2	土製品	羽口	4.5 区	SK19、SX22			60.0	45.0	12.0						
40	3	石製品	砥石	5 区	SK19			(61.0)	(40.0)	(43.0)						中砥
40	4	石製品	碁石	5 区	SD17			21.5	21.0	4.0						黒石
40	5	磁器	鉢	5 区	SK14			(148.0)	(109.0)	(55.0)			染付	白色	白色	外面 : 草花紋　内面磨耗　18C 後半～ 19C 前半
40	6	陶器	擂鉢	5 区	SK14、SD40 南壁					(98.0)	ロクロ	ロクロ	鉄泥釉	暗赤褐色	暗灰褐色	長石混入
40	7	磁器	花瓶	5 区	SK16			(82.0)	(64.0)	(21.0)			染付	白色	白色	高台内墨塗り　18C 後半～ 19C 前半
40	8	磁器	紅入	5 区	SK16			22.0	17.5	18.3			無施釉	白色	白色	内に紅　18C 後半？
40	9	陶器	皿	5 区	SK16			(115.0)	(62.0)	(18.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉		灰褐色	唐津　被熱
40	10	陶器	擂鉢	5 区	SK16					(70.0)	ロクロ	ロクロ	鉄釉		褐色	瀬戸美濃系
40	11	土師器	皿	5 区	SK16					(12.0)	ロクロナデ	ロクロナデ				かわらけ　回転糸切
40	12	磁器	角鉢	5 区	SD40			(79.0)	(52.0)	(31.0)						南壁　19C
40	13	陶器	秉燭	5 区	SD40			(36.0)	24.0	(11.0)	ロクロ		鉄釉	赤褐色	赤褐色	回転糸切
40	14	陶器	甕	5 区	SD40					(68.0)	タタキ		無施釉	灰褐	灰褐	珠洲系
40	15	磁器	徳利	5 区	SE12			26.5	69.0	189.0			染付	白色	白色	外面 : 山水紋　平清水か
40	16	陶器	鉢	5 区	SE12					(82.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉		黄褐色	外面 : 草紋　近世末
40	17	陶器	甕	5 区	SE12			(138.0)	(101.0)	(44.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉薬	灰	黄褐色	静止糸切　胎土に砂を多く含む
40	18	陶器	植木鉢	5 区	SE12			(137.0)	(68.0)	(76.0)	ロクロ	ロクロ	無施釉	褐色	褐色	底部穿孔有　切欠き一ヶ所
41	1	木製品	井戸枠	5 区	SE13			386.5	95.0	9.0						樽の転用　注ぎ口有
41	2	木製品	井戸枠	5 区	SE13			362.0	37.0	9.0						樽材転用
41	3	瓦器	炮烙	5 区	SK9			(173.0)	(144.0)	(18.5)	ロクロナデ	ロクロナデ				底部ロクロナデ
41	4	瓦器	火鉢	5 区	SK9、SK44			236.0	(188.0)	206.0						64-13 と同類
42	1	ガラス製品	薬瓶	5 区	SK9			11.0	32.0	69.0						

表 12　遺物観察表 (10)

図	No.	種別	器種	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
42	2	磁器	壺	5、12区	5区南T、南壁、12区東T			(13.0)	(22.0)	41.0			染付	白色	白色	18 ～ 19C
42	3	磁器	皿	5区	撹乱			(118.0)	(54.0)	(20.0)	ロクロ	ロクロ		褐色	褐色	内面 : 草紋
42	4	磁器	盃	5区	SX21			(72.0)	22.0	(24.0)						見込 :「花月庵」 近現代
42	5	磁器	酒盃	5区	SP27			(71.0)	(53.0)	(19.0)			染付	白色	白色	外面 : 笹紋
42	6	陶器	皿	5区				(122.0)	(40.0)	27.0	ロクロ	ロクロ	灰釉	赤灰褐色	灰褐色	唐津　見込に砂目　回転糸切　17C
42	7	陶器	皿	5区	SK33			(78.0)	43.0	(24.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	赤褐色	灰褐色	唐津　見込に砂目　削り出し高台
42	8	陶器	酒盃	5区				(76.0)	34.0	36.1	ロクロ		鉄釉	灰褐色	灰褐色	
42	9	陶器	不明	5区	SX29			13.0		40.0			鉄釉		褐色	五徳の脚部か
42	10	陶器	玩具	5区				63.0	12.5	19.0			灰釉、赤色釉	褐色	褐色	船
42	11	土師器	皿	5区	X=-193753.094 Y=-43472.773 H=140.683		RP23	111.0	(70.0)	22.5	ロクロ ナデ	ロクロ ナデ		褐色	褐色	かわらけ　回転糸切　口縁部に煤
42	12	土師器	皿	5区	X=-193762.0 Y=-43469.0					(23.0)	ロクロ	ロクロ		褐色	褐色	かわらけ
42	13	土師器	用途不明品	5区				(144.0)	(114.0)	56.0	ナデ	ナデ				内面被熱　底部ナデ
42	14	瓦器	炮烙	5区	SX22			(192.0)	(195.0)	(31.5)	ロクロ ナデ	ロクロ ナデ				
42	15	土製品	用途不明品	5区	SX22			(25.0)	(24.0)	(13.0)						胎土は粗砂含む　焼塩壺の蓋か？
42	16	土師器	用途不明品	5区				(51.0)	(57.0)	6.5	ナデ	ナデ				粘土に粗砂を含む側面を指で押し圧　焼塩壺の蓋か？
42	17	石製品	石臼	5区				194.0	434.5	173.0						下部
42	18	古銭		5区	X=-193759.0 Y=-43472.0 /X=-193758.971 Y=-43469.084 H=140.590		RM2									治平通寶 (真書)
42	19	古銭		5区	SD89											元祐通寶
43	1	陶器	鍋	5・8区	SD89			(106.0)	(58.0)	(20.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	褐	赤褐	削り出し高台　在地系　胎土目２つ付着　被熱
43	2	磁器	皿	4区・5区	SX21			90.0	52.0	15.7						型打小皿　見込 : 陽刻「寿」 瀬戸美濃　近代
43	3	磁器	そば猪口	4区				(68.0)	(52.0)	(34.5)			染付	白色	白色	18 ～ 19C
43	4	磁器	蓋	4区				(92.0)	44.0	27.0			染付	白色	白色	外面 : 椿紋　内面 : 雷紋　見込 : 綾杉紋　19C
43	5	磁器	碗	4区	撹乱			(96.0)	(41.0)	(48.0)						外面 : 雪輪紋　19C
43	6	磁器	碗	4区	撹乱			(126.0)	(52.0)	49.0			染付	白色	白色	外面 :「矢吹病院給食部」　43-7 とセット　近現代
43	7	磁器	皿	4区				(134.0)	(54.0)	40.5			染付	白色	白色	43-6 とセット　矢吹病院の食器か　近現代
43	8	磁器	盃	4区				(38.0)	27.5	(26.5)						京焼　高台 :「平安光楽」　近現代
43	9	ガラス製品	牛乳瓶	3区	中央			22.0	35.0	159.5						5 勺
43	10	ガラス製品	牛乳瓶	3区	中央			20.0	37.0	146.0						5 勺
43	11	金属	銃弾	3区				32.0	6.5	6.5						三十年式実砲　1897 ～ 1907　旋条痕有り
43	12	磁器	碗	2区				(59.0)	(36.0)	(25.0)			染付	白色	白色	高台砂目　18C
43	13	磁器	碗	2区				(108.7)	40.0	(45.0)			染付	白色	白色	内面 : こんにゃく印判　外面 : 草花紋　18C 後半

表 13　遺物観察表 (11)

図	No.	種別	器種	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
43	14	磁器	碗	2 区				98.0	39.0	50.0			染付	灰白色	白色	内面 : 雪輪草紋　底面窯印　18C 後半
43	15	磁器	碗	2 区						(34.0)			染付	灰白色	灰白色	堀跡　外面 : 雪輪紋　18C 後半
43	16	磁器	碗	2 区				(82.0)	37.0	(25.0)			染付	灰白色	灰白色	内外面 : 二重網目紋　18C 後半
43	17	磁器	碗	2 区				(87.0)	(39.0)	(43.0)			染付	乳灰白色	白色	外面 : 芭蕉紋？　19C 前半
43	18	磁器	皿	2 区				(116.0)	(76.0)	21.0			染付	白色	白色	内面 : 菊花紋　18C
43	19	磁器	皿	2 区				(90.0)	(32.0)	(24.0)			染付	白色	白色	外面 : 草花紋　内面 : 草紋　18C 後半
43	20	磁器	皿	2 区						(31.5)			染付	灰白色	灰白色	内面 : 花唐草紋　外面 : 唐草紋　18C 後半
44	1	磁器	皿	2 区				(212.0)	(152.0)	(21.0)			染付	白色	白色	内外面 : 唐草　18C 後半
44	2	磁器	皿	2 区				(126.0)	(63.0)	32.5			染付	白色	白色	内面 : 輪花紋　外面 : 唐草　18 ～ 19C
44	3	磁器	皿	2 区				(133.0)	(84.0)	(23.0)			染付	白色	白色	内面 : 菊唐草　見込 : 蛇ノ目釉剥ぎ　18C 後半
44	4	磁器	皿	2 区				(82.0)	(46.0)	(13.0)			染付	灰色	灰色	内面 : 山水紋　19C 前半
44	5	磁器	鉢	2 区				(156.0)	(100.0)	(48.0)			染付	白色	白色	外面 : 青磁　内面 : 格子紋、草花紋　蛇目高台　18C 後半
44	6	磁器	鉢	2 区				(132.0)	(102.0)	(34.5)			染付	白色	白色	重ね鉢　外面 : みじん唐草
44	7	磁器	蓋	2 区				(137.0)	(154.0)	(34.0)			染付	白色	白色	段重の蓋　外面 : 唐草雪輪　18C 後半
44	8	磁器	花瓶	2 区				(18.0)	(11.0)	(37.0)			染付	白色	白色	外面 : 唐草　18C 後半
44	9	磁器	酒盃	2 区				(56.0)	24.0	(17.3)			白磁	白色	白色	無紋　18C 後半？
44	10	磁器	壷	2 区						(70.5)	ロクロ	ロクロ	染付		灰白	内面に付着物 (煤)　肥前　外面 : 植物紋　18C ？
44	11	陶器	蓋	2 区				(55.0)	(68.0)	9.5			青磁	褐灰白色	灰白色	上部につまみ剥離痕有　大堀相馬
44	12	陶器	碗	2 区				(76.0)	41.0	(18.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄白灰色	黄白灰色	内面 : 山水紋　磨耗　肥前　17C 後半？
44	13	陶器	碗	2 区				(83.0)	51.0	(26.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄白灰色	黄白灰色	肥前　17C 後半？
44	14	陶器	碗	2 区				(68.0)	39.0	(16.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄褐色	黄褐色	削り出し高台　高台内外無施釉　18 ～ 19C
44	15	陶器	碗	2 区				(91.0)	(58.0)	(14.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄褐色	黄褐色	見込 : 褐釉で紋様　削り出し高台　高台無施釉
44	16	陶器	碗	2 区				(77.0)	(32.0)	(32.0)			灰釉(白)	白色	白色	
44	17	陶器	碗	2 区				(128.0)	(79.0)	26.5	ロクロ	ロクロ	灰釉	灰褐色	灰褐色	削り出し高台　大堀相馬　18 ～ 19C
44	18	陶器	碗	2 区				(58.0)	(31.0)	(14.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉(白)	白褐色	白褐色	削り出し高台　大堀相馬　磨耗
44	19	陶器	碗	2 区				(84.0)	(38.0)	(27.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	灰褐色	灰白色	高台内無施釉　削り出し高台　大堀相馬　18 ～ 19C
44	20	陶器	碗	2 区				(97.0)	(43.0)	(39.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	灰白色	灰白色	高台無施釉　削り出し高台　大堀相馬　18 ～ 19C
44	21	陶器	皿	2 区				(48.0)	(30.0)	(13.0)			灰釉 (淡黄)	灰黄	灰黄	高台裏無釉
44	22	陶器	皿	2 区						(19.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄褐色	黄褐色	内面に紋様　削り出し高台

表 14　遺物観察表 (12)

図	No.	種別	器種	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
44	23	陶器	皿	2 区				(86.0)	47.0	(17.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉			削り出し高台　輪禿皿　瀬戸美濃　18C
44	24	陶器	皿	2 区				(122.0)	(87.0)	(24.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉（白）	褐色	褐色	内部目痕有　削り出し高台
44	25	陶器	鉢	2 区						(61.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	灰褐色	灰褐色	
45	1	陶器	蓋	2 区				(82.0)	(53.0)	15.0	ロクロ	ロクロ	灰釉	灰白褐色	灰白色	大堀相馬　18 ～ 19C
45	2	陶器	蓋	2 区				(77.0)	(44.0)	(18.0)		ロクロナデ	織部	黄褐色	黄褐色	つまみ内部　削り出し高台　内部無施釉　断面磨耗
45	3	陶器	秉燭	2 区				(19.5)	36.0	(18.0)	ロクロ		無施釉	黄褐色	黄褐色	軸貼付　底部回転糸切
45	4	陶器	秉燭	2 区				(44.0)	36.5	44.5	ロクロ	ロクロ	鉄釉	褐色	褐色	回転糸切　底部軸孔有
45	5	陶器	仏飯器	2 区				(43.0)	(48.0)	(43.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	灰白色	灰白色	回転糸切
45	6	陶器	仏飯具	2 区				(44.0)	(18.0)	(31.0)	ロクロ		灰釉	灰白色	灰白色	
45	7	陶器	香炉	2 区						(19.0)	ロクロ	ロクロ	白花粧土	黄褐色	黄褐色	
45	8	陶器	徳利	2 区						(53.0)	ロクロ	ロクロ	鉄釉		灰色	油徳利　47-1 と同系統
45	9	陶器	徳利	2 区				(74.0)	(66.0)	(28.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	灰白色	灰白色	底部ナデ　割れ口磨耗　大堀相馬か
45	10	陶器	擂鉢	2 区				(168.0)	(124.0)	(38.0)	ロクロ		鉄泥釉	褐色	褐色	底部穿孔
45	11	陶器	擂鉢	2 区				(201.0)	(117.0)	(55.0)	ロクロ	ロクロ	鉄泥釉	褐色	褐色	底部ロクロナデ
45	12	陶器	擂鉢	2 区						(39.0)			鉄泥釉	赤褐色	赤褐色	使用痕有
45	13	陶器	擂鉢	2 区						(82.0)	ロクロ	ロクロ	鉄泥釉	赤褐色	褐灰白色	胎土に砂粒を含む
45	14	陶器	擂鉢	2 区						(40.5)	ロクロ	ロクロ	無施釉	赤灰褐色	暗灰褐色	
45	15	陶器	擂鉢	2 区						(35.0)					赤褐色	
45	16	陶器	擂鉢	2 区						(41.5)			鉄泥釉		赤褐色	
45	17	陶器	擂鉢	2 区						8.5			鉄釉	暗褐色	暗赤褐色	
45	18	陶器	擂鉢	2 区						13.5	ロクロ	ロクロ	鉄釉	褐色	灰白	
45	19	陶器	擂鉢	2 区						(9.0)	ロクロ	ロクロ	鉄釉	暗赤褐色	赤褐色	割れ口磨耗
45	20	陶器	擂鉢	2 区						(62.0)	ロクロ	ロクロ	鉄釉	暗赤褐色	褐色	
45	21	陶器	擂鉢	2 区						(51.0)	ロクロ	ロクロ	鉄釉	暗赤褐色	褐色	
45	22	陶器	擂鉢	2 区						(89.0)	ロクロ	ロクロ	鉄釉	暗褐色	褐色	
45	23	陶器	擂鉢	2 区						(72.0)	ロクロ	ロクロ	鉄釉	暗褐色	灰褐色	
45	24	陶器	擂鉢	2 区				(333.0)	(231.0)	(86.0)	ロクロ	ロクロ	鉄釉	赤褐色	赤褐色	
46	1	陶器	甕	2 区				675.0	260.0	900.5					粗砂混	内面に藍が付着　明治～昭和
46	2	陶器	甕	2 区				740.0		255.0	ナデ	ナデ			粗砂	内面に藍が付着
47	1	陶器	甕	2 区				(26.0)		(45.0)	ロクロ	ロクロ	鉄釉		褐色	45-8 と同系統
47	2	陶器	甕	2 区						(56.0)	ロクロ	ロクロ	灰白釉	赤褐色	赤褐色	被熱
47	3	陶器	焼台	2 区				(94.0)	(77.0)	18.0			無施釉	灰色	灰色	回転糸切　中央に穿孔
47	4	土師器	皿	2 区						(32.0)	ロクロナデ	ロクロナデ				かわらけ　ロクロナデ　外全面をヘラで撫でている
47	5	瓦器	甕	2 区						(52.0)				黒色	黄褐色	外面に粒状の押圧紋
47	6	瓦器	火鉢	2 区						(46.0)			無施釉	黒褐色	灰褐色	摩耗　47-7 のサイズ違い　外面に押圧紋
47	7	瓦器	火鉢	2 区						(20.0)		ロクロナデ	無施釉	黒褐色	灰褐色	47-6 とサイズちがい　底部ナデ　外部に押圧紋
47	8	瓦	軒平瓦	2 区				(64.0)		37.0			無施釉	黒灰色	灰褐色	山形市教委分類 FG1
47	9	瓦	軒平瓦	2 区				(87.0)		37.0	ナデ	ナデ	無施釉	黒色	灰褐色	山形市教委分類 FG1
47	10	瓦	軒平瓦	2 区	堀跡			(60.0)					無施釉	黒褐色	灰白色	山形市教委分類 FG1
47	11	瓦	軒平瓦	2 区				(56.6)	(24.5)	38.0			無施釉	黒色	灰色	山形市教委分類 FG1 か　胎土に大粒砂を含む
47	12	瓦	軒平瓦	2 区				(23.0)		(47.5)			鉄釉	暗赤褐色	黒褐色	堀最下層

表 15　遺物観察表 (13)

図	No.	種別	器種	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
47	13	瓦	軒平瓦	2 区				(58.0)		47.0			鉄釉	暗赤褐色	赤褐色	近代？
47	14	瓦	軒平瓦	2 区				(66.0)		37.0			無施釉	黒灰色	灰褐色	
47	15	瓦	軒丸瓦	2 区				(78.0)	(103.0)	18.0	ナデ	あて布痕	鉄釉	暗赤褐色	黒褐色	
47	16	瓦	軒丸瓦	2 区				(18.0)		(32.0)			無施釉	黒色	灰白色	
48	1	石製品	砥石	2 区	堀跡			73.0	52.0	22.0						中砥
48	2	石製品	硯	2 区				(61.0)	53.0	9.0						
48	3	木製品	将棋の駒	2 区				27.0	25.0	9.0						下層　「王将」　落葉樹
48	4	木製品	板材	2 区	堀跡			(130.0)	(78.0)	7.0						表に墨書　穿孔 4 箇所
48	5	木製品	板材	2 区	堀跡			130.0	30.0	8.0						表裏両側面に漆塗り
48	6	木製品	櫛	2 区		最下層		48.0	(51.0)	5.0						漆塗り
48	7	木製品	箸	2 区	堀跡			230.0	6.0	6.0						
48	8	木製品	箸	2 区				(238.0)	(9.0)							使用痕跡有り
48	9	ガラス製品	牛乳瓶	2 区		表層		(20.0)	45.0	(154.0)						
48	10	陶器	壷	11 区	SK8					(92.0)						48-11 と同一固体
48	11	陶器	壷	11 区	SK8					(82.0)	ロクロ	ロクロ	白泥釉	赤褐色	赤褐色	外革花紋　平清水　48-10 と同一固体　近現代
48	12	陶器	擂鉢	11 区	SK8			304.0	120.0	142.0	ロクロ　ナデ	ロクロ　ナデ	鉄釉	暗褐色	黄褐色	削り出し高台　底部穿孔　植木鉢に転用
48	13	磁器	皿	11 区	SD16			(116.0)	75.0	(25.0)			染付	白色	白色	見込 : 松竹梅紋　型紙刷り　高台蛇目高台　瀬戸美濃　近代
48	14	陶器	鉢	11 区	SD16			(217.0)	11.0	(90.5)	ロクロ	ロクロ	白泥釉		黄褐色	削り出し高台　内面 : 山水紋　平清水
49	1	陶器	瓶	11 区	SD16			(188.0)	102.0	(74.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉		灰色	
49	2	磁器	鉢	11 区	SD15			(164.0)	164.5	(43.0)			染付	白色	白色	口縁唐草紋　外面 : 菊花紋　近代
49	3	磁器	皿	11 区	SD14			(262.0)	(177.0)	(28.5)			染付	白色	白色	内面 : 花蝶紋　型紙　産地不明　近代
49	4	磁器	碗	11 区	SD14			(97.0)	46.0	(29.0)			色絵	白色	白色	内面 : 松竹梅　外面 : 草花紋　近代
49	5	磁器	碗	11 区	SD14			(75.0)	40.0	48.0			白磁	白色	白色	見込 : 中央「栄玉堂」、周り「旭座前通支店」　産地不明　近代
49	6	磁器	碗	11 区	SD14			(137.0)	66.0	(54.0)						プリント　瀬戸　外面 : 竹紋　近代
49	7	磁器	盃	11 区	SD14			57.0	28.0	29.0						外面 : 丸紋　銅版転写　内面 : 寿紋　近代
49	8	磁器	人形	11 区	SD14			54.5	(25.5)	(20.0)			色絵	白色	白色	金彩一部残　左側頭部に穴　近代
49	9	陶器	植木鉢	11 区	SD14			(212.0)	(92.0)	164.0			白濁釉	赤褐色	灰褐色	外帆掛舟紋　在地　近代
49	10	瓦器	羽釜	11 区	SD14					(47.0)			無施釉	黒色	黄褐色	断面磨耗
49	11	瓦器	蒸しかまど	11 区	SD14					(61.0)		ナデ		黒色	赤褐色	「ムシカマド」印刻有
49	12	ガラス製品	薬瓶	11 区	SD14			19.0	26.8	43.8						歯科用セメント　19C 末ごろ
49	13	磁器	鉢	11 区	SK7			(140.0)	(11.1)	(37.0)			色絵	白	白	内面 : 宝、梅紋　外面 : 丸紋と唐草　19C
49	14	陶器	擂鉢	10、11 区	SK7					(68.0)			内面 : 灰釉　外面 : 鉄釉		灰色	
49	15	ガラス製品	薬瓶	11 区	SK7			10.0	23.0	62.0						皮膚病薬　尾澤薬局　20C 前半
49	16	古銭		11 区	SK7											一銭銅貨　裏 : 龍紋

表 16　遺物観察表 (14)

図	No.	種別	器種	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
50	1	磁器	盃	11 区	SX6			(67.0)	(26.0)	42.5						外面 : 菊花紋　文字多数不明　近代
50	2	磁器	人形	11 区	西 T				32.0	53.5			色絵		白灰色	「萬古」印　布袋像　水差しか
50	3	陶器	茶碗	11 区	北 T			(69.5)	36.0	(23.5)	ロクロ削り	ロクロ	鉄釉	黄灰褐色	黄灰褐色	天目茶碗　胎土に砂粒を多く含む　削り出し高台
50	4	陶器	皿	11 区	北 T			(104.0)	(37.0)	(26.0)			灰釉	赤褐色	赤褐色	唐津
50	5	陶器	甕	10、11 区	SK13			(186.5)	135.0	52.0		ロクロナデ	鉄泥釉	赤褐色	赤褐色	
50	6	陶器	土製品	11 区				28.0	12.0	17.0			無施釉	赤褐色	赤褐色	水鳥
50	7	瓦器	鉢	11 区						(56.0)		ミガキ		黒色	黄褐色	外面に刻紋
50	8	須恵器	甕	11 区				(194.0)	(268.0)	(74.0)	タタキ	アテ				
50	9	土師器	皿	11 区				(97.0)	(79.0)	(16.0)	ロクロナデ	ロクロナデ				かわらけ　回転糸切→ナデ　表土
50	10	土師器	焼塩壷	11 区	南壁西側					(43.0)	ナデ	ナデ			黄褐色	胎土に長石含む　手づくね
50	11	瓦器	甕	11 区	南壁西側					(28.0)			無施釉	黒褐色	白灰色	削り出し高台
50	12	磁器	碗	1 区	SK86			(72.0)	(27.0)	45.5			染付	灰白色	白色	外面 : 雨降り紋　高台砂目　19C
50	13	磁器	鉢	1 区	SK86			(146.0)	(74.0)	(54.0)			染付	白色	白色	内面 : 草花紋、唐草 外面 : 唐草紋、龍紋 19C
50	14	磁器	鉢	1 区	SK86					26.5			色絵	白色	白色	外面 : 印判紅葉紋　19C
50	15	磁器	皿	1 区	SK86			(134.0)	75.0	40.0			染付	灰白色	灰白色	内面 : 草花紋、こんにゃく印判　外面 : 唐草紋、渦福　18C 後半
50	16	磁器	皿	1 区	SK86			(127.0)	43.0	38.5	ロクロ	ロクロ	染付	灰色	灰色	内面 : 二重斜格子紋 見込 : 蛇目釉剥ぎ　削り出し高台　焼成不良　18C 中～後
50	17	磁器	皿	1 区	SK86			119.0	46.0	38.0						内面 : 二重斜格子紋 見込 : 蛇ノ目釉剥ぎ 18C 後半
50	18	磁器	皿	1 区	SK86			(89.5)	(56.0)	(20.0)			染付	灰白色	灰白色	内面 : 紅葉曲水紋　19C 以降
50	19	磁器	皿	1 区	SK86			(117.0)	(62.0)	19.0			染付	白色	白色	内面 : 型紙人物紋、亀甲紋、青海波　近代
51	1	磁器	皿	1 区	SK86			(86.0)	55.0	17.5			染付	白色	白色	輪花皿　内面 : 椿　近現代
51	2	磁器	壺	1 区	SK86			(104.0)	(56.0)	(56.2)			青磁	青緑色	白色	19C 以降
51	3	磁器	仏飯具	1 区	SK86			(58.0)	39.0	(38.0)			染付	灰白色	灰白色	18C
51	4	陶器	碗	1 区	SK86			93.0	34.0	55.0	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄灰	灰色	削り出し高台　高台内外無施釉　大堀相馬
51	5	陶器	火入	1 区	SK86					(34.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉		黒褐色	内面 : 無施釉　在地か
51	6	陶器	擂鉢	1 区	SK86			(234.0)	146.0	(134.0)	ロクロ	ロクロ	鉄釉	赤褐色	黄褐色	
51	7	陶器	甕	1 区	SK86			(193.0)	(358.0)	(164.0)	ロクロ	ロクロ	鉄釉		褐色	内外施釉　在地
51	8	陶器	秉燭	1 区	SK86			(46.0)	27.0	35.0	ロクロ	ロクロ	鉄釉	灰褐色	灰褐色	回転糸切
51	9	瓦器	火鉢	1 区	SK86					(67.0)		ロクロナデ	無施釉	黒褐色	灰色	雷紋縁中国紋火鉢　明治初期
52	1	磁器	碗	1 区	SX79			98.0	(40.0)	(51.0)			染付	白色	白色	外面 : 雪輪紋　18C 後半
52	2	磁器	小皿	1 区	SX79			(47.0)	(20.0)	15.5			染付	白色	白色	見込 : こんにゃく印判　19C
52	3	陶器	碗	1 区	SX79			(94.0)	(46.0)	(22.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	灰色	灰色	大堀相馬　削り出し高台　高台内外無施釉
52	4	陶器	湯呑	1 区	SX79			(73.0)	(37.0)	(34.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉 (青灰)	灰白	黄灰	削り出し高台　高台内無施釉
52	5	磁器	碗	1 区	SX85			(99.0)	44.0	(43.0)			染付	白色	白色	内面 : 宝珠紋　外面 : 吉祥紋　高台 : 朱書き 18C

表 17　遺物観察表 (15)

図	No.	種別	器種	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
52	6	磁器	徳利	1 区	SX85			(109.0)	(104.0)	(50.0)			染付	白色	白色	19C
52	7	陶器	鉢	1 区	SX85			(159.0)	(147.0)	(37.0)			灰釉		灰色	大堀相馬
52	8	磁器	酒盃	1 区	SX85			64.0	22.0	28.0			染付	白色	白色	口縁部赤彩　高台 : 波紋　内面 :「庄内屋」底部に窯印　近現代
52	9	磁器	鉢	1 区	SX72			(119.0)	(52.0)	70.0			染付	白色	白色	外面 : 青磁　内面 : 花菱紋　見込 : こんにゃく印判　高台 : 角福 19C
52	10	磁器	鉢	1 区	SX72			(160.0)	(148.0)	64.0			染付	白色	白色	重ね鉢　外面 : 花紋型紙刷　近代
52	11	陶器	碗	1 区	SX72			(94.0)	(36.0)	57.0	ロクロ	ロクロ	灰釉	灰色	灰色	削り出し高台　高台内無施釉　大堀相馬
52	12	磁器	盃	1 区	SX72			72.0	24.0	29.0			色絵	白色	白色	内面 :「山形　祝□業小池旅館」
52	13	磁器	盃	1 区	SX72			80.0	30.5	32.5			白磁			内面に付着物　見込 : 金彩で「祝捷」
52	14	陶器	鉢	1 区	SX72			(246.0)	(117.0)	(74.0)	ロクロ	ロクロ	白泥釉	赤褐色	赤褐色	削り出し高台　在地系、平清水か
52	15	陶器	鉢	1 区	SX72			(220.0)	(185.0)	(64.5)	ロクロ	ロクロ			黄褐色	52-16 と同系　在地系
52	16	陶器	甕	1 区	SX72			(184.0)	(40.0)	(59.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄褐色	黄褐色	52-15 と同系　見込みに目跡　削り出し高台
53	1	陶器	甕	1 区	SX72			(154.0)	203.0	244.0	ロクロ	ロクロ	内外灰釉　口縁海鼠釉	灰褐色	灰褐色	54-5 と同系　底部ロクロナデ　焼成時にゆがみ
53	2	陶器	秉燭	1 区	SX72			(41.0)	(37.0)	(48.5)	ロクロ	ロクロ	鉄釉	灰褐色	灰褐色	回転糸切　底部 : 軸孔
53	3	陶器	焼台	1 区	SX72			100.0	91.5	25.5			自然釉	褐色	灰褐色	
53	4	陶器	鉢	1 区	SK84			362.0	139.0	203.0	ロクロナデ	ロクロナデ	外透明釉　内乳白釉	赤褐色	赤褐色	削り出し高台　見込に目痕 6 つ
53	5	陶器	植木鉢	1 区	SK84			(260.0)	(216.0)	(87.0)	ロクロ	ロクロ	白泥釉	赤褐色	赤褐色	平清水　外面 : 山水紋　口縁部 : 雲紋　19C 後半～
54	1	磁器	碗	1 区	SD68			(98.0)	(38.0)	57.0			染付	灰白色	灰白色	外面 : 雪輪草花紋　18C 後半
54	2	磁器	蓋	1 区				(58.0)	(43.0)	(12.0)			染付	白色	白色	内面 : 丸紋　外面 : 朱書きで「はたこ町」 19C
54	3	陶器	土瓶	1 区	SX71			84.0	(129.5)	(30.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄褐色	黄褐色	外面に緑釉、鉄釉で施紋　大堀相馬
54	4	陶器	壺	1 区	SD82			(82.0)	(64.0)	(126.0)	ロクロ	ロクロ	白泥釉	赤褐色	赤褐色	削り出し高台　外面に植物紋　平清水
54	5	陶器	甕	1 区				222.0	122.0	282.0	ロクロ	ロクロ	灰釉　口縁海鼠釉	灰褐色	灰褐色	53-1 と同系　底部ナデ　内部に目跡 5 つ　在地
54	6	土器	皿	1 区	X=-193678.0 Y=-43424.0			(97.0)	(76.0)	21.0	ロクロナデ	ロクロナデ				かわらけ　回転糸切→ナデ
54	7	土師器	炮烙	1 区	東壁					(21.0)	ロクロナデ	ロクロナデ				底部ロクロナデ　外面煤付着
54	8	瓦器	甕	1 区						(56.0)	ロクロナデ	ナデ		黒褐色	灰黄褐色	
54	9	瓦器	火鉢	1 区				(304.0)		(65.0)	ナデ	ナデ			黄褐色	外面 : 梅花紋、電紋の印刻
54	10	陶器	皿	7 区	SX38			(104.0)	(66.0)	(22.0)			灰釉		赤褐色	瀬戸美濃
54	11	瓦	平瓦	7 区	SX38			(86.5)	(108.5)	27.0				灰黒褐	灰	
54	12	瓦	平瓦	7 区	SX38			(68.0)	(154.0)	25.0					灰褐色	
55	1	瓦	平瓦	7 区	SX38			(133.0)	(82.7)	24.0				黒灰褐色	灰褐色	被熱
55	2	石製品	石鉢	7 区	SX38			172.5	(103.5)	68.0						底部に脚有
55	3	石製品	円盤状石製品	7 区	SX38			21.5	23.0	6.5						

表 18　遺物観察表 (16)

図	No.	種別	器種	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
55	4	石製品	硯	7 区	SX38			(56.5)	(42.5)	(7.0)						
55	5	陶器	皿	7 区	SX39					(23.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉		赤黄褐色	重ね焼き　瀬戸美濃
55	6	古銭		7 区	SX39											永樂通寶
55	7	瓦	平瓦	7 区	SX39			(115.0)	(86.5)	23.0	ナデ			黒褐色	灰褐	底部ナデ　割れ口磨耗　大堀相馬か
55	8	磁器	碗	7 区	SX101			(89.0)	34.0	41.5	ロクロ	ロクロ	染付		灰白	削り出し高台　内面に付着物　破損後に紅皿に転用　焼成不良　高台 : 大明年製くずし　外面 : 雪輪紋　18C 後半
55	9	磁器	碗	7 区	SX101			(81.0)	(39.0)	(24.0)	ロクロ	ロクロ	染付		灰色	18C 後半
55	10	磁器	碗	7 区	SX101					(40.5)			染付	白色	白色	外面 : 幾何学紋　19C
55	11	磁器	皿	7 区	SX101					(27.0)			染付	白色	白色	外面 : 唐草紋　内面 : 花紋　18C 後半～ 19C
55	12	陶器	碗	7 区	SX101			90.0	29.0	54.7	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄灰	黄灰	外面 : 色絵植物紋　削り出し高台　高台内外無施釉　大堀相馬
55	13	陶器	小碗	7 区	SX101			86.0	37.0	55.5	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄灰色	灰色	削り出し高台　高台部無施釉　大堀相馬
55	14	瓦器	火入	7 区	SX101			(304.5)	(269.0)	(42.0)	ナデ	ナデ	無施釉	黒色	灰褐色	外面に押圧紋
56	1	瓦	火鉢	7 区	SX101					(35.5)	ナデ		無施釉	灰褐色	灰白色	脚部
56	2	石製品	砥石	7 区	SX101			42.0	46.0	23.0						中砥
56	3	石製品	硯	7 区	SX101			33.0	60.9	19.2						
56	4	磁器	皿	7 区	SK109					(18.0)			白磁	白色	白色	56-19、57-14 と同系　見込 : 蛇目釉剝ぎ　19C
56	5	陶器	碗	7 区	SK109			(97.0)	41.0	(44.0)	ロクロ	ロクロ	内面 : 灰釉　外面 : 鉄泥釉		黄灰色	壁面　腰錆湯呑　瀬戸　削り出し高台　18C 後半
56	6	瓦	丸瓦	7 区	SK109				(102.5)	(25.0)	ヘラミガキ	あて布痕		黒色	灰褐色	
56	7	磁器	碗	7 区	SK115			(82.0)	(42.0)	(24.0)			染付	白色	灰白	外面 : 雪輪紋　見込 : 大明年製くずし　18C 前半
56	8	磁器	碗	7 区	SK115					(35.0)			染付	白色	灰白	外面 : 草花紋　18C
56	9	陶器	碗	7 区	SK115			(59.0)	42.0	(21.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄褐色	黄褐色	削り出し高台
56	10	陶器	土瓶	7 区	SK115			(132.0)	(74.0)	(27.5)			銅青磁	黄灰白	灰色	胎土目付き　大堀相馬
56	11	磁器	碗	7 区	SK113					(43.0)			染付	白色	白色	外面 : 唐草紋　18C 後半～ 19C 前半
56	12	磁器	碗	7 区	SK113					26.0			染付	白色	白色	外面 : 格子紋　19C
56	13	陶器	焼台	7 区	SK115			(97.0)	(116.0)	(33.0)				褐色	暗褐色	回転糸切　中央部に穿孔
56	14	磁器	蓋	7 区	SK113			(68.0)	(36.0)	(15.0)			染付	白色	白色	外面 : 唐草紋　18C 後半～ 19C 前半
56	15	陶器	土瓶	7 区	SK113			47.0	48.0	94.5	ロクロ	ロクロ	銅青磁	黄褐色	黄褐色	注ぎ口に穴２つ　削り出し高台　胎土目３つ付着　被熱　大堀相馬
56	16	瓦	丸瓦	7 区	SK113			(94.0)	(6.5)	20.0	ナデ	あて布痕	鉄釉	暗赤褐色	黒褐色	
56	17	磁器	碗	7 区	SK110			(106.0)	(44.0)	63.0			染付	灰白	灰白	外面 : 二重格子　内面 : 青海波、草紋　19C 前半
56	18	磁器	碗	7 区	SK110			78.0	(38.0)	48.0						外面 : 扇子紋　19C
56	19	磁器	皿	7 区	SK110			(77.0)	40.0	(17.0)				白褐色	白色	56-4、57-14 と同系　見込 : 蛇目釉剝ぎ　19C
56	20	磁器	花瓶	7 区	SK110			16.0		30.5			白磁	白色	灰白色	無地　18C 後半～ 19C
56	21	磁器	仏飯器	7 区	SK110					(35.5)			染付	青白色	白色	19C

表 19　遺物観察表 (17)

図	No.	種別	器種	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
57	1	陶器	蓋	7 区	SK110			(71.0)	(88.0)	(16.0)						60-6 の蓋　大堀相馬
57	2	瓦器	火入	7 区	SK110					(69.0)	ナデ	ロクロ	無施釉	暗褐色	暗褐色	
57	3	瓦	平瓦	7 区	SK110			(110.3)	(115.5)	24.5				黒褐色	灰褐色	
57	4	磁器	碗	7 区	ST107			(92.0)	36.0	(46.0)			染付	灰白	灰白	内面 : 一重網目紋　見込 : 花紋　外面 : 二重網目紋　高台 : 渦福　18C 後半
57	5	磁器	碗	7 区	ST107			(79.0)	38.0	(27.0)			染付	灰白	灰白	高台 : 大明年製くずし　外面 : 草花紋か　18C 後半
57	6	磁器	碗	7 区	ST107					22.5			染付		灰白	内面に漆　内外面 : 二重網目紋　18C 後半
57	7	磁器	碗	7 区	ST107			(98.0)	(39.0)	54.0			染付	灰白	灰白	外面 : 菊花紋　高台 : 渦福
57	8	磁器	碗	7 区	ST107			(88.0)	38.0	(48.0)			染付	灰白	白色	外面 : 雪輪紋　高台 : 大明年製くずし
57	9	磁器	碗	7 区	ST107			100.0	40.0	49.0			染付	白色	白色	外面 : 花蝶紋　19C 前半
57	10	磁器	皿	7 区	ST107			(122.0)	(23.0)	39.0						内面 : 二重格子紋　見込 : 蛇目釉剥ぎ　18C 前
57	11	磁器	皿	7 区	ST107			(93.0)	(49.0)	(20.5)			染付	灰白	灰白	内面 : 草花紋　全体に貫入　18C 後半～ 19C 前
57	12	磁器	そば猪口	7 区	ST107			(60.0)	44.0	(28.5)			染付	白色	白色	外面 : 唐草紋　高台 : 角福　18C 後半
57	13	磁器	壷	7 区	ST107			(62.0)	(22.0)	(25.0)			染付	灰白	白色	外面 : 草花紋？　19C
57	14	陶器	碗	7 区	ST107			(132.0)	(42.0)	43.0	ロクロ	ロクロ				見込 : 蛇目釉剥ぎ　削り出し高台　肥前　18C 後半
57	15	陶器	碗	7 区	ST107			(90.0)	(30.0)	54.5	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄灰色	灰色	削り出し高台　高台内 : 外無施釉　大堀相馬　18C 後半
57	16	陶器	碗	7 区	ST107			(113.0)	(46.0)	62.5	ロクロ	ロクロ	内面 : 灰釉、外面 : 鉄釉	灰白	灰色	外面下半にロクロによる線刻　大堀相馬　18C 後半以降 19C か
57	17	陶器	碗	7 区	ST107			(106.0)	(76.0)	(41.0)			灰釉		灰色	大堀相馬
57	18	陶器	碗	7 区	ST107			(101.0)	(34.0)	58.5	ロクロ	ロクロ	灰釉		灰色	削り出し高台　大堀相馬
57	19	陶器	碗	7 区	ST107			96.5	38.0	57.5	ロクロ	ロクロ	灰釉、鉄釉	黄灰	黄灰	削り出し高台　高台内無施釉　大堀相馬
57	20	陶器	碗	1、7 区	ST107			(105.0)	(39.0)	(43.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄褐色	黄褐色	高台内も施釉　肥前？
57	21	陶器	皿	7 区	ST107			(88.0)	(48.0)	(17.0)	ロクロ	ロクロ	銅緑釉			削り出し高台　見込 : 蛇ノ目釉剥ぎ　肥前　17C ？
57	22	陶器	鉢	7 区	ST107			(179.0)	(108.0)	(42.0)			外面 : 鉄釉、内面 : 灰釉	赤褐色	赤褐色	内面に沈線紋
57	23	陶器	香炉	7 区	ST107					(46.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄白色	黄白色	大堀相馬系
57	24	陶器	蓋	7 区	ST107			(110.0)	(74.0)	(31.0)	ロクロ	ロクロ	無施釉	赤褐色	赤褐色	内外面に多量の付着物、灯明皿に転用
58	1	陶器	擂鉢	7 区	ST107					(49.0)			鉄泥釉		赤褐色	
58	2	陶器	鍋	7 区	ST107					(19.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	赤褐色	赤褐色	胎土目付　在地
58	3	陶器	小壺	7 区	ST107			(47.0)	(29.0)	41.5			灰釉		灰色	大堀相馬
58	4	陶器	小型甕	7 区	ST107			(90.5)	(70.0)	(46.5)	ロクロ	ロクロ	鉄釉		赤褐色	在地
58	5	陶器	甕	7 区	ST107			(111.0)	(62.0)	(43.0)	ロクロ	ロクロ	鉄釉	褐色	褐色	底部ロクロナデ
58	6	陶器	甕	7 区	ST107			(178.0)	(180.0)	(100.0)			灰釉		灰色	胎土に砂を多く含む　在地
58	7	陶器	秉燭	7 区	ST107			(52.0)	(13.0)	(41.0)	ロクロ	ロクロ	内面 : 鉄釉	灰褐色	赤褐色	内面に付着物有

表 20　遺物観察表 (18)

図	No.	種別	器種	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
58	8	陶器	秉燭	1、7区	ST107			47.0	(37.0)	53.0	ロクロ	ロクロ	鉄釉	黄灰色	黄灰色	回転糸切　内面：煤付着　底部：軸孔有
58	9	陶器	秉燭	7区	ST107			(50.0)	37.0	50.5	ロクロ	ロクロ	鉄釉	黄白	黄白	底部：軸孔有
58	10	陶器	不明	7区	ST107			(116.0)	(217.0)	(38.0)	ロクロ	ロクロ	緑釉		赤褐色	全体施釉　在地系
58	11	土師器	壷	7区	ST107					(38.0)						平安
58	12	土師器	皿	7区	ST107			(58.0)	(39.0)							
58	13	土製品	不明	7区	ST107					10.5	ナデ					外面に印刻有　中央に穴有　穴内側ヘラ削り
58	14	瓦	軒瓦	7区	ST107			(87.0)		54.5			無施釉	黒灰褐色	灰褐色	山形城分類 FD1 型式
58	15	瓦	軒丸瓦	7区	ST107			(83.5)	(129.0)	(33.5)	ナデ		無施釉	灰褐色	灰色	
58	16	石製品	砥石	7区	ST107			128.0	52.5	25.0						中砥　線刻面有
58	17	磁器	皿	7区	SK93					9.0			染付	青灰白	灰白	18C 後半
58	18	磁器	碗	7区	SK93					3.5			染付	白色	白色	外面：草花紋　内面：花菱紋　19C か
58	19	磁器	火入れ	7区	SK93			(99.0)	(71.0)	(39.0)			染付	灰白	灰白	18C 後半
59	1	陶器	碗	7区	SK93					(18.0)			長石釉		黄灰白	志野
59	2	陶器	碗	7区	SK93			(82.0)	(37.0)	(29.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	灰黄色	灰黄色	削り出し高台　大堀相馬
59	3	陶器	碗	7区	SK93			(33.0)	30.0	(9.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	灰色	灰色	削り出し高台
59	4	陶器	碗	7区	SK93			(60.2)	39.5	17.5	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄褐色	黄褐色	削り出し高台　高台内部無施釉　大堀相馬
59	5	陶器	盃	7区	SK93			(37.0)	(26.0)	(21.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	灰白	灰白	削り出し高台　胎土砂粒多い　内側に鉄釉で紋様
59	6	陶器	土瓶	7区	SK93			(141.0)	(166.0)	(57.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉		赤褐色	在地？
59	7	陶器	甕	7区	SK93					48.5	ロクロ	ロクロ	鉄釉		灰色	在地
59	8	須恵器	坏	7区	SK93					36.0	ロクロ	ロクロ				回転ヘラ切
59	9	瓦	平瓦	7区	SK93			(201.0)	(130.0)	(23.0)			無施釉	暗灰褐色	暗灰色	被熱、煤付着
59	10	磁器	碗	7区	SK95			(92.0)	(34.0)	(31.0)			染付	灰白	灰白	外面：よろけ縞紋　見込：斜格子紋　19C
59	11	磁器	碗	7区	SK95			(98.0)	(31.0)	(46.0)			染付	白色	白色	外面：草花紋　19C
59	12	磁器	碗	7区	SK95			(17.0)	(41.0)	57.0			染付	白色	白色	外面：よろけ縞紋　見込：ハリ痕　内面：寿くずし　19C
59	13	磁器	茶碗	7区	SK95			(87.0)	(40.0)	(32.0)			染付	灰白	灰白	外面：斜格子紋　19C
59	14	磁器	皿	7区	SK95					(18.5)			白磁	白色	灰白	61-4、61-19 と同系 19C
59	15	磁器	皿	7区	SK95			(108.0)	(64.0)	23.0						内面：草花紋　外面：唐草、草花紋　19C
59	16	磁器	皿	7区	SK95			(97.0)	(52.0)	24.0			染付	白色	白色	内面：花紋　外面：菊花紋　近世
59	17	磁器	皿	7区	SK95					(7.0)			染付	灰白	白色	内面：青磁染付　外面：青磁　時期不明
59	18	磁器	徳利	7区	SK95					7.5						底部に墨書「わタ□」
59	19	陶器	碗	7区	SK95			(101.0)	52.0	(36.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	灰色	灰色	削り出し高台　大堀相馬
59	20	陶器	鉢	7区	SK95			58.0	37.5	42.0	ロクロ	ロクロ	鉄釉	褐色	褐色	底部ロクロナデ　上部に切込有
59	21	陶器	擂鉢	7区	SK95					(48.0)			鉄泥釉		赤褐色	
59	22	陶器	紅皿	7区	SK95			55.0	28.0	19.0	型押し	ナデ	白泥釉		灰褐色	底部ナデ
59	23	陶器	鍋	7区	SK95			(112.0)	(76.0)	(21.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	暗赤褐色	赤褐色	底部ロクロナデ　外に胎土目付　全体被熱
59	24	陶器	壺	7区	SK95			24.0	(61.0)	(41.0)	ロクロ	ロクロ	鉄釉		灰色	
59	25	陶器	壺	7区	SK95			37.0	34.5	(68.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉		灰色	大堀相馬
60	1	陶器	壺	7区	SK95			(120.0)	(74.0)	(71.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	灰白色	灰白色	大堀相馬　18 ～ 19C
60	2	陶器	土製品	7区	SK95			(38.0)	(22.0)	(13.0)			白泥釉に青色釉		赤褐色	用途不明
60	3	陶器	焼台	7区	SK95			99.0	78.0	14.0			無施釉	赤褐色	赤褐色	回転糸切
60	4	陶器	焼台	7区	SK95			90.0	92.0	22.0			無施釉	赤褐色		回転糸切

表 21　遺物観察表 (19)

図	No.	種別	器種	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
60	5	古銭		7 区	SK95											聖栄元寶 (草書体)
60	6	陶器	土瓶	7 区	SK100			78.0	(167.0)	(72.0)	ロクロ	ロクロ	銅青磁	褐色	黄褐色	57-1 が蓋　大堀相馬
60	7	陶器	秉燭	7 区	SK100			42.0	31.0	24.0	ロクロ	ロクロ	鉄釉	灰褐色	灰褐色	在地
60	8	陶器	鉢	7 区	SK99					(39.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉		赤褐色	内面 : 無施釉
60	9	陶器	甕	7 区	SK99				(162.0)	(82.0)	ロクロ	ロクロ	鉄釉	暗赤褐色	暗赤褐色	底部粗砂付着
60	10	磁器	皿	7 区	SX33			(144.0)	(75.0)	27.0			染付	白色	灰白	型紙刷り　外面 : 菊花紋　内面 : 花紋　近代
60	11	陶器	盃	7 区	SX33			(48.0)	(21.0)	26.0	ロクロ	ロクロ	透明釉		灰色	削り出し高台
60	12	陶器	片口鉢	7 区	SX33			(118.0)	(98.0)	(33.0)			白泥釉		灰色	
60	13	陶器	擂鉢	7 区	SX33			(240.0)		73.0			褐釉	暗褐色	暗褐色	
61	1	陶器	焼台	7 区	SX33			80.5	75.0	21.0			無施釉	赤褐色	赤褐色	回転糸切
61	2	陶器	焼台	7 区	SX33			45.0							赤褐色	底部布目痕　2 種類の土と白色の小石
61	3	陶器	焼台	7 区	SX33			76.0	82.0	19.5						回転糸切　線刻「二」
61	4	瓦	平瓦	7 区	SX33			(132.0)	(225.0)	(20.0)				赤褐色	赤褐色	
61	5	瓦	軒丸瓦	7 区	SK70			(38.5)		(13.0)	ナデ		無施釉	黒褐色	白灰色	
61	6	陶器	蓋	7 区	SK56			(34.0)	(50.5)	(15.0)			灰釉	黄灰	黄灰	京焼
61	7	陶器	碗	7 区	SK55、SK56			110.0	47.0	64.5	ロクロ	ロクロ	織部釉	黄褐色	黄褐色	削り出し高台　高台 : 印刻
61	8	陶器	鉢	7 区	ST71			(152.0)	(99.0)	(55.5)	ロクロ	ロクロ	白泥釉	赤褐色	赤褐色	用途不明
61	9	磁器	皿	7 区	ST71			89.0	54.5	15.5			染付	白色	白色	口縁部に緑色線　高台 :「662」　現代
61	10	陶器	片口鉢	7 区	ST71			(198.0)	(84.0)	102.0	ロクロ	ロクロ	灰釉			削り出し高台　目痕 2 つ　在地
61	11	瓦器	用途不明	7 区	ST71			(80.0)	(80.5)				無施釉	黄褐色	黄褐色	被熱
62	1	磁器	皿	7 区	SK59			(65.0)	(38.0)	(17.0)			染付	灰白	灰白	見込 : 虫紋　19C
62	2	磁器	皿	7 区	SK59			159.5	80.5	28.5			色絵	白色	白色	内面 : 落葉紋　現代
62	3	磁器	鉢	7 区	SK59			145.0	69.0	59.0			染付	白色	白色	内面 : 山水楼閣紋、漢詩　外面 : 雪紋、草紋　高台 :「喜祥」　近代
62	4	陶器	碗	7 区	SK59、SK95			(77.0)	(27.0)	(33.0)	ロクロ	ロクロ	長石釉	黒褐色	黄褐色	削り出し高台　内外被熱　高台部に付着物　京、信楽系
62	5	陶器	水盤	7、9 区	SK59			(188.0)	(26.0)	43.0					赤褐色	9 区南、7 区南西
62	6	陶器	擂鉢	7 区	SK59			(324.0)	(144.0)	153.0	ロクロ	ロクロ	鉄釉	褐色	褐色	底部ロクロナデ　底部に焼台付着　底部穿孔　植木鉢に転用
62	7	陶器	植木鉢	7 区	SK59			(148.0)	(70.0)	(111.0)	ロクロ	ロクロ	緑涌	赤褐色	灰褐色	
62	8	陶器	植木鉢	7 区	SK59			(245.0)	(161.0)	98.0	型押し	型押し	外海鼠釉			中央　底部に墨書「コシワ」　在地
62	9	陶器	植木鉢	7 区	SK59			(113.0)	55.5	69.0			焼締	赤褐色	灰褐色	底部切欠 3 ヶ所
62	10	壁材		7 区	SK59					(61.0)						粗砂多く含む　藁材を多く含む
63	1	石製品	石臼	7 区	SK59			(290.0)	(320.0)	181.0						
63	2	ガラス製品	薬瓶	7 区	SK59			14.0	20.0	71.0						
63	3	ガラス製品	薬瓶	7 区	SK59			10.0	13.0	44.0						
63	4	ガラス	瓶	7 区	SK59			18.5	43.0	198.5						牛乳瓶
63	5	ガラス	瓶	7 区	SK59			15.0	48.0	100.0						「BIYMAN」白髪染　昭和 14 年販売開始
63	6	磁器	茶碗	7 区	SK61			(69.0)	(31.0)	50.0			染付	白色	白色	高台 : 屋号　現代
63	7	石製品	石材	7 区	SK61			129.0	113.0	84.0						玄武岩　四面は綺麗に成形　一面にはノミ痕有
63	8	磁器	碗	7 区				(78.0)	32.0	(44.0)			染付	灰白	灰白	外面 : 菊花紋　見込 : こんにゃく印判　18C 後半

表 22　遺物観察表 (20)

図	No.	種別	器種	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
63	9	磁器	碗	7 区						(43.0)						内面 : 格子紋　外面 : 七宝紋　18C 後半
63	10	磁器	碗	7 区	中央			(103.0)	(41.0)	54.0			染付	灰白色	灰白色	外面 : 草花紋　18C 後半
63	11	磁器	碗	7 区	北			(97.0)	(37.0)	(35.0)			染付	青灰白	灰白	外面 : 唐草紋　見込 : 香の図紋　18C 後半
63	12	磁器	碗	7 区	北			(89.0)	40.0	(35.0)			染付	灰白	灰白	見込 : 不明紋、ハマ痕　外面 : 山水紋　19C 後半
63	13	磁器	皿	7 区	北			(136.5)	(48.0)	29.5						見込に釉剥ぎ　18C 後半
63	14	磁器	皿	7 区						(30.5)			染付	灰白	灰白	内面 : 唐草紋　18C 後半
63	15	磁器	盃	7 区	中央			(74.0)	(28.0)	31.0			白磁	白色	白色	見込 :「花園商店」
64	1	磁器	皿	7 区				130.5	74.0	35.0			染付	白色	白色	内面 : 雪輪草紋　見込 : 不明紋　蛇目高台　18C 後半～ 19C
64	2	磁器	重ね鉢	7 区				(149.0)	114.0	55.0			染付	白色	白色	外面 : 鳥紋　割れの修復痕　18C 後半
64	3	磁器	蓋	7 区	中央			(96.0)	48.0	30.0			染付	白色	白色	外面 : 草紋　高台内 : 虫紋　見込 : 虫紋　18C 後半
64	4	磁器	蓋	7 区	表土			(115.0)	(136.0)	26.0			染付	白色	白色	外面 : みじん唐草　上部つまみ痕有　18C 後半
64	5	陶器	碗	7 区	南			(105.0)	43.0	81.5			鉄釉	赤褐色	赤褐色	手捏ね成形　64-6 と共伴出土　被熱　「楽」印有　近～現代？
64	6	陶器	碗	7 区	南			(109.0)	42.5	77.0			鉄釉	赤褐色	赤褐色	手捏ね成形　64-5 と共伴出土　被熱　「楽」印有　近～現代？
64	7	陶器	蓋	7 区	SK75			(88.0)	(73.0)	12.0	ロクロ	ロクロ	灰釉	灰白	灰白	
64	8	陶器	焙烙	7 区	表土			(23.0)	(13.0)	29.0	型押し	ナデ	無施釉	灰白	灰白	割れ口に煤付着
64	9	陶器	水差し	7 区	中央			62.5	36.0	(53.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄灰色	灰色	削り出し高台　大堀相馬
64	10	陶器	仏飯具	7 区	北側東壁	下層		75.0	48.0	56.0	ロクロ	ロクロ	灰釉、鉄釉	黄灰	灰	回転糸切
64	11	瓦	丸瓦	7 区	SD210			(114.8)	(103.3)	24.0	ﾍﾗﾅﾃﾞ	布目圧痕	鉄釉	暗褐色	黒褐色	外横方向にナデの後に縦方向にナデ
64	12	瓦	平瓦	7 区	SK192			(158.0)	(119.5)	16.0)				黒褐色	黄灰色	
64	13	瓦器	火鉢	7 区	SK58			227.0～251.0	225.0	(225.0～230.0)	ヘラナデ	ヘラナデ	無施釉	赤褐色	赤褐色	41-4 と同類　扉 :「三河□□□本部製□」印
64	14	瓦器	火鉢	7 区	表土					(36.0)	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ		黒色	黄褐	外面に押圧紋
64	15	瓦器	皿	7 区	南部石集中部					(31.0)				黒褐色	灰黄褐色	胎土に石英含む
64	16	古銭		7 区	SK49											一銭銅貨 (龍)
65	1	磁器	碗	10 区	SK13			(71.0)	(32.0)	(21.0)			染付	灰白	灰白	外面 : 山水紋？　焼成不良　18C 後半
65	2	磁器	蓋	10 区	SK13			(85.0)	(31.0)	(26.0)			染付	白色	乳白色	外面 : 草紋　見込 : 不明紋　18C ～ 19C
65	3	陶器	碗	10 区	SK13			(66.0)	(46.0)	(15.2)	ロクロ	ロクロ	銅緑釉	黄灰色	黄灰色	見込 : 蛇ノ目釉剥ぎ　削り出し高台　高台磨き痕　28-10 と同系　肥前　18C
65	4	陶器	火入	10 区	SK13					(39.0)			灰釉	黄灰	黄灰	内面 : 無施釉　外面 : 施紋　大堀相馬
65	5	陶器	小型鉢	10 区	SK13			(52.0)	34.0	(16.0)	ロクロ	ロクロ	鉄釉	赤褐色	暗灰褐色	胎土に長石や砂を多く含む　在地産か
65	6	陶器	花瓶	10 区	SK13			(59.0)	(64.0)	(56.0)	ロクロ	ロクロ	鉄釉	赤褐色	灰褐色	底部に成作時の割れ有　肥前系

表 23　遺物観察表 (21)

図	No.	種別	器種	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
65	7	陶器	甕	10 区	SK13			(692.0)		(715.0)	ナデ	ナデ				備前系
65	8	陶器	植木鉢	10 区	SK13			(194.0)	(168.0)	(123.0)			無施釉	赤褐色	赤褐色	
65	9	瓦器	火鉢	10 区	SK13			220.0		(70.0)			無施釉	赤褐色	赤褐色	内部激しく被熱　型枠
66	1	瓦器	火鉢	10 区	SK13			(58.0)		29.0		ナデ	無施釉	赤黄褐色	黄褐色	外面激しく被熱
66	2	瓦器	火鉢	10 区	SK13			194.0	128.0	199.0	ナデ	ナデ	円形	無施釉	赤褐色	内面激しく被熱　胎土に長石を多く含む。
66	3	石製品	硯	10 区	SK13			(147.0)	75.0	21.5						裏面に線刻「本高□上石」
66	4	瓦	軒丸瓦	10 区	SK13			(59.0)	(69.5)	19.0			無施釉	灰色	灰色	
66	5	石製品	石版	10 区	SK13			(76.5)	(85.0)	3.0						
66	6	石製品	砥石	10 区	SK13			(21.3)	(46.0)	(12.0)						仕上砥
66	7	磁器	碗	10 区				117.5	45.0	64.5			染付	青灰白	灰白	外面 : 菊唐草　見込 : 草紋　高台 :「大明」 17C 後半
66	8	磁器	碗	10 区	壁			(158.0)	(82.0)	(54.0)			染付	白色	白色	外面 : 梅竹紋　18C
66	9	磁器	碗	10 区	西 T			(98.0)	(36.0)	(51.0)			染付	灰白	灰白	内外面 : 一重網目紋　見込 : 菊花紋　高台 : 渦福　18C 後半
66	10	磁器	碗	10 区	西 T			(72.0)	(61.0)	(26.0)			染付	青白色	白色	見込 : 不明紋　外面 : 不明紋　19C 前
66	11	磁器	碗	10 区	壁			(99.0)	(61.0)	(45.0)			染付	青灰白	灰白	見込 : 不明紋　外面 : 草花紋　19C 前
66	12	磁器	碗	10 区	表土			(106.0)	(34.0)	61.0						外面 : 牡丹唐草紋　見込 :「寿」 端反碗　19C
67	1	磁器	碗	10 区				(96.0)	(38.0)	57.0						外面 : 草花紋　17C 末～ 18C 初
67	2	磁器	碗	10 区				(73.0)	(31.0)	46.0						外面 : 雨降り紋　18C ～ 19C
67	3	磁器	小碗	10 区				(66.0)	(32.0)	39.0			染付	乳白	灰白	外面 : 不明紋　19C
67	4	磁器	鉢	10 区	表土			(131.0)	74.0	(19.0)			染付	灰白	灰白	内面 : 格子紋三引両蛇目高台　18C ？
67	5	磁器	皿	10 区	西 T			(134.0)	(70.0)	30.0			染付	灰白色	灰白色	内面 : 二重斜格子紋　外面 : 折枝紋？　見込 : 蛇目釉剥ぎ　18C 後半
67	6	磁器	皿	10 区				(134.0)	(78.0)	40.0			染付	白濁色	灰白	内面 : 雪輪紋　見込 : 松竹梅紋　外面 : 不明紋　蛇目高台　全体にアルミナ塗布　19C
67	7	磁器	皿	10 区				(92.0)	(39.0)	(26.0)	ロクロ	ロクロ		赤褐色	赤褐色	全体被熱　釉が溶ける　見込 :「大明」 高台部削り　杯に転用
67	8	磁器	鉢	10 区	壁			(134.0)	(58.0)	41.0			染付	白色	灰色	外面 : 草紋　見込 : 釉剥ぎ　18C 後半～ 19C
67	9	磁器	皿	10 区	表土			(83.0)	16.0	(13.5)			染付	白色	白色	内面 : コンニャク印判　高台 : 渦福　18C
67	10	磁器	皿	10 区				(114.0)	(54.0)	(17.5)			染付	灰白	灰白	内面 : 菖蒲紋　年代不明
67	11	磁器	皿	10 区				280.5	157.5	37.5			染付	白色	白色	型紙刷り　瀬戸美濃　内面 : 松竹梅、牡丹紋　外面 : 菊水紋　近代
68	1	磁器	蓋	10 区				(94.0)	48.0	25.8			染付	青白色	白色	見込高台 : 打ち出の小槌紋？　68-2 と同規格　外面 : 宝紋、菊花紋　18C
68	2	磁器	蓋	10 区	壁			(93.0)	(44.0)	(29.0)			染付	青灰白	白色	見込高台 : 打ち出の小槌紋？　68-1 と同規格　外面 : 宝紋、菊花紋　18C

表 24　遺物観察表 (22)

図	No.	種別	器種	調査区	遺構及び出土地点	層位	登録番号	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	外面	内面	装飾・施釉	外面色調	胎土	備考
68	3	磁器	絵具皿	10 区	壁			32.0	32.0	6.0			白磁	白	白	底に陰刻「小放光堂」近代以降
68	4	磁器	盃	10 区				66.5	25.0	27.5			白磁	白	白	見込:金彩で「小池旅館」
68	5	磁器	壷	10 区				(77.5)	(67.0)	(60.5)		ロクロ	染付	白色	白色	外面 : 草木紋　18C 後半
68	6	陶器	皿	10 区				(97.0)	(39.0)	(21.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	灰褐色	灰色	見込に砂目痕跡　削り出し高台　下部高台無施釉　肥前　17C
68	7	陶器	碗	10 区	西 T			(99.0)	(36.0)	(4.0)	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄褐色	黄褐色	削り出し高台　高台部内外無施釉　大堀相馬系
68	8	陶器	水差し	10 区						(28.0)	ロクロ	ロクロ	長石釉	黄灰	黄白灰	外に鉄釉で紋様　瀬戸美濃　志野　17C
68	9	陶器	小型壷	10 区	表土			33.0	22.0	33.5	ロクロ	ロクロ	鉄釉	灰色	灰色	近代
68	10	陶器	秉燭	10 区	西 T			(46.0)	34.0	(37.0)	ロクロ	ロクロ	鉄釉	灰色	灰色	回転糸切　底部軸孔
68	11	須恵器	鉢	10 区						(33.5)						胎土に砂粒と多量の海綿骨針を含む
68	12	土師器	焼塩壷	10 区	表土					(36.0)				赤褐色	黄褐色	砂粒を多く含む
68	13	陶器	湯通し	10 区	西 T			(148.0)	(107.0)	(38.0)	ロクロ	ロクロ	透明釉	赤灰褐色	赤灰褐色	削り出し高台　底部穿孔 11 個
68	14	瓦器	火鉢	10 区	東 T			230.0	185.0	186.5	ナデ	ナデ	無施釉	黒褐色	赤褐色	底部ナデ　底部に穿孔　全面煤付着　胎土に砂粒を含む
68	15	瓦	丸瓦	10 区	西 T			(108.0)	(61.0)	14.0	ヘラミガキ		無施釉	黒色	黒灰色	
68	16	磁器	碗	試掘	試掘 T 2			(94.0)	(60.0)	(37.0)			染付	白色	白色	広東碗　外面 : 草花紋　見込 : 不明紋　19C 前
68	17	陶器	碗					(77.0)	(41.0)	(21.5)	ロクロ	ロクロ	灰釉	黄褐色	黄褐色	削り出し高台　磨耗　底部無施釉　瀬戸美濃
68	18	古銭		5 区	X=-193756.0 Y=-43469.0		RM10									宋通元寶
68	19	古銭		5 区	X=-193756.0 Y=-43475.0		RM8									治平通寶 (篆書体)
68	20	古銭		5 区	SD40		RM16									元豊通寶
68	21	古銭		5 区	X=-193756.0 Y=-43469.0		RM9									永樂通寶
68	22	古銭		5 区	X=-193762.387 Y=-43470.151 H=140.161		RM17									永樂通寶

Ⅳ　理化学分析

1　山形城三の丸跡第15次調査出土木製品の樹種同定報告

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

山形城三の丸跡第 15 次調査で出土した桶の部材および杭について、木材利用を検討するために樹種同定を実施したので、その結果について報告する。

1. 試　料

試料は、5 区 SK11 土坑より出土した桶の部材 4 点と、5 区 SK13 土坑より出土した桶の部材 3 点と杭 1 点の合計 8 点 (№ 1 ～ 8) である。試料の詳細は、結果とともに表示する。

2. 分析方法

剃刀を用いて木片から木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目（接線断面）の 3 断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入してプレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類 (分類群) を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東 (1982)、Wheeler 他 (1998)、Richter 他 (2006) を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林 (1991) や伊東 (1995,1996,1997,1998,1999) を参考にする。

3. 結　果

樹種同定結果を表 25 に示す。桶の部材は全て針葉樹のスギ、杭は広葉樹のクリに同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・スギ（*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don）　**スギ科スギ属**

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1 分野に 2-4 個。放射組織は単列、1-15 細胞高。

・クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）　**ブナ科クリ属**

環孔材で、孔圏部は 3-4 列、孔圏外で急激に径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15 細胞高。

4. 考　察

表 25.　樹種同定結果

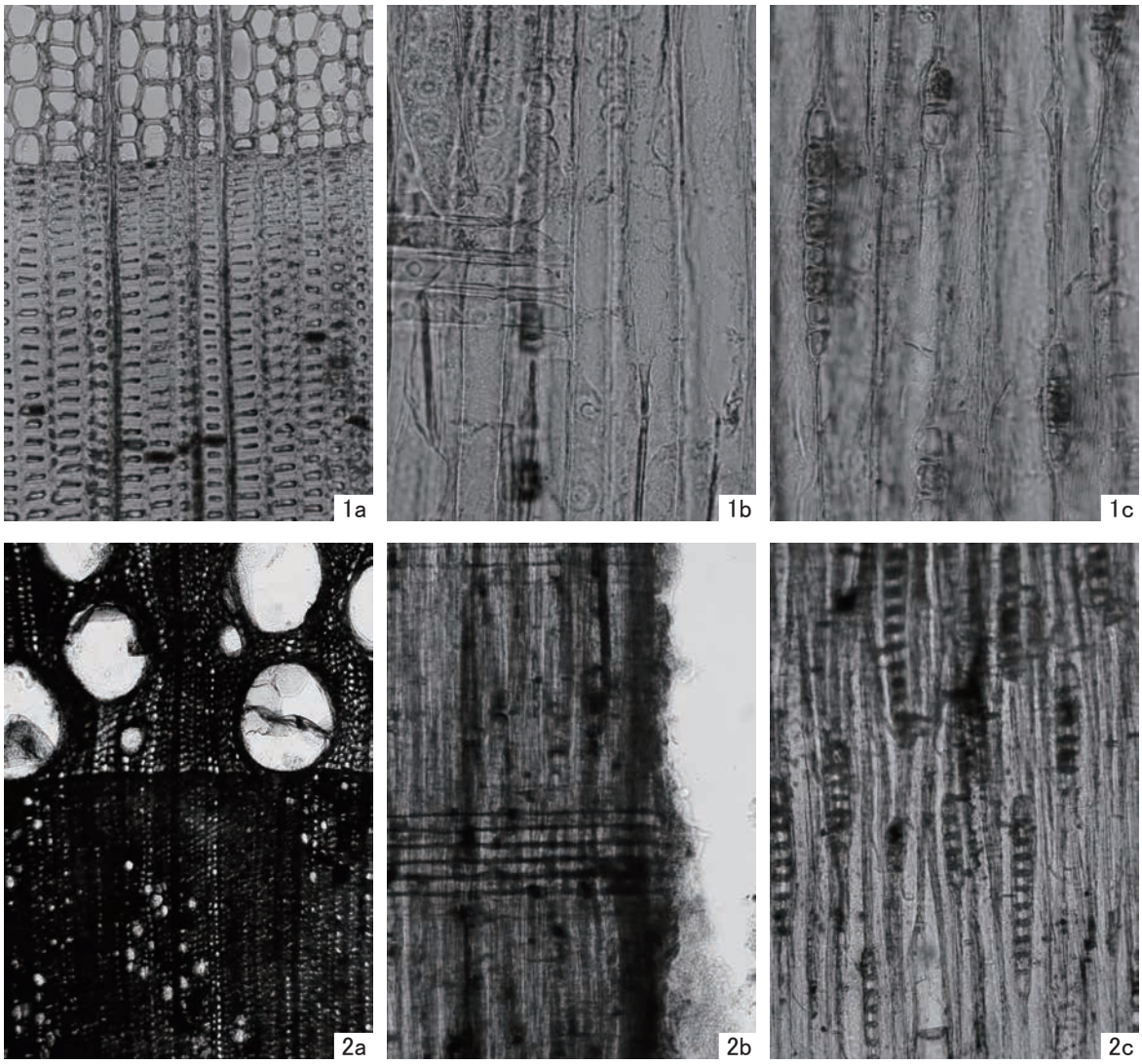
番号	遺構	器種	部位	種類
1	SK011 土坑	桶	底板	スギ
2	SK011 土坑	桶	側板	スギ
3	SK011 土坑	桶	側板	スギ
4	SK011 土坑	桶	側板	スギ
5	SK013 土坑	桶	底板	スギ
6	SK013 土坑	桶	側板	スギ
7	SK013 土坑	桶	側板	スギ
8	SK013 土坑	杭		クリ

SK11 土坑と SK13 土坑から出土した木製品のうち、桶の部材 (底板・側板) は全てスギに、杭はクリに同定された。スギは、谷筋や扇状地扇端部の遊水地周辺など、比較的水分の多い土地に生育し、また植栽される常緑高木である。木材は木理が通直で割裂性・耐水性が比較的高い。クリは、二次林等に生育する落葉高木で、木材は重硬で強度と耐朽性が高い。

桶の部材は、底板が板状、側板がやや弧を描く板状に加工されることが多い。全てスギに同定されたことから、加工性や耐水性を考慮した木材選択が推定される。伊東・山田 (2012) のデータベースによれば、山形県内では桶の部材について樹種を明らかにした例が掲載されていないが、東北地方や関東地方などの中世～近世における桶の部材をみると、スギ、ヒノキ、アスナロ、モミ属等の針葉樹の利用が多く見られる。一方、杭は利用状況が不明であるが、クリが利用されていることから、強度や耐朽性を必要としたことが推定される。

引用文献

林　昭三　1991 『日本産木材　顕微鏡写真集』 京都大学木質科学研究所 .
伊東隆夫　1995 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料 ,31』　p.81 ～ p.181　京都大学木質科学研究所
伊東隆夫　1996 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料 ,32』　p.66 ～ p.176　京都大学木質科学研究所
伊東隆夫　1997 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究・資料 ,33』　p.83 ～ p.201　京都大学木質科学研究所
伊東隆夫　1998 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究・資料 ,34』　p.30 ～ p.166　京都大学木質科学研究所
伊東隆夫　1999 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究・資料 ,35』　p.47 ～ p.216　京都大学木質科学研究所
伊東隆夫・山田昌久 (編)　2012 『木の考古学　出土木製品用材データベース』 p.449　海青社
Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編） 2006 『針葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト』伊東隆夫 藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修） p.70　海青社 ［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］
島地　謙・伊東隆夫　1982 『図説木材組織』 p.176　地球社
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編） 1998 『広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト』 伊東隆夫・藤井智之 佐伯　浩（日本語版監修） p.122　海青社 ［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］



1.スギ(No.2)
2.クリ(No.8)
　a：木口, b：柾目, c：板目

100 μm:2a
100 μm:1a,2b,c
100 μm:1b,c

第 69 図　木材組織

2　山形城三の丸跡出土鉄滓の自然科学分析（1）

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

山形城三の丸跡は山形県山形市に所在し、16 世紀末に築造されたとされる城郭跡である。本分析調査では、第 15・17・19 次調査区内で出土した鉱滓 5 点を対象に金属学的調査を実施する。

1. 試　料

試料は鉱滓 5 点 (試料 No.1 ～ 5) である。

2. 分析方法

(1) 肉眼観察

分析調査を実施する遺物の外観の特徴など、調査前の観察所見を記載した。

(2) マクロ組織

顕微鏡埋込み試料の断面を、低倍率で撮影したものを指す。当調査は顕微鏡組織よりも、広範囲で組織の分布状態、形状、大きさなどが観察できる利点がある。

(3) 顕微鏡組織

鉱滓の鉱物組成や金属部の組織観察、非金属介在物の調査などを目的とする。

試料観察面を設定・切り出し後、試験片は樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の #150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の 3 μ m と 1 μ m で鏡面研磨した。また観察には金属反射顕微鏡を用い、特徴的・代表的な視野を選択して写真撮影を行った。

(4) 化学組成分析

出土遺物の性状を調査するため、構成成分の定量分析を実施した。

全鉄分（Total Fe）、金属鉄（Metallic Fe）、酸化第一鉄（FeO）：容量法。

炭素（C）、硫黄（S）：燃焼容量法、燃焼赤外吸収法

二酸化硅素、酸化アルミニウム、酸化カルシウム、酸化マグネシウム、酸化カリウム、酸化ナトリウム、酸化マンガン、二酸化チタン、酸化クロム、五酸化燐、バナジウム、銅、二酸化ジルコニウム：ICP（Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer）法：誘導結合プラズマ発光分光分析。

3. 結果および考察

試料 No.1 ～ 5 の顕微鏡組織を第 70 ～ 72 図に示す。

試料 No.1

広い範囲で黄褐色の土砂や茶褐色の鉄錆化物が薄く付着するが、まとまった鉄部はみられない。滓の地の色調は黒灰色である。気孔は少なく緻密である。側面から下面にかけては細かい木炭痕による凹凸が著しい。

マクロ組織を第 70 図 - ①に示す。素地部分は微細な気孔が点在する鍛冶滓で、内部に不定形の微細な錆化鉄部が若干点在する。また部分的に微細な木炭破片も付着する。

顕微鏡組織を第 70 図 - ②③に示す。微細な青灰色部は錆化鉄である。②の右上および③は滓部で、白色樹枝状結晶ウスタイト（Wustite：FeO）、淡灰色柱状結晶ファヤライト（Fayalite：2FeO･SiO2）が晶出する。鉄チタン酸化物の結晶はない。

試料 No.2

表面には小さな割れがみられる。内部に金属鉄または錆化鉄が含まれる可能性がある。滓部は黒灰色で、気孔は少なく緻密である。また表面には細かい木炭痕による微細な凹凸が目立つ。

マクロ組織を第 70 図 - ①に示す。写真右上の約 7㎜の明灰色粒は錆化鉄である。

顕微鏡組織を第 70 図 - ②③に示す。②は錆化鉄部の拡大である。内部に網状のセメンタイト（Cementite：Fe3C）が残存する、過共析組織（C ＞ 0.77%）の高炭素鋼であった。③は滓部の拡大である。白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。

試料 No.3

滓部の色調は灰褐色で、表面が若干風化気味である。表面には黄褐色の土砂が薄く付着する。内部にまとまった金属鉄が存在する可能性は低いと考えられる。また破面には微細な気孔が点在する。

マクロ組織を第 71 図 - ①に示す。中小の気孔が多数点在する。

顕微鏡組織を第 71 図 - ②③に示す。白色樹枝状結晶

ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。鍛錬鍛冶滓の晶癖である。また滓中に点在する微細な明白色粒は金属鉄である。

本試料は、製鉄原料起源の脈石成分の低減傾向が著しい。

試料 No.4

肉眼観察：滓の地の色調は暗灰色で表面は風化気味である。また銹化に伴う割れが生じており、全体に強い着磁性があるため、内部にはまとまった鉄部が存在する可能性が高い。

マクロ組織を第 71 図 - ①に示す。観察面は広い範囲で銹化鉄部が観察される。滓部は上面表層に薄く付着する。顕微鏡組織を第 71 図 - ②③に示す。②は上面表層に付着した滓部の拡大である。白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。③は銹化鉄部の拡大である。内部に網状のセメンタイト（Cementite：Fe3C）が残存する。

試料 No.5

表面は比較的平坦で、部分的に薄くガラス質滓が付着する。細かい気孔が若干点在するが、緻密で重量感のある滓である。また下面中央には茶褐色の銹化鉄部が観察される。

マクロ組織を第 72 図 - ①に示す。滓中の微細な青灰色部は銹化鉄である。

顕微鏡組織を第 72 図 - ②③に示す。②は上面表層のガラス質滓の拡大である。内部には熱影響を受けた石英（Quartz:SiO2）が点在する。これは羽口粘土に混和された真砂（花こう岩の風化砂）と推測される。一方、③は鍛冶滓部分の拡大である。滓中には白色粒状結晶ウスタイト（Wustite：FeO）、淡灰色柱状結晶ファヤライト（Fayalite：2FeO･SiO2）が晶出する。

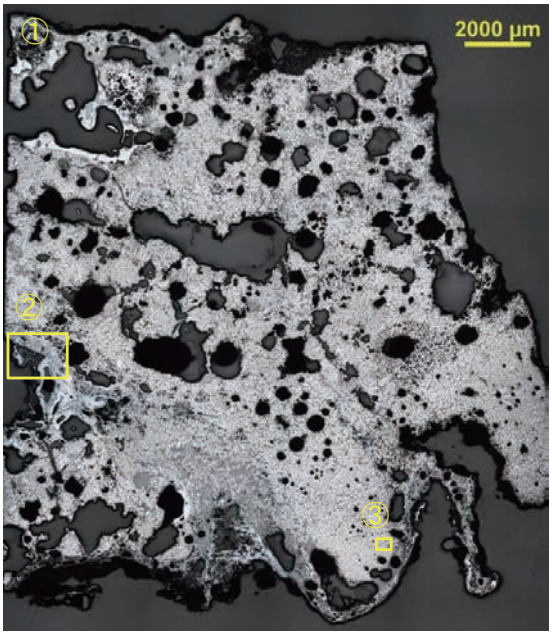
本試料は酸化鉄（FeO）と、炉材粘土（SiO2 主成分）溶融物主体の滓であった。

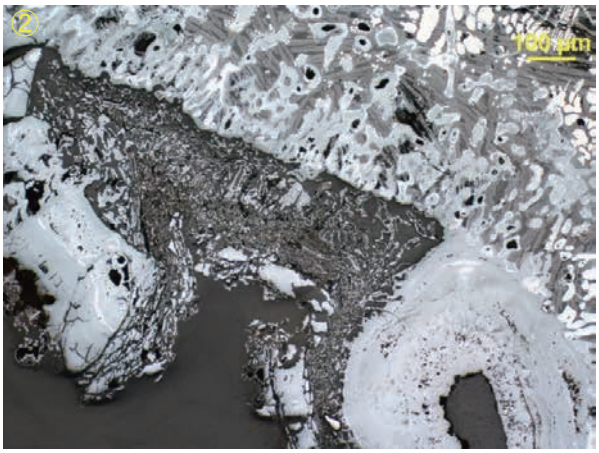
表 26　分析出土滓一覧表

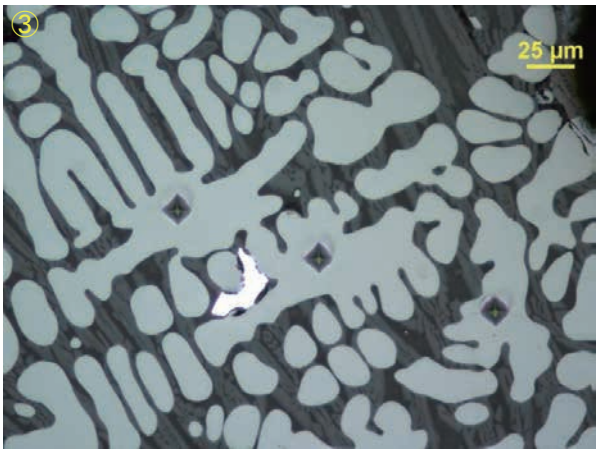
番号	分析	内容	個数	出土地点		備考
1	鉱滓分析	鉱滓	1	1 区	SK113	
2	鉱滓分析	鉱滓	1	5 区	SX22（SD39）	RP15
3	鉱滓分析	鉱滓	1	5 区	SK19・SX22 X=-193753.0 Y=-43472.0	
4	鉱滓分析	鉱滓	1	8 区	SK113	
5	鉱滓分析	鉱滓	1	10 区	SK13	

No.1　鉱滓

①ﾏｸﾛ組織
② 青灰色部：銹化鉄、
③滓部、ｳｽﾀｲﾄ・ﾌｧﾔﾗｲﾄ

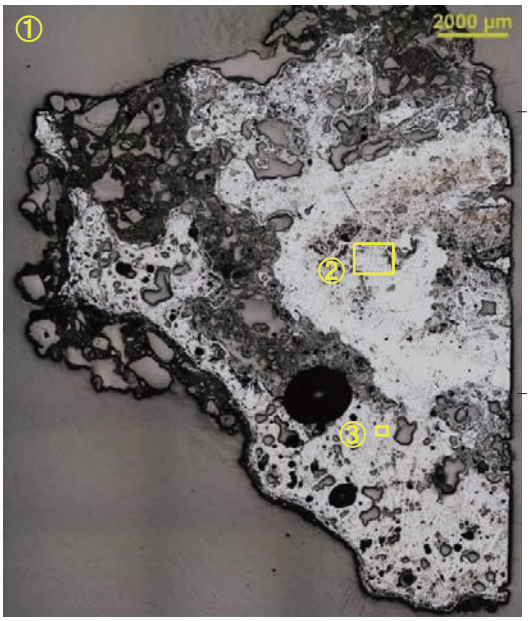


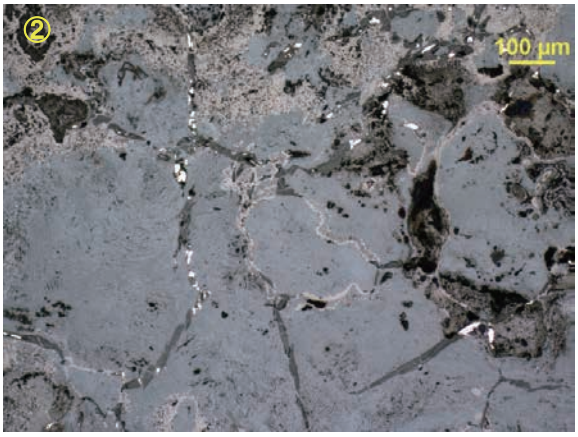


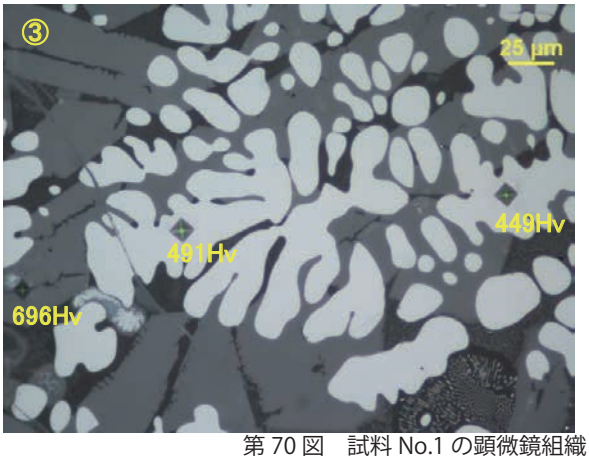


No.2　鉱滓

①ﾏｸﾛ組織
②銹化鉄部
③滓部、ｳｽﾀｲﾄ・ﾌｧﾔﾗｲﾄ

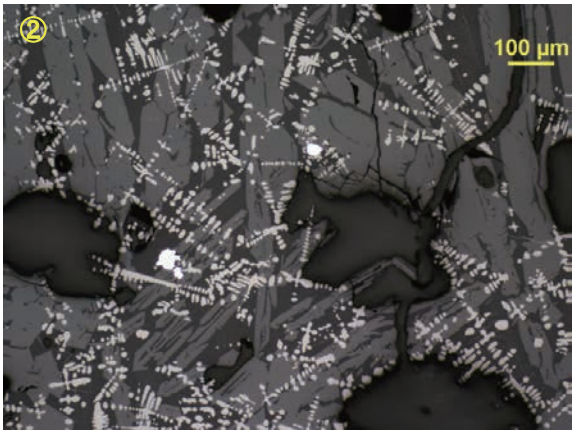


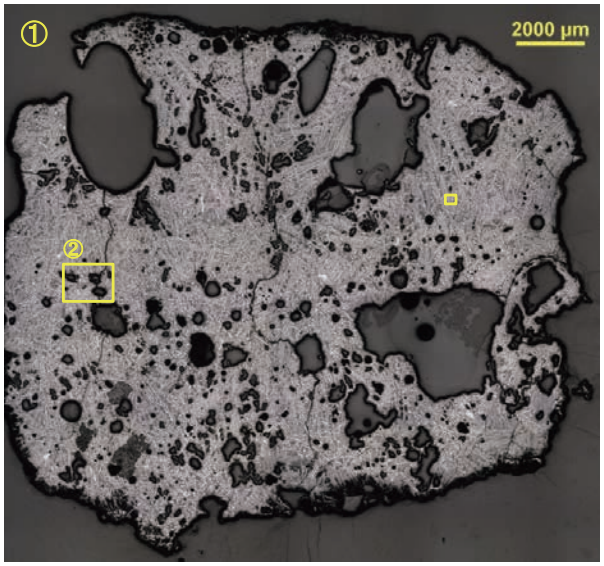


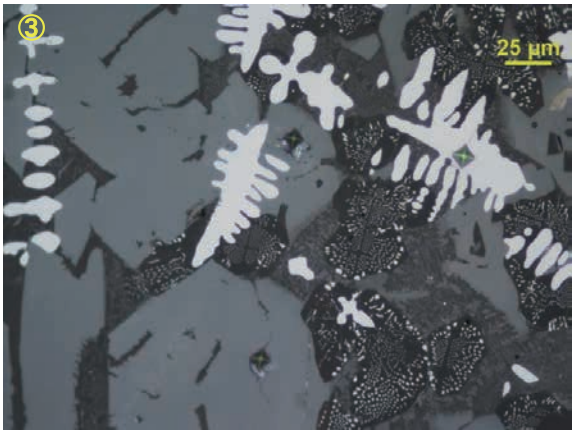


第 70 図　試料 No.1 の顕微鏡組織

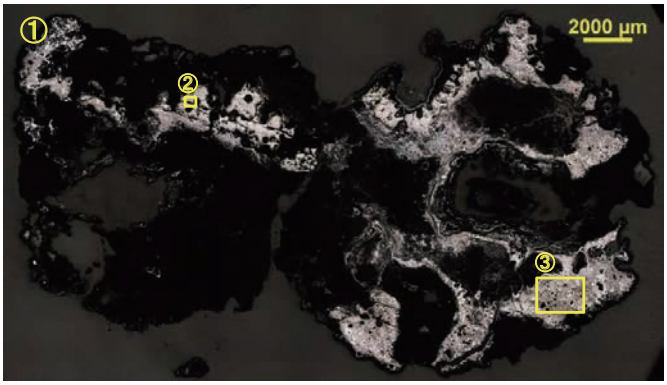
No.3　鉱滓
①ﾏｸﾛ組織
②滓部 :ｳｽﾀｲﾄ・ﾌｧﾔﾗｲﾄ、
③滓部、ｳｽﾀｲﾄ・ﾌｧﾔﾗｲﾄ

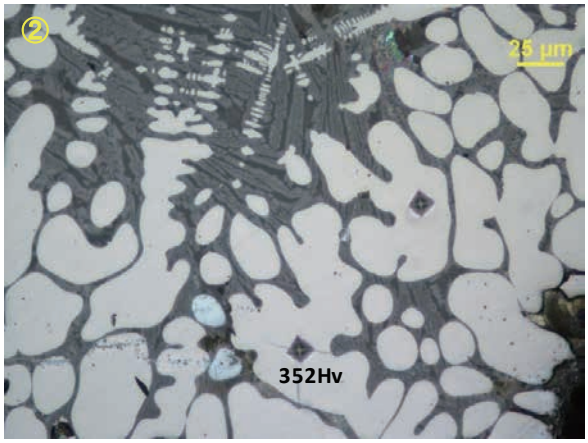


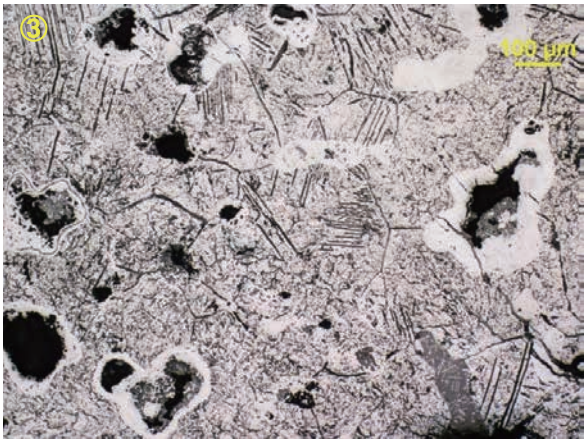




No.4　鉱滓
①ﾏｸﾛ組織
②滓部、ｳｽﾀｲﾄ・ﾌｧﾔﾗｲﾄ
③銹化鉄部 : 過共析組織痕跡

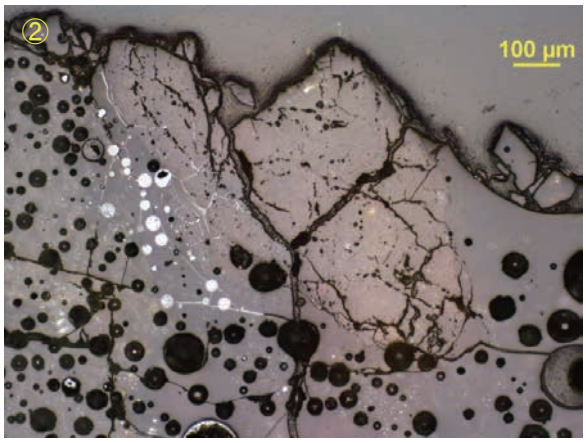


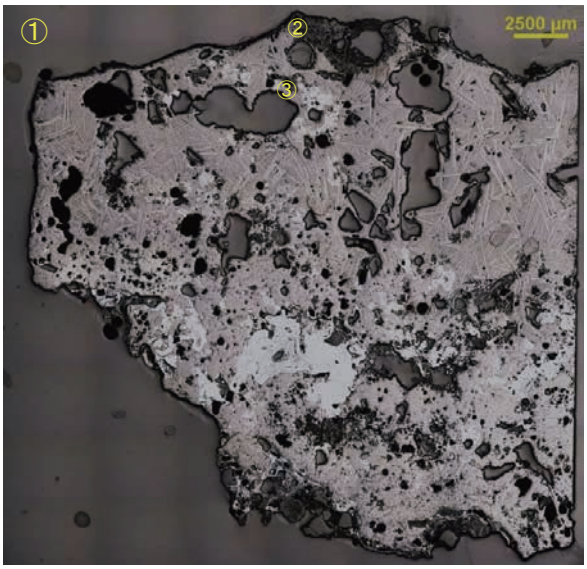


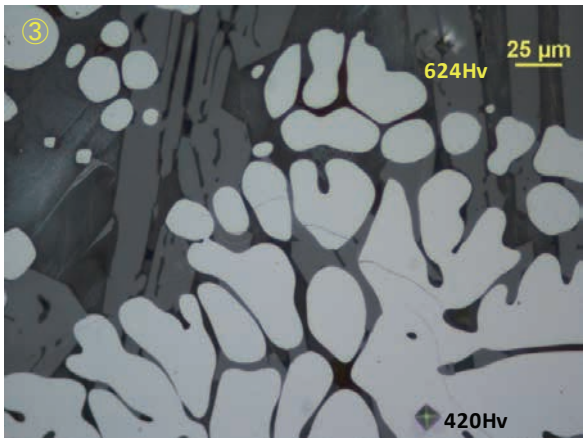


第 71 図　試料 No.2・3 の顕微鏡組織

No.5　鉱滓
①ﾏｸﾛ組織
②上面表層
③滓部、ｳｽﾀｲﾄ・ﾌｧﾔﾗｲﾄ







第 72 図　試料 No.4・5 の顕微鏡組織

3　山形城三の丸跡出土鉄滓の自然科学分析（2）

竹原弘展（パレオ・ラボ）

1. はじめに

山形城三の丸跡第19次調査で出土した鉄滓について、走査型電子顕微鏡観察およびX線分析を行い、検討した。

2. 試料と方法

分析対象は、土坑SK113から出土した鉄滓1点（試料1）である（第73図-1）。土坑SK113は、三の丸造成以前の遺構とみられ、鉄滓が数多く出土したが、時期の決め手となるような陶磁器などの遺物は出土していない。鉄滓は、観察・測定面は比較的磁着の強い箇所を選び、岩石カッターで採取した。第73図-1に試料採取部位を示す。

試料は、エタノールで超音波洗浄後、採取断面について蛍光X線分析（エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製SEA1200VX、照射径8mm：以後XRF分析）を行い、採取部位の化学組成を調べた。その後、断面プレパラートを作製し、組織の観察、分析を行った。プレパラートの作製には、注型用高透明エポキシ樹脂を使用し、試料を包埋した。包埋試料は、ディスコプランで研磨した後、精密研磨フィルムの#1000、#8000の順で研磨し、観察、分析面とした。走査型電子顕微鏡（日本電子株式会社製JSM-5900LV、以後SEM）による反射電子像の観察および付属するエネルギー分散型X線分析装置（同JED-2200、以後EDS）による鉱物組織の定性分析を行った。

3. 分析結果および考察

XRF分析による半定量値を表27に酸化物の形で示す。また、SEM反射電子像を第73図-2、3に、SEM反射電子像に示したa、bのポイントのEDSによるスペクトルを第73図-4、5に、検出元素を表28に示す。

［試料1］

椀形を呈し、破面が3面観察される（第73図-1）。強い磁着が認められる。

XRF分析では、鉄が酸化物（Fe_2O_3）換算で約87%と高い割合で検出された。チタン（TiO_2）や銅（CuO）含有量は少ない。SEM反射電子像では、第73図-2、3のような結晶組織が観察された。EDS分析結果と併せると、密集している明色の樹枝状ないし粒状組織（第73図-3のa）では鉄（Fe）と酸素（O）が検出され、ウスタイト（FeO）とみられ、基質となる暗色ガラス質（同図b）上に晶出している。

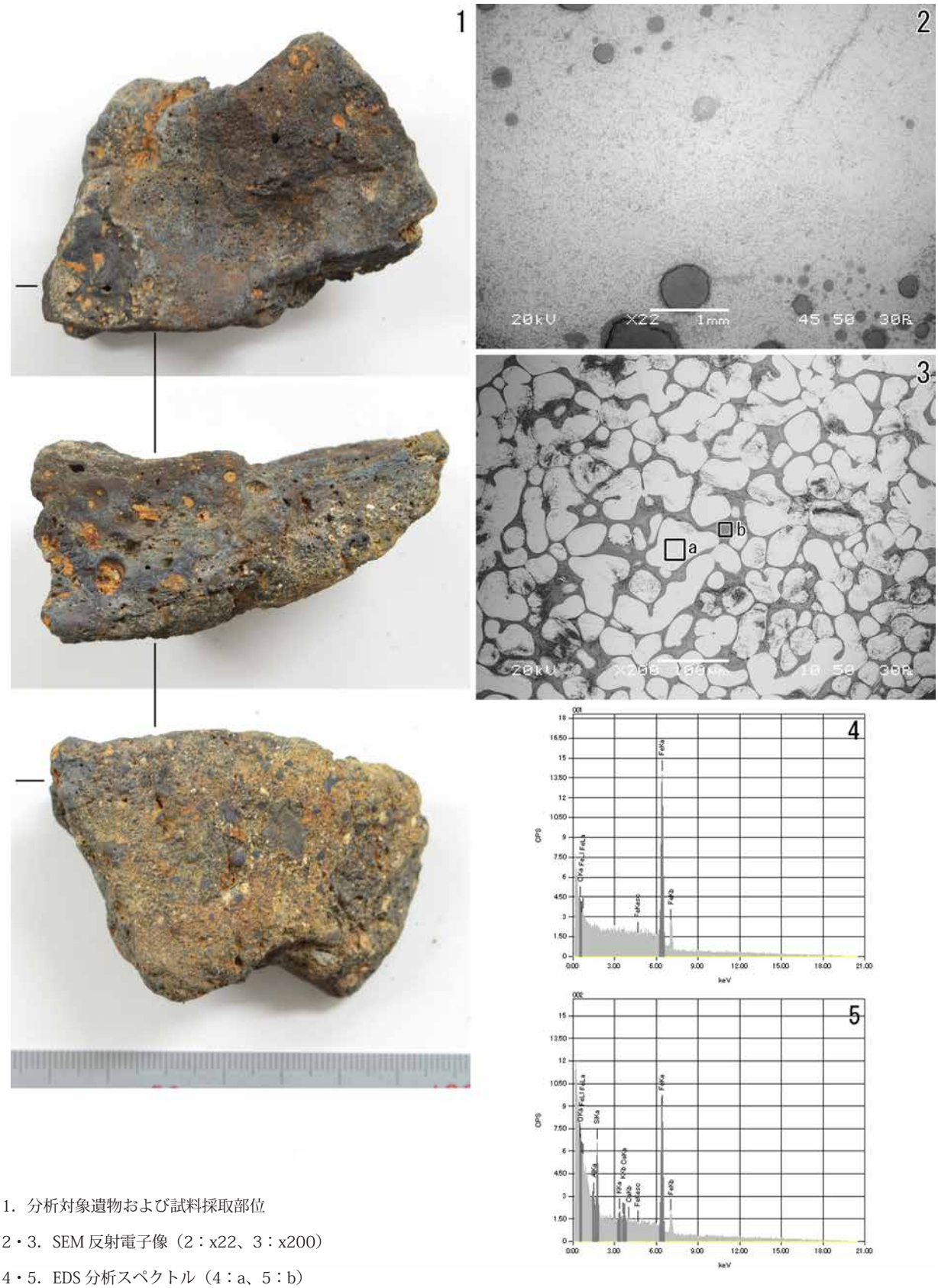
今回の鉄滓の鉱物組織の定性分析結果では、チタン含有の鉱物が検出されず、またウスタイトが多くみられ、また、蛍光X線分析ではチタン含有量が少なく鉄含有量が多い。以上の特徴より、椀形鍛冶滓と考えられ、鍛冶に伴う鉄滓である可能性が高い。

表27　蛍光X線分析による半定量値（mass%）

試料	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	K_2O	CaO	TiO_2	MnO	Fe_2O_3	CuO	SrO
1	2.31	8.22	0.59	0.47	0.80	0.10	0.06	87.43	0.01	0.01

表28　EDS分析結果

試料	ポイント	検出元素	所見	
1	a	O,Fe	ウスタイト	椀形鍛冶滓
	b	O,Al,Si,K,Ca,Fe	ガラス質	



1．分析対象遺物および試料採取部位

2・3．SEM 反射電子像（2：x22、3：x200）

4・5．EDS 分析スペクトル（4：a、5：b）

第 73 図　試料 1 の SEM 観察及び EDS 分析結果

V　調査のまとめ

今回の発掘調査は、山形広域都市計画道路事業３・２・５号旅篭町八日町線（山形市七日町地内）建設事業 (以後、事業) の第一期工区事業として、平成 26 年度から 28 年度まで現地調査を実施したものである。

以下、遺構と遺物に分けて調査の成果をまとめる。

1　遺構のまとめ

調査区は山形城三の丸七日町口のすぐ近くに位置し、三の丸の堀も一部かかり、三の丸外の町場も一部調査区に含まれている。調査区は大きく三つのブロックに分けることができる。

北調査ブロックは 1・2・7・10・11 区である。2 区は三の丸の外堀であり、1・7・10・11 区は三の丸の郭外である。藩政期は一貫して羽州街道沿いの旅籠町の町屋であったが、絵図から 17 世紀末の松平忠弘の時期以降明治 8 年 (1875 年) まで牢獄が置かれていたことがわかっている。従ってこの地区の近世遺構は牢獄の遺構と言えよう。ちなみに、陸奥宗光が逮捕されて山形監獄に送られてきたのは明治 10 年であり、収監されたのは移転後の監獄である。

7 区の北側からは、軸方向が同じである正方形の土坑 SK100・107・110 が検出された。出土する遺物は 18 世紀後半から 19 世紀のものである。他にも長方形の土坑 SK101・103・SD112 などの遺構もあり、ほぼ同時期と思われる。これらには大小の礫が多数廃棄され、遺物の出土量も少ない。さらに、SK93・95・97・98・100・38・39 のように大型で円形の土坑も見られる。これらも出土遺物からほぼ同時期と考えられる。SK38・39 については、覆土に大量の礫が含まれ、周囲に SD43 溝跡が巡らされていることや、離れた地点にあることからも、他の大型円形土坑とは異なる目的で掘削されたと考えられる。

以上のように、ほとんど同時期に、異なる形の土坑をそれぞれ複数掘削していることから、それぞれ形によって使用目的が異なると考えられる。

いずれも近世最末期に埋め戻されている。牢獄は未決囚の拘置施設ではあるが、軽度の死罪は刑場での公開処刑や晒を実施せずに牢獄敷地内で実施されることも多く、山形の牢獄でも斬罪が実施された記録がある。また、江戸時代の斬罪の様子を描いた絵図を見ると、穴の前に罪人を座らせて斬首していることが多く、いずれかの形の土坑がその用途のために掘られた可能性もある。また、明治 8 年に牢獄が移転した後に施設を解体して廃棄物を埋めるために掘った穴とも考えられる。後者の場合では、深く大型の土坑が想定され、SK93・95・97・98 である可能性が高いと言えるだろう。

7 区からは他に ST71 竪穴建物跡も検出されている。炉などの燃焼施設は無く年代は不明であるが、しっかりした柱跡が壁際に有り、床面には炭化物もあった。古代の通常のよく見られる竪穴建物とは明らかに趣が異なるので、中近世の施設と思われる。また、軸方向が近世以降の遺構とも全く異なるので、中世のものではなかろうか。

堀跡である 2 区と 11 区の境界には大型の丸石を積み重ねた石組が堀際に存在していた。これは近世の石組であるとみなしてよい。11 区の 1 区との土地境界にも石組が有り、11 区地権者の話によると、戦前にこの土地を購入した地権者の父親が石を運んで来て積み上げたとの証言を得たが、2 区境界の石組とはあきらかに石の大きさや積み方が異なり、作業者の技術にも格段の差異を見て取れた。

11 区には防空壕跡以外に検出されなかったのも注目に値する。11 区は他の調査区に比べて遺構検出面が高いので、遺構の残りが良いかと思われたが、防空壕以外の痕跡は認められなかった。防空壕の壁面を確認して盛土や整地の可能性も検討したが、全くの地山層であった。地面を掘り下げない何らかの施設があったのだろうか。

2 区全体は三の丸の堀跡である。近代以降に引かれた現在の御殿堰部分を除いて調査した。幅はほぼ 15m、深さは 2 mほどである。平成 23 年度に埋蔵文化財センターが調査した横町口に近い第 10 次調査で検出された三の丸の堀は、幅は未定であるが 20 m以上、深さも 5.3

mあるかなり大規模なものであったが、山形市教委が平成20年に調査した下条口近くの市立第七小学校敷地内の城北遺跡調査で検出された堀がほぼ同規模である。このことから、三の丸の堀は、門近辺の主要部以外はこの規模の堀を巡らせている可能性が高い。

堀跡から出土した遺物はほとんどが18世紀後半以降のものであり、秋元氏が山形入部後に、堀や門を修築したとの記録に合致し、堀の大規模な浚渫を行ったと見られる。堀の埋土も一気に埋め戻していることから、後述するように明治10年から12年の間に土塁をすべて突き崩して埋めていると思われる。そのため、当地は軟弱地盤であったようで、レンガを数十cm積み重ねた上に柱を建てたような痕跡が見受けられたほか、鉄道の廃レールを打ち込んで、基礎として建物を建てた痕跡も確認された。

3・4・5・8・12区で構成される中央調査ブロックは、三の丸の郭内である最上時代の初期には、町屋が存在していたとの資料もあるが、近世は一貫して三の丸の大手口である七日町口から二の丸に向かう七日町口通の沿線ということで、武家屋敷が立ち並んでいた地区である。近隣には水野家旧家臣の家が現在でも建ち並んでいる。

3区は撹乱を受けていたので遺構を検出することはできず、遺物もほとんど出土しなかった。絵図によると、堀のすぐ内側に土塁を確認できることから、現在の市道七日町口通線上に土塁が有り、3区が藩政期の七日町口通りであったはずである。単純に堀を掘削した時の土をそのまま土塁とすると、幅15m、高さ2mほどになるが、現在の地図に当てはめると3区の1/5が土塁になる。3区と4区の間に、幅約2mと非常に狭い済生館裏西小路線が走っているが、旧家臣屋敷の門はこの沿線に並んでおり、近世の七日町口通は土塁からこの道路までの約25m幅であったと思われる。

藩政期の絵図には、現在ある市道七日町口通線にあるクランク部分は見当たらない。明治時代の地図を観察すると、明治10年の地図では七日町口通と新しく開削された市道旅籠町新道南小路線は直角に交じって堀や土塁も描かれているが、明治12年の地図では七日町口通が不自然に折れ曲がって市道旅籠町新道南小路線と交わり、堀跡が点線で描かれている。明治14年の地図では、現在のように七日町口通がクランク状に折れ曲がって市道旅籠町新道南小路線に接続し、堀跡の記載が一切なくなっている。

このことから明治10年から12年の間に土塁を切り崩して堀を埋め、14年には元土塁を道路として移設が完了していることがわかる。

4区は鉄筋コンクリート造建物により削平を受けてほとんど遺構は検出できなかった。遺物もほとんど出土していない。

5・8・12区は比較的に遺構の残りが良かった。このブロックには大きく分けて三時期の遺構が存在する。

まず、第一に一番新しい近代以降に廃棄された遺構。これには、近世末から継続使用され、近現代になって廃棄された5区のSE12井戸跡などやSD41溝跡も含む。

ついで二番目の時期は近世後期の18世紀後期から19世紀にかけての遺構で、近代の遺物を含まない12区のSX9土坑や5区のSK14・SK16土坑などである。

第三の時期は、戦国時代から近世初期にかけてと見られる古い時期のもので、これも厳密には二時期に分ることも可能ではある。

1つ目は5区のSD17落込みや8区のSD129・163溝跡などである。これらは近世初期の最上時代の元和慶長期の遺構と思われるもので、三の丸郭内のこの地域に町場があったときのものである。SD17は出土遺物からこの時期であることは明白である。また、並行した溝跡SD129・163を道路遺構と推測できる。この道の東の延長上に「関根口」門があり、西の延長上に「肴町」を抜けて二の丸の東門にまっすぐ突き当たる。幅5mと決して広くはないが、近世初期の山形城三の丸大手は南側の吹張口からまっすぐ南大手門に伸びる道が大手道で、後の七日町口となる関根口と三日町は副次的な門と道であったと考えられている。

それより遡る可能性があるのが、4・5・8区をまたがる長さ21m以上、幅4m、深さ1.3mほどの大型区画溝SD39と多くの鉱滓を含むSD240溝跡である。SD39は、三の丸郭内の区画溝としては大規模で、どの時代の絵図を見ても該当しそうな区画は存在しないことから、三の丸構築以前の遺構と考えたほうが自然であろう。また、理化学分析により、これらの鉱滓は鍛冶滓であると分析結果が出ており、近世以降に鍛冶施設がこの周辺に存在した記録も一切ないことからも、鍛冶施設も三

の丸構築以前と考える方が自然である。SD39 大型区画溝と SD240 鉱滓出土溝跡に若干の時期差があることも考えられるが、SD39 大型区画溝と SD240 鉱滓出土溝跡、SD129・163 道路状遺構の軸方向は統一されており、それほど大きな時期差は無いと考えられる。SD39 大型区画溝と SD240 鉱滓出土溝跡は、多少前後関係が存在する可能性はあるが、慶長期の三の丸造営以前の遺構で、三の丸造営により埋め戻された。その後に SD129・163 道路状遺構と SD17 落込みが作られたと思われる。

また、竪穴建物跡 ST154・184 もあるが、年代を推定できる遺物が出土しなかったことと、重複関係がないことから時期を断定はできないが、SD129・163 道路状遺構とは年代に差があることは確かである。

6・9 区南調査ブロックは、山形藩が縮小した近世後期以降は耕作地化していた地域であるが、明治以降の急激な市街化で遺構の残存状況は良くない。

6 区は地元百貨店の大型立体駐車場があったことから、激しく削平撹乱を受けており、注目に値する遺構遺物は確認できず、平安時代の遺物数点と旧河道を検出できただけである。

9 区も現代の建物の基礎により多くが削平されていたが、近世後期 18 世紀後半から 19 世紀にかけての SK3 土坑と近世初期 17 世紀代と考えられる SK27 土坑、さらにそれ以前と考えられる SH2 火葬墓を検出した。遺物を伴わない SD10 区画溝も検出したが、現在の土地境界と完全に重複することから近代以降のものと考えるのが妥当であろう。

2　遺物のまとめ

つぎに、遺物についてのまとめを述べる。

古い時代の遺物は、平安時代の須恵器の坏や甕の破片が出土している。いずれも小片で混入と見られる。ほぼ 9 世紀のものと思われる。

次いで、龍泉窯産と思われる青磁が 5 点出土している。いずれも小片で、かろうじて龍泉窯のものであろうと判別できる程度である。詳しい時期も判別できないが、おそらく 15 世紀ごろのものと類推する。

国産陶磁の古手のものとしては大窯後半期の瀬戸美濃がある。量も多くはなく、おそらく大窯第 3 段階後半から第 4 段階にかけてのものと思われ、灰釉の丸皿の他に天目や志野など茶陶が目立つ。中には白天目もある。

また、肥前産の陶器も目立つ。器種はほぼ皿の類で、碗や向付もごく少量確認できた。破片遺物が多いので正確な年代を確認するのは難しいが、砂目積みのものが多いので、17 世紀前半のものであろう。

未掲載の遺物も含めると、点数としては瀬戸美濃の方が多いが、破片資料も多く、遺物の残存状況は肥前陶器のほうが良好である。

陶器に対し、この時期の磁器は極めて少なく皆無に近い。

17 世紀後半から 18 世紀前半の遺物は、遺構同様に確認できなかった。ちょうど短期間で藩主が頻繁に入れ替わった時期に当たる。さらに、幕府直轄領である公儀御料の時期には、武家屋敷や藩の主だった施設が撤去されて更地になったとされている。

その後、18 世紀後半になると、いわゆるくらわんか手と呼ばれる肥前産磁器が急に数量が増えている。ほとんど碗、皿が占める。ちょうど秋元氏が入部して定着した時期である。それと共に一定量の肥前や京信楽系陶器も入ってきている。しかし、すぐに大堀相馬がこれらの陶器を駆逐し、他に産地不詳であるが在地産と思われる陶器も増える。壺、甕、鉢は平清水が増えるようになる。

明治後期になると、瀬戸産とみられる陶磁器が一斉にそれらをほとんど駆逐してしまう。

瓦については、数量も少なく、殆どが破片である。分類の基準となる軒丸瓦、軒平瓦も良好な状態のものは非常に少なかった。特に軒丸瓦については、点数も少なく残存状況も劣悪であるので記載できるものがない。軒平瓦については、山形市教委の瓦分類の FG1 型式と FD1 型式に該当するものが多い。FG1 型式に該当するものは堀跡から、FD1 型式に該当するものは ST107 から出土している。どちらも 18 世紀後半から 19 世紀にかけての遺物が出土しており、両型式ともそれほど時期差は無いのであろう。

用途不明の瓦質製品では、29-4 と 61-11 が出土している。どちらも平面の板状のものに浮き彫りの文字状装飾が施されている。29-4 は漢字の一部のようにも見える浮き彫りがあるが、該当する文字は見当たらなかった。61-11 は、基盤となる板状部分も丸く縁取りされている。双方とも飾り瓦のようでもあるが、それに該当する瓦製

品の存在を見つけることはできなかった。

土師器の皿、いわゆるかわらけも多数出土している。殆どが燈明皿として使用されており、内外に煤が付着し、縁の一部を故意に打ち欠いて芯を固定しやすくしていた。規格もほとんどが同一で、底部が回転糸切で口縁部を斜め上にまっすぐ引き伸ばす直線的な逆台形をするものが多いが、口縁部が内湾するかのようになだらかに弧を描くものも見られる。しかし、35-15・16 のように手捏ね成形で口縁部だけをなでて整形しているものも有り、両者には時期差があるのだろう。また、かわらけは、19 世紀になって陶器製の秉燭が出現すると急速に姿を消すように感じられる。

石製品としては、五輪塔･石鉢･石臼･砥石が見られる。

五輪塔は空風輪が 5 区 SD39 大型区画溝から出土している。16 世紀代のものであろう。石鉢は 25-16・28-15・55-2 の 3 点が出土している。25-16 は破片でしかないが、おそらく 28-15 とほぼ同形式と思われる丸い鉢形の石鉢である。55-2 は角盤形で足がついている。石質が異なることから、産地不明ながら別々に流通していたのであろう。石臼は、おそらく同一個体のものと思われる 42-17・63-1 が出土している。下部である 42-17 は大人三人でようやく移動できる重量で、穀物を挽いていたとみられる。上部の共伴遺物から、近世末から近代に使用されていたものであろう。砥石は荒砥、中砥、仕上砥が出土している。ほとんどが武家屋敷で日常生活で用いる刃物を研いだものとみられる。58-16 には、片面に男性器と女性器の絵と解読できなかったが 2 行ほどの文字が刻まれていた。出土した遺構が 19 世紀後半に埋められているので、ほぼその年代のものと思われる。

以上のように、今回の調査によって未確定だったこの地区の三の丸外堀の位置が判明した。堀の規模もそれほど大掛かりなものでもなく、埋蔵文化財センターの第 10 次調査で検出したような大掛かりな堀は門の周辺だけにある可能性が高い。

また、三の丸構築以前と思われる遺構・遺物も確認でき、軸方向が三の丸構築の基準とほぼ同じでもあった。

三の丸の堀の外である郭外は町場であるが、17 世紀後半の松平忠弘の頃には藩の牢獄があり、近代まで存続していたが、明確に牢獄機能時の遺構と判断できるものはなかった。

近世の遺構・遺物は、ほとんどが 18 世紀後半以降の秋元氏入部以降のもので、この時期が山形の城下町の大きな画期であることも判明した。秋元氏の三の丸郭内の町割りは水野氏の時代にも引き継がれ、明治以降に大規模な区画整理事業が行われながらも残滓を今日に残している。

引用・参考文献

山形市教育委員会　2003 『山形城三の丸跡（山形市立第一小学校敷地内）発掘調査報告書』山形市埋蔵文化財調査報告書第 15 集
山形市教育委員会　2004 『双葉町遺跡（山形城三の丸跡）発掘調査報告書近世編』山形市埋蔵文化財調査報告書第 17 集
山形市教育委員会　2005 『双葉町遺跡（山形城三の丸跡）発掘調査報告書縄文時代～中世編』山形市埋蔵文化財調査報告書第 24 集
山形市教育委員会　2006 『双葉町遺跡　城南町遺跡（山形城三の丸跡）発掘調査報告書』山形市埋蔵文化財調査報告書第 25 集
山形市教育委員会　2009 『山形城三の丸跡（城北遺跡跡）発掘調査報告書』山形市埋蔵文化財報告書第 30 集
山形市教育委員会　2011 『史跡山形城跡　本丸（東・南）堀・土塁跡発掘調査報告書』山形市埋蔵文化財報告書第 32 集
山形県埋蔵文化財センター　1999 『城南一丁目遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター報告書第 69 集
山形県埋蔵文化財センター　2005 『山形城三の丸跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター報告書第 142 集
山形県埋蔵文化財センター　2010 『山形城三の丸跡第 4・6 次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター報告書第 190 集
山形県埋蔵文化財センター　2012 『山形城三の丸跡第 5・7・8 次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター報告書第 202 集
山形県埋蔵文化財センター　2013 『山形城三の丸跡第 10 次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター報告書第 206 集
山形県埋蔵文化財センター　2014 『山形城三の丸跡第 12 次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター報告書第 214 集

写真図版

9 区遺構検出状況 (北から)

9 区北側遺構検出状況 (南東から)

9 区 SH2 墓壙検出状況
(南から)

9 区 SP17 柱穴断面 (西から)

9 区 SP17 柱穴完掘状況
(北から)

6 区遺構検出状況 (南西から)

12 区遺構検出状況 (西から)

12 区 SX9 土坑出土瓦製品
（北から）

12 区 SK12 土坑出土石鉢
（北から）

12 区 SX9 土坑完掘状況
（北から）

8 区南遺構検出状況 (北東から)

8 区中央遺構検出状況 (東より)

8 区北遺構検出状況 (西から)

8 区 SD163、SD129 道路状遺構完掘状況 (南東から)

8 区 SX154 竪穴建物完掘状況
（東から）

8 区 ST184 竪穴建物完掘状況
（東から）

8 区 SD39 大溝石組検出状況
（北から）

4 区、5 区遺構検出状況 (北から)

5 区遺構検出状況 (北西から)

5 区 SD39 大溝完掘状況 (北から)

5 区 SD39 大溝完掘状況 (南から)

5 区 SE11 井戸跡完掘状況 (南から)

5 区 SE12 井戸跡完掘状況 (北から)

5 区 SE13 井戸跡完掘状況 (北西から)

5 区 SK9 土坑完掘状況 (北から)

5 区 SK14 土坑完掘状況 (東から)

5 区 SK16 土坑遺物出土状況 (北から)

5 区西壁落込み遺物出土状況 (東から)

5 区西壁落込み刀子出土状況 (東から)

3 区完掘状況 (南から)

2 区堀跡断面 (東から)

2 区堀跡出土 46-1 藍甕 (東から)

2 区堀跡南岸完掘状況 (東から)

2 区堀跡南岸完掘状況 (北東より)

11 区遺構検出状況 (南東から)

11 区三の丸堀跡北岸石組検出状況
(東から)

11 区三の丸堀跡北岸石組検出状況
(南から)

11 区 SK7 防空壕完掘状況
(北から)

11 区南壁藍甕出土状況
(北から)

1 区南側完掘状況 (北西から)

1 区 SX85 土坑獣骨出土状況
(西から)

7 区南側完掘状況 (東から)

7 区中央部完掘状況 (東から)

7 区 SK38、39、33 土坑
完掘状況 (南から)

7 区 ST107 竪穴建物跡
完掘状況 (西から)

7 区 ST71 竪穴建物跡
完掘状況 (南東から)

7 区 ST71 竪穴建物跡南壁柱断面
（南東から）

10 区完掘状況（南西から）

10 区 SK13 土坑完掘状況（北から）

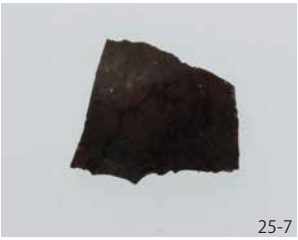
25-1

25-2

25-3

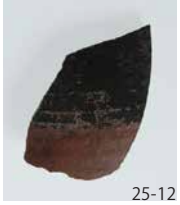
25-4

25-6


25-7

25-10

25-11


25-12

30-13

30-16

25-20

25-21

25-22

26-1

26-4

26-2

26-3

26-6

26-5

遺物写真図版 (1)　6 区、9 区出土遺物

26-7

26-8

26-13

26-14

27-1

27-2

27-3

27-4

27-5

27-6

27-7

27-8

27-17

27-18

27-19

29-2

遺物写真図版 (2)　9 区、12 区出土遺物

29-3

29-5

29-9

29-10

29-11

29-13

29-14

30-1

30-5

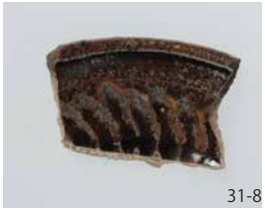
30-6

30-9

30-11

30-14

31-4


31-8

31-9

31-10

31-14

32-1

32-5

遺物写真図版 (3)　12 区、8 区出土遺物

32-6

33-10

33-12

33-13

34-1

34-5

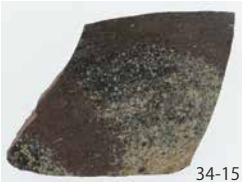
34-8

34-11

34-12

34-13

34-14


34-15

34-16

35-11

35-12

35-13

35-14

35-15

35-16

遺物写真図版 (4)　8 区出土遺物

35-17

35-19

36-1

36-3

36-2

36-4

36-7

36-9

36-8

36-10

36-11

36-12

37-1

37-2

37-3

37-15

37-16

37-17

37-18

37-19

遺物写真図版 (5)　8 区、4 区、5 区出土遺物

37-20

37-21

38-1

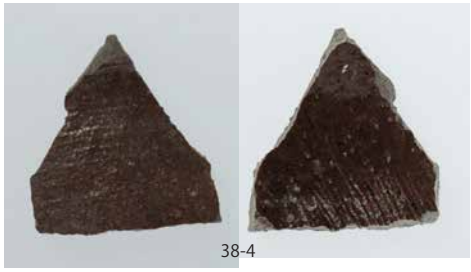
37-22

37-23

37-25

38-2

38-3


38-4

38-5

38-6

38-7

38-8

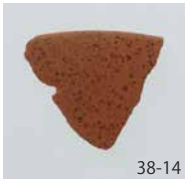
38-9

38-10

38-11

38-12

38-13


38-14

38-15

遺物写真図版 (6)　5 区出土遺物

38-16

38-19

38-20

39-1

39-2

39-3

39-4

39-5

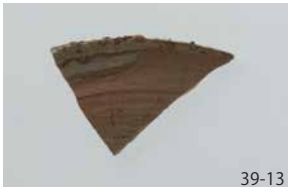
39-6

39-7

39-8

39-11

39-12


39-13

39-14

39-15

39-16

遺物写真図版 (7)　5 区出土遺物

39-17

39-18

39-19

39-20

39-21

39-22

40-1

40-2

40-3

40-4

40-9

40-10

40-6

40-11

40-13

40-14

40-16

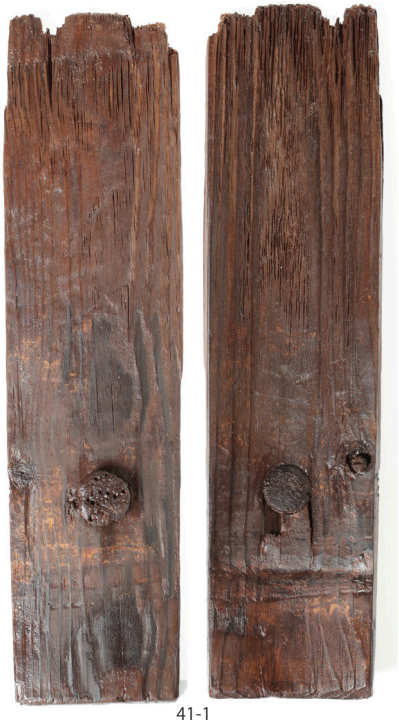
遺物写真図版 (8)　5 区出土遺物

40-17

40-18

41-3

41-4


41-1

41-2

42-1

42-3

42-6

42-7

42-8

42-9

42-10

42-11

42-12

遺物写真図版 (9)　5 区出土遺物

42-13

42-14

42-15

42-16

42-18

42-19

43-11

43-9

43-10

44-11

44-12

44-13

44-14

44-15

44-16

44-17

44-18

遺物写真図版 (10)　5 区、8 区、4 区、2 区出土遺物

44-19

44-20

44-21

44-22

44-23

44-24

44-25

45-3

45-4

45-5

45-6

45-7

45-8

45-10

45-9

45-11

遺物写真図版 (11)　2 区出土遺物

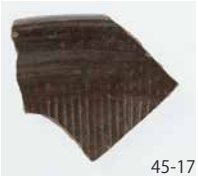
45-12

45-13

45-14

45-15

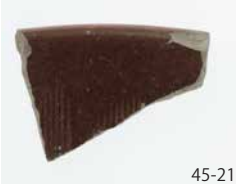
45-16


45-17

45-18

45-19

45-20


45-21

45-22

45-23

45-24

46-2

47-1

47-2

47-3

47-4

47-5

47-6

47-7

遺物写真図版 (12)　2 区出土遺物

47-8

47-9

47-10

47-11

47-12

47-13

47-14

47-16

48-1

48-2

48-3

48-5

48-6

48-7

48-8

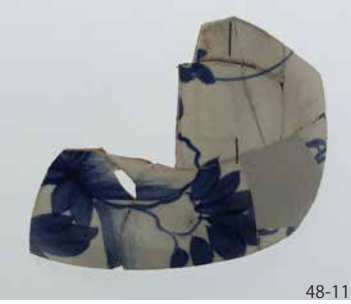
48-4

遺物写真図版 (13)　2 区出土遺物

48-9

48-12

48-10


48-11

48-14

49-1

49-9

49-10

49-11

49-12

49-14

49-15

49-16

50-2

遺物写真図版 (14)　2 区、11 区、10 区出土遺物

50-3

50-4

50-5

50-6

50-8

50-9

50-10

50-11

50-16

51-4

51-5

51-6

51-7

51-8

51-9

52-3

52-4

52-7

52-14

52-15

52-16

遺物写真図版 (15)　11 区、10 区、1 区出土遺物

53-1

53-2

53-3

53-4

53-5

54-3

54-4

54-5

54-6

54-7

54-9

54-10

55-2

55-3

55-4

遺物写真図版 (16)　1 区、7 区出土遺物

55-5

55-6

55-9

55-13

55-14

56-2

56-3

56-5

56-9

56-10

56-13

56-15

57-1

57-2

57-14

57-15

57-16

57-17

遺物写真図版 (17)　7 区出土遺物

57-18

57-19

57-20

57-21

57-22

57-23

57-24

58-1

58-2

58-3

58-4

58-5

58-6

58-7

58-8

58-9

58-10

58-11

58-12

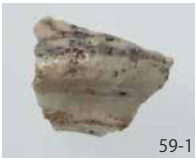
58-13

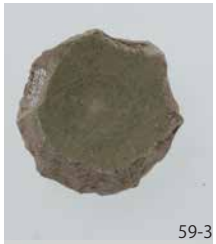
遺物写真図版 (18)　7 区、1 区出土遺物

58-14

58-15

58-16


59-1


59-3

59-2

59-4

59-5

59-6

59-7

59-9

59-19

59-8

59-20

59-21

59-22

59-23

遺物写真図版 (19)　7 区出土遺物

59-24

59-25

60-1

60-2

60-3

60-5

60-6

60-4

60-7

60-8

60-9

60-11

60-12

60-13

61-1

61-2

61-3

61-4

61-7

遺物写真図版 (20)　7 区出土遺物

61-6

61-8

61-10

61-11

62-4

62-5

62-6

62-8

62-7

62-9

62-10

63-1

63-2

63-3

63-4

63-5

63-7

64-6

64-7

遺物写真図版 (21)　7 区、9 区出土遺物

64-7

64-8

64-10

64-9

64-13

64-15

64-14

64-16

28-5

28-6

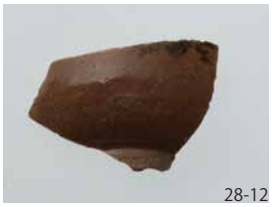
28-7

28-8

28-9

28-10

28-11

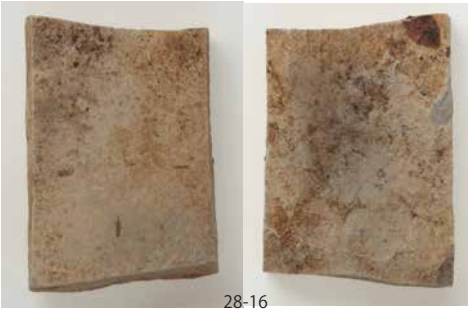

28-12

28-13

28-14

28-15

遺物写真図版 (22)　7 区、10 区、12 区出土遺物


28-16

28-19

28-20

65-3

65-6

65-7

65-8

65-9

65-10

65-11

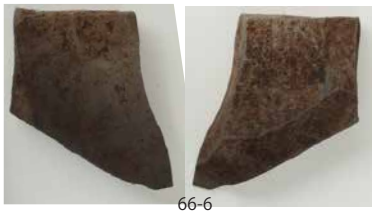
66-1

66-2

66-3

遺物写真図版 (23)　12 区 10 区出土遺物

66-5


66-6

67-7

68-6

68-7

68-8

68-13

68-9

68-10

68-11

68-12

68-14

68-15

68-17

68-18

68-19

68-20

68-21

68-22

遺物写真図版 (24)　10 区出土遺物

報告書抄録

ふりがな	やまがたじょうさんのまるあとだい15・17・19じはっくつちょうさほうこくしょ
書名	山形城三の丸跡第15・17・19次発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第231集
編著者名	齋藤健　板橋龍
編集機関	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
所在地	〒999-3246　山形県上山市中山字壁屋敷5608番地　ＴＥＬ　023-672-5301
発行年月日	2018年7月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °　′　″	東経 °　′　″	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
やまがたじょう 山形城 さんのまるあと 三の丸跡	やまがたけん 山形県 やまがたし 山形市 はたごまち 旅籠町	6201	201-003	38°　42′　2″	140°　56′　2″	20140602 ～ 20141205 20150525 ～ 20151112 20160613 ～ 20160901	3,609	山形広域都市計画道路事業3・2・5号旅籠町八日町線（七日町地内）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
やまがたじょう 山形城 さんのまるあと 三の丸跡	城館跡	中世	溝跡 土坑	陶磁器 鉱滓	三の丸構築以前の大規模な区画溝跡を確認した。また、三の丸堀跡も一部確認した。 （文化財認定箱数：137）
		近世	溝跡 堀跡 土坑 柱穴	陶磁器 石製品 金属製品 木製品 瓦	
		近代	土坑 柱穴	陶磁器 ガラス製品 石製品 木製品 瓦	

要約

山形城の三の丸構築以前の大規模な区画溝を検出した。また、当時のものと推察される鍛冶滓も大量に出土した。

三の丸の堀跡も検出し、18世紀以降の遺物が出土した。堀は明治時代初期に土塁を崩して埋め立てたとみられる。堀跡は素掘りで深さは２ｍほど。外側上部には石組がしてあったとみられる。

武家屋敷があった区域からも、概ね18世紀以降の遺物が出土し、現在の町割りが秋元家入府以降に行われたものと推察される。

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 231 集

山形城三の丸跡第 15・17・19 次発掘調査報告書

2018 年 7 月 31 日発行

発行　公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター
〒 999 - 3246　山形県上山市中山字壁屋敷 5608 番地
電話　023 - 672 - 5301
印刷　株式会社　大風印刷
〒 990 - 2338　山形県山形市蔵王松ヶ丘一丁目 2 - 6
電話　023 - 689 - 1111

このPDFデータは下記の報告書を底本として作成しました。
閲覧を目的としていますので、詳細な写真や図面が必要な場合は、底本を参照して下さい。
底本は、公益財団法人山形県埋蔵文化財センター、山形県内の市町村教育委員会、図書館、各都道府県の埋蔵文化財センター、考古学を教える大学、国立国会図書館等に所蔵されています。
所蔵状況や利用方法は、直接各施設にお問い合わせ下さい。

書名：山形城三の丸跡第15・17・19次発掘調査報告書
発行：公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
〒999-3246
山形県上山市中山字壁屋敷5608番地
電話:023-672-5301
URL:http://www.yamagatamaibun.or.jp/
mail:yac@yamagatamaibun.or.jp
電子版作成日：2019年4月12日